

所見 本住居や周辺の遺構からは、鉄滓や鍛冶炉壁等が少なからず出土しており、集落内で鍛冶関連の手工業が行われていたことが推測される。廃絶時期は、出土土器から10世紀後半と考えられる。

第1531号住居跡出土遺物観察表（第152図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
179	土師器	椀	-	(2.4)	[7.1]	雲母・長石・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け	中央部下層	30%
180	土師器	椀	-	(2.0)	[7.6]	雲母・長石・赤色粒子	橙	普通	底部高台貼り付け後、ロクロナデ	南西部中層	10%
181	土師器	甕	[23.6]	(5.0)	-	雲母・長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部内外面ヘラナデ	西部床面	
182	灰釉陶器	長頸瓶	-	(4.5)	-	黒色粒子	灰白・オリーブ黄	良好	頸部ロクロナデ	中央部下層	猿投産
TP10	須恵器	大甕	-	-	-	長石	灰	良好	外面平行叩き、内面無文の当て具痕	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
DP11	不明	(13.2)	(6.4)	(2.9)	(119.3)	長石・石英	橙色、十字状の隆帯貼り付け、瓦塔の一部カ	南西部下層	
M41	釘カ	(8.2)	0.8	0.7	(15.6)	鉄	断面方形の棒状、片側がわずかに細る	西部中層	PL81
M42	不明	(3.5)	(1.1)	0.6	(4.3)	鉄	片側が幅広になる棒状、雁又鎌カ	覆土中	

第1532号住居跡（第153図）

位置 調査区中央部のT8f4区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1534号住居跡を掘り込み、第91号堀に掘り込まれている。

規模と形状 床面が露出した状態で検出されたため、暗褐色を呈した床面の広がりをもとに東西軸3.00m、南北軸1.35mほどが確認され、平面形はN-1°-Eを主軸とする方形または長方形と推定される。

床 ほぼ平坦で、西壁際から中央部にかけてよく踏み固められている。

竈 北壁の中央部に付設されている。火床部が確認されただけであり、付近の床面にはわずかに粘土粒子や砂粒が散在している。火床面は北壁ラインの外側に位置し、赤変硬化している。

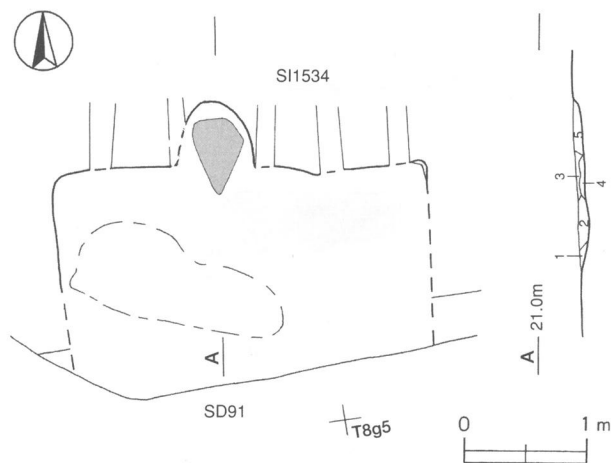
竈土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 3 黒褐色 焼土ブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量

覆土 床面が露出した状態で検出されたため、確認されなかった。

遺物出土状況 土師器片9点（小皿2、坏1、甕6）、須恵器片3点（甕3）が出土している。

所見 時期は、土師器小皿が出土していることから、10世紀以降と考えられる。



第153図 第1532号住居跡実測図

第1533号住居跡（第154図）

位置 調査区中央部のT 8 f4区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1534号住居跡と第182号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南北軸は3.00mで、東西軸は両端部が攪乱を受けているため、3.15mほどと推測される。平面形は方形で、主軸方向はN-2°-Eである。また、残存する壁の高さは5~10cmほどで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められている。壁溝は、南壁際の一部と北壁際で認められる。

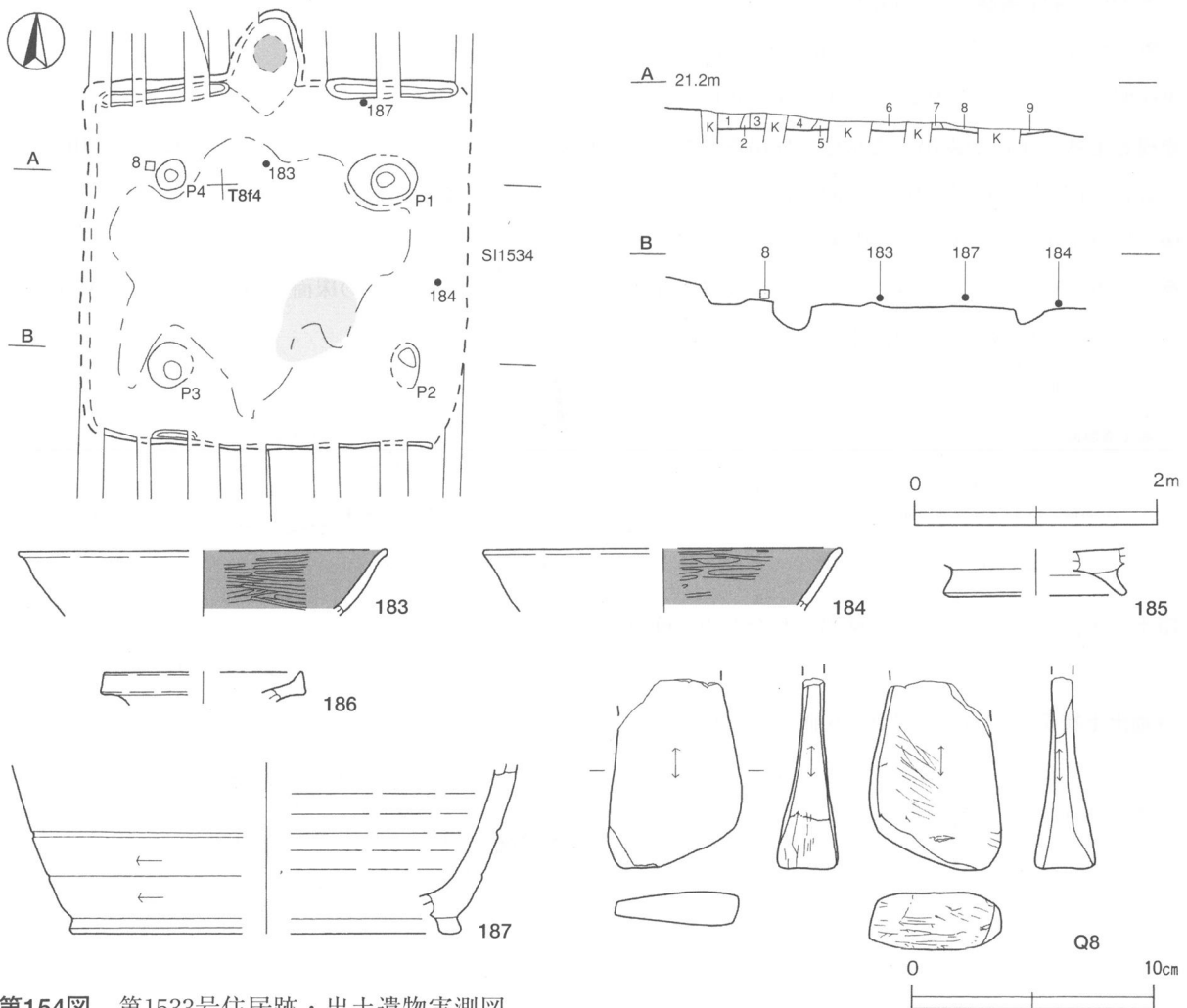
竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで90cmで、壁外への掘り込みは55cmほどである。天井部・袖部は遺存せず、火床部は床面と同じ高さの平坦面を使用し、火床面がわずかに赤変している。また、煙道は外傾して立ち上がっている。

ピット 4か所。P1~P4は支柱穴に相当し、P1は攪乱を受けているために本来の深さは不明で、その他のピットの深さは10~26cmである。

覆土 9層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 4 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量 | 5 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |



第154図 第1533号住居跡・出土遺物実測図

- 7 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・粘土ブロック少量
 8 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

- 9 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片71点（坏・碗28, 甕・甌43）, 須恵器片14点（坏4, 甕8, 長頸瓶1, 短頸壺1）, 砥石1点が竈付近と南東部から多く出土している。183は竈手前の床面, 184は東壁際の床面, 185は壁溝内から出土している。また, 中央部南寄りの床面上には焼土の広がり確認されており, 火災に遭ったことが推測される。

所見 廃絶時期は, 供膳具に土師器と須恵器が混在していることから, 9世紀後葉から10世紀初頭と考えられる。

第1533号住居跡出土遺物観察表（第154図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
183	土師器	碗	[15.0]	(2.6)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部内面ヘラ磨き	竈手前床面	
184	土師器	碗	[14.5]	(2.5)	-	雲母・長石・石英	橙	普通	体部内面ヘラ磨き	東壁際床面	
185	土師器	碗	-	(1.9)	[7.1]	雲母・長石・石英	にぶい赤褐	普通	高台貼り付け後, ロクロナデ	壁溝覆土中	
186	須恵器	長頸瓶	[9.0]	(1.2)	-	緻密	灰白・ オリーブ黄	良好	口縁部ロクロナデ, 内面自然釉	P1覆土中	
187	須恵器	短頸壺	-	(6.9)	[16.0]	雲母・長石・石英	黄灰	普通	体部下端回転ヘラ削り	北壁際下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
Q8	砥石	(7.7)	5.4	2.4	(89.9)	凝灰岩	砥面4面, 中央部折損	北西部床面	PL76

第1534号住居跡（第155図）

位置 調査区中央部のT8e4区に位置し, 平坦な台地の縁辺部に立地している。

重複関係 第1532・1533号住居と第182号掘立柱建物, 第91号堀, 第1456号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東西軸は7.70mで, 南北軸は第91号溝に掘り込まれているために6.65mだけが確認されており, N-3°-Wを主軸方向とする方形または長方形と推定される。北壁の高さは5cmほどで, 外傾して立ち上がっており, その他の壁の立ち上がり具合は判然としない。

床 ほぼ平坦で, 壁際を除いてよく踏み固められている。また, 壁溝は確認された壁際を巡っている。

竈 北壁の中央部に付設されており, 規模は焚口部から煙道部まで120cm, 袖部幅105cmほどである。天井部は遺存せず, 袖部は床面と同じ高さの地山面上に砂質粘土で構築されている。火床部は床面と同じ高さの平坦面を使用し, 火床面が赤変硬化している。また, 煙道の立ち上がりの様子は判然としない。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------------------|---------|--------------------------|
| 1 黄褐色 | 砂粒・粘土粒子中量 | 6 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 褐色 | 砂粒・粘土粒子少量, 焼土粒子微量 | 7 赤褐色 | 焼土粒子中量 |
| 3 にぶい黄褐色 | 焼土ブロック・砂粒・粘土粒子少量 | 8 灰黄褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・砂粒・粘土粒子少量 |
| 4 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物・砂粒・粘土粒子少量 | 9 黒褐色 | 砂粒・粘土粒子微量 |
| 5 灰褐色 | 炭化粒子中量, 焼土粒子少量, 砂粒・
粘土粒子微量 | 10 灰黄褐色 | 砂粒・粘土粒子多量, 焼土粒子中量, 炭化物少量 |
| | | 11 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂粒・粘土粒子中量 |

ピット 5か所。主柱穴はP1～P4が相当し, 深さは31～34cmである。P5は深さ21cmで, 性格は不明である。

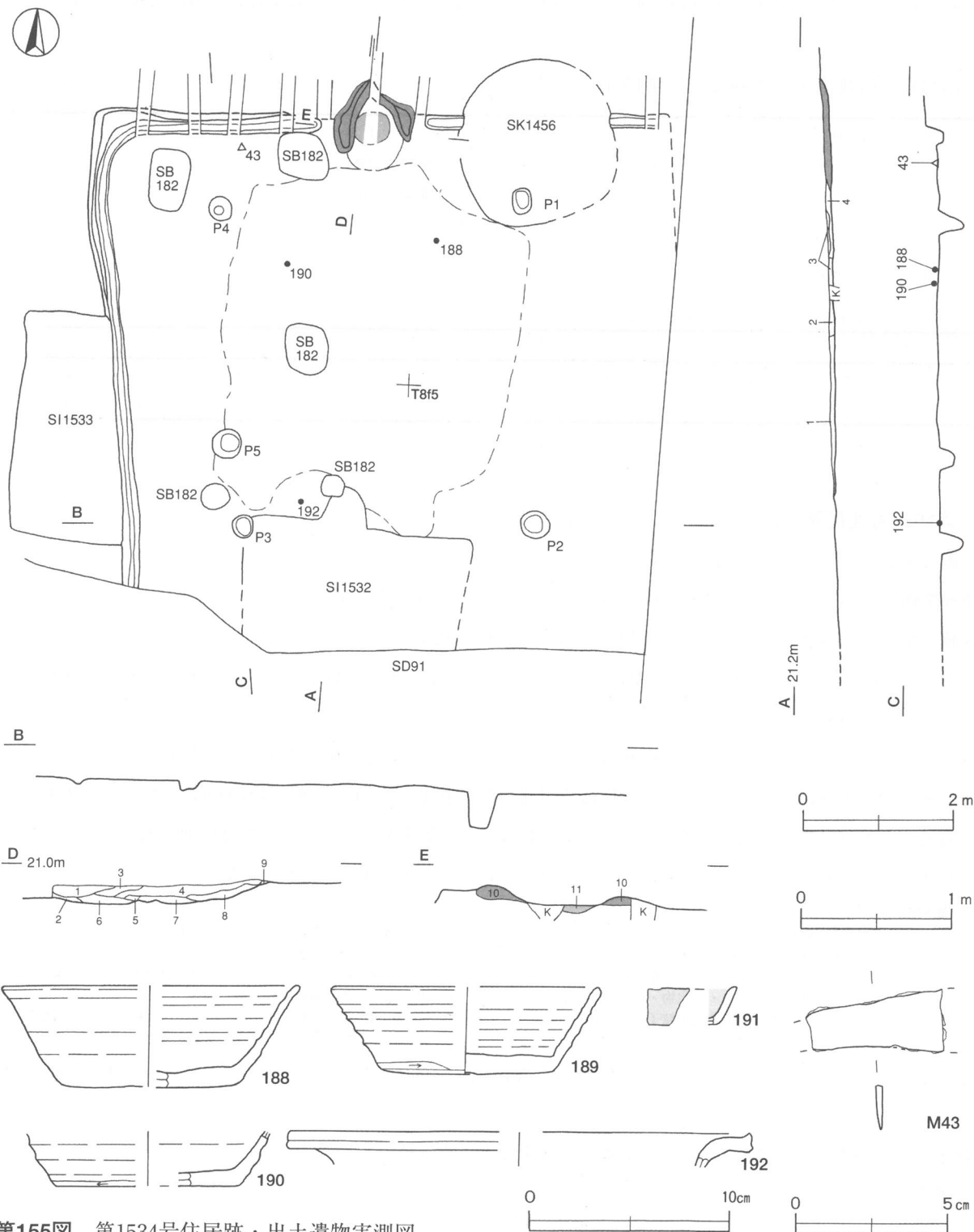
覆土 4層からなり, 各層ともロームブロックを含んだ人為堆積である。

土層解説

- | | | | | | |
|-------|---|-------------------------|-------|---|-----------------------------|
| 1 暗褐色 | 色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 3 褐色 | 色 | ロームブロック・砂粒・粘土粒子中量, 焼土ブロック少量 |
| 2 褐色 | 色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量 | 4 黒褐色 | 色 | 砂粒・粘土粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片128点(坏19, 甕・甑109), 須恵器片26点(坏16, 甕・甑10), 灰釉陶器片1点(不明), 鉄鎌カ1点が出土している。覆土が薄いために残存率の低いものも多く, 特に土師器甕は細片のみである。188・190はいずれも北部の床面から若干浮いた状態で出土している。また, 191は竈内の攪乱部分から出土している。

所見 本跡は覆土が薄く, また他の遺構との重複も多いため, 出土遺物が本跡に伴うとは断言できない。出土土器に従えば8世紀後半頃に廃絶されたと考えられるが, 詳細な時期は不明である。



第155図 第1534号住居跡・出土遺物実測図

第1534号住居跡出土遺物観察表（第155図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
188	須恵器	杯	[14.8]	5.0	[8.6]	長石	褐白	普通	底部一方向のヘラ削り	北部下層	火樽痕, 30%
189	須恵器	杯	[13.0]	4.3	8.4	雲母・長石・石英	灰黄褐	普通	底部回転ヘラ切り後、多方向のヘラ削り	東壁際下層	火樽痕, 30%
190	須恵器	杯	-	(2.7)	[9.0]	長石	灰	普通	底部多方向のヘラ削り	北部下層	10%
191	灰釉陶器	皿カ	-	1.8	-	黒色粒子	灰白・ 灰オリーブ	良好	口縁部ロクロナデ	竈覆土中	猿投産
192	土師器	甕	[22.7]	(1.7)	-	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ	南部床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
M43	鎌	(4.5)	(2.1)	0.2	(5.7)	鉄	刃部の破片, 片側の幅が狭くなる	北部床面	PL81

第1536号住居跡（第156図）

位置 調査区中央部のS 8 g2区に位置し、平坦な台地上に立地している。

規模と形状 長軸4.00m、短軸3.75mほどの若干歪んだ方形で、主軸方向はN-76°-Eである。壁高は16~18cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 若干凹凸があり、竈手前から中央部にかけてよく踏み固められており、壁溝が周回している。

竈 東壁のほぼ中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで85cmである。天井部・袖部は遺存せず、右袖部の想定される位置にその痕跡が若干認められる。火床部は15cmほど掘りくぼめられた部分にローム土を埋め戻して使用しており、火床面が赤変硬化している。煙道は、外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|----------------------------------|----------------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土粒子中量, ロームブロック・炭化粒子・砂粒少量 | 4 極暗赤褐色 焼土ブロック・砂粒中量, ローム粒子・炭化物少量 |
| 2 暗赤褐色 焼土粒子多量, ロームブロック・砂粒少量 | 5 暗赤褐色 焼土ブロック多量, ローム粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子・砂粒少量 | 6 暗褐色 ロームブロック多量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 |

炉 2か所。炉1は中央部に付設され、長径62cm、短径45cmの楕円形を呈しており、長径方向を住居の主軸と同一にしている。炉2は東壁際の北寄りに位置しており、長径65cm、短径43cmの楕円形を呈している。いずれも深さ5cmほどの皿状を呈した地床炉である。また、炉2の北東側には棒状の雲母片岩が直立した状態で据えられており、被熱している。

炉土層解説（炉1・2共通）

- | | |
|---------------------------------|--------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子少量 | 2 暗赤褐色 焼土ブロック多量, ローム粒子少量 |
|---------------------------------|--------------------------|

覆土 8層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

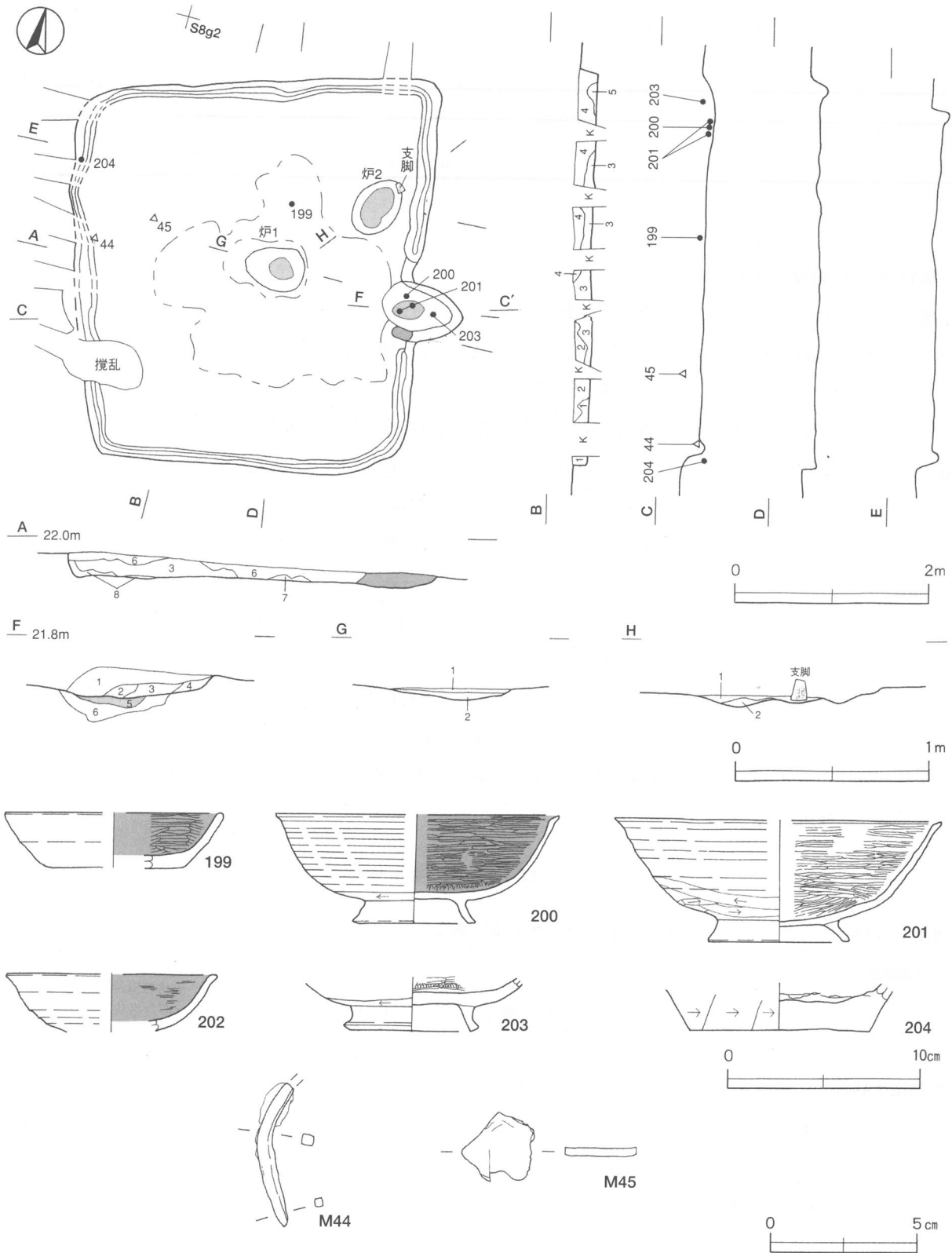
土層解説

- | | |
|-------------------------------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化物微量 | 5 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 6 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化物微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化物微量 | 7 極暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 8 暗褐色 ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片275点（小皿1、坏・椀46、甕・甑228）、須恵器片1点、支脚1点（雲母片岩）、鉄釘カ1点、不明鉄製品1点が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており、そのほとんどが細片である。また、竈内からも土器片がまとまって出土しており、200~203はいずれも竈内から破片の状態でも出土している。また、M44は西壁際の床面から出土しており、本住居に伴うものと考えられる。

所見 竈内から出土した土器片の破断面は摩滅しておらず、被熱痕も認められないことから、住居の廃絶に際して一括投棄されたか、いわゆる「竈祭祀」のように竈内に意図して遺棄されたものが竈の崩壊と共に破損し

たものと考えられる。これらの土器は本跡に伴うものと考えられ、廃絶時期は、それらの土器の形状から10世紀後半と考えられる。



第156図 第1536号住居跡・出土遺物実測図

第1536号住居跡出土遺物観察表（第156図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
199	土師器	坏	[11.0]	(2.8)	[7.2]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ切り	中央部下層	10%
200	土師器	椀	[14.4]	5.5	6.4	雲母・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け	竈覆土中	55%
201	土師器	椀	[16.8]	6.1	7.2	雲母	にぶい褐	普通	底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け	竈覆土中	40%
202	土師器	椀	[10.6]	(3.0)	-	雲母	にぶい褐	普通	体部内面ヘラ磨き痕有	竈覆土中	10%
203	土師器	椀	-	(2.7)	6.0	雲母・石英	橙	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	竈覆土中	25%
204	土師器	甕	-	(2.4)	9.2	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	底部外面ヘラナデ	北西部壁構内	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
M44	釘カ	(5.3)	0.4	0.4	(4.2)	鉄	断面方形の棒状、中で屈曲、一端が細る	西壁際床面	PL81
M45	不明	(2.4)	(2.3)	0.3	(4.5)	鉄	均一な厚さの板状	中央部上層	

第1537号住居跡（第157・158図）

位置 調査区中央部のT 8 a4区に位置し、平坦な台地上に立地している。

規模と形状 長軸3.95m、短軸3.30mほどの長方形で、主軸方向はN-100°-Eである。壁高は17~24cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められており、壁溝が周回している。

竈 東壁の中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで106cmである。天井部は崩落しており、袖部も壁面に白色粘土が貼り付けられているのが確認できるだけである。火床面は床面と同じ高さの平坦面を使用しており、被熱して赤変硬化している。また、煙道は外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------------------|---------|----------------------|
| 1 褐 色 | ロームブロック多量、炭化物少量、焼土粒子微量 | 5 褐 色 | ローム粒子中量 |
| 2 黒 褐 色 | ロームブロック・焼土ブロック・白色粘土粒子少量 | 6 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 3 暗 褐 色 | ロームブロック・白色粘土粒子少量 | 7 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 |
| 4 暗 褐 色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物・白色粘土粒子少量 | 8 赤 褐 色 | 焼土粒子中量 |

炉 中央部に付設されている。平面形は長径70cmほどの楕円形を呈し、住居の主軸とほぼ同じ軸線上にある。また、掘り込みは認められず、床面と同じ高さの地床炉である。

ピット 1か所。P 1は深さ18cmで、出入り口施設に伴うピットである。

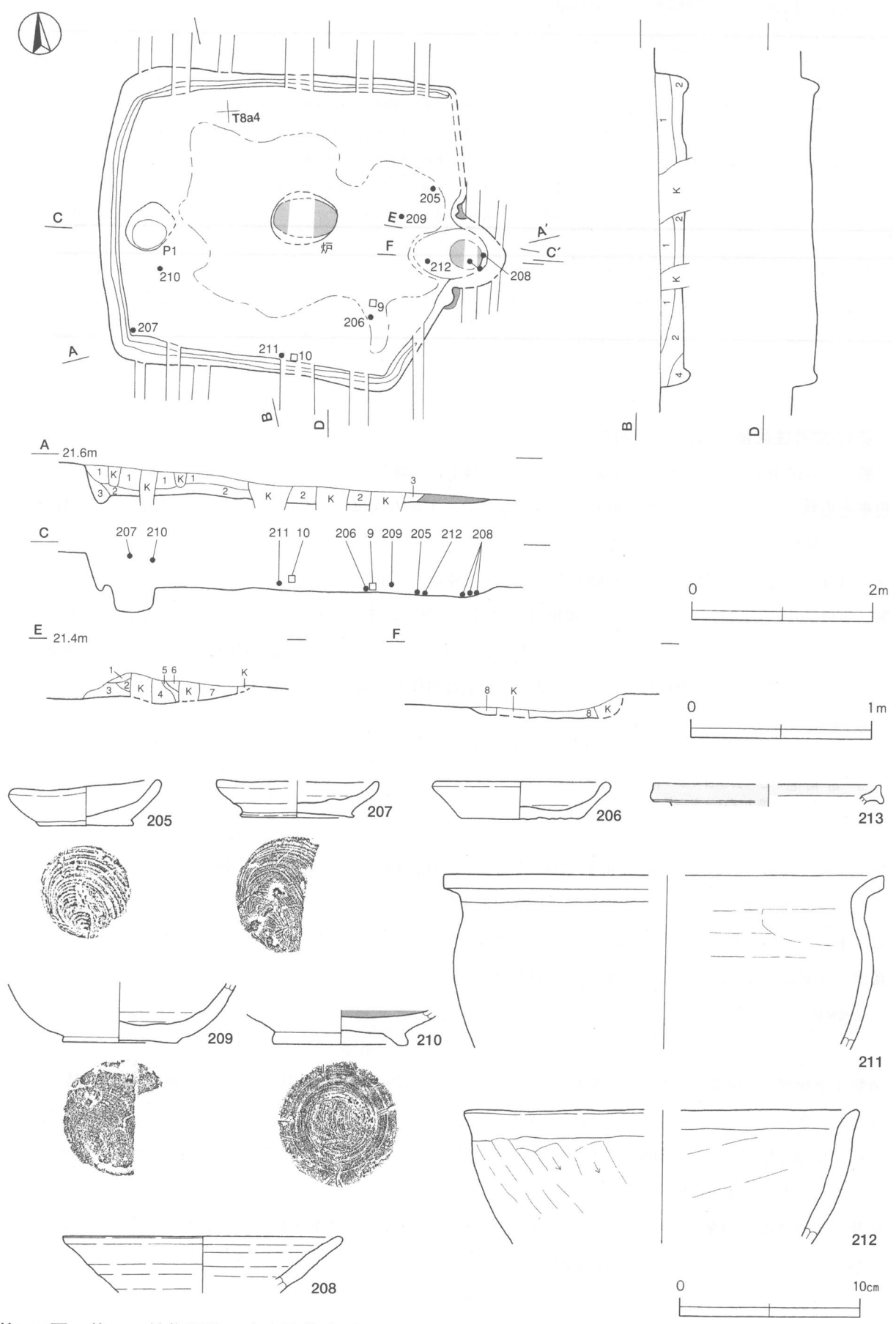
覆土 4層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

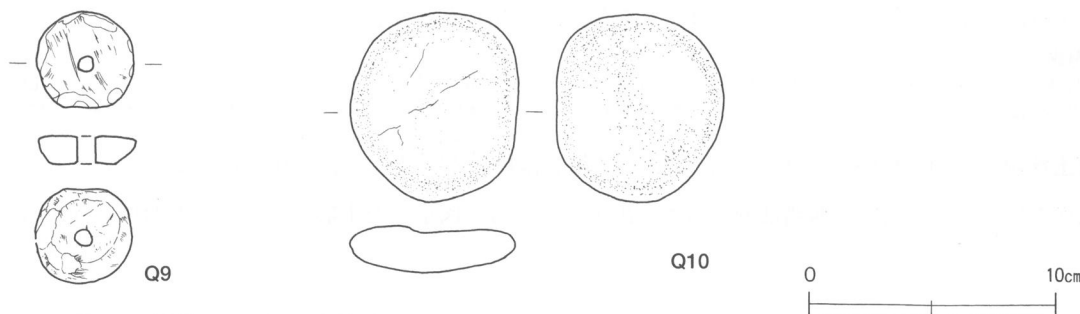
- | | | | |
|---------|-------------------|---------|----------------|
| 1 黒 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 極暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗 褐 色 | ローム粒子中量 | 4 暗 褐 色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片231点（小皿4、坏・椀148、甕・甎79）、灰釉陶器片1点（長頸瓶）、石製紡錘車1点、礫1点（磨石カ）が出土している。特に、竈内及びその付近から土器片がまとまって出土しており、一括投棄された様相を呈している。208・212は竈内から出土した破片が接合したものであり、205・206・209・Q 9は竈手前の床面や覆土下層から出土している。

所見 本跡は竈と炉を有しており、このような住居形態は第1377・1536・1553号住居など当遺跡内にいくつかの類例が見られる。同様な例は武蔵国府内の工房群にも認められることから、鍛冶以外の手工業生産が行われていた可能性がある。時期は、出土土器から10世紀後半以降と考えられる。



第157图 第1537号住居跡・出土遺物実測図



第158図 第1537号住居跡出土遺物実測図

第1537号住居跡出土遺物観察表 (第157・158図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
205	土師器	小皿	7.9	2.5	5.1	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	竈手前床面	98%, PL56
206	土師器	小皿	9.2	2.0	6.4	雲母・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	底部回転ヘラ切り	竈手前床面	90%, PL56
207	土師器	小皿	[8.9]	2.0	[6.3]	雲母・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	底部回転糸切り	南西部上層	50%
208	土師器	坏	15.2	(3.1)	-	長石・石英	浅黄	普通	体部ロクロナデ	竈覆土中	40%
209	土師器	椀	-	(3.3)	6.3	石英・長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	竈手前下層	30%
210	土師器	椀	-	(2.0)	7.4	石英	にぶい橙	普通	高台貼り付け後, ロクロナデ	南西部上層	20%
211	土師器	甕	[24.0]	(9.5)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ	南壁際下層	
212	土師器	鉢	[21.4]	(7.3)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ	竈覆土中	
213	灰釉陶器	長頸瓶	[12.4]	(1.1)	-	緻密	灰黄褐・オリーブ灰	良好	口縁部ロクロナデ	覆土中	猿投産カ

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
Q9	紡錘車	3.9	3.7	1.1	28.5	滑石	孔径0.6~0.7cm, 側面は若干彎曲	竈手前下層	PL75
Q10	磨石カ	7.4	6.7	1.8	141.0	安山岩	側縁を磨面として使用	南壁際下層	PL77

第1538号住居跡 (第159図)

位置 調査区中央部の S 8 a4区に位置し, 南東に緩やかに傾斜した台地上に立地している。

重複関係 第1541号住居跡を掘り込み, 第136号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 南北軸は3.00mで, 東西軸は床面の広がりから判断して4.10mほどであり, N-3°-Eを主軸とする長方形と推定される。壁高は遺存状態の良い西壁でも5cmほどしかなく, 壁の立ち上がり具合は判然としない。

床 ほぼ平坦で, 中央部がよく踏み固められている。

竈 北壁のやや西寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで115cmで, 壁外への掘り込みは70cmほどである。天井部や袖部は遺存せず, 火床部は15cmほど掘りくぼめられた部分に砂粒混じりのローム土を充填して使用され, 皿状を呈している。火床面は赤変硬化しており, 煙道は外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

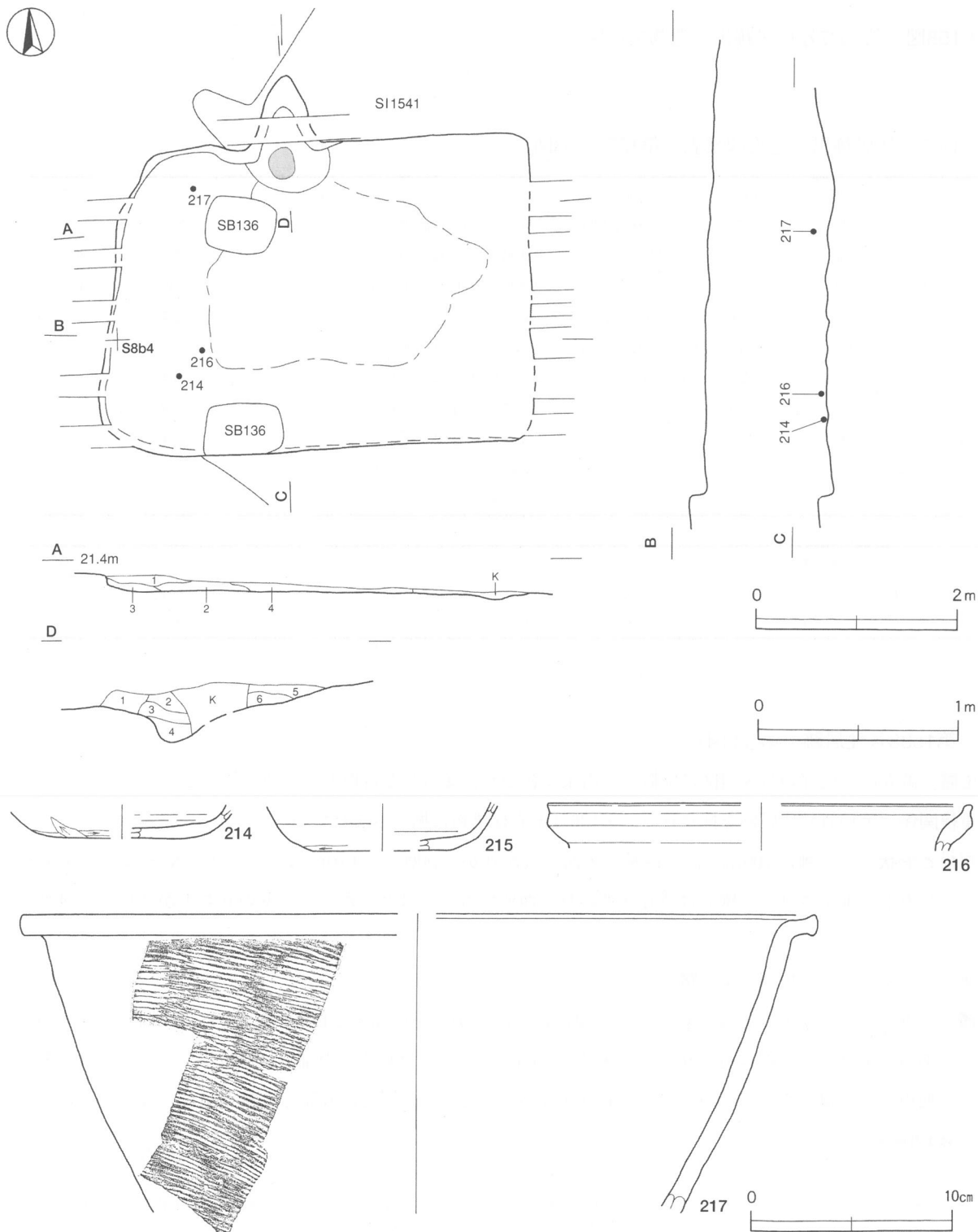
1	黒褐色	炭化物多量, 焼土ブロック中量, ロームブロック・砂粒少量	4	暗赤褐色	焼土ブロック多量, 灰中量, ロームブロック・炭化物・砂粒少量
2	暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・砂粒少量	5	暗赤褐色	ロームブロック多量, 焼土粒子中量, 炭化粒子・砂粒少量
3	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子中量, 炭化粒子・砂粒少量	6	灰褐色	ロームブロック・砂粒中量, 焼土粒子・炭化物微量

覆土 4層からなり、各層ともロームブロックを含んだ人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------|--------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 4 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片78点(坏19, 甕・甌59), 須恵器片12点(坏5, 甕・甌7)が出土している。遺構の遺存状態を反映して、遺物は西側部分から多く出土している。図示した土器も、いずれも西側部分からの出土である。



第159図 第1538号住居跡・出土遺物実測図

所見 廃絶時期は、出土土器と重複関係から8世紀前葉と考えられる。当該期からほとんどの住居が北方向を主軸とするようになり、集落内に強い規制が働いていたものと推測される。

第1538号住居跡出土遺物観察表（第159図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
214	須恵器	坏	-	(1.7)	[6.6]	雲母・長石・石英	灰褐	普通	底部多方向のヘラ削り	南西部下層	10%
215	須恵器	坏	-	(2.3)	[6.7]	長石	褐灰	普通	底部手持ちヘラ削り	北西部覆土中	
216	土師器	甕	[20.8]	(2.3)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部横ナデ	南西部下層	
217	須恵器	甌カ	[39.0]	(14.8)	-	雲母・長石	灰	普通	体部内面ナデ	北西部上層	

第1542号住居跡（第160・161図）

位置 調査区中央部のR 8j2区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1549号住居跡を掘り込み、第1543号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.90m、短軸3.70mほどの方形で、主軸方向はN-1°-Wである。壁高は35～45cmで、各壁とも急な傾斜で立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、出入り口付近から竈手前にかけてよく踏み固められており、壁溝が周回している。

竈 北壁中央部に付設されており、規模は焚き口から煙道部まで130cm、袖部幅165cmほどで、壁外への掘り込みは65cmである。天井部は崩落しており、土層断面図中の第4層が相当する。袖部は掘り残した地山を芯としてその周囲に砂質粘土を貼り付けて構築されており、内側が被熱している。火床部は地山面をそのまま使用して、深さ10cmほどの皿状を呈しており、火床面が赤変硬化している。また、煙道の立ち上がり部には土師器甕が逆位で据えられて、支脚として使用されており、煙道は外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量	6 暗褐色	焼土ブロック・炭化物少量
2 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量	7 灰黄褐色	粘土粒子・砂粒多量、焼土ブロック中量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量	8 黒褐色	炭化物多量、焼土粒子中量
4 灰褐色	粘土粒子・砂粒中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量	9 極暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂粒少量
5 暗赤褐色	焼土ブロック多量、ローム粒子少量、砂粒・粘土粒子微量	10 暗褐色	粘土粒子・砂粒多量、ロームブロック少量
		11 暗赤褐色	焼土ブロック多量、ローム粒子少量

ピット 1か所。P1は深さ27cmで、出入り口施設に伴うピットである。

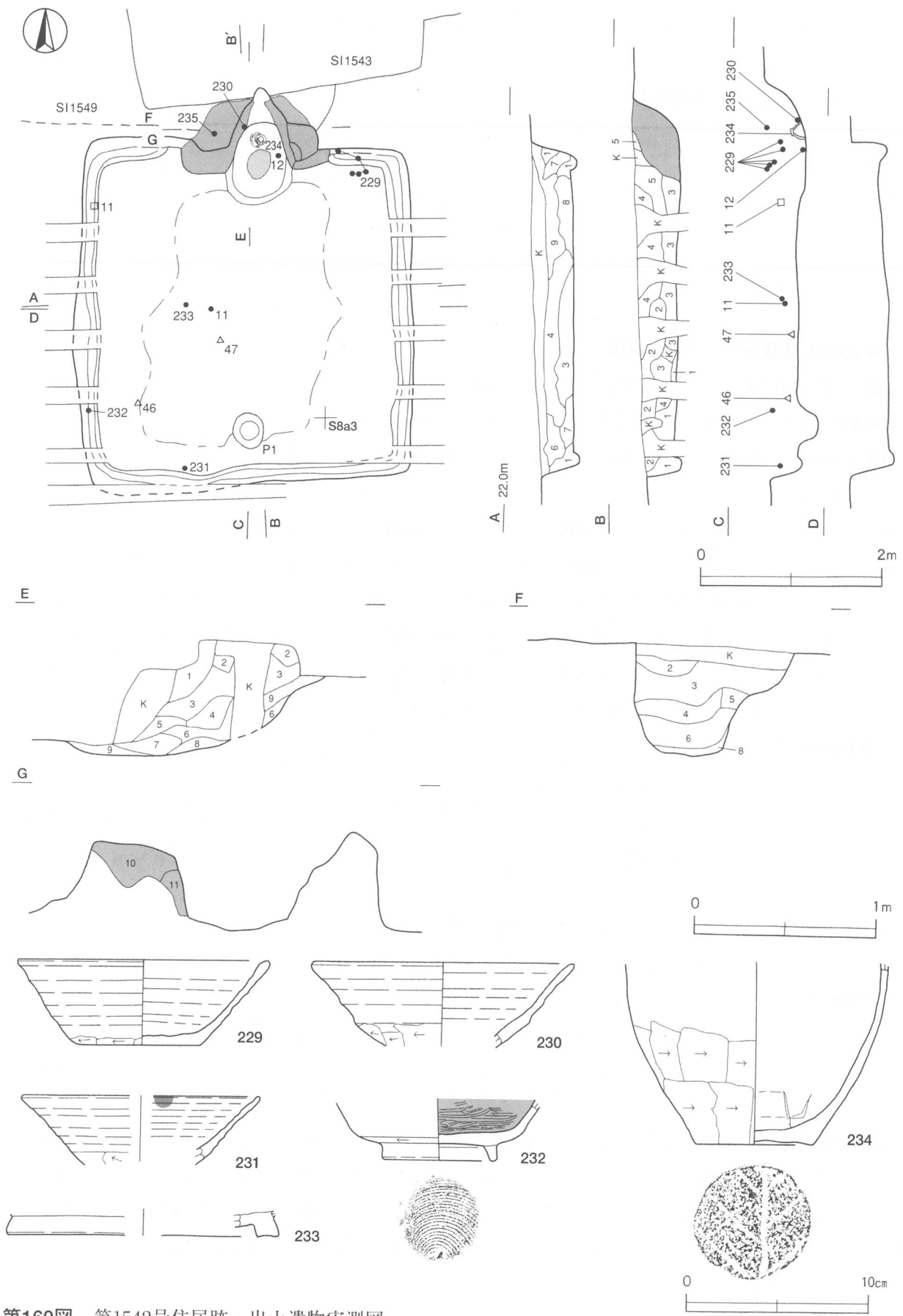
覆土 9層からなり、各層ともロームブロックを含んだ人為堆積である。

土層解説

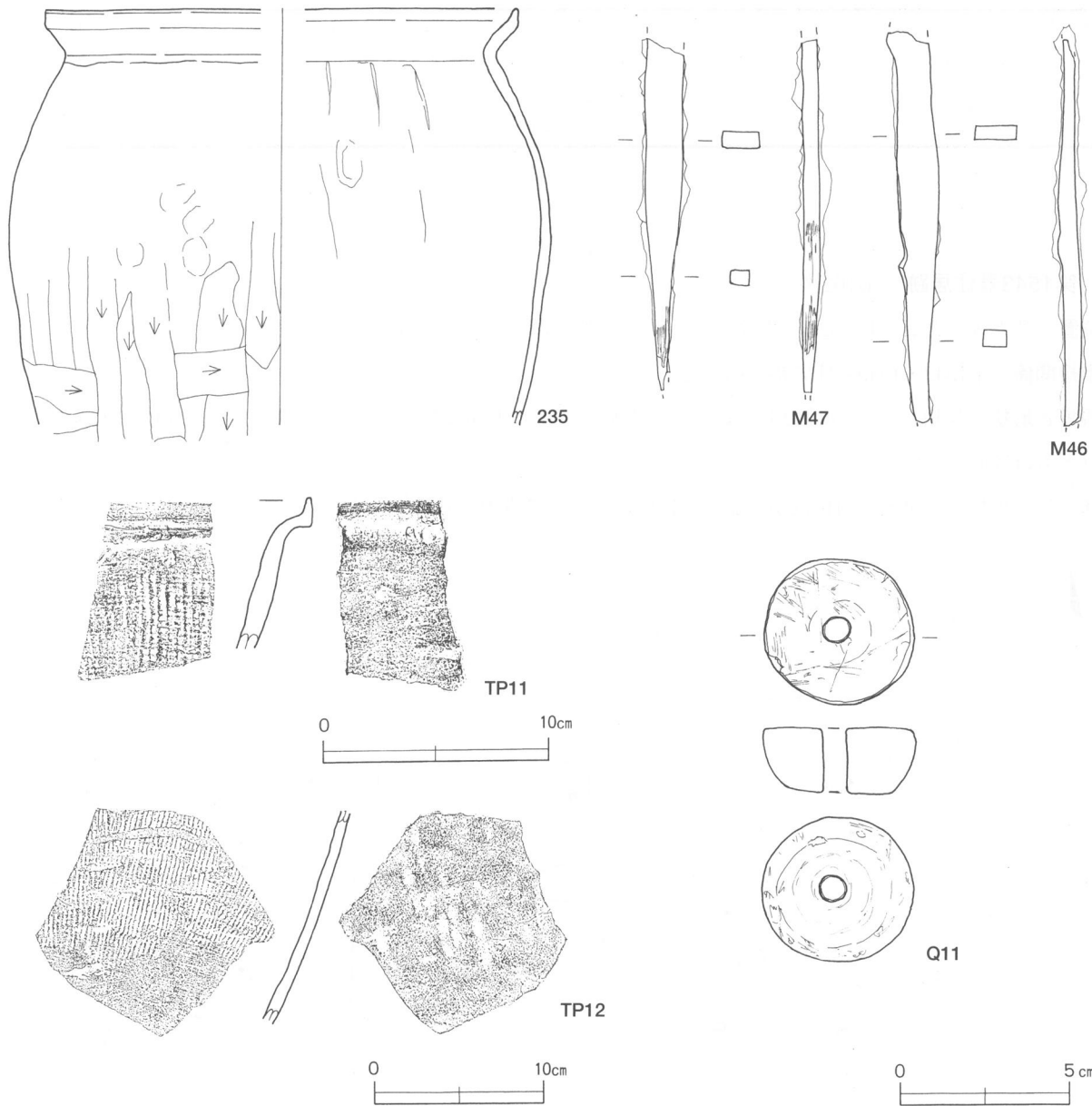
1 暗褐色	ロームブロック中量	6 褐色	ロームブロック多量
2 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	7 褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
4 暗褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子少量	9 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子・砂粒微量
5 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量、砂粒微量		

遺物出土状況 土師器片254点（坏28、甕・甌226）、須恵器片77点（坏26、蓋1、甕・甌・壺50）、不明鉄製品2点（鑿カ）、石製紡錘車1点が散在した状態で出土している。231は南壁際の覆土中層から出土しており、油煙が付着している。234は竈の支脚として使用されたもので、そのすぐ側から出土した230にも被熱痕が認められることから、234の上部に重ねて支脚として使用されたものと推測される。M46は南西部の床面から若干浮いた状態で出土している。

所見 廃絶時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第160图 第1542号住居跡・出土遺物実測図



第161図 第1542号住居跡出土遺物実測図

第1542号住居跡出土遺物観察表 (第160・161図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
229	須恵器	坏	13.8	4.6	6.6	雲母・長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り後、二方向のヘラ削り	北東部中層	70%, PL56
230	須恵器	坏	[14.2]	(4.6)	-	雲母・長石・石英	にぶい赤褐	不良	体部下端手持ちヘラ削り	竈覆土中	50%
231	須恵器	坏	[12.9]	(3.8)	-	雲母・長石・石英	黒	普通	体部下端手持ちヘラ削り	南壁際中層	油煙付着, 15%
232	土師器	高台付坏	-	(3.4)	6.0	雲母・長石・針状鉱物	橙	普通	底部回転糸切り後、高台貼り付け	西壁際上層	50%
233	須恵器	短頸壺カ	-	(1.4)	[14.8]	長石	黄灰	良好	高台貼り付け後、ロクロナデ	中央部中層	
234	土師器	甕	-	(10.0)	6.4	雲母・石英	橙	普通	体部内面ヘラナデ、底部木葉痕	竈火床部	被熱痕、支脚 転用, 30%
235	土師器	甕	[20.6]	(18.3)	-	雲母・長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ	竈覆土中	30%
TP11	須恵器	甕	-	-	-	雲母・長石・石英	黄灰	普通	外面縦位の平行叩き、内面ロクロナデ	中央部中層	
TP12	須恵器	甕	-	-	-	雲母・長石・石英	にぶい赤褐	不良	体部内面ロクロナデ・輪積み痕	竈覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
Q11	紡錘車	4.4	4.2	1.9	57.0	蛇紋岩	孔径0.7~0.8cm, 側面は若干彎曲	北西部中層	PL75
M46	鑿カ	(11.8)	1.3	1.5	(31.2)	鉄	刃先部欠損, 撫間, 先端部に向かって薄くなる	南西部下層	PL82
M47	鑿カ	(10.3)	1.1	0.5	(25.0)	鉄	刃先部欠損, 撫間, 茎部木質付着	中央部下層	PL82

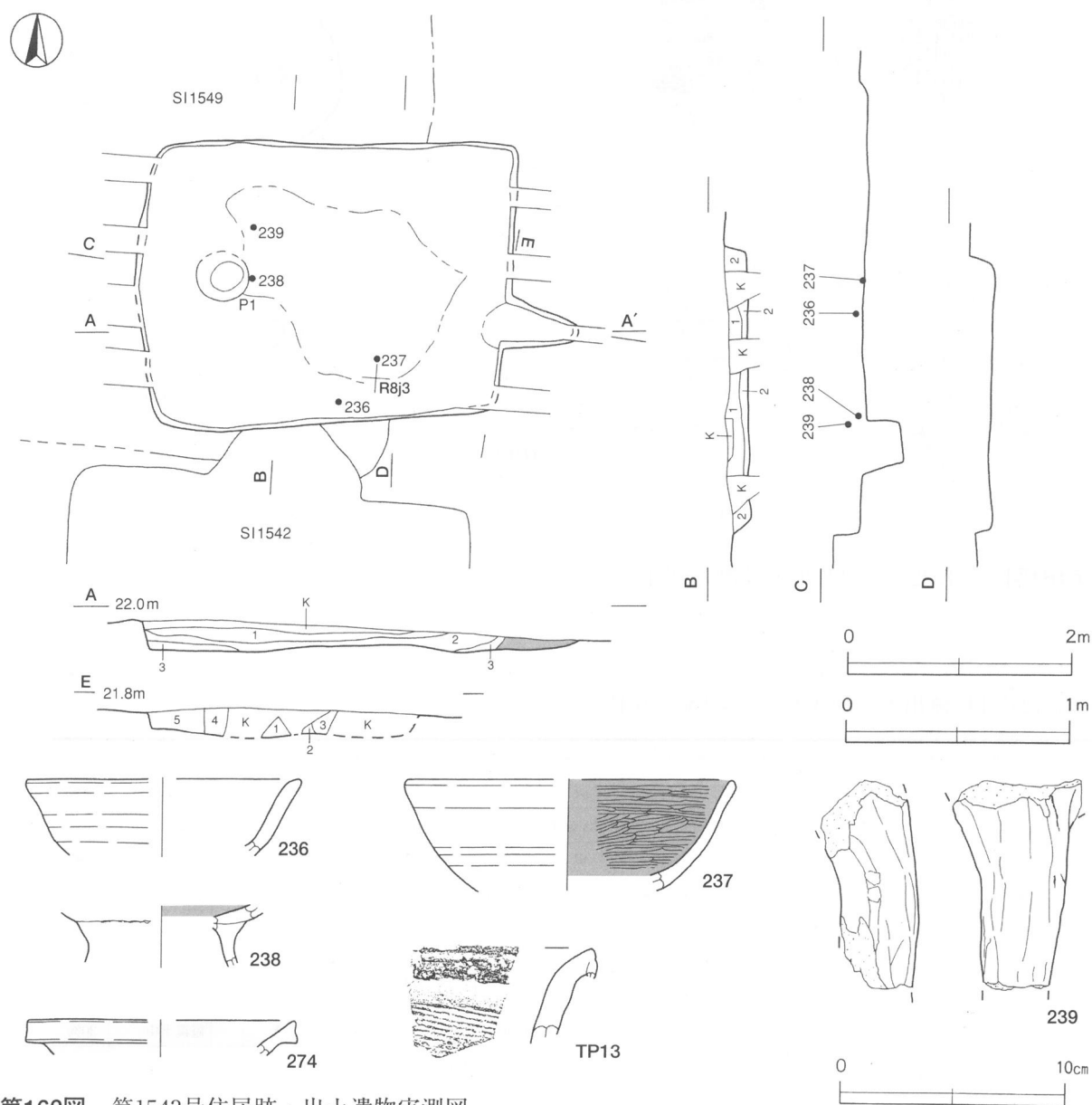
第1543号住居跡 (第162図)

位置 調査区中央部のR 8 i2区に位置し, 平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1542・1549号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.30m, 短軸2.40mほどの長方形で, 主軸方向はN-88°-Eである。壁高は12~20cmで, 各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で, 出入り口付近から竈手前にかけてよく踏み固められている。



第162図 第1543号住居跡・出土遺物実測図

竈 東壁の南寄りに付設されている。袖部や天井部は遺存せず、覆土の含有物から砂質粘土を用いて構築されていたと推測される。火床部や煙道部の様相は、攪乱のため不明である。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|-----------------------------|----------|------------------------|
| 1 褐 色 | ローム粒子中量 | 4 暗 褐 色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 暗 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子中量, 炭化粒子少量 | 5 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック中量, ローム粒子微量 |
| 3 暗 褐 色 | 砂粒・粘土粒子中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | | |

ピット 1か所。P1は深さ30cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 3層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|---------|-----------------|-------|---------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 3 褐 色 | ローム粒子多量 |
| 2 暗 褐 色 | ローム粒子中量 | | |

遺物出土状況 土師器片102点(坏・椀36, 甕・甑65, 三足鍋カ1), 須恵器片53点, 灰釉陶器片1点(長頸瓶)が西側部分を中心に出土している。236は南壁際の覆土下層から, 237は竈の焚口部から出土している。また, 239は中央部の覆土中層から, 274は北西部の覆土中から出土している。

所見 三足鍋の用途については不明な点が多いが, 当遺跡においても第642号住居から同様の出土例があることから, 当該期に見られる土器群の一つと推測できる。いずれも竈を有する住居跡から出土しており, しかも被熱した痕跡は認められない。時期は, 出土土器から10世紀中頃と考えられる。

第1543号住居跡出土遺物観察表 (第162図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
236	土師器	椀	[12.0]	(3.4)	-	雲母・長石・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部ロクロナデ	南壁際下層	
237	土師器	椀	[14.4]	(4.9)	-	雲母・長石・赤色粒子	橙	普通	体部ロクロナデ後, 内面ヘラ磨き	竈焚口部	10%
238	土師器	椀	-	(2.7)	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	底部内面二方向のヘラ磨き	中央部下層	
239	土師器	三足鍋カ	-	(9.3)	-	雲母・長石・石英	にぶい褐	普通	脚部ナデ	中央部中層	
274	灰釉陶器	長頸瓶	[12.0]	(1.6)	-	白色粒子	灰黄褐・オリーブ黄	良好	口縁部ロクロナデ	北西部覆土中	猿投産
TP13	須恵器	甕	-	-	-	雲母・石英・赤色粒子	暗赤褐色	普通	外面横位の平行叩き, 内面ロクロナデ	南西部覆土中	

第1544号住居跡 (第163図)

位置 調査区中央部のR8h3区に位置し, 平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1564・1601号住居跡を掘り込み, 第1588号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.80m, 短軸2.35mほどの長方形で, 主軸方向はN-88°-Eである。壁高は5cmほどで, 各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 壁際を除いてよく踏み固められている。

竈 東壁の中央部に付設されている。遺存状態が悪く, 火床部だけが確認されている。火床部は床面と同じ高さの地山面を使用し, 火床面は赤変硬化している。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|----------------------------|-----------|--------------------------|
| 1 極暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物中量, ロームブロック・砂粒少量 | 2 極暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・砂粒中量 |
| | | 3 暗 赤 褐 色 | ロームブロック・炭化粒子中量, 焼土ブロック少量 |

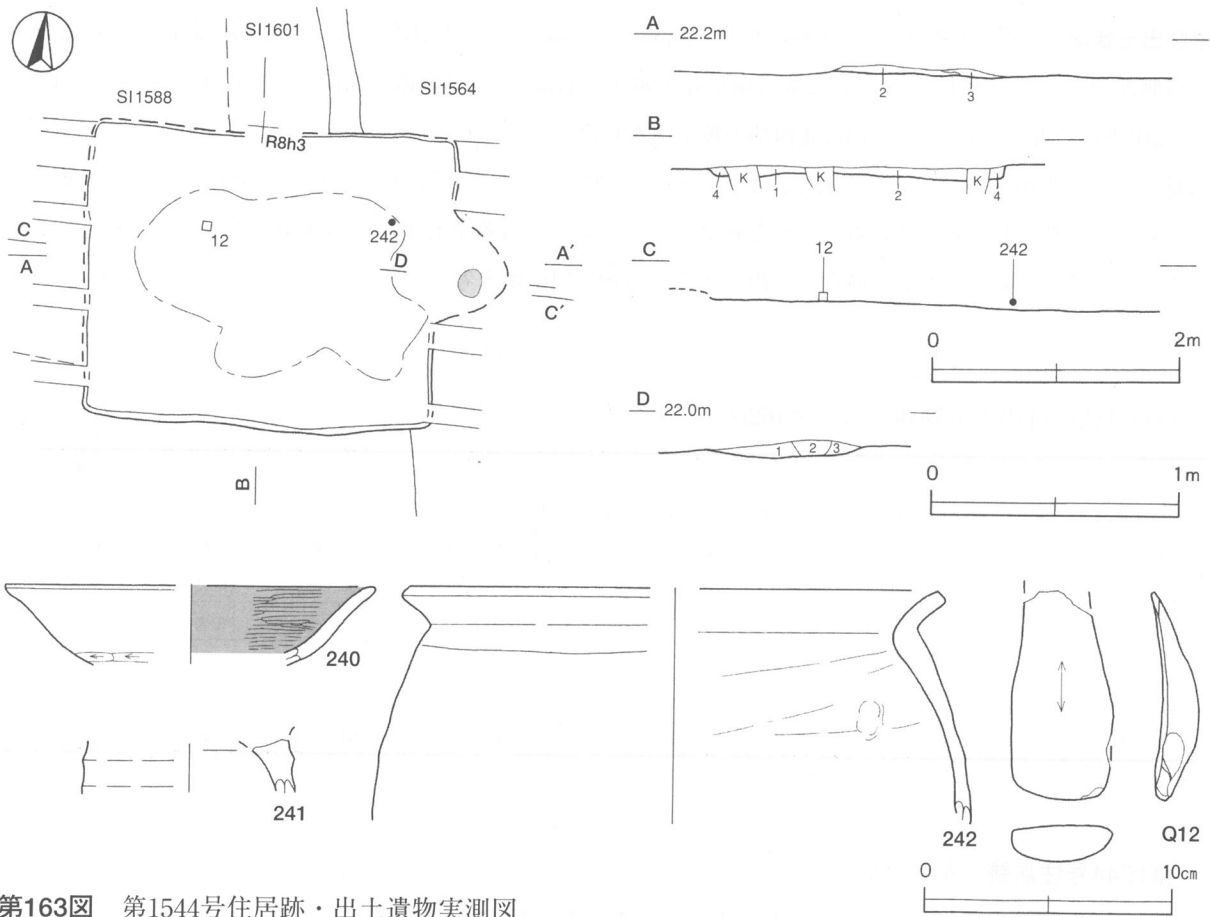
覆土 4層からなり, 各層ともロームブロックを含んでおり, 人為堆積の可能性が高い。

土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック多量, 焼土ブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片66点(坏・碗19, 甕・甑47), 須恵器片12点, 砥石1点が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており, そのほとんどが細片である。そのうち図示できたものは4点で, 242は竈手前の覆土下層から破片の状態でもとまって出土したものが接合したものである。また, Q12は中央部の床面から出土している。

所見 時期は, 土師器足高高台付碗の出土が見られ, 小皿が含まれていないことから, 10世紀中頃と考えられる。



第163図 第1544号住居跡・出土遺物実測図

第1544号住居跡出土遺物観察表 (第163図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
240	土師器	碗	[14.8]	(3.2)	-	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り	北西部覆土中	10%
241	土師器	碗	-	(2.1)	-	長石・赤色粒子	橙	普通	脚部ロクロナデ	南西部覆土中	
242	土師器	甕	[21.2]	(9.3)	-	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	体部内面ヘラナデ・指頭痕	竈手前下層	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
Q12	砥石	8.3	4.1	2.0	65.8	凝灰岩	砥面1面, 他は自然面	中央部床面	PL76

第1545号住居跡（第164図）

位置 調査区中央部のR 8 g4区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1564号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南部が削平された状態で検出されているため、暗褐色を呈した床面の広がりやピットの位置から、N-13°-Eを主軸とする長軸4.30m、短軸4.20mほどの方形と推定される。

床 ほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められている。また、壁溝は南壁際を除いて巡っている。

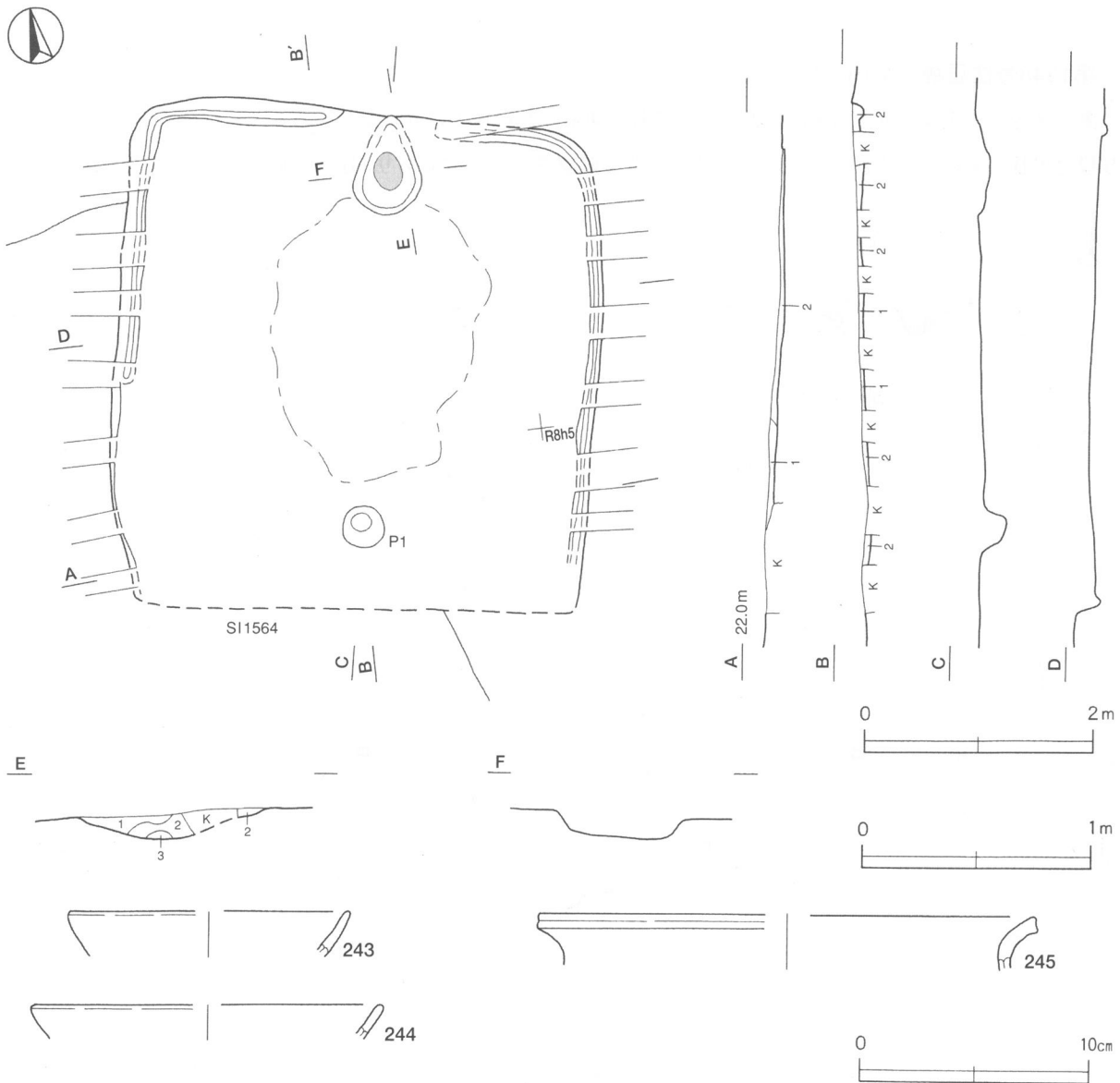
竈 北壁の中央部に付設されている。火床部は深さ20cmほどの皿状を呈し、火床面が赤変硬化している。袖部や天井部は遺存せず、覆土の含有物から砂質粘土で構築されていたと推測される。

竈土層解説

- 1 極暗赤褐色 焼土粒子・炭化物中量、ロームブロック・砂粒少量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化物・灰少量、砂粒微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量

ピット 1か所。P1は深さ23cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 2層からなり、含有物やレンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。



第164図 第1545号住居跡・出土遺物実測図

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片48点(坏2, 甕46), 須恵器片4点(坏)が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており, そのほとんどが細片である。そのうち図示できたものは3点で, 244はP1内から, 245は壁溝内から出土している。

所見 廃絶時期は, 出土土器から8世紀前葉ないし中葉と考えられる。

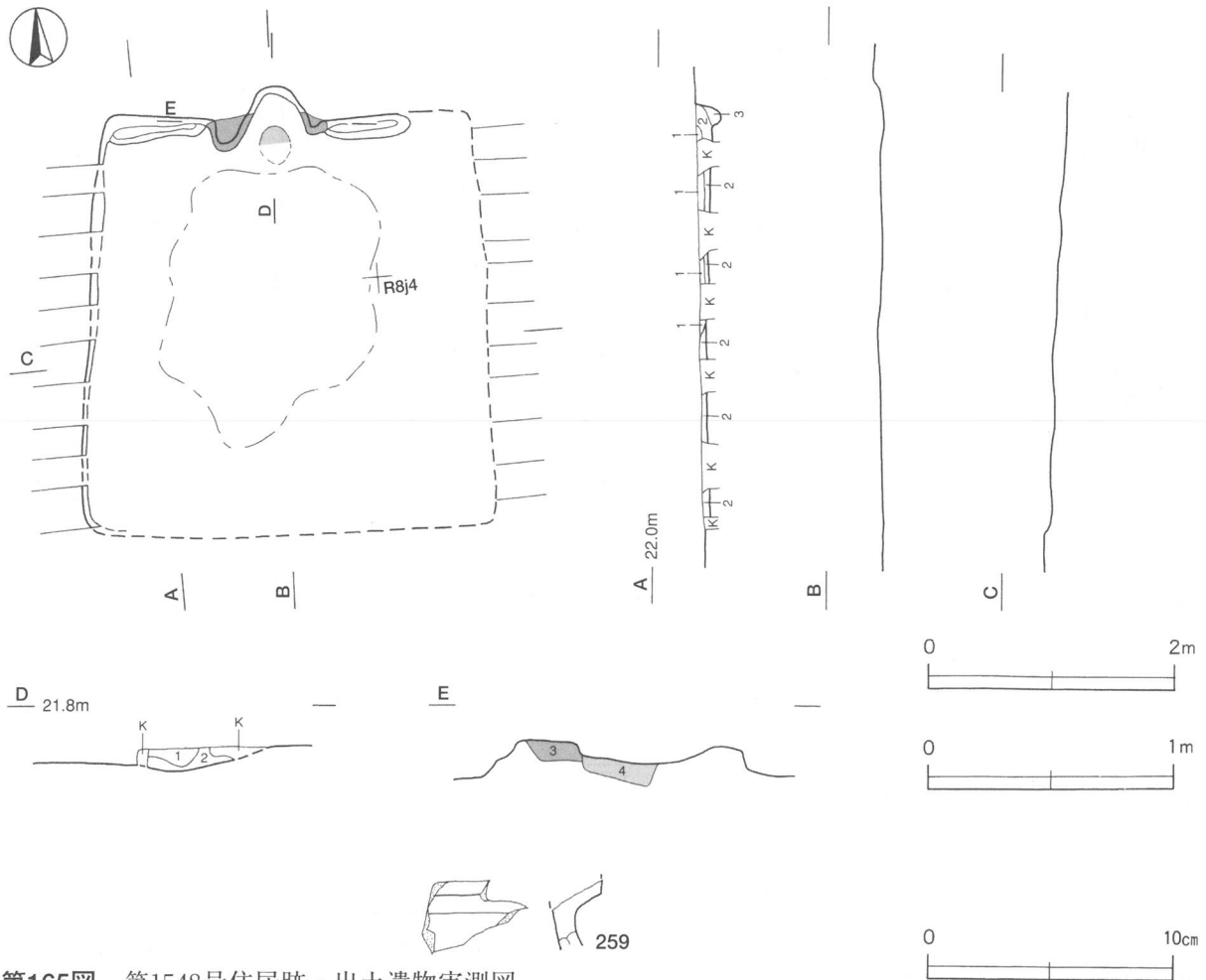
第1545号住居跡出土遺物観察表(第164図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
243	土師器	坏	[12.0]	(1.9)	-	長石・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ	南部床面	
244	須恵器	坏	[14.8]	(1.5)	-	長石・石英	灰	普通	体部ロクロナデ	P1覆土中	
245	土師器	甕	[21.4]	(2.4)	-	雲母・長石・石英	明赤褐	普通	口縁部横ナデ	壁溝覆土中	

第1548号住居跡(第165図)

位置 調査区中央部のR8i3区に位置し, 東に若干傾斜した台地上に立地している。

規模と形状 壁の立ち上がりは北壁の一部と西壁で確認されただけであり, 竈の位置と床面の広がりからみて,



第165図 第1548号住居跡・出土遺物実測図

N-1°-Eを主軸とする長軸3.40m、短軸3.25mほどの方形と推定される。残存する壁の高さは4cmで、壁の立ち上がり具合は判然としない。

床 ほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められている。また、壁溝は北壁際で認められる。

竈 北壁の中央部に付設されており、袖部幅は95cmほどである。袖部は、掘り残した地山を芯としてその周囲に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部の南半部分と焚口部は攪乱を受けており、様相は不明である。残存する火床部は床面と同じ高さの平坦面を使用しており、火床面が被熱によって赤変硬化している。また、煙道の立ち上がり具合は判然としない。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------------|--------|-----------------------------------|
| 1 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子少量 | 3 灰黄褐色 | 砂粒・粘土粒子多量、ローム粒子少量、
焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物・
砂粒少量 | 4 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量、
炭化粒子・灰少量 |

覆土 3層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------|-------|---------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量 | 3 暗褐色 | ローム粒子多量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片34点（坏4、甕・甑30）、須恵器片5点が出土している。遺物は散在しており、いずれも細片である。

所見 袖部の芯として地山を掘り残す竈の構築の仕方は、当遺跡においては8～9世紀に限定されるものである。付近には8世紀代の大型住居や掘立柱建物が主軸方向を同じくして位置しており、本住居もそれらの建物と同時期の可能性が高い。

第1548号住居跡出土遺物観察表（第165図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
259	土師器	甕	-	(2.9)	-	雲母・長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ	覆土中	

第1549号住居跡（第166・167図）

位置 調査区中央部のR 8 i2区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1577号住居跡を掘り込み、第1542・1543号住居、第140号掘立柱建物、第1481号土坑に掘り込まれている。

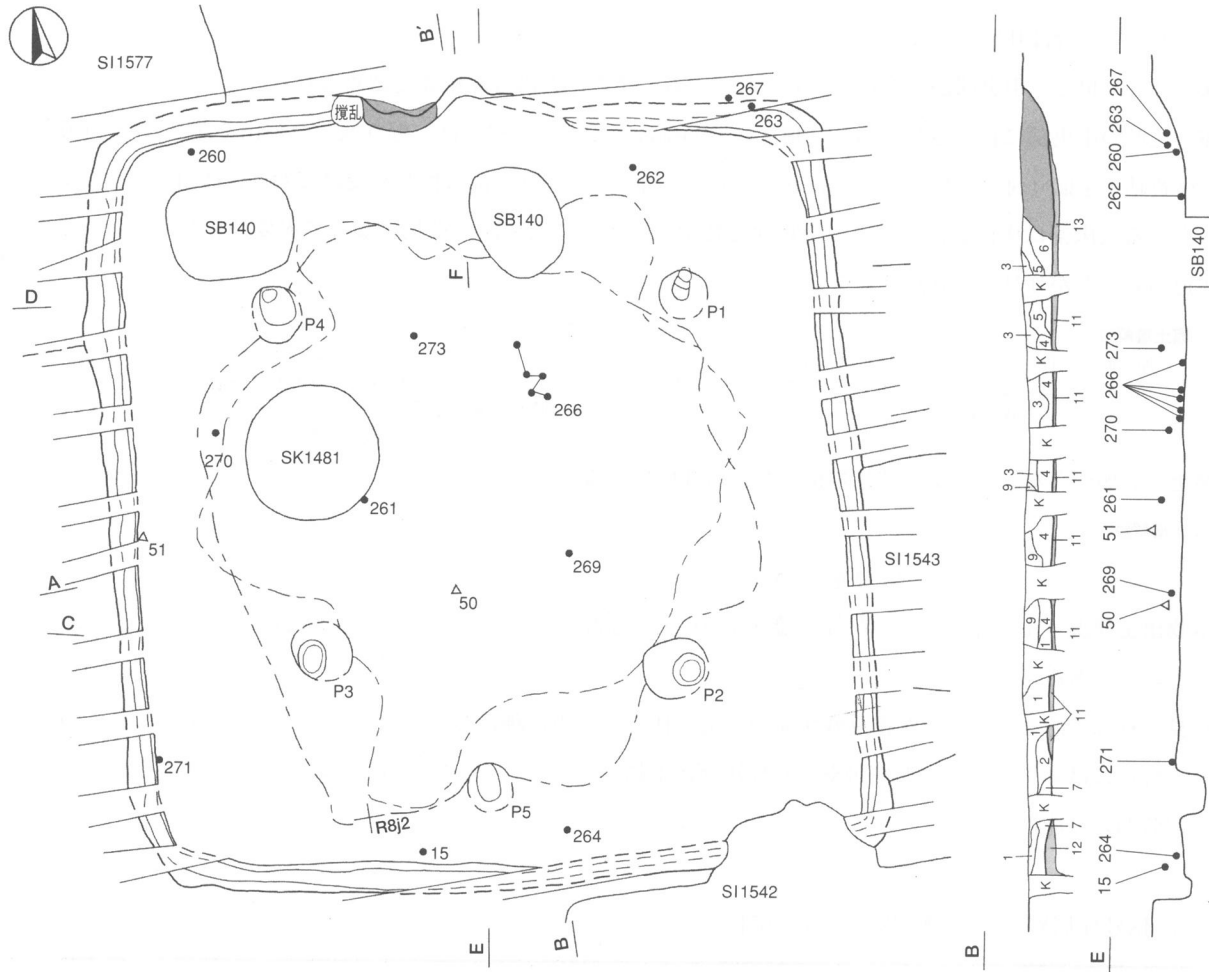
規模と形状 長軸6.35m、短軸6.00mほどの方形で、主軸方向はN-8°-Eである。壁高は28～35cmで、各壁とも急な傾斜で立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いてよく踏み固められており、壁溝が周回している。なお、硬化面は2面確認されており、床を貼り替えたことがうかがえる。

竈 北壁中央部に付設されている。天井部や袖部は遺存せず、竈材が竪穴部の中央にまで散在していたことから、住居の廃絶に伴って破壊されたことが推測される。壁外への掘り込みは16cmほどで、煙道は外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------------------------|--------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 砂粒・粘土粒子中量、ローム粒子・
焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・
炭化粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 7 褐色 | ローム粒子多量 |
| 4 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量 | | |



第166图 第1549号住居跡実測図

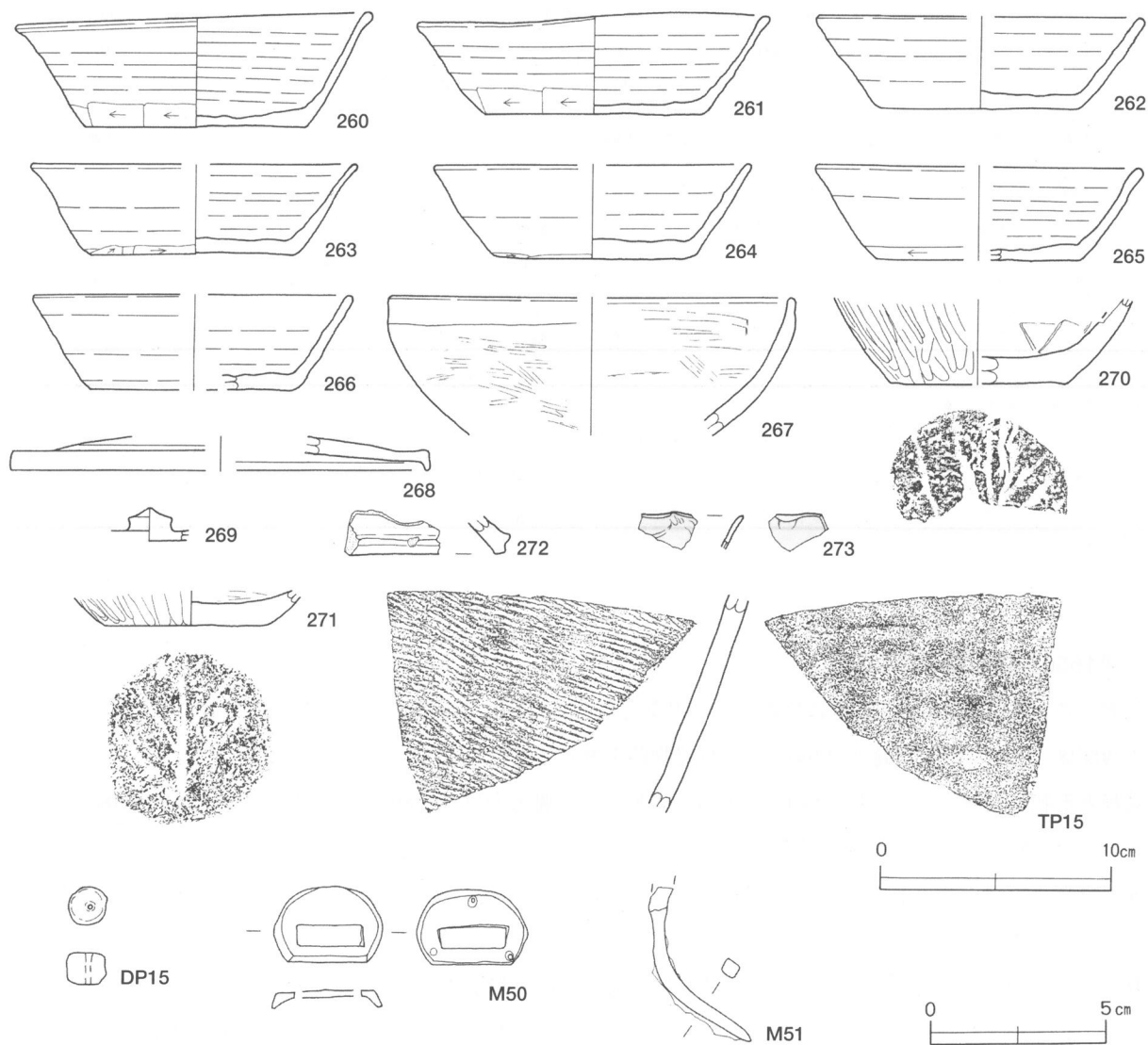
ピット 5か所。主柱穴はP1～P4が相当し、深さは54～70cmである。P5は出入り口施設に伴うピットで、深さは23cmである。

覆土 10層からなり、各層ともロームブロックを含んだ人為堆積である。なお、第11～13層は貼床部の土層である。

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------|---------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量, 砂粒微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量 | 11 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, ロームブロック・炭化粒子・砂粒少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・砂粒中量, 焼土ブロック・炭化物少量 | 12 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・砂粒少量 | 13 暗赤褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量 |
| 7 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片577点(坏32, 甕・甑545), 須恵器片201点(坏・高台付坏111, 蓋7, 甕・甑82, 円面硯カ1), 丸軋1点, 鉄釘カ1点, 土玉1点, 鉄滓1点が覆土下層を中心に出土しており, その他に緑釉陶器の椀片1点が攪乱により混入している。破断面の摩滅の少ない土器が多く, 数量も多いことから, これらの土器は埋め戻しに際して投棄された可能性がある。甕・甑類はすべて細片で, そのうち271は西壁際の床面に



第167図 第1549号住居跡出土遺物実測図

散在していた破片が接合したものである。また、270は西部の覆土中層と竈付近の床面から出土した破片が接合したものであり、270と271の体部外面には炭化物の付着がみられる。さらに、262は竈内や北壁際の床面、266は中央部の床面から出土している。M50は、中央部の覆土中層から出土している。

所見 当該期にあつては大形の住居で、丸靱や円面硯と思われる土器も出土しており、付近に位置する同時期の掘立柱建物群との関連がうかがわれる。廃絶時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。

第1549号住居跡出土遺物観察表（第167図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
267	土師器	坏	[17.0]	(5.8)	-	雲母・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内外面ヘラ磨き	北東隅部中層	20%
260	須恵器	坏	15.0	4.9	9.4	雲母・長石・石英	黒	普通	底部回転ヘラ切り後、多方向のヘラ削り	北壁際下層	90%, PL56
261	須恵器	坏	14.7	4.3	9.2	雲母・石英	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後、多方向のヘラ削り	中央部上層	70%, PL56
262	須恵器	坏	[13.6]	3.9	8.4	雲母・長石・石英	灰	普通	底部多方向のヘラ削り	竈内・北壁際床面	80%
263	須恵器	坏	[13.7]	3.9	8.6	雲母・長石	灰黄	普通	底部井桁状のヘラ削り	北東隅部中層	50%
264	須恵器	坏	[13.2]	4.0	7.9	雲母・長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後、井桁状のヘラ削り	南壁際下層	50%
265	須恵器	坏	[13.6]	3.9	[8.6]	雲母・長石	黄灰	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	竈覆土中	30%
266	須恵器	坏	[13.4]	4.0	[8.6]	長石・石英	黄灰	普通	底部多方向のヘラ削り	中央部床面	40%
268	須恵器	蓋	[17.8]	(1.5)	-	長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	北西部上層	20%
269	須恵器	蓋	-	(1.5)	-	雲母・長石	灰	普通	つまみ接合後、ロクロナデ	中央部下層	
270	土師器	甕	-	(3.7)	[7.4]	雲母・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	体部内面ヘラナデ、底部木葉痕	西部中層・竈内	外面炭化物付着
271	土師器	甕	-	(1.6)	6.9	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	体部内面ヘラナデ、底部木葉痕	西壁際床面	外面炭化物付着
272	須恵器	円面硯カ	-	(1.7)	-	雲母・長石	灰黄	普通	脚部ロクロナデ	北西部上層	
273	緑釉陶器	椀	-	(1.5)	-	緻密	灰白・オリーブ黄	良好	口縁部の一部を輪花状に内側へ屈曲、体部ヘラミガキ後、施釉	中央部上層	猿投産
TP15	須恵器	大甕	-	-	-	雲母・長石・石英	暗紫灰	普通	外面斜位の平行叩き、内面ナデ	南壁際上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
DP15	土玉	1.0	1.0	0.9	1.3	長石・石英	褐灰色、孔径0.1cm、ナデ	北西部上層	PL73
M50	丸靱	3.1	2.2	0.2	6.1	青銅	鋌三か所、下位に長方形の垂孔が開く	中央部中層	PL82
M51	釘カ	(5.9)	0.7	0.6	(3.7)	鉄	断面方形の棒状、弓状に彎曲	西壁際上層	

第1550号住居跡（第168図）

位置 調査区中央部のS 8j2区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1557号住居跡と第160号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.85m、短軸2.70mほどの長方形で、主軸方向はN-89°-Wである。壁高は35~48cmで、各壁とも急な傾斜で立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、竈手前を中心に踏み固められており、北側部分はそれほど硬化していない。また、壁溝は東壁際を除いて巡っている。

竈 東壁の南寄りに付設されており、規模は焚口部から煙道部まで115cm、火床部幅55cmほどで、右袖部は遺存していない。左袖部は、床面と同じ高さの地山面上に砂質粘土で構築されている。火床部は東壁ラインの外側に位置し、火床面が被熱して赤変硬化している。また、煙道は急な傾斜で立ち上がっている。

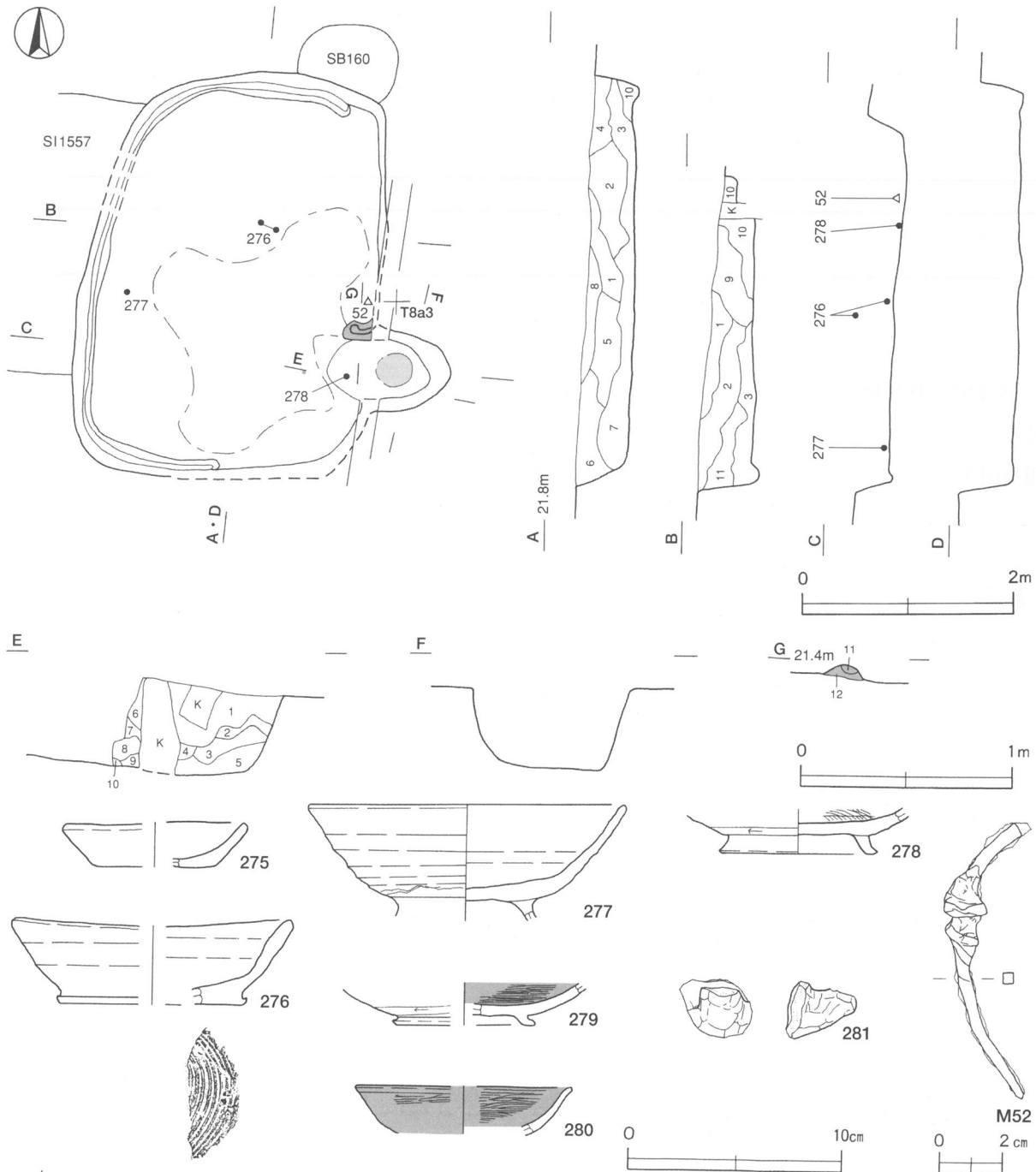
竈土層解説

- | | | | |
|-----------|----------------------|------------|-------------------|
| 1 暗 褐 色 | 焼土ブロック・炭化物・砂粒・粘土粒子少量 | 7 暗 赤 褐 色 | 焼土粒子中量, 砂粒・粘土粒子少量 |
| 2 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量 | 8 灰 黄 褐 色 | 砂粒・粘土粒子中量, 焼土粒子少量 |
| 3 赤 色 | 焼土粒子中量 | 9 黒 褐 色 | 炭化粒子中量, 焼土粒子少量 |
| 4 暗 赤 褐 色 | 焼土ブロック中量 | 10 暗 褐 色 | ローム粒子少量 |
| 5 暗 褐 色 | ローム粒子微量 | 11 オリーブ褐色 | 砂粒・粘土粒子多量 |
| 6 褐 色 | ロームブロック中量 | 12 灰 黄 褐 色 | 砂粒・粘土粒子中量 |

覆土 11層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------------|------------|-------------------------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック少量 | 7 黒 褐 色 | ロームブロック・炭化物少量, 焼土ブロック微量 |
| 2 黒 褐 色 | ロームブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量 | 8 極 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| 3 黒 褐 色 | ロームブロック少量 | 9 暗 褐 色 | ロームブロック少量 |
| 4 褐 色 | ロームブロック中量 | 10 黒 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 5 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 11 極 暗 褐 色 | ロームブロック少量 |
| 6 黒 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | | |



第168図 第1550号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片176点（小皿5，坏・碗67，甕・甑104），須恵器片12点，不明鉄製品1点が，中央部と竈手前を中心に多く出土している。277は中央部西寄りの覆土下層から，278は竈内から出土している。また，M52は竈北側の覆土下層から出土している。

所見 時期は，土師器小皿や小形の碗が出土していることから，10世紀後半以降と考えられる。

第1550号住居跡出土遺物観察表（第168図）

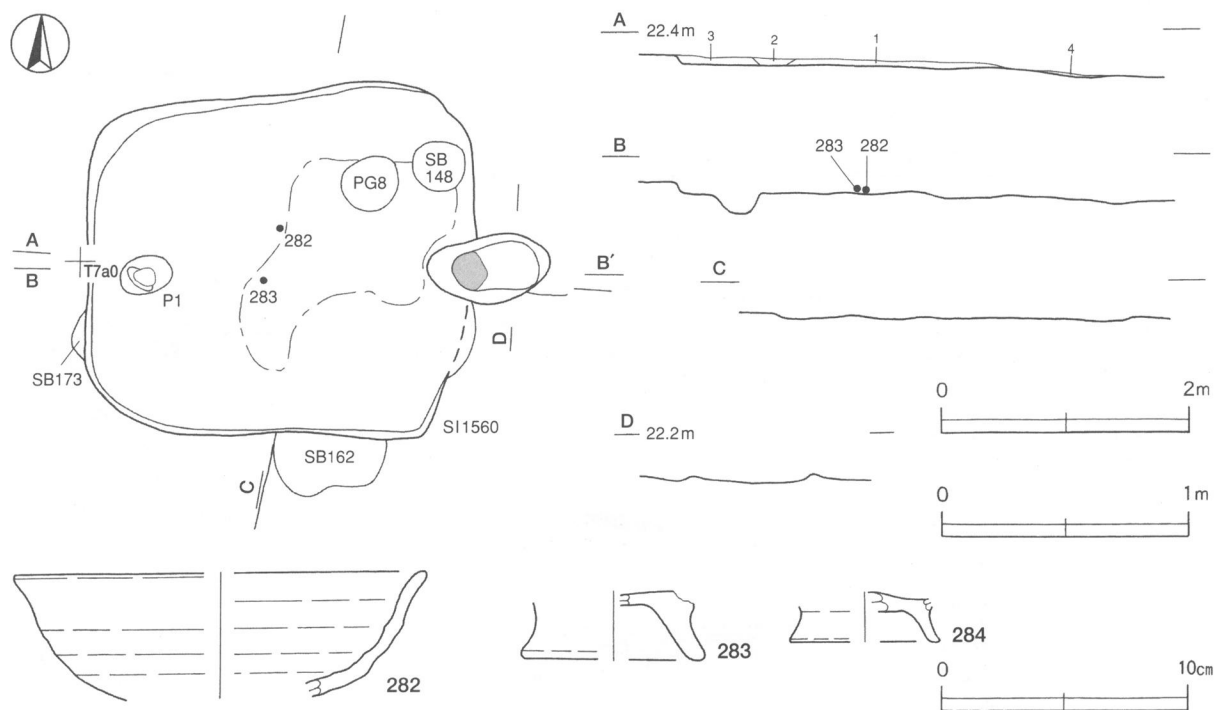
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
275	土師器	小皿	[8.2]	2.1	[5.8]	雲母・赤色粒子	灰褐	普通	底部回転ヘラ切り	北東部覆土中	
276	土師器	坏	[12.8]	4.0	[8.6]	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り	中央部下層	40%
277	土師器	碗	14.6	(5.9)	-	長石・石英	橙	普通	体部内外面ロクロナデ，高台貼り付け後ロクロナデ	中央部・西部下層	外面炭化物付着，70%
278	土師器	碗	-	(2.1)	6.8	長石・石英	橙	普通	底部回転ヘラ切り後，高台貼り付け	竈内	20%
279	土師器	碗	-	(1.9)	[6.6]	石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	底部回転ヘラ切り後，高台貼り付け	南西部覆土中	
280	土師器	碗	[10.1]	(2.0)	-	雲母	黒	普通	体部内外面ヘラ磨き	南東部覆土中	
281	土師器	甑	-	(2.7)	-	雲母・長石・石英	にぶい黄橙	普通	把手部指頭によるナデ	北西部覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
M52	不明	(9.6)	0.4	0.4	(13.2)	鉄	断面方形の棒状，1本を他方に巻き付ける	竈北側下層	PL83

第1551号住居跡（第169図）

位置 調査区中央部のT7a0区に位置し，平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1560号住居跡，第162・173号掘立柱建物跡を掘り込み，第148号掘立柱建物，第8号ピット群に掘り込まれている。



第169図 第1551号住居跡・出土遺物実測図

規模と形状 長軸3.10m, 短軸2.70ほどの長方形で, 主軸方向はN-88°-Eである。壁高は2~5cmしかなく, 壁の立ち上がり具合は判然としない。

床 ほぼ平坦で, 中央部から竈手前にかけて踏み固められている。

竈 東壁の中央部に付設されている。天井部や袖部は遺存せず, 構築材等も不明である。火床部は東壁ライン上に位置し, 火床面は被熱によって赤変している。

ピット 1か所。P1は深さ13cmで, 竈と向かい合う位置にあり, 出入り口施設に伴うピットである。

覆土 4層からなり, ブロック状に堆積した人為堆積である。なお, 第4層は竈内の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------|--------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化物微量 | 3 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック少量 | 4 暗赤褐色 | 焼土粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片60点(坏・椀28, 甕・甑32), 須恵器片12点がほぼ全域から散在して出土している。282は中央部の床面から若干浮いた状態で, 283は中央部の床面から出土している。

所見 時期は, 出土土器から, 10世紀後半と考えられる。

第1551号住居跡出土遺物観察表 (第169図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
282	土師器	椀	[16.6]	(5.1)	-	雲母・長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部ロクロナデ	中央部床面	25%
283	土師器	椀	-	(2.7)	[7.2]	長石・赤色粒子	浅黄橙	普通	高台部ロクロナデ	中央部床面	
284	土師器	椀	-	(2.0)	[6.0]	雲母	橙	普通	高台部ロクロナデ	北東部覆土中	

第1553号住居跡 (第170図)

位置 調査区中央部のT8d4区に位置し, 平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1563号住居跡と第186号掘立柱建物跡を掘り込み, 第1453号土坑と第9号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.35m, 短軸3.95mほどの方形で, 主軸方向はN-111°-Eである。壁高は10~26cmで, 各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 竈手前から中央部, さらに西壁際のやや北寄りにかけて踏み固められている。また, 壁溝は西壁際の北寄り部分と東壁際を除いて巡っている。

竈 東壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで100cm, 火床部幅65cmほどで, 壁外への掘り込みは90cmである。天井部・袖部は遺存せず, 覆土の含有物から砂質粘土で構築されていたと推測される。また, 火床面は東壁ラインの外側に位置し, 赤変硬化しており, 煙道は急な傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|---------------------|----------|--------------------------|
| 1 にぶい黄褐色 | 粘土粒子・砂粒中量, 焼土ブロック少量 | 3 にぶい黄褐色 | 粘土粒子・砂粒中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |

炉 中央部の竈寄りに付設されている。床面とほぼ同じ高さの地床炉で, 被熱して赤変硬化している。

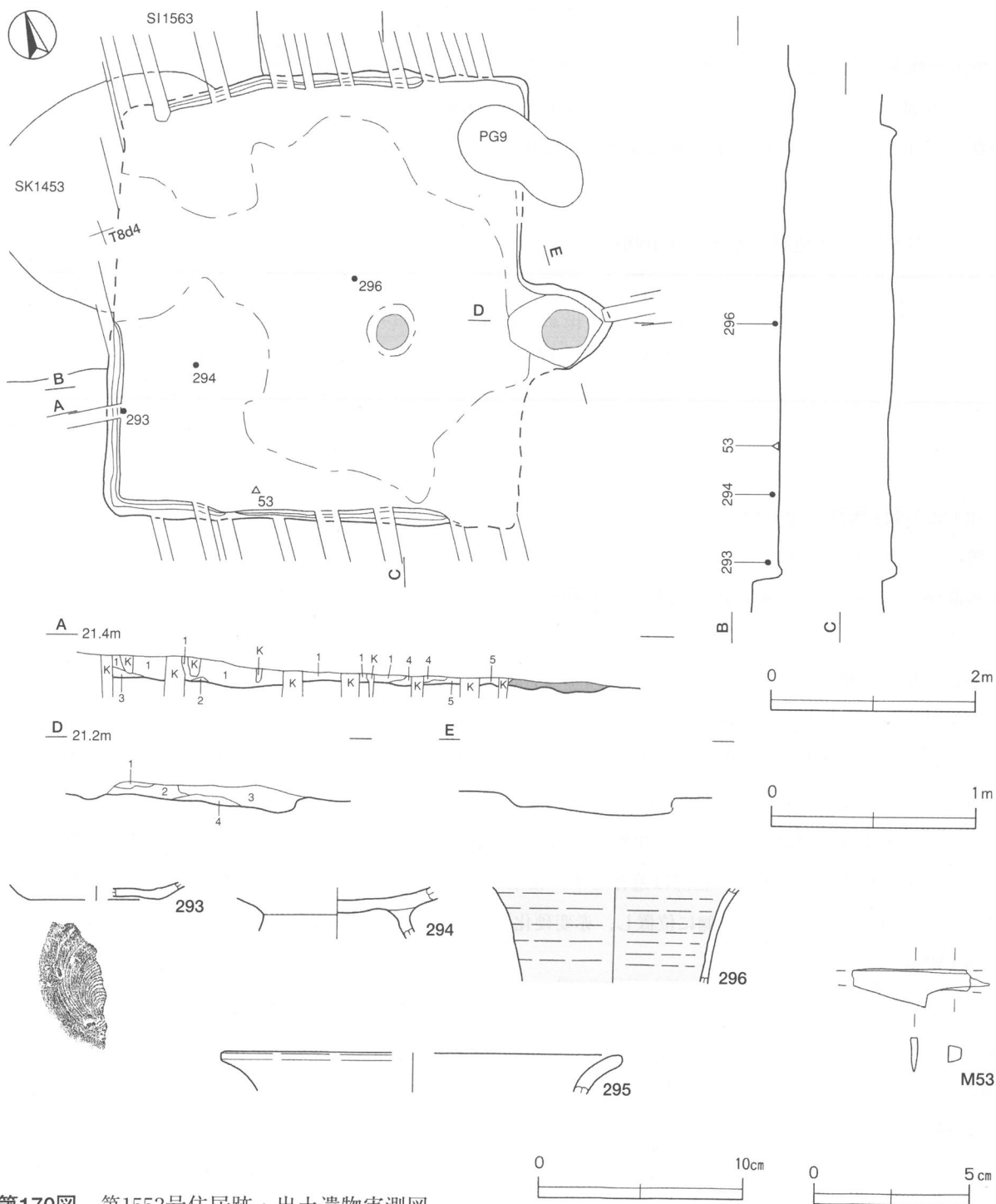
覆土 5層からなり, レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化物微量 | 4 黒褐色 | 炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量, 砂粒・粘土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片28点（小皿1，坏・椀16，甕11），須恵器片3点（甕3），灰釉陶器2点（壺2），刀子1点が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており，293は西壁際，294は中央部西寄り，296は中央部のいずれも床面から若干浮いた状態で出土している。

所見 第1377・1536・1537号住居跡など同様に，竈と炉を有する住居である。また，西壁際の硬化面が広がる部分には壁溝が巡っておらず，出入口施設との関連をうかがうことができる。時期は，出土土器から10世紀後半以降と考えられる。



第170図 第1553号住居跡・出土遺物実測図

第1553号住居跡出土遺物観察表 (第170図)

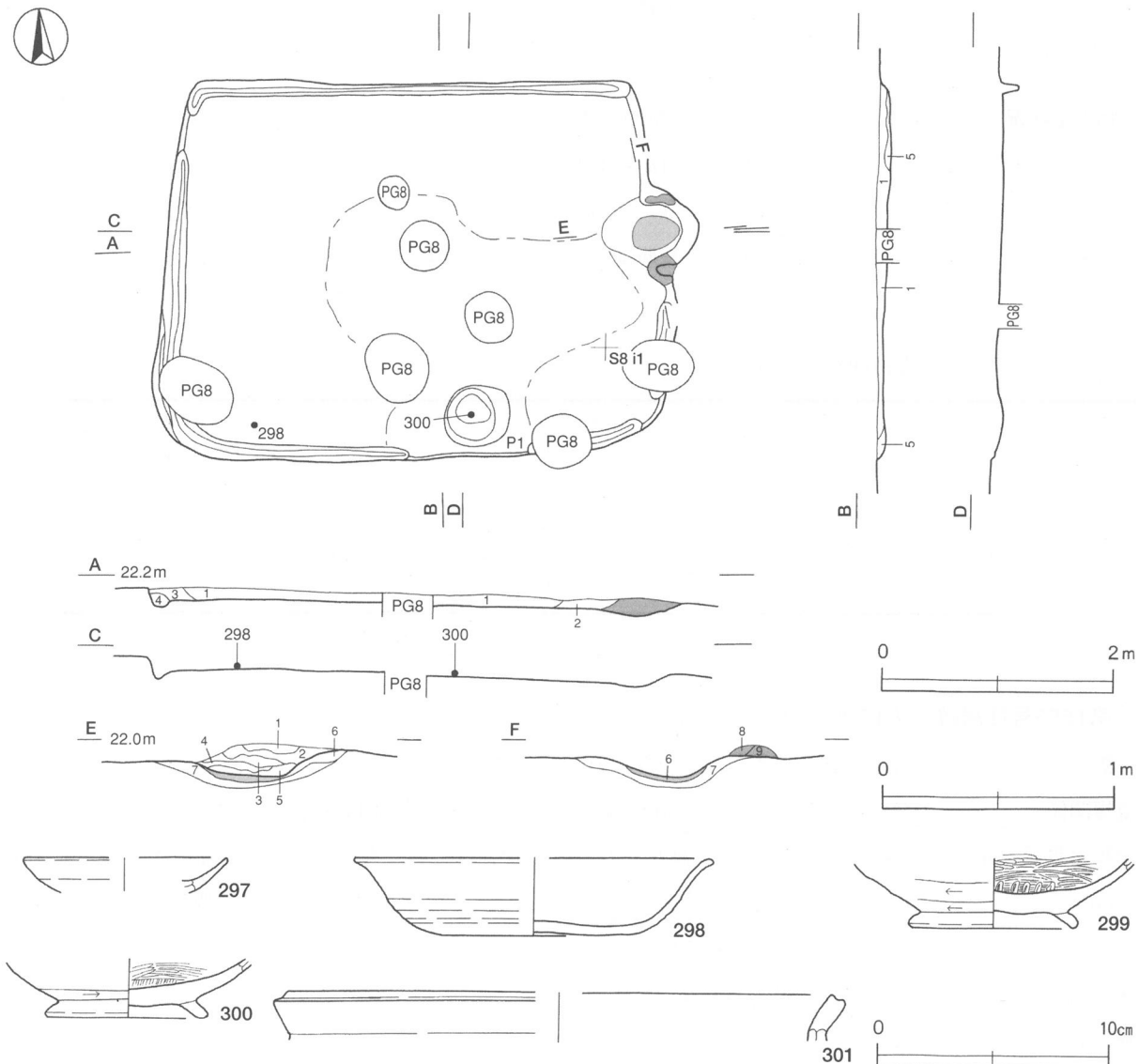
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
293	土師器	小皿	-	(0.9)	[6.0]	雲母・長石・石英	橙	普通	底部回転糸切り	西壁際下層	
294	土師器	椀	-	(2.4)	-	長石	橙	普通	高台貼り付け後、ロクロナデ	中央部下層	内面炭化物付着
295	土師器	甕	[19.0]	(1.9)	-	石英	灰黄褐	普通	口縁部横ナデ	竈内	
296	灰釉陶器	長頸瓶	-	(4.6)	-	黒色粒子	灰白・ 灰オリーブ	良好	口縁部ロクロナデ、施釉技法不明	中央部下層	猿投産

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
M53	刀子	(4.5)	1.1	0.4	(3.3)	鉄	刃部から茎部の破片, 片関	南壁際床面	PL78

第1554号住居跡 (第171図)

位置 調査区中央部のS7h0区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第8号ピット群に掘り込まれている。



第171図 第1554号住居跡・出土遺物実測図

規模と形状 長軸4.40m, 短軸3.25mほどの長方形で, 主軸方向はN-90°-Eである。壁高は8cmほどで, 各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 竈手前から中央部, 及び南壁際中央部にかけて踏み固められている。また, 壁溝が南壁際の中央部や東壁際の北部を除いて巡っている。

竈 東壁の中央部に付設されている。袖部は, 床面と同じ高さの地山面上に砂質粘土で構築されている。火床部は地山面を皿状に掘りくぼめて使用されており, 火床面が被熱によって赤変硬化している。また, 煙道は外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|-----------|----------------------|-----------|-----------------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子少量, 粘土粒子・砂粒微量 | 6 暗 赤 褐 色 | 焼土粒子中量 |
| 2 にぶい黄褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量 | 7 褐 色 | ローム粒子中量 |
| 3 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量, 粘土粒子・砂粒少量 | 8 オリーブ褐色 | 粘土粒子・砂粒多量 |
| 4 暗 褐 色 | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 9 暗 褐 色 | ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量 |
| 5 暗 赤 褐 色 | 焼土粒子中量, ローム粒子微量 | | |

ピット 1か所。P1は深さ5cmほどで, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 5層からなり, レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------------|---------|-------------|
| 1 黒 褐 色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化物微量 | 3 暗 褐 色 | ローム粒子・炭化物少量 |
| 2 黒 褐 色 | 炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量, ロームブロック微量 | 4 黒 褐 色 | ローム粒子微量 |
| | | 5 暗 褐 色 | ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片111点(小皿2, 坏・椀29, 甕・甑80), 須恵器片2点が, 南壁際や竈内を中心に出土している。299・300は, いずれも南壁際の床面から出土している。

所見 壁溝は南壁際の中央部分で途切れており, その部分は硬化面の広がりとも重なることから, この付近に出入り口施設が存在していたと推測される。時期は, 出土土器から10世紀後半以降と考えられる。

第1554号住居跡出土遺物観察表 (第171図)

番号	種 別	器 種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手法の特徴	出土位置	備 考
297	土師器	小皿	[8.6]	(1.5)	-	石英	にぶい橙	普通	口縁部ロクロナデ	南西部覆土中	
298	土師器	坏	[15.2]	3.3	[8.0]	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り	南壁際下層	40%
299	土師器	椀	-	(3.0)	6.6	雲母・長石・石英	にぶい褐	普通	底部内面二方向のヘラ磨き	南壁際床面	30%
300	土師器	椀	-	(2.6)	6.6	雲母・長石・石英	にぶい赤褐	普通	底部内面一方向のヘラ磨き	南壁際床面	20%
301	土師器	甕	[23.2]	(2.0)	-	長石	橙	普通	口縁部横ナデ	北東部覆土中	

第1555号住居跡 (第172図)

位置 調査区中央部のT7c0区に位置し, 平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1567・1590号住居跡と第152・155・158・165・171号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 東側部分が削平された状態で検出されたため全容は不明であり, 壁溝の確認状況から南北軸は2.65mで, 東西軸は2.00m以上と推定される。平面形は方形ないし長方形で, 主軸方向は西壁の指す方向からみてN-88°-EないしN-2°-Eと推測される。

床 ほぼ平坦である。硬化面は, 認められない。

竈 粘土粒子等の分布も認められず, 竈の存在については不明である。

覆土 2層からなる。レンズ状の堆積状況を示しており, 自然堆積の可能性が高い。

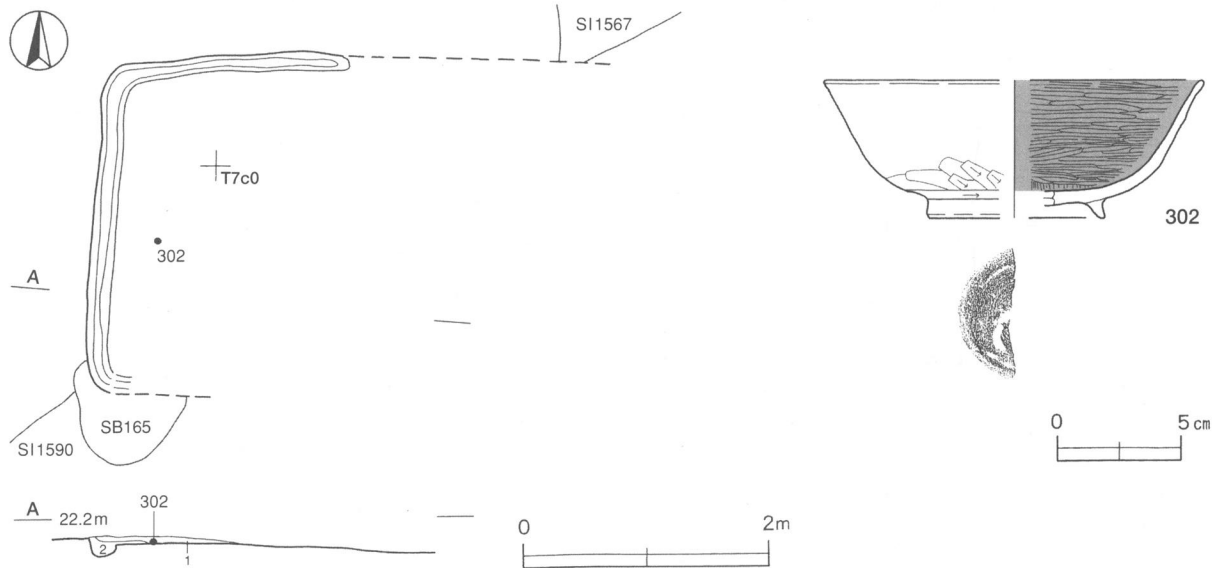
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量

2 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片17点（坏5，甕12）が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており、そのほとんどが細片である。302は、西壁際の床面から出土している。

所見 時期は、須恵器片や土師器小皿が出土していないことや土師器碗の形状などからみて、10世紀後半と考えられる。



第172図 第1555号住居跡・出土遺物実測図

第1555号住居跡出土遺物観察表（第172図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
302	土師器	碗	[15.4]	5.5	[7.1]	雲母・長石・赤色粒子	ぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け	西壁際床面	30%

第1557号住居跡（第173図）

位置 調査区中央部のS 8 j2区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1550号住居と第1563号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東側部分が遺存していないために全容は不明で、南北軸は2.60m、東西軸は2.25mだけが確認されている。平面形は方形または長方形で、主軸方向は東竈を想定するとN-88°-Wと推定される。壁の高さは南壁で18cm、西壁で10cmほどあり、両壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦であり、硬化面は南壁際と中央部から若干認められるだけである。また、壁溝は確認された壁際を巡っている。

覆土 10層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

1 褐色 ローム粒子中量

2 暗褐色 ローム小ブロック少量

3 暗褐色 ローム中ブロック少量

4 極暗褐色 ローム粒子少量

5 黒褐色 ローム小ブロック少量

6 極暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

7 黒褐色 ローム小ブロック・炭化粒子微量

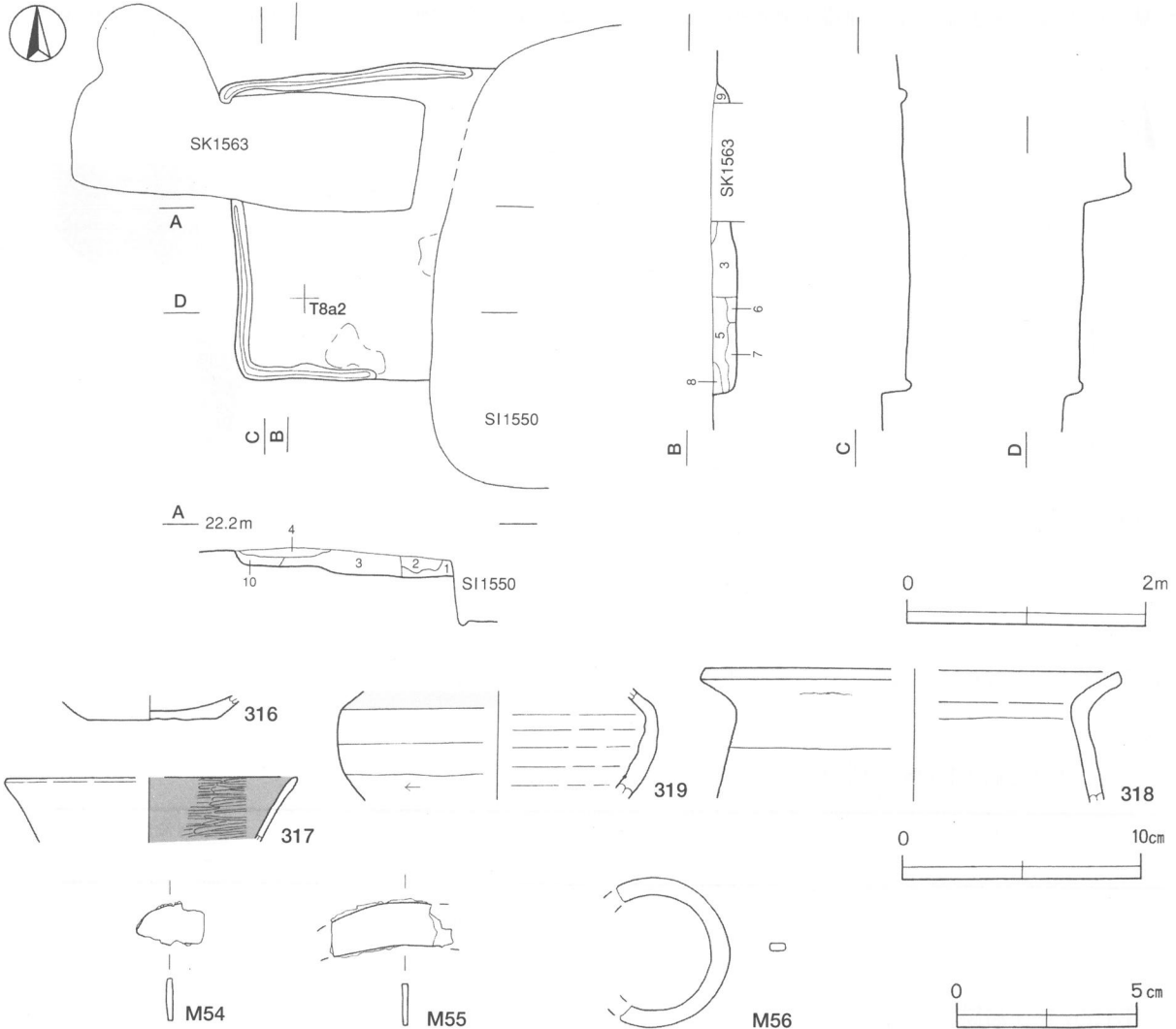
8 暗褐色 ローム粒子少量

9 黒褐色 ローム小ブロック微量

10 暗褐色 ローム中ブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片85点（小皿1，坏・椀23，甕・甑61），須恵器片1点（甕），不明鉄製品2点，不明銅製品1点が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており，そのほとんどが細片である。図示した土器はすべて南東部の覆土中から出土したものである。

所見 時期は，重複関係や出土土器から10世紀後半ないしそれ以降と考えられる。



第173図 第1557号住居跡・出土遺物実測図

第1557号住居跡出土遺物観察表（第173図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
316	土師器	小皿	-	(1.0)	5.3	雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	南東部覆土中	
317	土師器	椀	[12.3]	(2.7)	-	雲母	にぶい橙	普通	体部内面ヘラ磨き	南東部覆土中	
318	土師器	甕	[17.0]	(5.5)	-	雲母・長石・石英	橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ヘラ削り後ナデ	南東部覆土中	
319	須恵器	長頸壺カ	-	(4.5)	-	長石・黒色粒子	褐灰	良好	体部下端回転ヘラ削り	南東部覆土中	肩部自然釉

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
M54	不明	(1.9)	(1.3)	0.2	(0.7)	鉄	均一な厚さの板状，紡錘車の一部カ	中央部中層	
M55	不明	(3.4)	(1.3)	0.2	(3.3)	鉄	均一な厚さの板状，弓状に彎曲	南東部覆土中	PL78
M56	不明	4.1	0.4	0.2	(4.7)	銅	断面長方形の環状	南東部覆土中	

第1560号住居跡 (第174図)

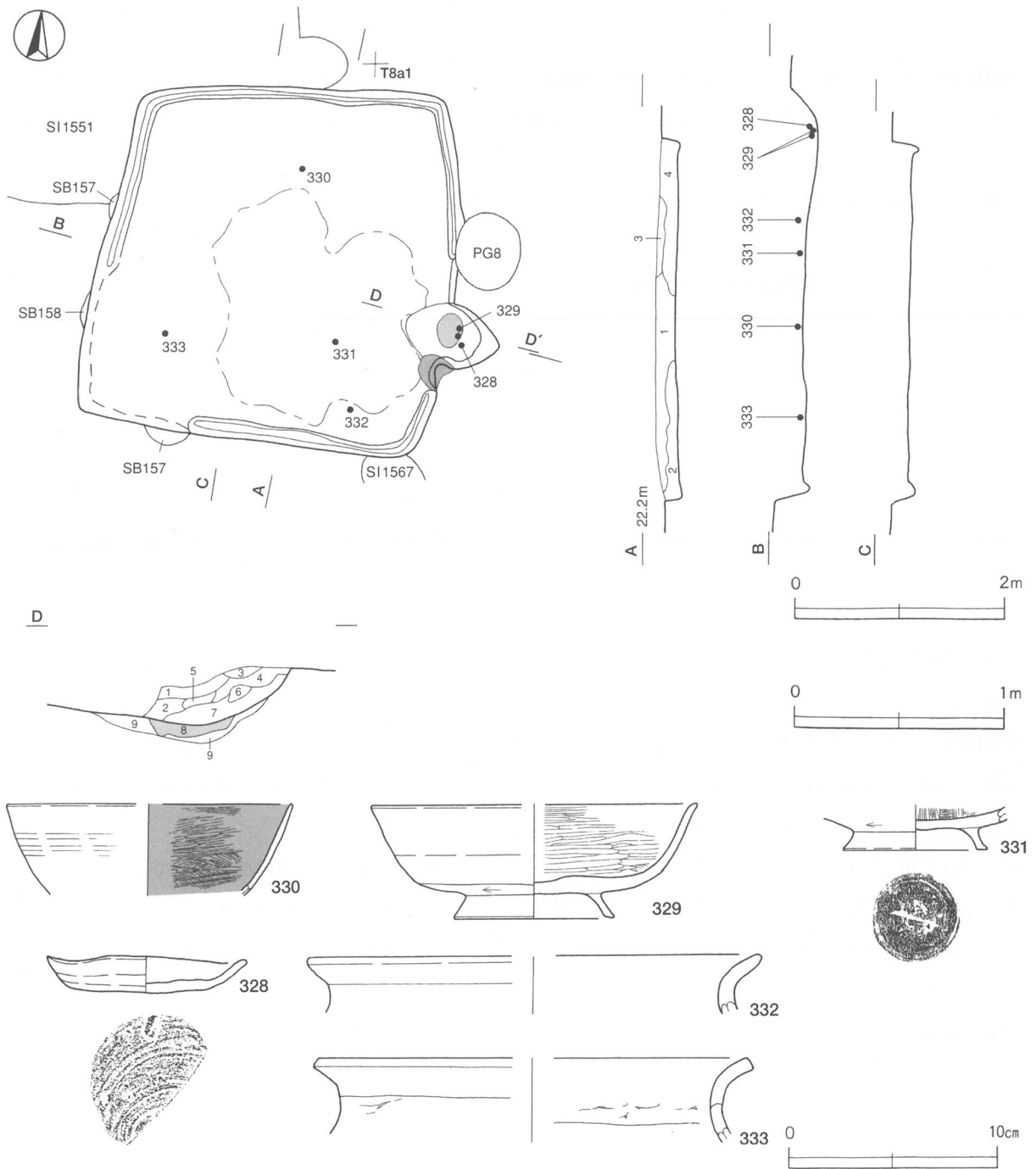
位置 調査区中央部のT7 a0区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1551・1567号住居跡と第157・158号掘立柱建物跡を掘り込み、第8号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.45m、短軸3.40mほどの方形で、主軸方向はN-96°-Eである。壁高は16~29cmで、各壁とも急な傾斜で立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、竈の手前から中央部にかけて踏み固められている。壁溝が、南西部を除いて巡っている。

竈 東壁の南寄りを壁外に50cmほど掘り込んで付設されており、規模は焚口部から煙道部まで95cmである。左



第174図 第1560号住居跡・出土遺物実測図

袖部は遺存せず、右袖部は床面と同じ高さの地山面上に砂質粘土で構築されている。火床部は10cmほど掘りくぼめた部分に焼土混じりのロームブロックを埋め戻した浅い皿状を呈しており、火床面は赤変硬化している。また、煙道は急な傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|--------------------------------|---------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物・砂粒少量 | 6 オリーブ色 | 粘土ブロック中量、焼土粒子・砂粒少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量、
焼土粒子・砂粒微量 | 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 8 赤褐色 | 焼土ブロック多量 |
| 4 にぶい赤褐色 | 焼土粒子・炭化物・砂粒少量 | 9 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 5 灰オリーブ色 | 砂粒中量、ローム粒子微量 | | |

覆土 4層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------|-------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化物少量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片347点（小皿8，坏・碗126，甕・甑213），石製支脚1点（雲母片岩），砥石1点（凝灰岩）が竈付近を中心に出土している。328・329は竈内から，331・332は竈手前の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は，重複関係と出土土器から10世紀後半以降と考えられる。

第1560号住居跡出土遺物観察表（第174図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
328	土師器	小皿	9.4	1.7	6.4	雲母・長石・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	竈内	55%，PL57
329	土師器	碗	[15.4]	5.4	7.2	雲母・長石・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	竈内	50%
330	土師器	碗	[13.4]	(4.3)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内面ヘラ磨き	北部下層	
331	土師器	碗	-	(2.1)	6.8	雲母・長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部内面二方向のヘラ磨き	竈手前下層	
332	土師器	甕	[21.4]	(2.7)	-	雲母・長石・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ	竈手前下層	
333	土師器	甕	[20.2]	(3.6)	-	雲母・長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ・輪積み痕	南西部下層	

第1561号住居跡（第175・176図）

位置 調査区中央部のS 8 a1区に位置し，平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1582号住居跡を掘り込み，第146・147号掘立柱建物と第1455・1466号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.80m，短軸4.45mほどの方形で，主軸方向はN-3°-Eである。壁高は残存する西壁や北壁で15~19cmほどあり，壁は急な傾斜で立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，壁際を除いて踏み固められている。また，壁溝が北西部から南西部にかけて巡っている。

竈 北壁の中央部に付設されている。遺存状態が悪く，火床部と煙道部だけが確認されており，火床部は床面と同じ高さの平坦面を使用し，火床面が赤変硬化している。また，煙道は火床部から緩やかに立ち上がった後，ほぼ直立している。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------|--------|------------------------|
| 1 灰褐色 | ローム粒子・粘土粒子・砂粒中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 極暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量 |
| 2 灰黄褐色 | 粘土粒子・砂粒多量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |

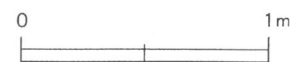
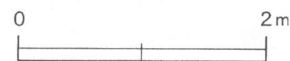
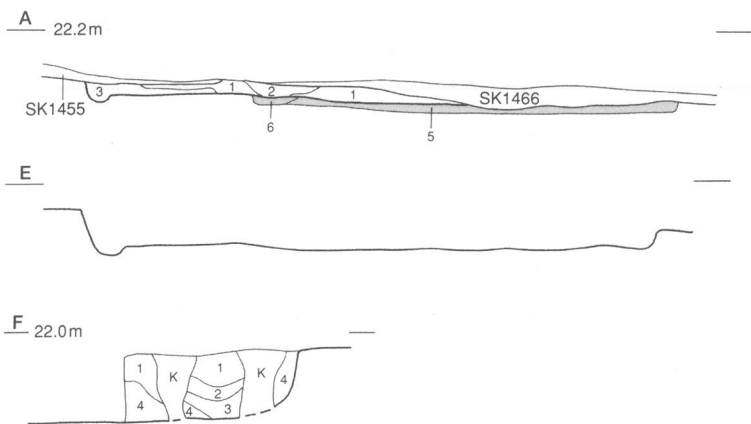
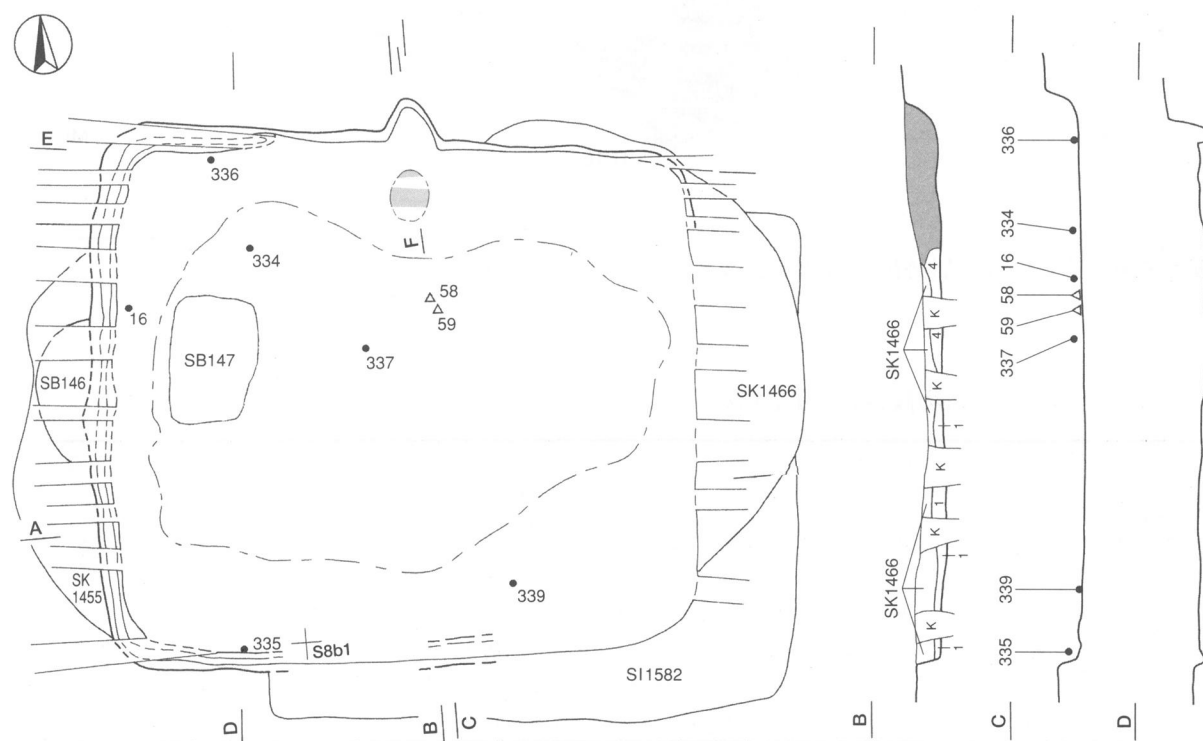
覆土 6層からなる。各層ともロームブロックを含んだ人為堆積である。第5・6層は、貼床部の土層である。

土層解説

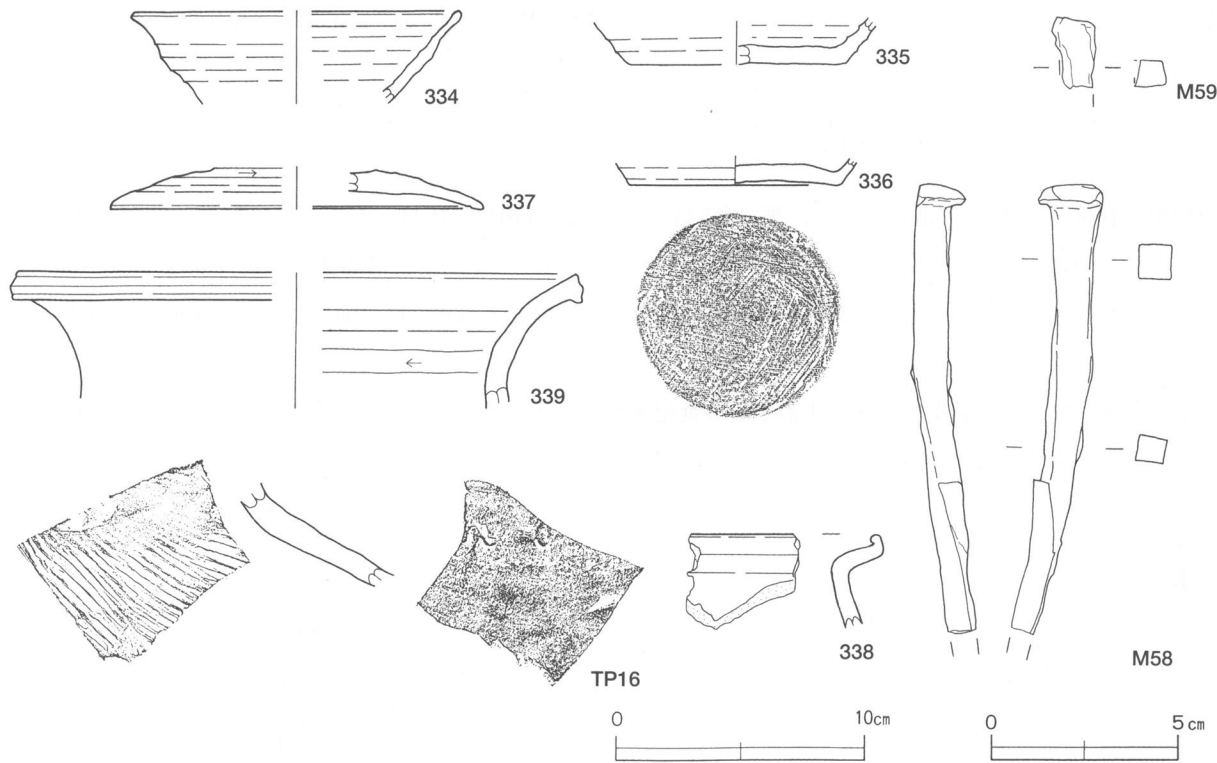
- | | | | |
|--------|------------------------|--------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 4 暗赤褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片536点(坏3, 甕・甑533), 須恵器片110点(坏44, 蓋3, 甕・甑63), 灰釉陶器片2点(瓶カ), 鉄釘2点, 鉄滓3点がほぼ全域から散在して出土している。土師器甕類は細片がほとんどで, 破断面の摩滅しているものが多い。336は北西部, 339は南部, M58・M59は竈手前のいずれも床面から出土している。

所見 廃絶時期は, 重複関係と出土土器から8世紀後葉と考えられる。新しい様相を示す土器は, 掘立柱建物に伴うものと考えられる。



第175図 第1561号住居跡実測図



第176図 第1561号住居跡出土遺物実測図

第1561号住居跡出土遺物観察表 (第176図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
334	須恵器	坏	[13.2]	(3.6)	-	雲母・長石	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り	北西部下層	
335	須恵器	坏	-	(2.8)	[8.4]	雲母・長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り後、多方向のヘラ削り	南壁際下層	底部内面摩滅、25%
336	須恵器	坏	-	(1.2)	4.2	雲母・長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り後、多方向のヘラ削り	北西部床面	底部内面摩滅
337	須恵器	蓋	[15.0]	(1.6)	-	雲母・長石	灰オリーブ	普通	天井部回転ヘラ削り	中央部下層	口縁部内面沈線1条
338	土師器	甕	-	(3.6)	-	雲母・長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ	覆土中	
339	須恵器	甕	[22.4]	(5.5)	-	雲母・長石・石英	灰白	普通	頸部内面一部回転ヘラ削り	南部床面	
TP16	須恵器	大甕	-	-	-	雲母・長石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	外面斜位の平行叩き、内面ロクロナデ	西壁際下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
M58	釘	(12.0)	1.7	0.9	(52.0)	鉄	脚部先端欠損、下位でねじれる。頭部は打撃によってやや潰れる	竈手前床面	PL81
M59	釘	(1.8)	1.2	1.2	(3.1)	鉄	断面方形、頭部の破片、脚部欠損	竈手前床面	

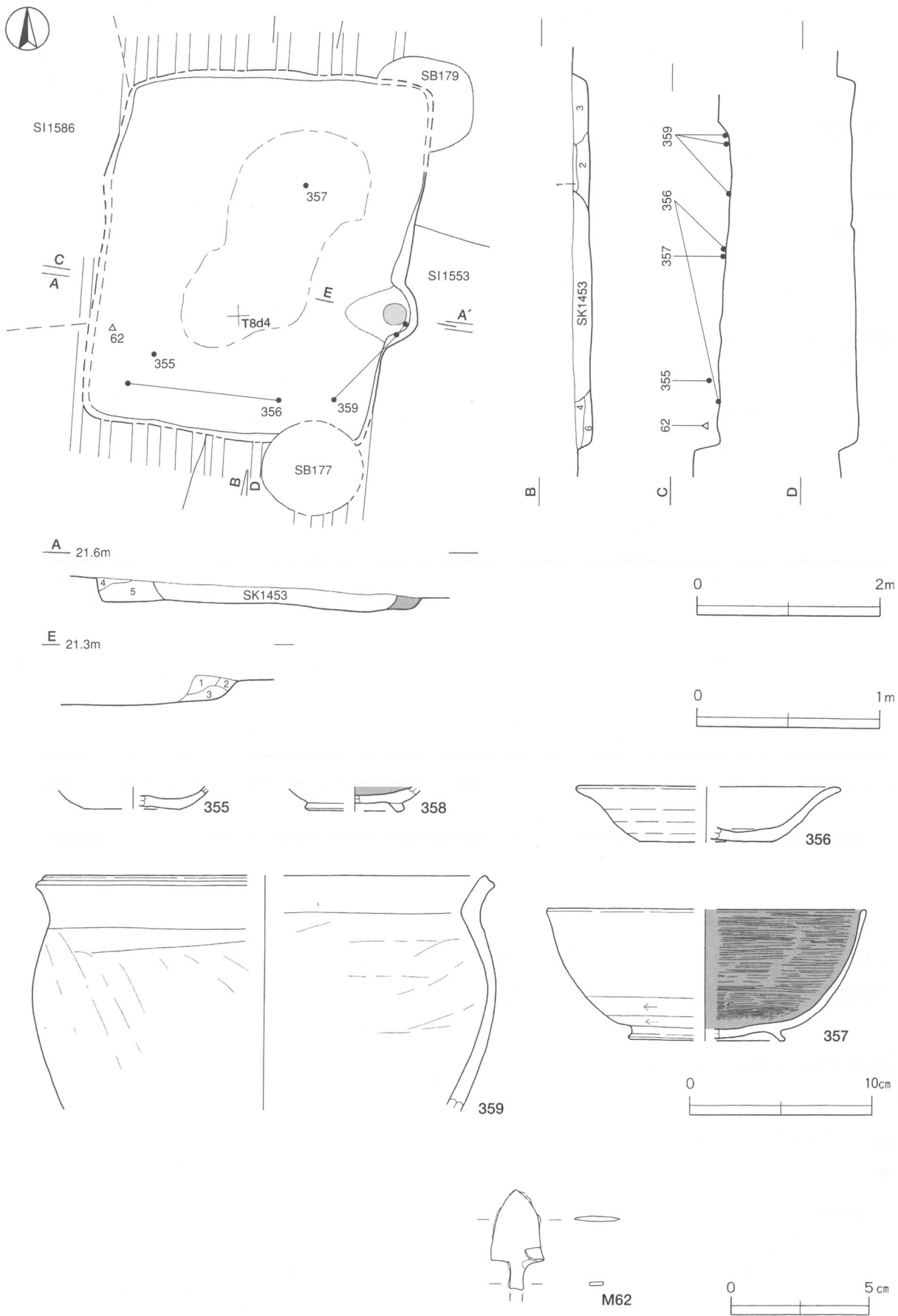
第1563号住居跡 (第177図)

位置 調査区中央部のT 8 d4区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1553・1586号住居跡と第177・179号掘立柱建物跡、第1543号土坑を掘り込み、第9号ピット群と第1453号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.05m、短軸3.40mほどの若干歪んだ長方形で、主軸方向はN-105°-Eである。壁高は15~25cmで、各壁とも急な傾斜で立ち上がっている。

床 若干凹凸があり、中央部が踏み固められている。



第177図 第1563号住居跡・出土遺物実測図

竈 東壁の中央部に付設されており、壁外への掘り込みは25cmほどである。天井部や袖部は遺存せず、火床面は若干赤変している部分が認められるだけであり、焼け縮まってははいない。また、煙道は外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|----------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量 | 3 暗赤褐色 焼土粒子中量, 粘土粒子・砂粒少量 |
| 2 暗褐色 焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量 | |

覆土 6層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|-------------------------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 | 4 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量 | 5 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 3 極暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量 | 6 極暗褐色 ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片131点（坏・碗58, 甕・甑73）, 鉄鏃1点, 鉄滓1点が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており、そのほとんどが細片である。356は南東部と南西部の床面から出土した破片を接合したものであり、359は竈内から出土している。

所見 時期は、出土土器から10世紀後半以降と考えられる。

第1563号住居跡出土遺物観察表（第177図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
355	土師器	小皿	-	(1.2)	[5.3]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ切り	南西部上層	
356	土師器	坏	[14.5]	2.9	[7.3]	雲母・長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り後、ヘラナデ	南東部・南西部床面	50%
357	土師器	碗	[17.3]	7.1	[8.6]	雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	中央部床面	50%, PL57
358	土師器	碗	-	(1.3)	[5.5]	雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	高台貼り付け後、ロクロナデ	北東部覆土中	
359	土師器	甕	[24.0]	(12.8)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	体部外面ナデ、内面ヘラナデ	竈内	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
M62	鏃	(3.6)	1.9	0.2	(3.1)	鉄	鏃なしの両丸造り、基部欠損	南西部上層	PL80

第1565号住居跡（第178・179図）

位置 調査区中央部のS7b8区に位置し、東に緩やかに傾斜した台地上に立地している。

重複関係 第1580号住居跡と第137号掘立柱建物跡を掘り込み、第145号掘立柱建物と第1475号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.60m、短軸4.50mほどの長方形で、主軸方向はN-3°-Eである。壁高は10~29cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部から東部にかけて踏み固められている。また、西側部分は締まりが弱い。

竈 北壁の東寄りに付設されている。袖部は床面と同じ高さの地山面上に砂質粘土で構築されている。

竈土層解説

- | | |
|---------------------------------------|---|
| 1 暗褐色 ローム粒子中量, 粘土ブロック少量 | 6 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量, 焼土粒子・炭化物微量 |
| 2 にぶい黄褐色 粘土粒子・砂粒多量 | 7 にぶい黄褐色 粘土粒子・砂粒多量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 8 暗褐色 ロームブロック多量 |
| 4 暗褐色 粘土粒子・砂粒多量, 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量 | |
| 5 黒褐色 焼土粒子・炭化物中量, ローム粒子少量 | |

ピット 1か所。P1は出入り口施設に伴うピットで、深さは19cmである。

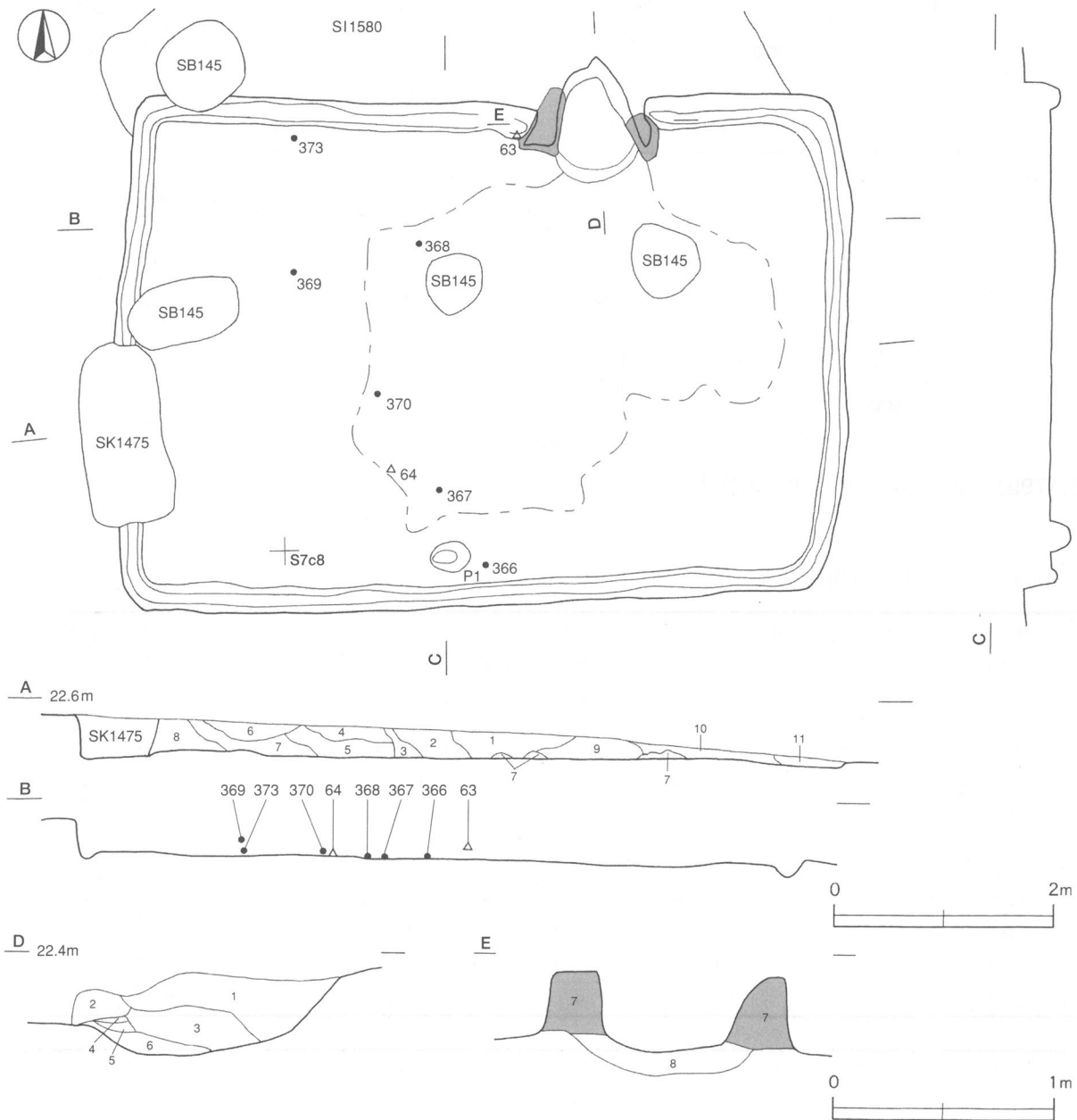
覆土 11層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

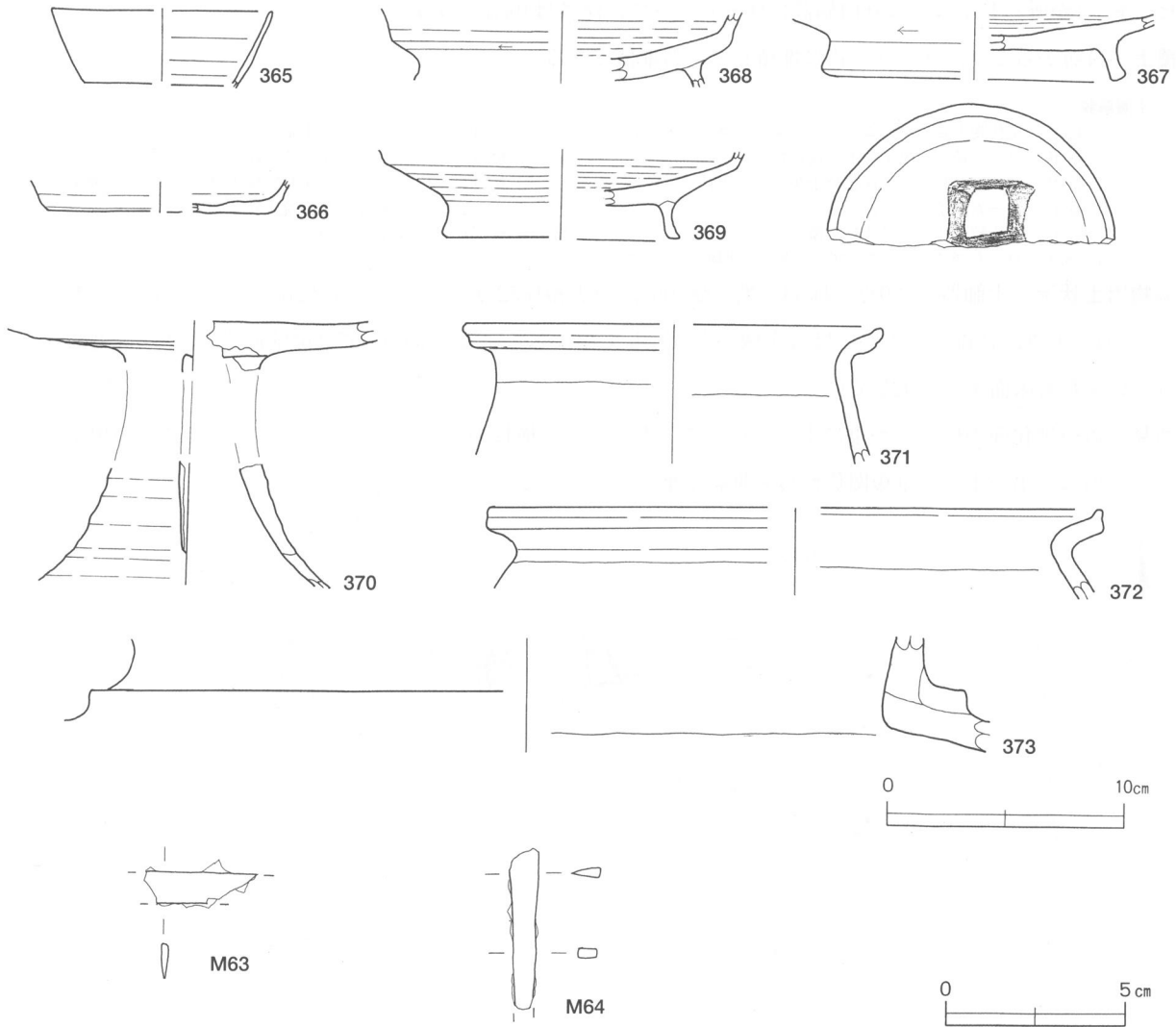
- | | |
|----------------------------------|------------------------------|
| 1 暗褐色 炭化物中量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 7 褐色 ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量 | 8 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 9 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 ローム粒子微量 | 10 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 5 黒褐色 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 11 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 6 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物中量, 灰少量 | |

遺物出土状況 土師器片199点(坏33, 甕・甑166), 須恵器片52点(坏・高台付坏28, 蓋1, 高盤1, 甕・甑22), 刀子1点, 鉄鏃カ1点が, ほぼ全域から散在して出土している。366・367は南壁近く, 368は中央部北寄りのいずれも床面から出土している。

所見 竈や硬化面の広がり方が東に寄っていることからみて, 横長の室内空間を使い分けていたことが想定される。時期は, 出土土器と重複関係から8世紀中葉と考えられる。



第178図 第1565号住居跡実測図



第179図 第1565号住居跡出土遺物実測図

第1565号住居跡出土遺物観察表 (第179図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
365	須恵器	坏	[9.2]	3.1	[6.4]	長石	灰	普通	体部ロクロナデ	北西部上層	
366	須恵器	坏	-	(1.4)	[9.4]	雲母・長石	灰	普通	底部回転ヘラ切り後、ヘラナデ	南壁際床面	
367	須恵器	高台付坏	-	(2.2)	[11.2]	雲母・長石・石英	褐灰	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	南壁際床面	底部外面墨書 「□」.25%.PL70
368	須恵器	高台付坏	-	(3.0)	-	雲母・長石・石英	灰	普通	高台貼り付け後、ロクロナデ	中央部床面	底部内面摩滅 30%
369	須恵器	高台付坏	-	(3.7)	[10.0]	雲母・長石・石英	灰白	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	中央部中層	20%
370	須恵器	高盤	-	(11.0)	-	雲母・石英	灰黄	普通	脚部四方向の透かしカ	中央部下層	20%
371	土師器	甕	[17.6]	(5.7)	-	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ	南東部下層	
372	土師器	甕	[25.6]	(3.3)	-	雲母・長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ	北東部上層	
373	須恵器	大甕	-	(12.8)	-	長石	灰	普通	頸部に断面方形の補強帯貼り付け	北壁際下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
M63	刀子	(3.2)	0.9	0.2	(2.2)	鉄	刃部の破片	北壁際中層	
M64	鋏	(4.5)	0.8	0.3	(3.7)	鉄	鋏身部の破片、片刃箭式	南部床面	PL79

第1566号住居跡（第180図）

位置 調査区中央部のT 8 b4区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第179号掘立柱建物跡と第1605・1606号土坑を掘り込み、中央部の覆土を第1454号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.95m、短軸2.90mほどの若干歪んだ方形で、主軸方向はN-100°-Eである。壁高は10cmほどで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 若干凹凸があり、中央部が踏み固められている。

竈 東壁のやや南寄りに付設されており、壁外への掘り込みは70cmほどである。天井部や袖部は遺存せず、火床面に若干赤変している部分が認められるだけであり、焼け締まってははいない。また、煙道は外傾して緩やかに立ち上がっている。

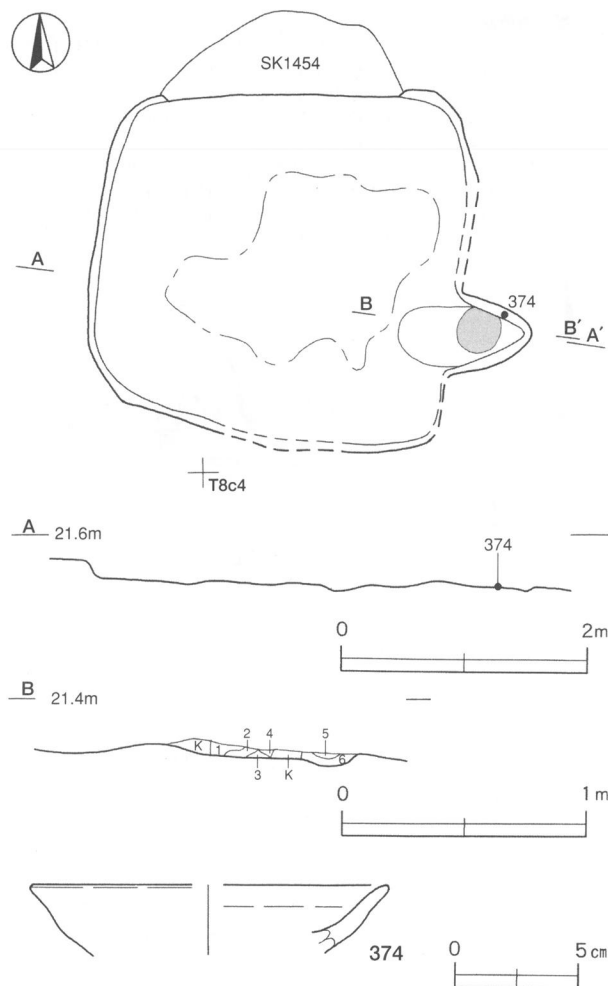
竈土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量
- 2 暗 赤 褐 色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量
- 3 褐 色 ロームブロック中量
- 4 褐 色 ロームブロック多量、焼土ブロック少量
- 5 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 6 暗 赤 褐 色 焼土ブロック中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量

土層 覆土の大部分を第1454号土坑に掘り込まれており、本跡の堆積状況は確認されていない。

遺物出土状況 土師器片16点(坏・碗5, 甕・甑11), 須恵器片1点が散在して出土している。374は竈内から出土している。

所見 時期は、出土土器から10世紀後半と考えられる。



第180図 第1566号住居跡・出土遺物実測図

第1566号住居跡出土遺物観察表（第180図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
374	土師器	坏	[14.0]	(2.7)	-	赤色粒子	橙	普通	口縁部ロクロナデ	竈覆土中	

第1568号住居跡（第181・182図）

位置 調査区中央部のR 7 j0区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1585号住居跡を掘り込み、第146号掘立柱建物と第1521号土坑に掘り込まれている。

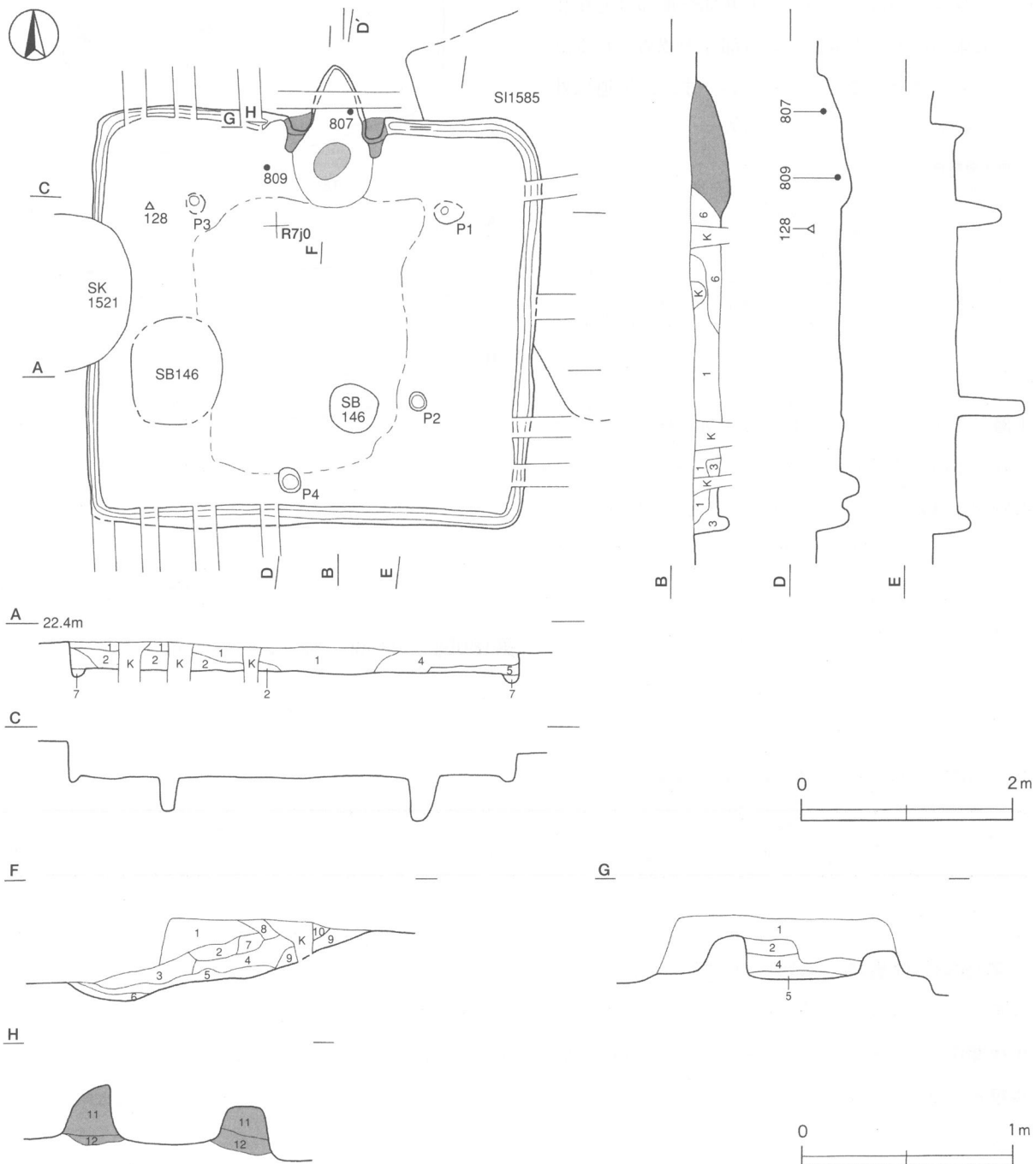
規模と形状 長軸4.20m、短軸3.90mほどの方形で、主軸方向はN-7°-Eである。壁高は25~29cmで、各壁とも直立している。

床 ほぼ平坦で、ピットの内側が踏み固められており、壁溝が周回している。

竈 北壁の中央部を壁外に50cmほど掘り込んで、付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで130cm、袖部幅95cmほどである。袖部は床面と同じ高さの地山面上にローム土を突き固めて基部とし、その上部に白色粘土土を用いて構築されている。火床部は床面と同じ高さの地山面をそのまま使用し、火床面が赤変硬化している。また、煙道は火床部から外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------------------|-----------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子中量, ローム粒子・焼土ブロック・白色粘土粒子少量 | 8 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量 |
| 3 極暗赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子少量, 白色粘土粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子少量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量, ローム粒子少量 | 10 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子少量 | 11 にぶい黄褐色 | 白色粘土粒子多量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 6 黒褐色 | 炭化粒子中量, 焼土ブロック・灰少量, ローム粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック多量 |



第181図 第1568号住居跡実測図

ピット 4か所。支柱穴はP1～P3が相当し、深さは32～61cmである。P4は出入り口施設に伴うピットで、深さは18cmである。

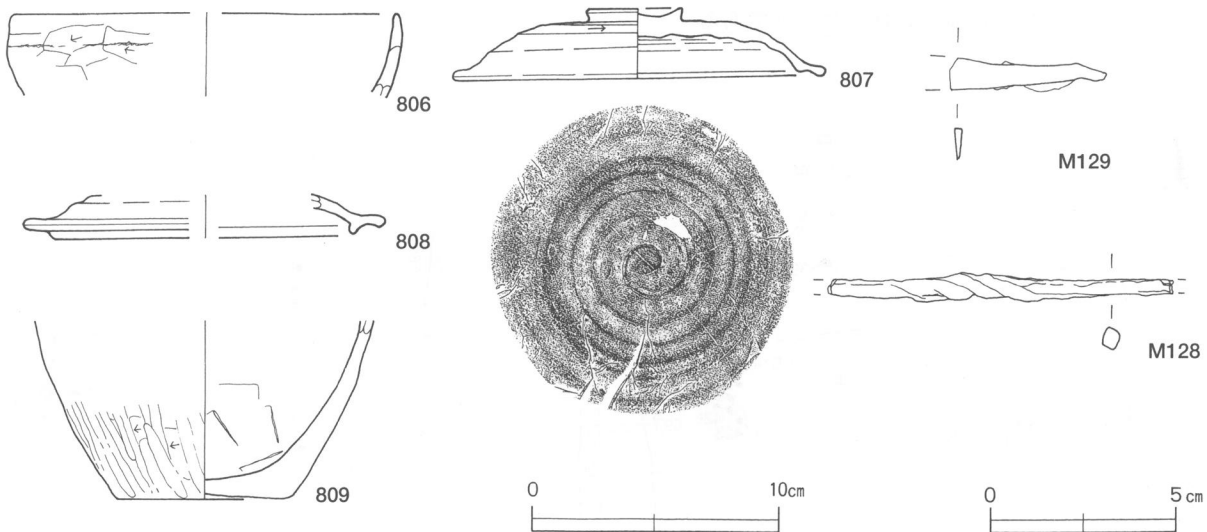
覆土 7層からなり、各層ともロームブロックを含んだ人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------|--------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化物少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量 | | |

遺物出土状況 土師器片310点（坏50，甕・甑260），須恵器片62点（坏・高台付坏21，蓋11，甕・甑30），不明鉄製品2点（不明1，刀子カ1）が出土している。遺物は全域に散在しており、そのほとんどが細片である。807は煙道部から、809は竈手前の床面から出土している。M128は北西部の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第182図 第1568号住居跡出土遺物実測図

第1568号住居跡出土遺物観察表（第182図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
806	土師器	坏	[15.6]	(3.3)	-	赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部内面ナデ，内・外面黒色処理の痕跡有	北東部上層	
807	須恵器	蓋	14.6	3.0	-	雲母・長石・石英	灰黄	普通	天井部回転ヘラ削り	竈煙道部	内面鏡書 「+」70%.PL57
808	須恵器	蓋	[14.1]	(1.7)	-	雲母・長石・石英	灰白	普通	口縁部ロクロナデ	南東部上層	
809	土師器	甕	-	(7.0)	7.0	雲母・長石・石英	にぶい赤褐	普通	底部外面ヘラナデ	竈手前床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
M128	鍵カ	(9.2)	0.7	0.7	(8.7)	鉄	断面方形の棒状，螺旋状に捻れる	北西部上層	PL83
M129	刀子カ	(4.2)	(0.9)	0.2	(2.6)	鉄	刃部から茎部の破片カ，関部の形状不明	覆土中	

第1569号住居跡（第183・184図）

位置 調査区中央部のR7h0区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1576号住居と第138・140号掘立柱建物，第36号井戸，第1471号土坑，第1479号土坑に掘り込まれ

ている。

規模と形状 長軸4.45m、短軸4.40mほどの方形で、主軸方向はN-6°-Eである。壁高は6~18cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

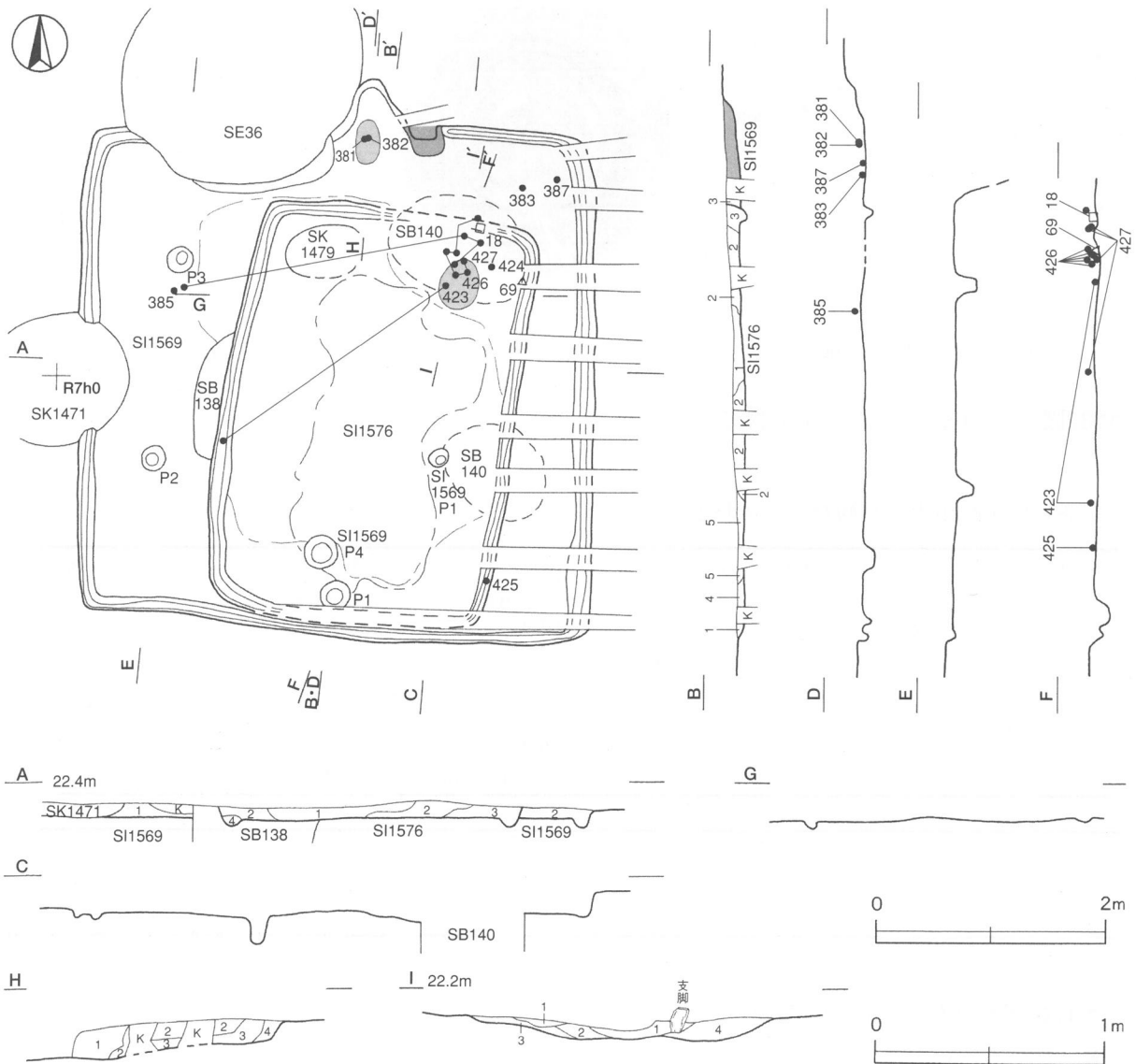
床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められており、壁溝が周回している。

竈 北壁中央部に、壁外に45cmほど掘り込んで付設されている。天井部と左袖部は遺存せず、右袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は床面と同じ高さの平坦面を使用し、火床面が赤変硬化している。また、煙道は外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|--|--|
| 1 灰黄褐色 粘土粒子・砂粒多量、ロームブロック少量、
焼土ブロック・炭化粒子微量 | 3 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子・
粘土粒子・砂粒少量 |
| 2 灰褐色 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒中量、ロームブロック・
炭化粒子少量 | 4 暗赤褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子少量 |

ピット 4か所。主柱穴はP1~P3が相当し、深さは19~23cmである。P4は深さ12cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入口施設に伴うピットである。



第183図 第1569・1576号住居跡実測図

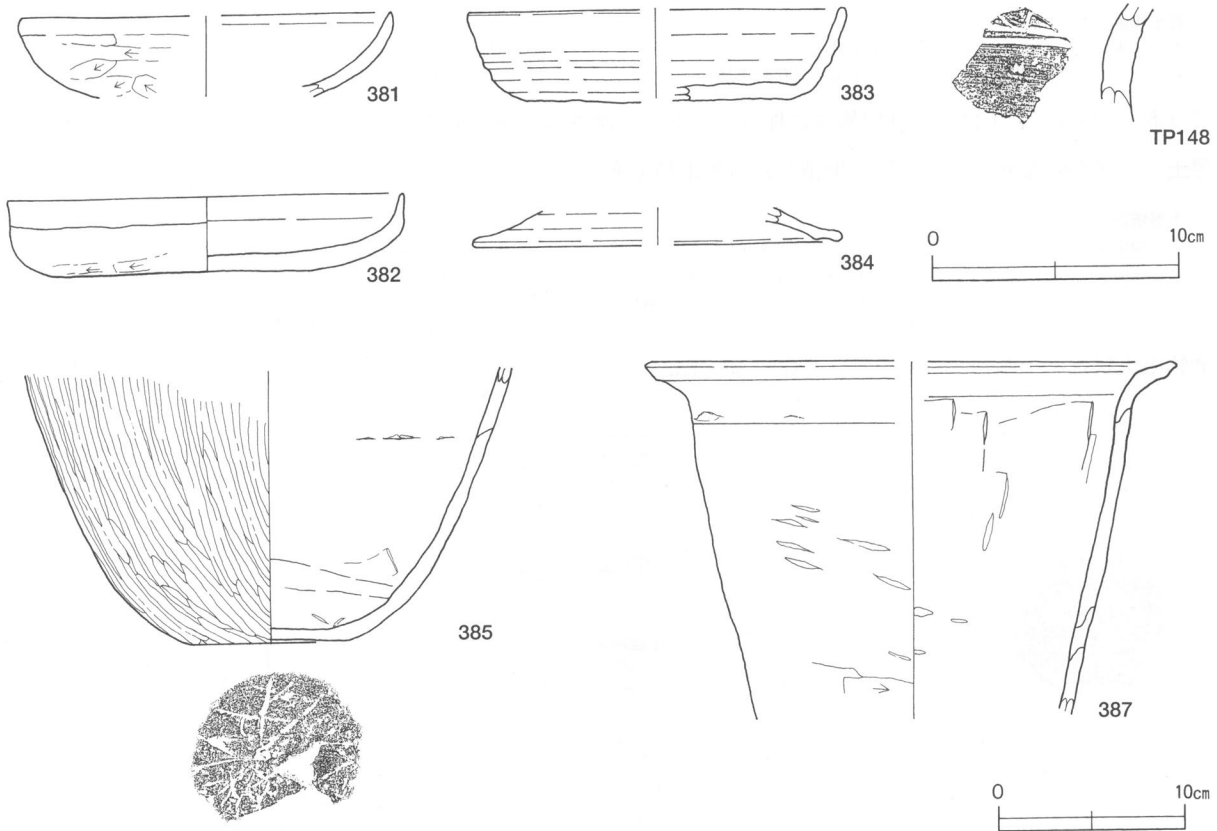
覆土 3層からなり、各層ともロームブロックや焼土粒子を含んだ人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック・砂粒中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片154点(坏21, 甕・甔133), 須恵器片54点(坏21, 蓋2, 甕31)が出土している。遺物は中央部が掘り込まれているために、いずれも壁寄りないし竈内からの出土であり, 381・382は竈内から, 383・387は北東コーナー部の床面から出土している。

所見 廃絶時期は, 出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第184図 第1569号住居跡出土遺物実測図

第1569号住居跡出土遺物観察表 (第184図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
381	土師器	坏	[15.0]	(3.2)	-	石英・長石	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り, 内面ナデ	竈覆土中	
382	土師器	坏	15.9	3.1	12.5	雲母・長石	明赤褐	普通	底部多方向のヘラ削り	竈覆土中	90%, PL57
383	須恵器	坏	[14.6]	3.6	[10.8]	雲母・長石	褐灰	普通	底部回転ヘラ切り後, 多方向のヘラ削り	北東部床面	底部外面ヘラ記号「-」, 40%
384	須恵器	蓋	[14.6]	(1.4)	-	雲母・長石・石英	黄灰	普通	口縁部ロクロナデ	南西部覆土中	
385	土師器	甕	-	(14.4)	8.6	雲母・長石・石英	橙	普通	体部内面下端指頭によるナデ	西部覆土下層	20%
387	土師器	甔	[27.6]	(18.8)	-	雲母・長石	にぶい赤褐	普通	体部内・外面ヘラナデ	北東部床面	20%
TP148	須恵器	甕	-	3.9	-	長石	褐灰	良好	頸部櫛書波状文・沈線2条	北西部覆土中	

第1576号住居跡 (第183・185図)

位置 調査区中央部のR 7 h0区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1569号住居跡と第138・140号掘立柱建物跡を掘り込み、第1479号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.60m、短軸2.50mほどの長方形で、主軸方向はN-9°-Eである。壁高は10~12cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められており、壁溝が周回している。

竈 北壁の東寄りに付設されている。遺存状態が悪く、赤変硬化した火床面とその北側から支脚が確認されただけである。支脚は板状の雲母片岩を使用しており、下半を埋め込み、直立した状態で据えられている。

竈土層解説

- | | |
|--------------------------|------------------------------|
| 1 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子中量 | 3 暗赤褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 2 灰褐色 灰多量、焼土ブロック中量、炭化物微量 | 4 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

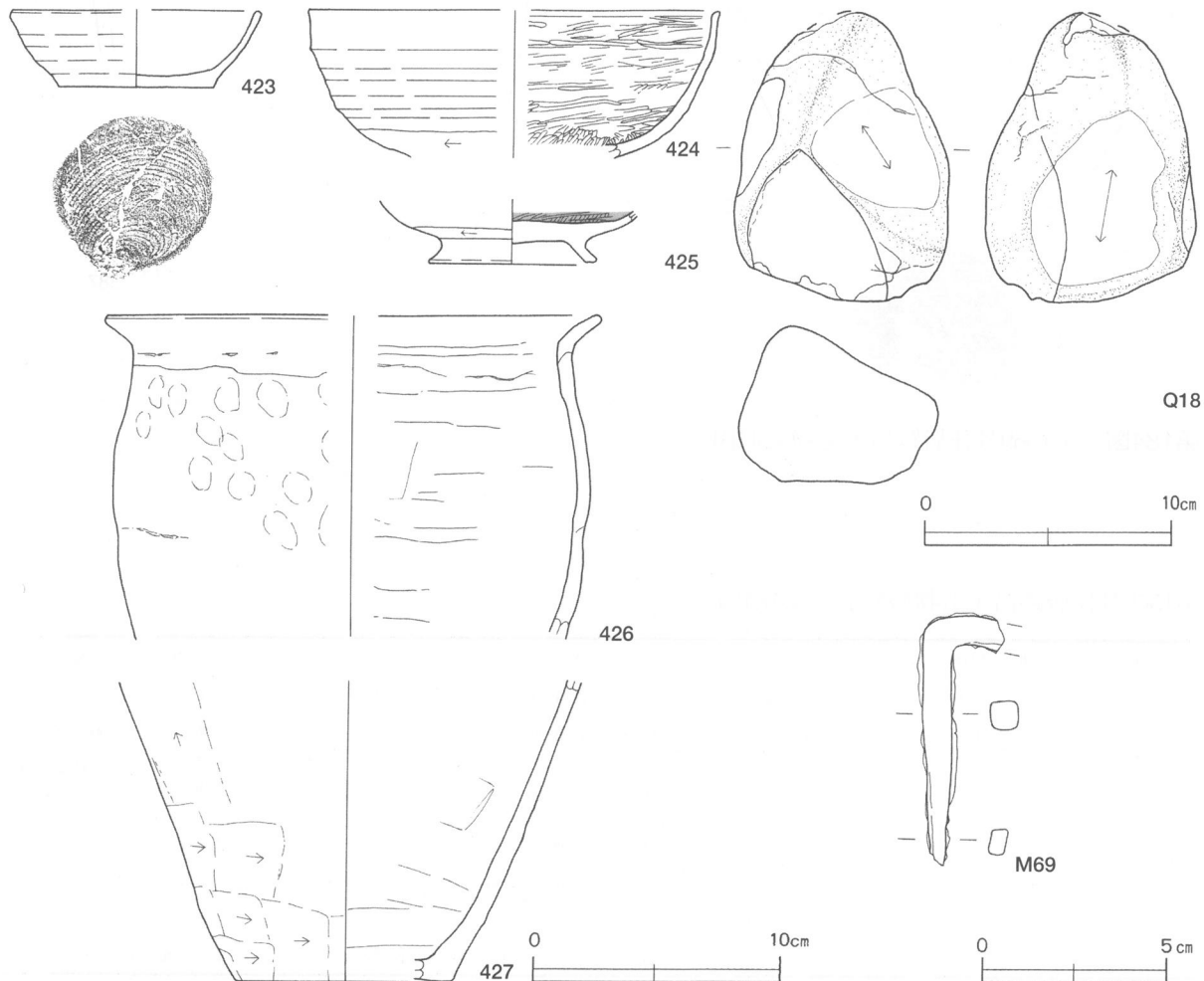
ピット 1か所。P 1は出入り口施設に伴うピットで、深さは15cmである。

覆土 5層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-------------------------------|------------------------|
| 1 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 4 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量 |
| 2 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量 | 5 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 焼土粒子・炭化物・砂粒少量、ロームブロック微量 | |

遺物出土状況 土師器片83点 (坏・碗60, 甕・甑23), 須恵器片3点 (甕), 鉄釘1点, 支脚1点が出土している。



第185図 第1576号住居跡出土遺物実測図

る。遺物は竈付近からまとまって出土しており、424・426・427・M69はいずれも火床部から出土している。
 所見 時期は、小皿が出土していないことや椀の形状などから10世紀後半と考えられる。

第1576号住居跡出土遺物観察表（第185図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
423	土師器	坏	[10.2]	3.1	6.2	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	竈内・南西部下層	60%
424	土師器	椀	[16.6]	(5.9)	-	雲母・長石・石英	にぶい赤褐	普通	底部内面一方向のヘラ磨き	竈火床部	30%
425	土師器	椀	-	(2.5)	6.8	雲母	明赤褐	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	南東部床面	25%
426	土師器	甕	[19.8]	(13.0)	-	雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ロクロナデ	竈火床部	20%
427	土師器	甕	-	(12.0)	8.6	雲母・長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ	竈内・西部下層	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
Q18	支脚	11.6	8.5	6.3	689.0	雲母片岩	砥面2面，被熱痕，砥石を支脚に転用	竈火床部	PL77
M69	釘	(7.9)	1.0	0.9	(29.0)	鉄	断面方形の棒状，両端部欠損，上位で屈曲	竈火床部	PL81

第1570号住居跡（第186図）

位置 調査区中央部のR 7 g8区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第138・142・143・184号掘立柱建物跡と第1485号土坑を掘り込み、第1477号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.45m，短軸2.25mほどの長方形で、主軸方向はN-90°-Eである。壁高は18~26cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝は、東壁際を除いて巡っている。

竈 東壁のほぼ中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで85cmほどである。天井部や右袖部は遺存せず、左袖部は床面と同じ高さの地山面上に砂質粘土で構築されている。火床面は被熱してわずかに赤変しており、煙道は外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|--------------------------------|--------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒少量 | 5 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土粒子中量，炭化物・粘土粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量，ロームブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量 | 6 褐色 | 粘土粒子・砂粒多量，ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 3 極暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量 | 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量 |
| 4 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子少量，砂粒微量 | | |

ピット 1か所。P 1は深さ19cmで、南壁際に位置していることや硬化面の広がりや連結していることなどから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 8層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

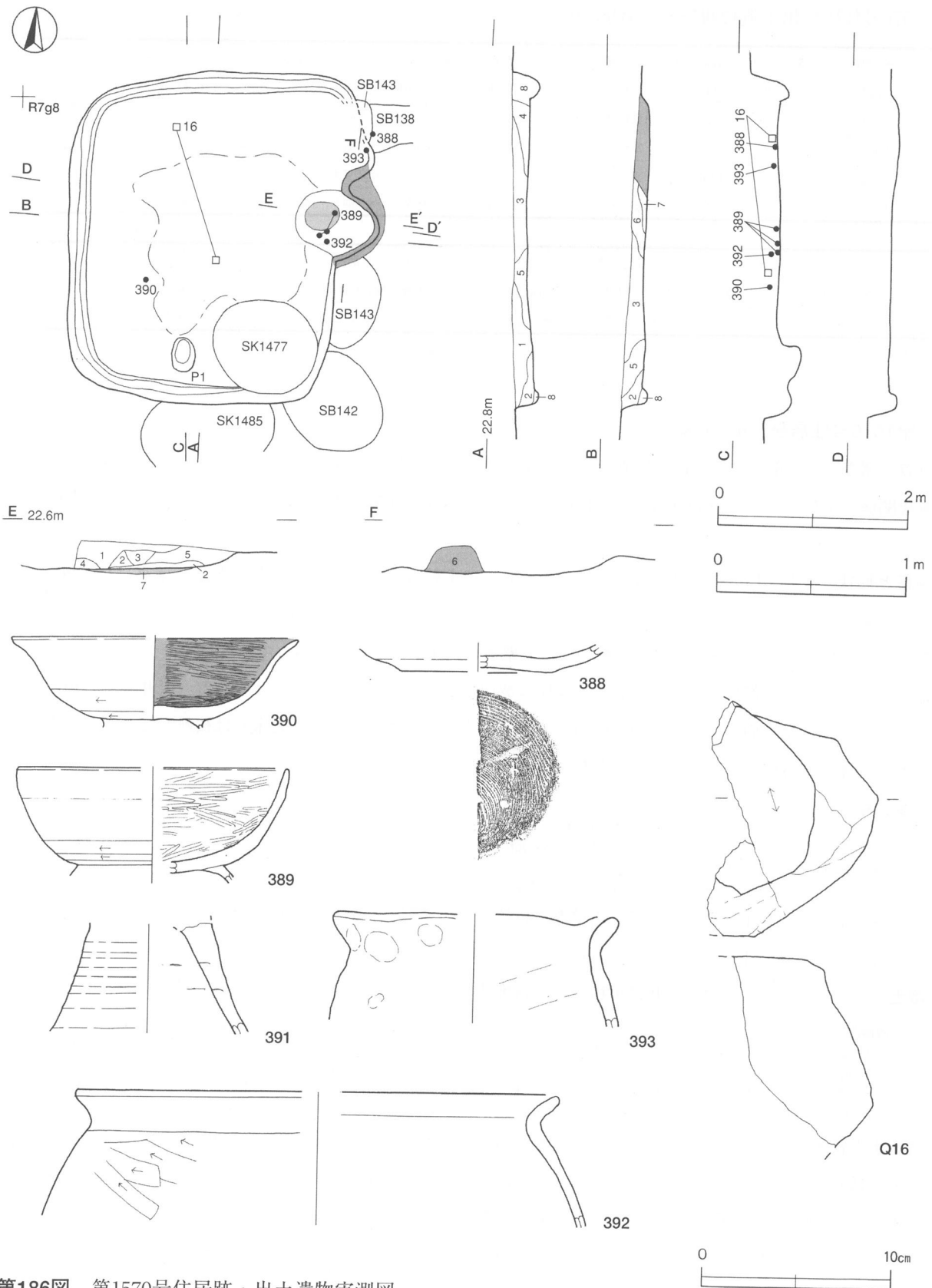
土層解説

- | | | | |
|---------|--------------------------|--------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量，ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量 |
| 3 極暗赤褐色 | ロームブロック・炭化粒子・砂粒少量，焼土粒子微量 | 7 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量，ロームブロック・砂粒少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片119点（坏・椀58，甕・甗61），須恵器片50点，砥石1点が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており、そのほとんどが細片である。389・391・392は竈内から出土している。Q 16は中央部南寄りや北西部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。

所見 砥石の接合例はこれまでになく、いずれも床面からの出土であることから、破損したものが住居廃絶時にそのまま遺棄されたか、意図的に破碎されたかのいずれかと考えられる。また、391のように高台の高さが

10cmほどある足高高台付椀は第1310号住居跡や第755号土坑からも出土しており、その形状から日常什器とは異なる使用例がうかがわれる。時期は、土師器小皿が見られないことから、10世紀中頃と考えられる。



第186図 第1570号住居跡・出土遺物実測図

第1570号住居跡出土遺物観察表 (第186図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
388	土師器	坏	-	(1.5)	[8.0]	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	北東部床面	20%
389	土師器	椀	[14.1]	(6.0)	-	雲母・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	竈覆土中	50%
390	土師器	椀	[15.0]	4.8	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	南西部下層	40%
391	土師器	椀	-	(5.6)	-	長石	にぶい黄橙	普通	脚部ロクロナデ、内面輪積み痕	竈覆土中	
392	土師器	甃	[27.8]	(6.7)	-	雲母・長石	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ削り、内面ナデ	竈覆土中	
393	土師器	甃	[14.6]	(5.7)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部内・外面ナデ	北東部下層	

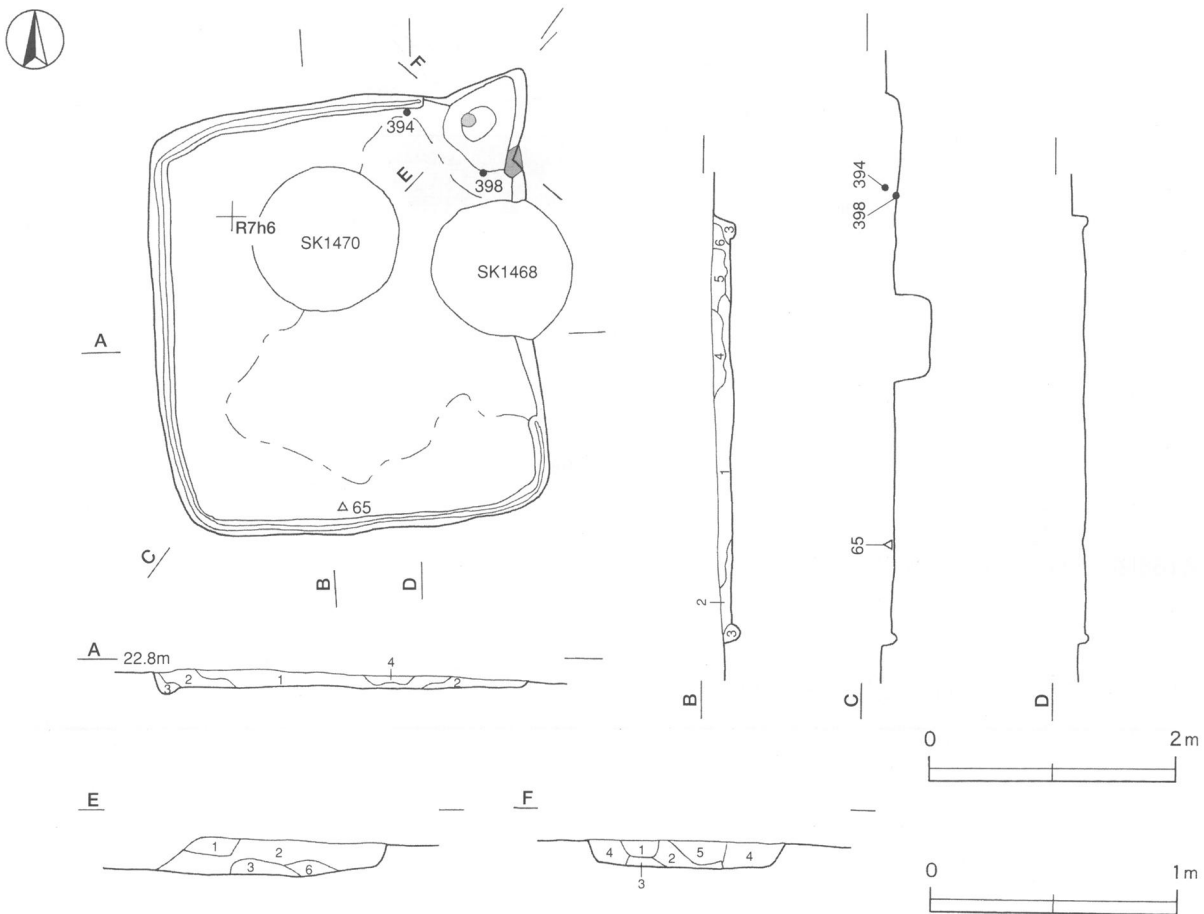
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
Q16	砥石	(12.3)	(8.8)	(9.9)	(831.0)	砂岩	砥面1面, 他は自然面	中央部・ 北西部下層	

第1571号住居跡 (第187・188図)

位置 調査区中央部のR7h6区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1468・1470号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.50m、短軸3.00mほどの長方形で、主軸方向はN-8°-Wである。壁高は5~12cmで、各壁とも急な傾斜で立ち上がっている。



第187図 第1571号住居跡実測図

床 ほぼ平坦で、中央部から東壁際にかけて踏み固められている。また、壁溝は東壁際を除いて巡っている。
 竈 北東コーナー部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで80cm、火床部幅60cmほどである。袖部は東壁際にその痕跡をわずかに留める程度で、砂質粘土で構築されていたと推測される。火床部は床面と同じ高さの地山面を使用しており、火床面が若干赤変している程度である。また、煙道は火床部から緩やかに立ち上がった後、ほぼ直立している。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------|-------|------------------------------|
| 1 暗褐色 | 粘土粒子・砂粒多量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量, ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 6 灰褐色 | 焼土粒子・灰中量, 炭化物少量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | | |
| 4 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量 | | |

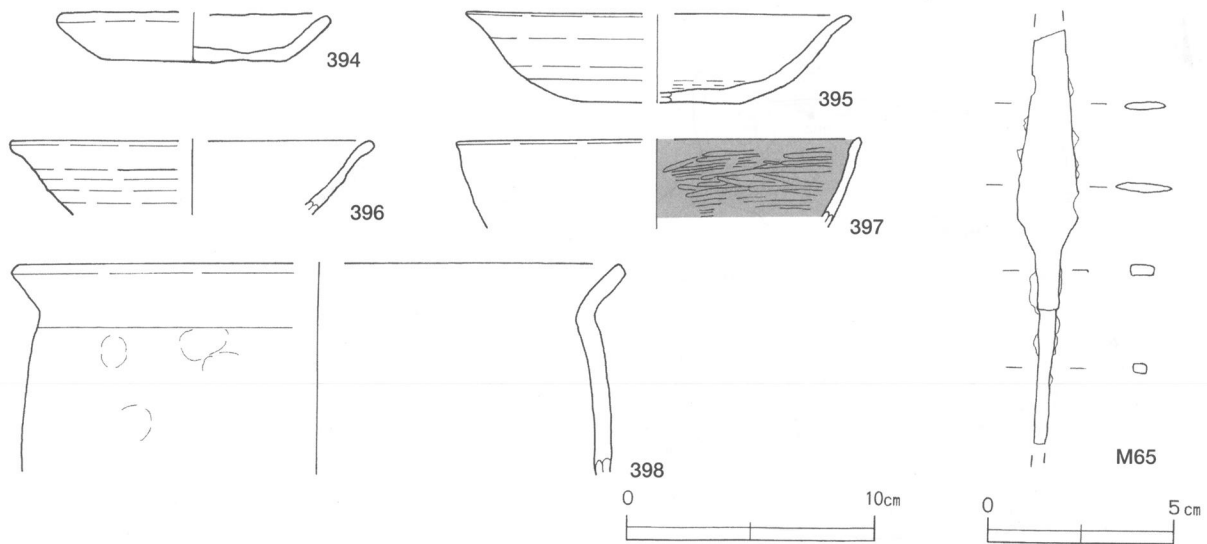
覆土 6層からなり、各層ともロームブロックを含んだ人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------|--------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量 | 6 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片164点（小皿1, 坏・椀23, 甕・甑140）、須恵器片16点（甕）、鉄鏝1点が出土している。遺物は竈周辺と南壁寄りを中心に出土しており、394は竈手前の覆土上層、395・397は竈内、398は竈手前の床面、M65は南壁際の床面から出土している。

所見 硬化面が東壁際まで延びていることやその部分だけ壁溝が巡っていないことなどから、出入口施設は東壁際に設けられていたことが推測される。時期は、出土土器から10世紀後半以降と考えられる。



第188図 第1571号住居跡出土遺物実測図

第1571号住居跡出土遺物観察表（第188図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
394	土師器	小皿	[10.7]	1.9	[7.2]	石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ切り	竈手前上層	45%
395	土師器	坏	[15.0]	3.6	[6.6]	石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ切り	竈覆土中	30%
396	土師器	坏	[14.4]	(3.0)	-	雲母・長石・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部内・外面ロクロナデ	北東部覆土中	
397	土師器	椀	[16.0]	(3.5)	-	雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ロクロナデ	竈覆土中	
398	土師器	甕	[24.0]	(8.4)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ナデ, 外面指頭痕	竈手前床面	煤付着痕

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
M65	鉢	(11.0)	1.7	0.3	(11.0)	鉄	鉢身部から基部にかけての破片, 台状関, 両丸造	南壁際床面	PL80

第1578号住居跡 (第189・190図)

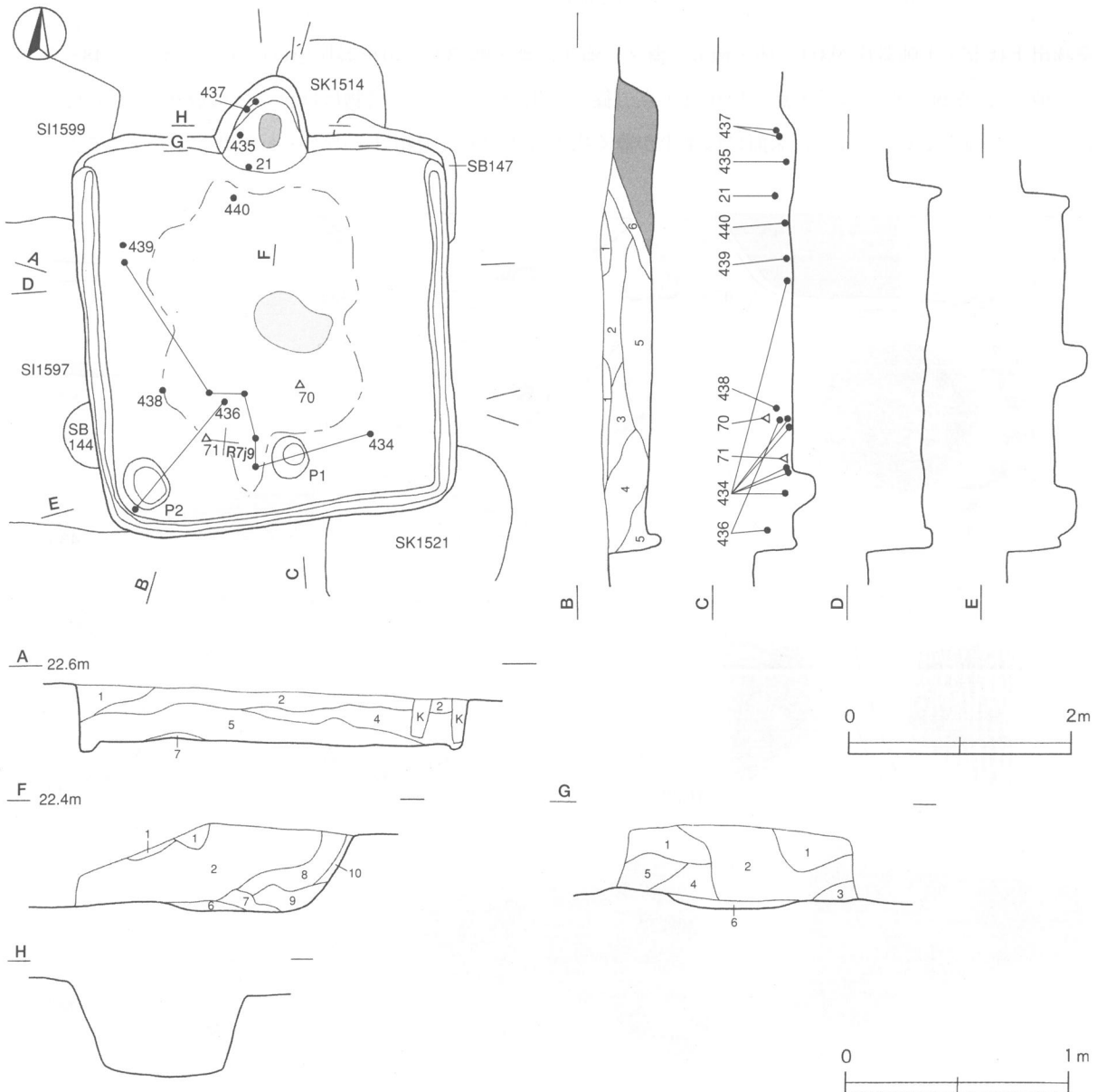
位置 調査区中央部のR 7 i9区に位置し, 平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1597・1599号住居跡と第144・147号掘立柱建物跡, 第1514・1521号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.55m, 短軸3.25mほどの方形で, 主軸方向はN-13°-Wである。壁高は36~45cmで, 各壁ともほぼ直立している。

床 平坦で, 壁際を除き踏み固められている。また, 壁溝が北壁際を除いて巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。壁外への掘り込みは50cmほどで, 天井部・袖部とも遺存していない。火床



第189図 第1578号住居跡実測図

部は床面と同じ高さの平坦面を使用し、被熱して赤変硬化している。また、煙道は外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|-----------|------------------------------|---------|-----------------------------|
| 1 にぶい黄褐色 | ローム粒子・粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子少量 | 6 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物中量，ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子多量，焼土ブロック・炭化物少量，粘土粒子微量 | 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 3 灰黄褐色 | 粘土粒子多量，砂粒中量，ロームブロック・炭化粒子少量 | 8 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量 | 9 灰褐色 | 焼土粒子・灰中量，ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土粒子中量，ロームブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒少量 | 10 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量，ロームブロック・粘土粒子少量 |

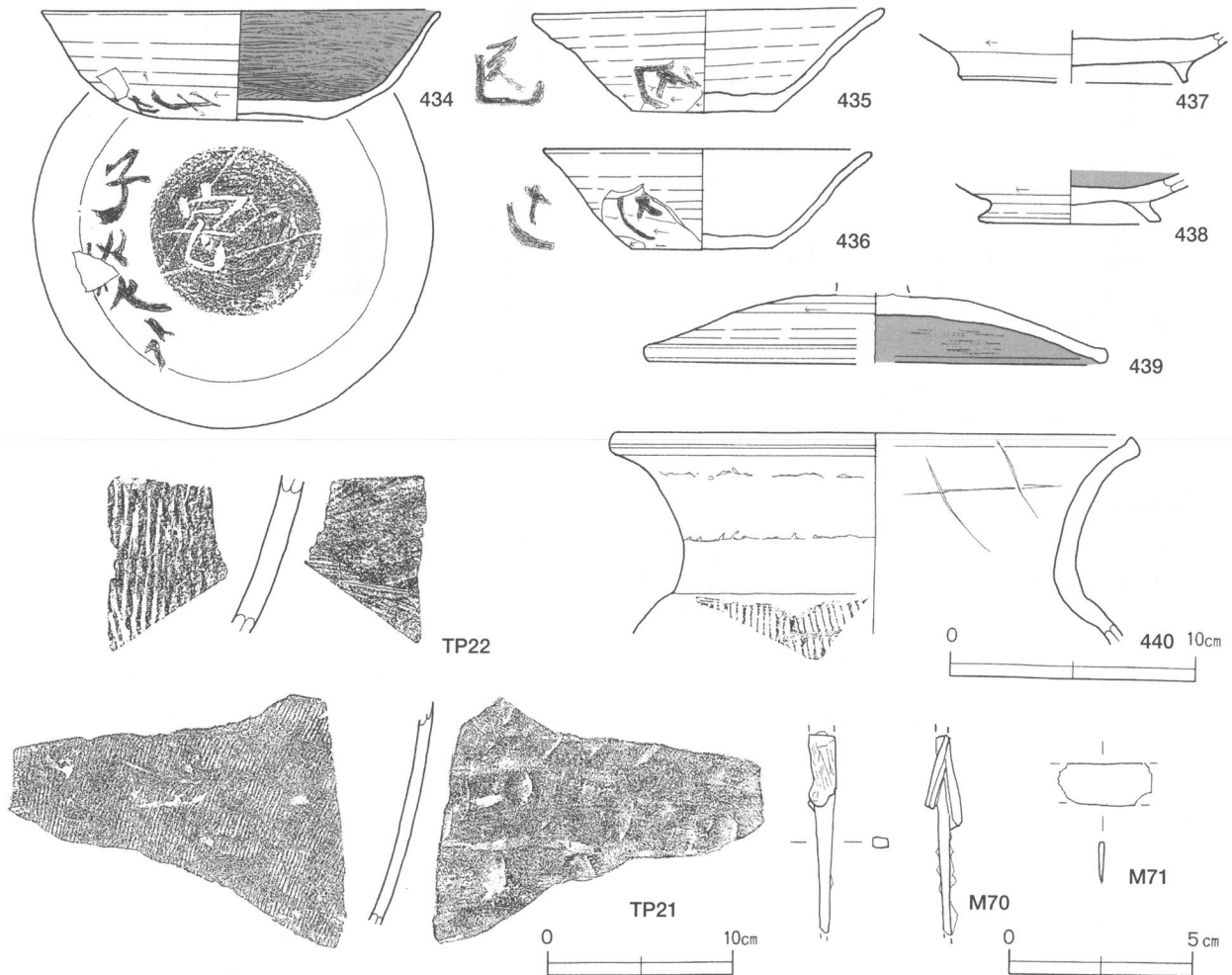
ピット 2か所。P 1は深さ26cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入口施設に伴うピットである。P 2は深さ20cmで、南西コーナー部に収まっていることから、貯蔵穴の可能性はある。

覆土 7層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|----------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量 | 6 暗褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 にぶい赤褐色 | 焼土粒子多量，炭化粒子少量，ローム粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 土師器片293点（坏・碗57，盤2，壺1，甕・甑233），須恵器片101点（坏・高台付坏48，蓋2，甕・甑51），鉄鏃1点，刀子1点，炭化材1点（篠）が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており，そのほとんどが細片である。また，床面には焼土が薄く広がっており，遺物はその上面から出土していることから，



第190図 第1578号住居跡出土遺物実測図

焼失後に埋め戻される段階で投棄ないし混入したものと考えられる。434・436は南部の覆土下層に散在していた破片が接合したもので、435・437は竈内から出土した破片が接合したものである。また、炭化材は篠の一部で、竈内の火床部から灰とともに出土しており、燃料材の一部と考えられる。

所見 434の底部に篋書きされた文字は「宅」と判読でき、当遺跡においては第1316号住居跡から出土した須恵器坏に次いで2例目である。廃絶時期は、出土土器から9世紀中葉から後葉と考えられる。

第1578号住居跡出土遺物観察表（第190図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
434	土師器	椀	16.1	4.6	7.0	雲母	にぶい橙	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	南部下層・ 中央部下層・ 西部下層	体部外面墨書「子 炎」,底部篋書き 「宅」,85%,PL68
435	須恵器	坏	13.9	4.2	6.0	雲母・長石・石英	灰黄	普通	底部不定方向のヘラ磨き	竈覆土中	体部外面墨書 「区」,90%,PL68
436	須恵器	坏	13.2	4.0	5.7	雲母・長石・石英	褐灰	普通	底部回転ヘラ切り後、一方向のヘラ削り	南部下層	体部外面墨書 「区」,80%,PL68
437	須恵器	高台付坏	-	(2.1)	[9.0]	雲母・長石・石英	灰黄	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	竈覆土中	30%
438	土師器	椀	-	(2.1)	7.4	石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け	南西部中層	20%
439	土師器	蓋	[18.3]	(2.6)	-	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	つまみ接合後、ロクロナデ	北西部下層	30%
440	須恵器	甕	20.8	(8.5)	-	雲母・長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁端部に沈線一条、口縁部輪積み痕	竈手前床面	口縁部内面刻書 「#」,15%,PL69
TP21	須恵器	甕	-	-	-	雲母・長石	灰黄	普通	内面無文の当て具痕・輪積み痕	竈覆土中	
TP22	須恵器	大甕	-	-	-	長石・黒色粒子	褐灰	普通	外面平行叩き、内面ロクロナデ	北東部上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
M70	鎌	(5.3)	(0.7)	0.4	(3.6)	鉄	断面長方形の茎部に破損した2片が付着、分離不可	中央部中層	PL79
M71	刀子	(2.6)	1.2	0.2	(1.4)	鉄	刃部の破片	南西部下層	

第1582号住居跡（第191図）

位置 調査区中央部のS 8 a1区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1546号住居跡を掘り込み、第1561号住居と第1455・1466号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.25m、短軸4.15mほどの方形で、主軸方向はN-4°-Eである。壁高は6~16cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、竈の手前から出入り口施設にかけて踏み固められており、壁溝が周回している。

竈 第1561号住居に掘り込まれたために全容は不明で、北壁際の中央部から赤変硬化した火床面だけが確認されている。火床面は北壁ラインよりも内側に位置していることから、壁外への掘り込みはそれほど長くないと推測される。

ピット 5か所。主柱穴はP1~P4が相当し、P1・P3・P4の深さは25~39cmである。P2は攪乱を受けているため、掘り込みの一部が確認されているだけで、本来の深さは不明である。また、P5は出入り口施設に伴うピットで、P2同様、攪乱のため本来の形状や深さは判然としない。

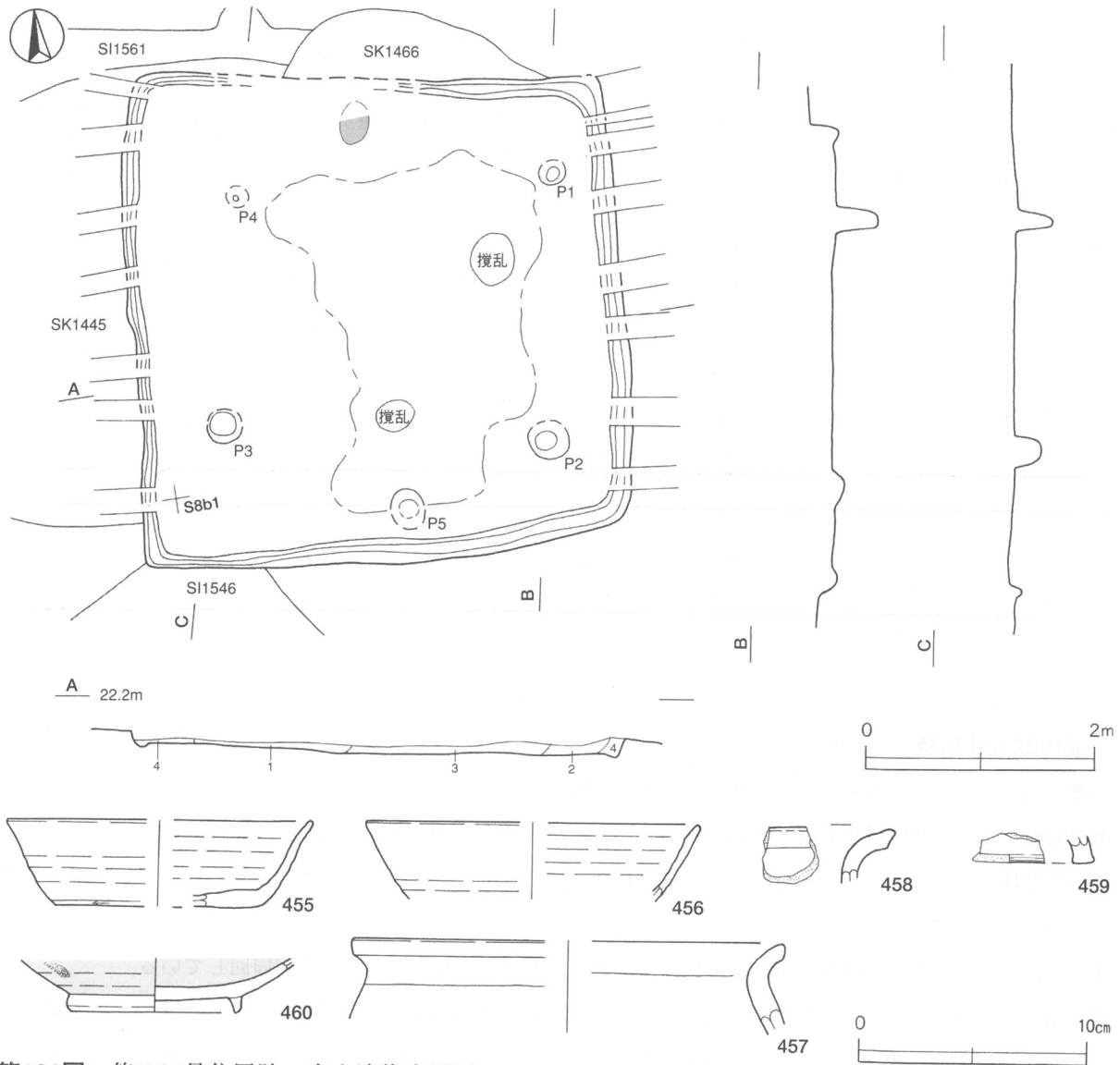
覆土 4層からなり、各層ともロームブロックを含んだ人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック少量 | 4 褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 土師器片82点(坏25, 甕57), 須恵器片27点(坏15, 甕11, 円面硯1), 攪乱により混入した灰釉陶器片2点(椀, 壺)が出土している。遺物は重複を受けていない東壁際や南壁際から多く出土しており, そのほとんどが細片である。458・459は北東部の覆土下層から出土している。

所見 廃絶時期は, 重複関係や出土土器から8世紀前葉から中葉にかけてと考えられる。



第191図 第1582号住居跡・出土遺物実測図

第1582号住居跡出土遺物観察表 (第191図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
455	須恵器	坏	[13.2]	3.8	[8.8]	長石・石英	褐灰	普通	底部回転ヘラ削り	南西部下層	20%
456	須恵器	坏	[14.4]	(3.3)	-	雲母・長石・石英	灰	普通	体部ロクロナデ	南西部下層	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
457	土師器	甕	[18.6]	(4.0)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ	北西部下層	
458	土師器	甕	-	(2.4)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ	北東部下層	
459	須恵器	円面硯カ	-	(1.3)	-	長石	灰黄	普通	脚部ロクロナデ	北東部下層	
460	灰釉陶器	椀	-	(2.3)	7.1	黒色の吹き出し	灰白・ オリーブ黄	良好	釉は刷毛塗り、底部回転ヘラ削り後高台 貼り付け、内面に重ね焼き痕	覆土中	転用硯, 猿投産, 40%.PL57

第1583号住居跡 (第192図)

位置 調査区中央部のR7g7区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第142・143・185号掘立柱建物跡を掘り込み、第1486号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.95m、短軸2.50mほどの長方形である。主軸方向は、竈が確認されていないため、南壁の指す方向を基準にすると、N-2°-Wと推測される。壁高は10~13cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

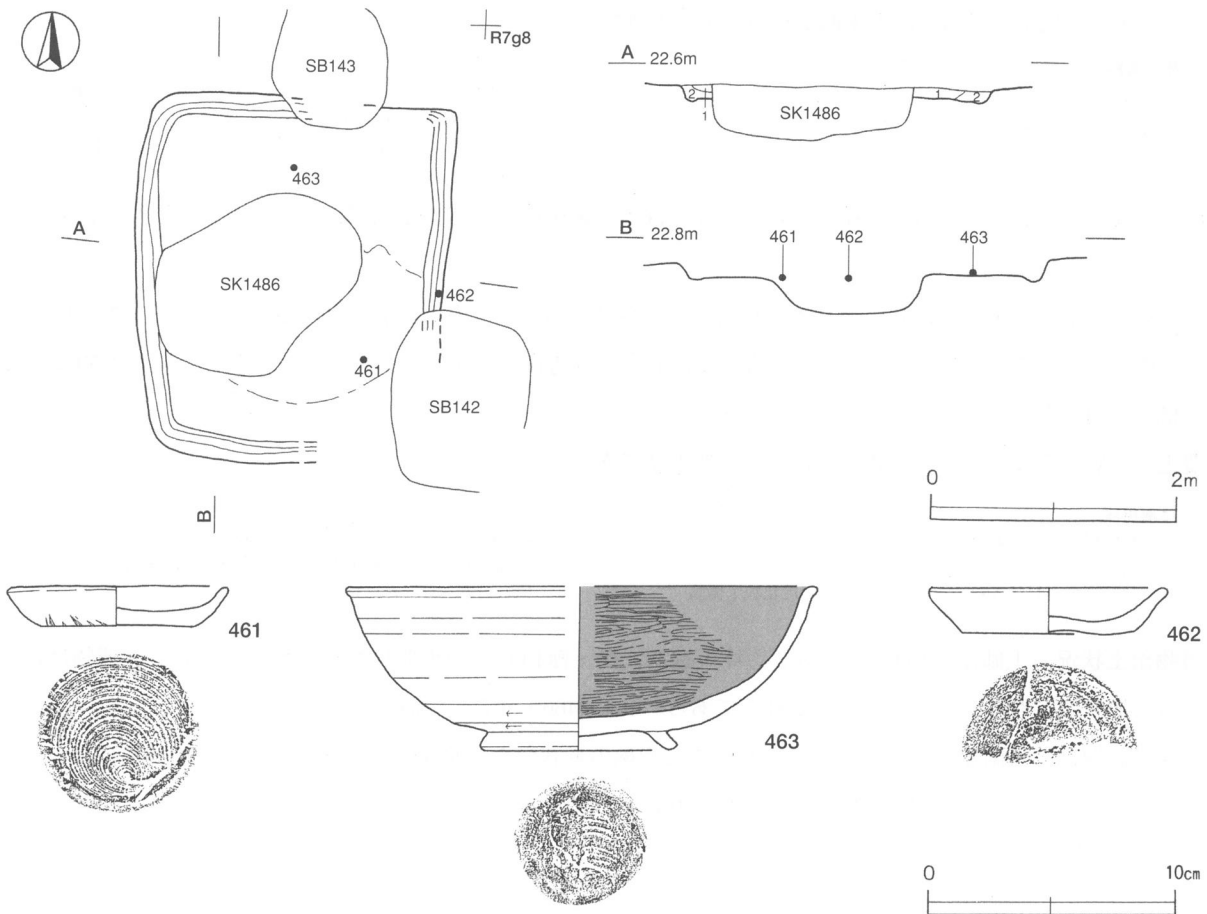
床 ほぼ平坦で、南側部分に硬化した面が認められ、壁溝が周回している。

覆土 2層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量

2 暗褐色 ローム粒子少量



第192図 第1583号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片73点（小皿2，坏・椀23，甕・甑48），須恵器片8点，石製支脚1点がほぼ全域から散在して出土している。461は南東部の覆土下層から，463は北部の床面から出土している。

所見 時期は，土師器小皿が出土していることから，10世紀後半以降と考えられる。

第1583号住居跡出土遺物観察表（第192図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
461	土師器	小皿	8.6	3.8	6.0	雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端に筋状の削痕，底部回転糸切り	南東部下層	100%，PL57
462	土師器	小皿	9.3	1.8	6.8	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ切り	東壁際下層	50%
463	土師器	椀	[18.5]	6.5	7.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り後，高台貼り付け	北部床面	55%

第1584号住居跡（第193図）

位置 調査区中央部のR8h1区に位置し，平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1577・1588・1601号住居跡と第140号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.85m，短軸3.35mほどの長方形で，主軸方向はN-88°-Eである。壁高は11~20cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。また，壁溝は東壁際と西壁際で確認されている。

竈 東壁の南寄りに付設されている。攪乱が激しく，全体の規模や形状は不明である。火床部は床面と同じ高さの平坦面を使用しており，火床面が被熱して赤変硬化している。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------------|--------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土粒子中量，ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量 | 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒少量 |
| 2 灰褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒中量，ロームブロック・炭化粒子少量 | 4 暗赤褐色 | ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子少量 |

炉 中央部に付設されており，地山を若干掘りくぼめた地床炉である。平面形は楕円形を呈し，被熱によって赤変硬化している。

ピット 6か所。主柱穴はP1~P4が相当し，深さは25~39cmである。P5は深さ15cmで，西壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから見て，出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ13cmで，性格は不明である。

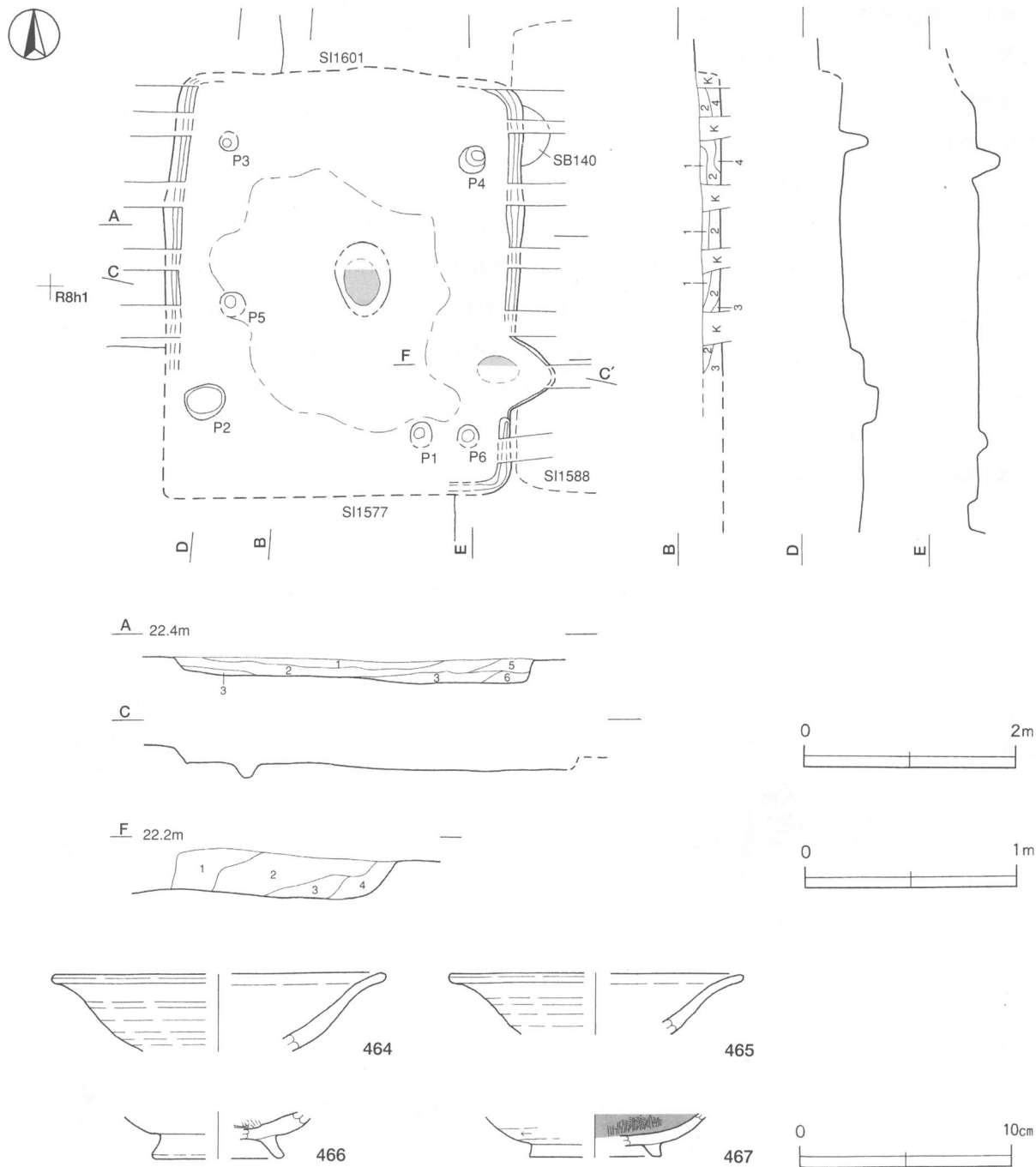
覆土 6層からなり，レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------|--------|---------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量 | 5 暗褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子・粘土粒子少量 |
| 3 極暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 極暗褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片184点（小皿2，坏・椀38，甕・甑144），須恵器片37点が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており，そのほとんどが細片である。464・466・467は，竈内から出土している。

所見 時期は，土師器小皿が若干認められることや椀の形状から10世紀後半と考えられる。当該期には，本住居のように，竈と炉を有する住居形態が認められるようになる。



第193図 第1584号住居跡・出土遺物実測図

第1584号住居跡出土遺物観察表 (第193図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
464	土師器	椀	[15.2]	(3.6)	-	雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部ロクロナデ	竈覆土中	
465	土師器	椀	[13.5]	(2.8)	-	雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部ロクロナデ	南西部覆土中	
466	土師器	椀	-	(2.2)	[6.1]	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	底部内面一方向のヘラ磨き	竈覆土中	
467	土師器	椀	-	(2.0)	[6.2]	雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	底部内面二方向のヘラ磨き	竈覆土中	

第1587号住居跡 (第194・195図)

位置 調査区中央部のS 7 a3区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第95号溝に掘り込まれている。

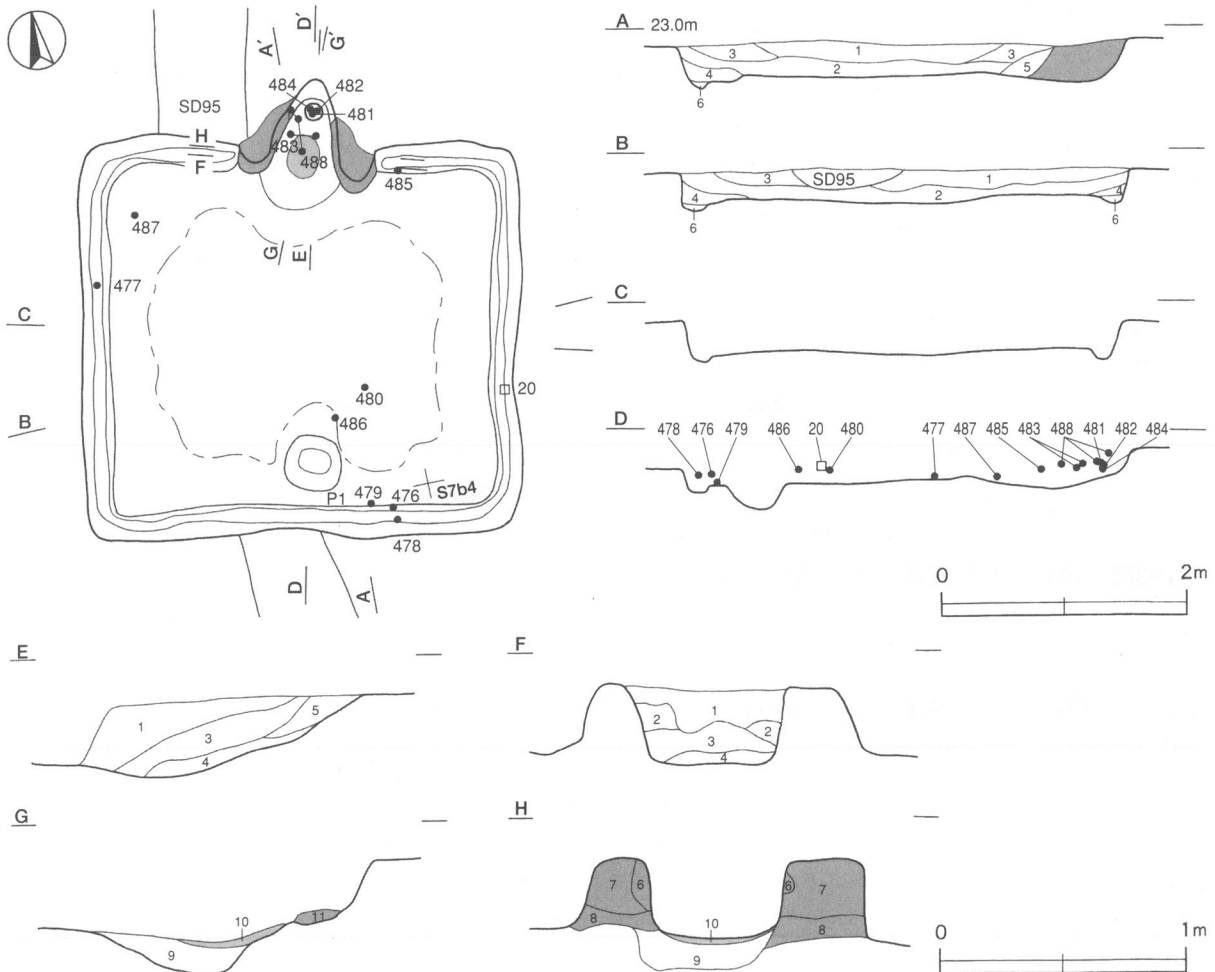
規模と形状 長軸3.45m、短軸3.30mほどの方形で、主軸方向はN-15°-Eである。壁高は17~28cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められており、壁溝が周回している。

竈 北壁の中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで105cm、袖部幅110cmほどである。袖部は床面と同じ高さの地山面上にローム土を主体とした基部を設け、その上部に砂質粘土を用いて構築されている。火床部は15cmほど掘りくぼめた部分にローム土を充填して使用し、火床面が被熱して赤変硬化している。煙道の立ち上がり部には白色粘土を基部とし、その上部に坯3点が逆位で据えられて、支脚として使用されている。また、煙道は急な傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------------|----------|----------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量 | 6 にぶい赤褐色 | 砂粒多量, 焼土粒子・粘土粒子中量 |
| 2 灰黄褐色 | 粘土粒子・砂粒中量, ローム粒子・焼土粒子少量 | 7 灰黄褐色 | 粘土粒子・砂粒多量, ローム粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量, 粘土粒子・砂粒少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック多量, 粘土粒子・砂粒少量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量, ローム粒子少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, 粘土粒子・砂粒微量 | 10 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック少量 |
| | | 11 灰黄褐色 | 白色粘土粒子多量 |



第194図 第1587号住居跡実測図

ピット 1か所。P 1は深さ25cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットである。

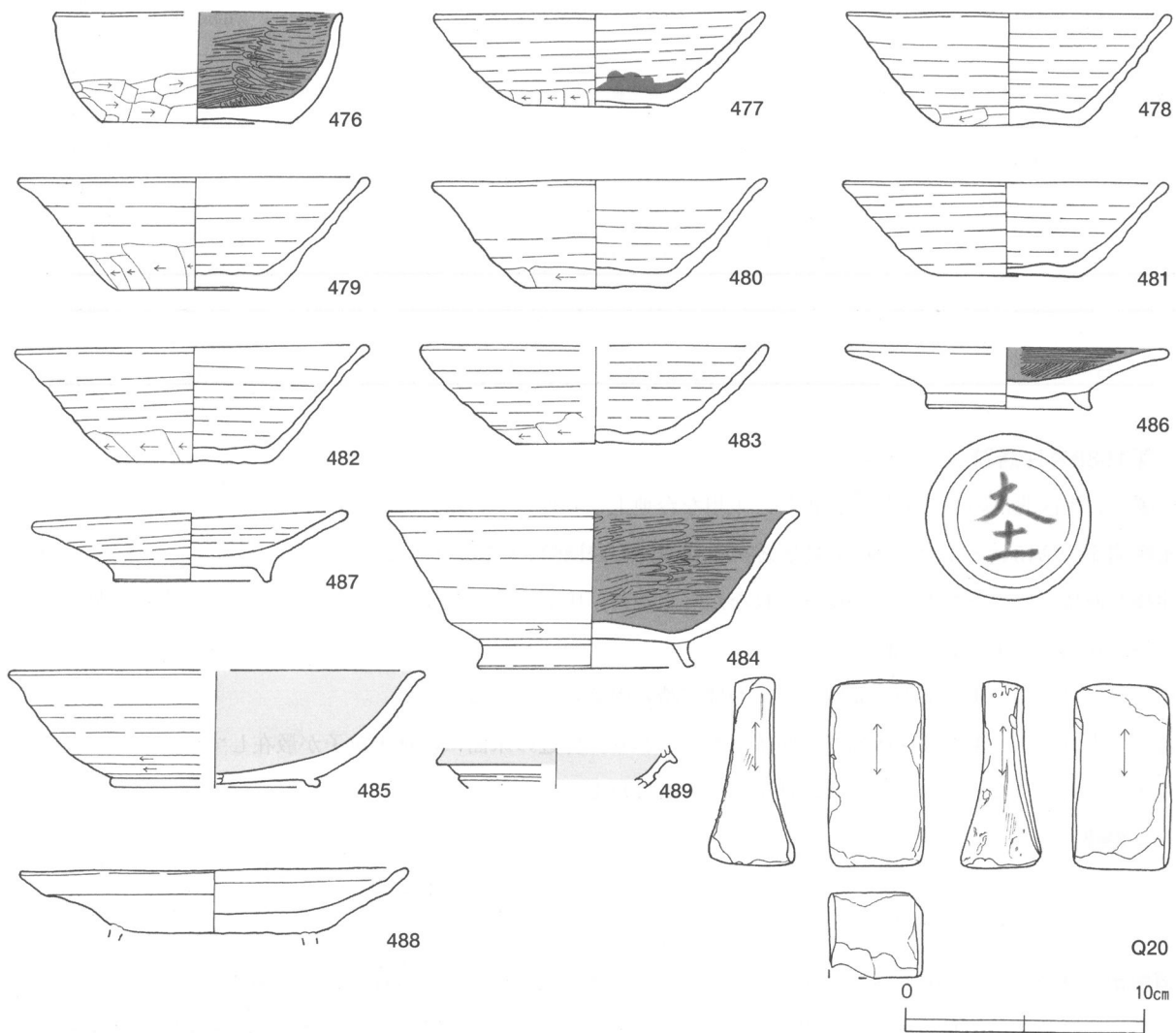
覆土 6層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子・砂粒少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片217点（坏・碗35，皿1，甕・甑181），須恵器片60点（坏・高台付坏28，皿1，盤2，甕・甑28，長頸瓶1），灰釉陶器2点（碗，長頸瓶），砥石1点が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており，破断面の摩耗が少なく，残存率の高いものが多いことから，廃絶時あるいは廃絶から間もない時期に投棄されたものと推定される。481・482・484は支脚として転用された須恵器坏であり，被熱痕が認められる。また，朱墨痕のある477は西壁際の床面から，猿投産と考えられる485は竈東側の覆土中層から，底部に「大土」と墨書された486は中央部南寄りの覆土中層から出土している。

所見 廃絶時期は，出土土器から9世紀中葉と考えられる。「大土」は当遺跡の標識文字の一つであり，灰釉陶器や朱墨痕のある土器と共に，集落の構造を考える上での好資料といえる。



第195図 第1587号住居跡出土遺物実測図

第1587号住居跡出土遺物観察表 (第195図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
476	土師器	坏	[11.8]	4.5	7.9	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部一方向のヘラ削り	南壁際上層	60%, PL57
477	須恵器	坏	13.4	4.0	6.0	雲母・長石・石英	にぶい黄褐	普通	底部一方向のヘラ削り後、一部ナデ	西壁際床面	朱墨痕 100%, PL57
478	須恵器	坏	13.4	4.6	6.0	雲母・長石・石英	褐灰	普通	底部回転ヘラ切り後、一方向のヘラ削り	南壁際上層	90%, PL57
479	須恵器	坏	14.3	4.6	6.6	雲母・長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後、ヘラナデ	南壁際床面	80%, PL57
480	須恵器	坏	13.5	4.5	6.0	雲母・長石・石英	暗灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後、一方向のヘラ削り	中央部上層	70%
481	須恵器	坏	13.3	3.9	6.1	雲母・石英	明赤褐	普通	底部回転ヘラ切り後、一方向のヘラ削り	竈火床部	被熱痕、竈材付着、 100%, PL58
482	須恵器	坏	14.4	4.9	6.3	雲母・長石・石英	にぶい赤褐	普通	底部一方向のヘラ削り	竈火床部	被熱痕、竈材付着、 100%, PL58
483	須恵器	坏	[14.4]	4.0	6.6	雲母・長石・石英	明赤褐	普通	底部回転ヘラ切り後、一方向のヘラ削り	竈火床部	被熱痕、竈材付着、 40%
484	土師器	高台付坏	16.9	6.5	9.0	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	竈火床部	被熱痕、竈材付着、 90%, PL58
485	灰釉陶器	碗	[17.2]	4.8	[8.7]	黒色粒子	灰白・灰オリーブ	良好	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け、底部外面にトチンによる重ね焼き痕有り	竈東側中層	猿投産 45%, PL58
486	土師器	皿	[13.4]	2.5	6.8	雲母・石英	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	中央部中層	底部外面墨書「大土」.60%, PL70
487	須恵器	皿	12.7	2.9	6.3	雲母・長石・石英	暗灰黄	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	北西部下層	底部内面摩滅、転用硯.98%, PL58
488	須恵器	盤	15.8	(2.7)	-	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ削り、高台貼り付け痕有り	竈火床部	底部内面摩滅、転用硯.70%, PL58
489	須恵器	長頸瓶	-	(1.7)	-	黒色粒子	黄灰・オリーブ黒	良好	口縁部ロクロナデ、頸部沈線一条	北西部下層	降灰による自然釉

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
Q20	砥石	7.6	4.0	3.3	(124.9)	凝灰岩	砥面4面、中央部折損、破断面摩滅	東壁際上層	PL76

第1588号住居跡 (第196図)

位置 調査区北部のR 8 g2区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1544・1584・1601号住居跡、第140号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 壁の立ち上がりが確認されなかったため、床面の広がりから、N-0°を主軸とする長軸4.40m、短軸3.40mほどの長方形と推定される。

床 ほぼ平坦で、中央部から北側部分にかけて踏み固められている。

竈 北東コーナー部から火床面だけが確認されており、付近の床面には粘土粒子が散在している。

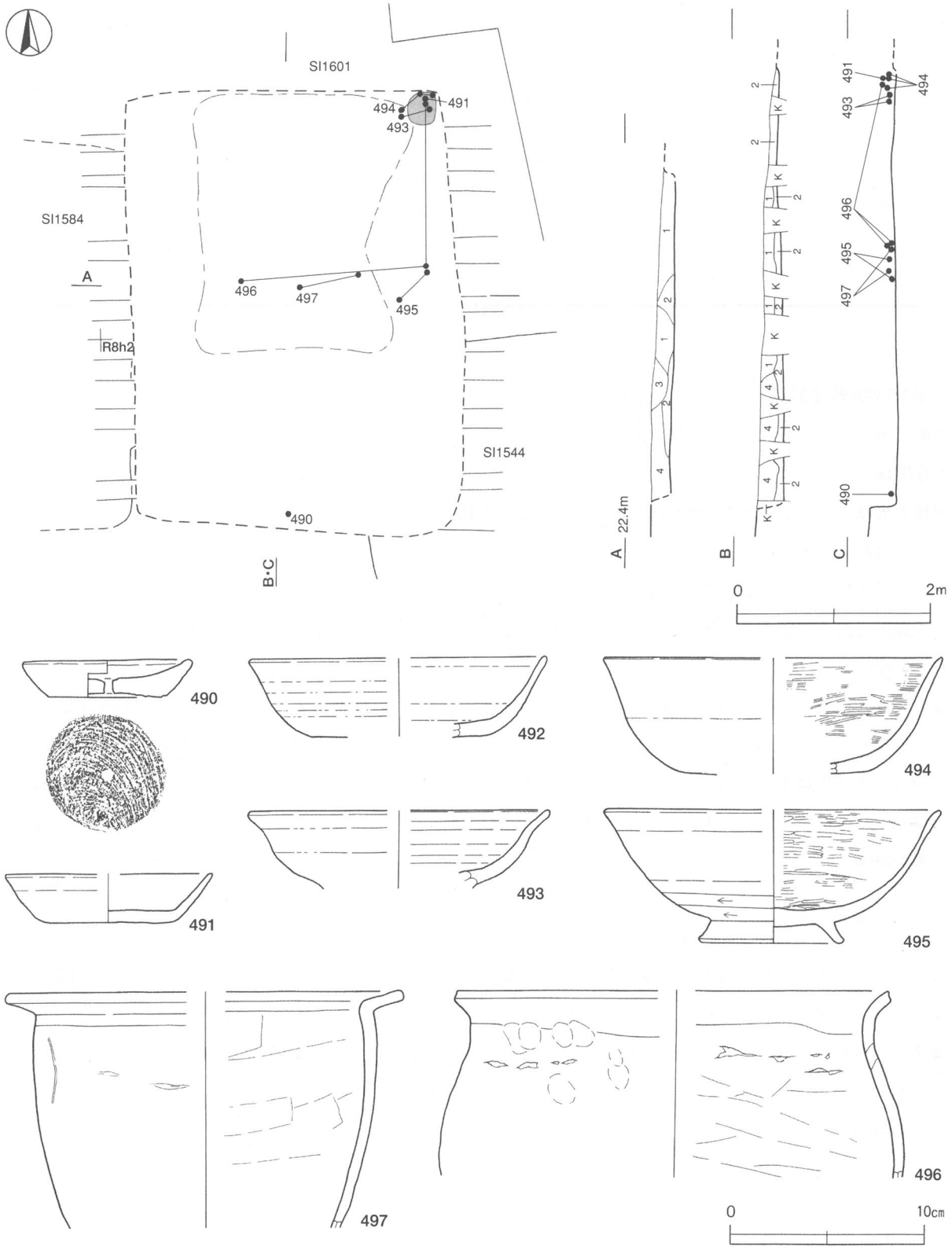
覆土 4層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量 | 3 黒褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック多量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片294点(小皿2, 坏・碗61, 甕・甑231), 須恵器片18点, 鉄釘1点, 鉄滓1点が出土している。遺物は竈付近から多く出土しており, 491・493・494・496が火床面直上や竈手前の床面から出土している。また, 南部の床面から出土した490は底部中央が穿孔されており, 紡錘車としての使用が推測される。

所見 坏類の底部を紡錘車に転用する例はしばしば見られることであるが、490のように完形の小皿を使用する例は当遺跡においては初見である。時期は、出土土器から10世紀後半以降と考えられる。



第196図 第1588号住居跡・出土遺物実測図

第1588号住居跡出土遺物観察表（第196図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
490	土師器	小皿	8.4	1.9	6.0	雲母・長石・石英	明赤褐	普通	底部回転糸切り	南部床面	底部中央穿孔、95%、PL58
491	土師器	小皿	[10.2]	2.5	6.6	長石・石英	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り	竈火床部	60%
492	土師器	坏	[15.0]	4.0	[8.8]	石英・長石・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ削り	南西部下層	20%
493	土師器	椀	[15.2]	4.0	-	石英・赤色粒子	橙	普通	体部クロコナデ	竈手下層	20%
494	土師器	椀	[17.2]	(6.0)	[9.7]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端・底部手持ちヘラ削り	竈火床部・ 竈手下層	竈材付着、 被熱痕、35%
495	土師器	椀	[17.0]	6.7	7.6	雲母・長石・石英	にぶい黄褐	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	東部床面	55%
496	土師器	甕	[21.8]	(9.6)	-	雲母・長石・石英・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ナデ・輪積み痕・指頭痕、内面 ヘラナデ・輪積み痕	竈火床部・ 東部床面・ 西部下層	15%
497	土師器	甕	[20.0]	(12.0)	-	雲母・長石・石英	にぶい褐	普通	体部外面ナデ、棒状工具による削痕、内 面ヘラナデ	中央部下層	10%

第1589A号住居跡（第197～199図）

位置 調査区中央部のR 7 f1区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1612号住居跡を掘り込んでいる。また、第1589B号住居から本住居に建て替えられている。

規模と形状 長軸4.95m、短軸4.90mほどの方形で、主軸方向はN-3°-Eである。壁高は17～28cmで、各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、ピットの内側がよく踏み固められており、壁溝が周回している。中央部北寄りからは0.5mほどの範囲で焼土の広がり薄く認められ、火災に遭ったものと考えられる。なお、炭化材や焼土塊等は確認されていない。

竈 北壁の中央部に砂質粘土で構築されている。規模は焚口部から煙道部まで120cm、袖部幅120cmほどで、壁外への掘り込みは50cmである。袖部は掘り残した地山を芯として、その周囲に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部は床面と同じ高さの平坦面を使用しており、火床面が被熱により赤変硬化している。また、煙道は緩やかに傾斜して立ち上がった後、ほぼ直立している。

竈土層解説

- | | |
|-------------------------------------|--------------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土粒子中量、ロームブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量 | 3 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化物・灰少量 | 4 灰褐色 灰多量、焼土粒子中量 |
| | 5 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子・灰少量 |

ピット 5か所。主柱穴はP 1～P 4が相当し、深さは47～70cmである。また、P 2・3からは深い掘り込みが2か所ずつ確認されている。P 5は深さが34cmで、出入口施設に伴うピットである。

覆土 8層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。なお、土層断面図中の第6～8層は貼床部の土層である。

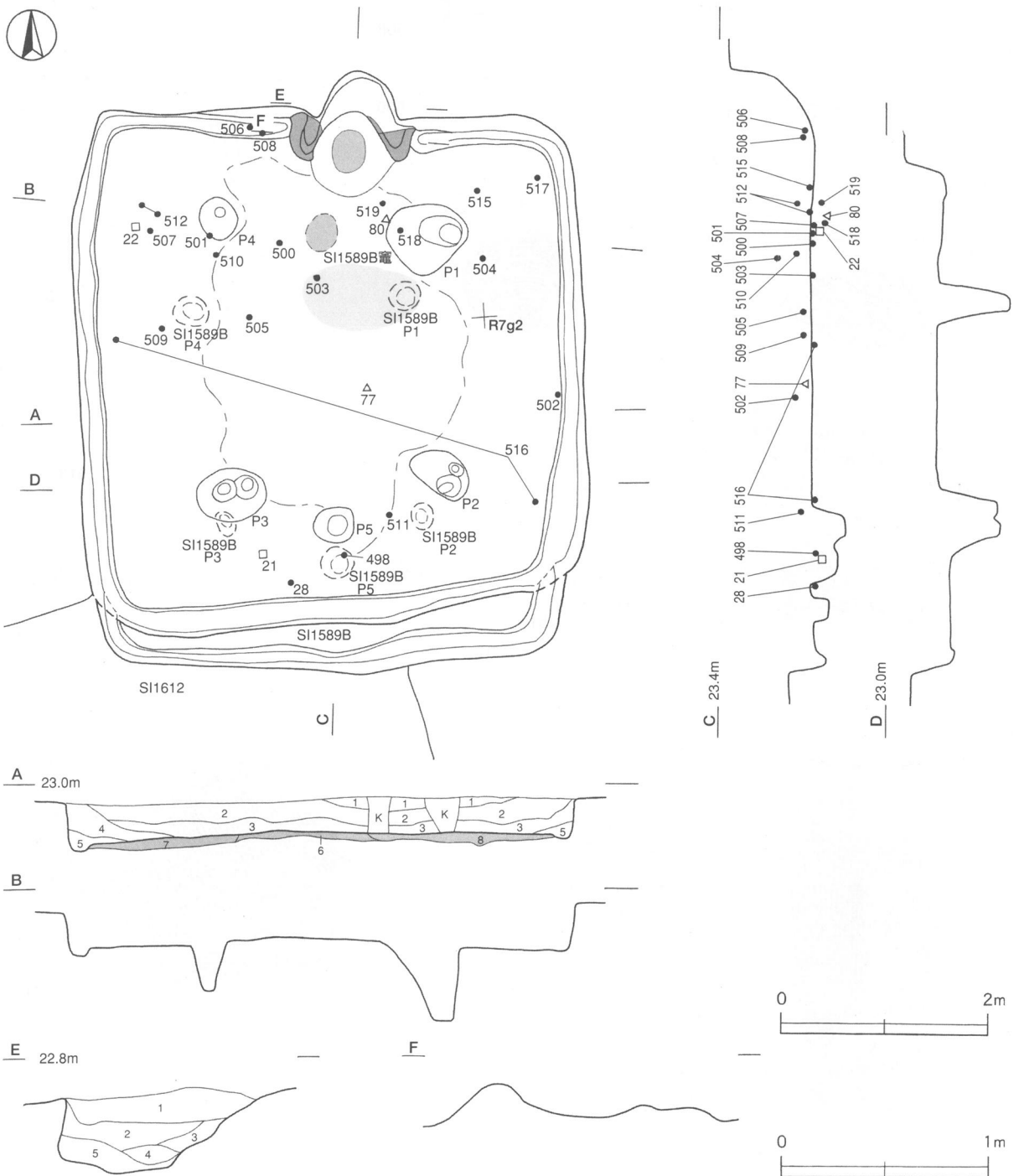
土層解説

- | | |
|----------------------------|------------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・砂粒少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 7 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量 |
| 3 極暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 極暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック少量 | |
| 5 暗褐色 ローム粒子中量 | |

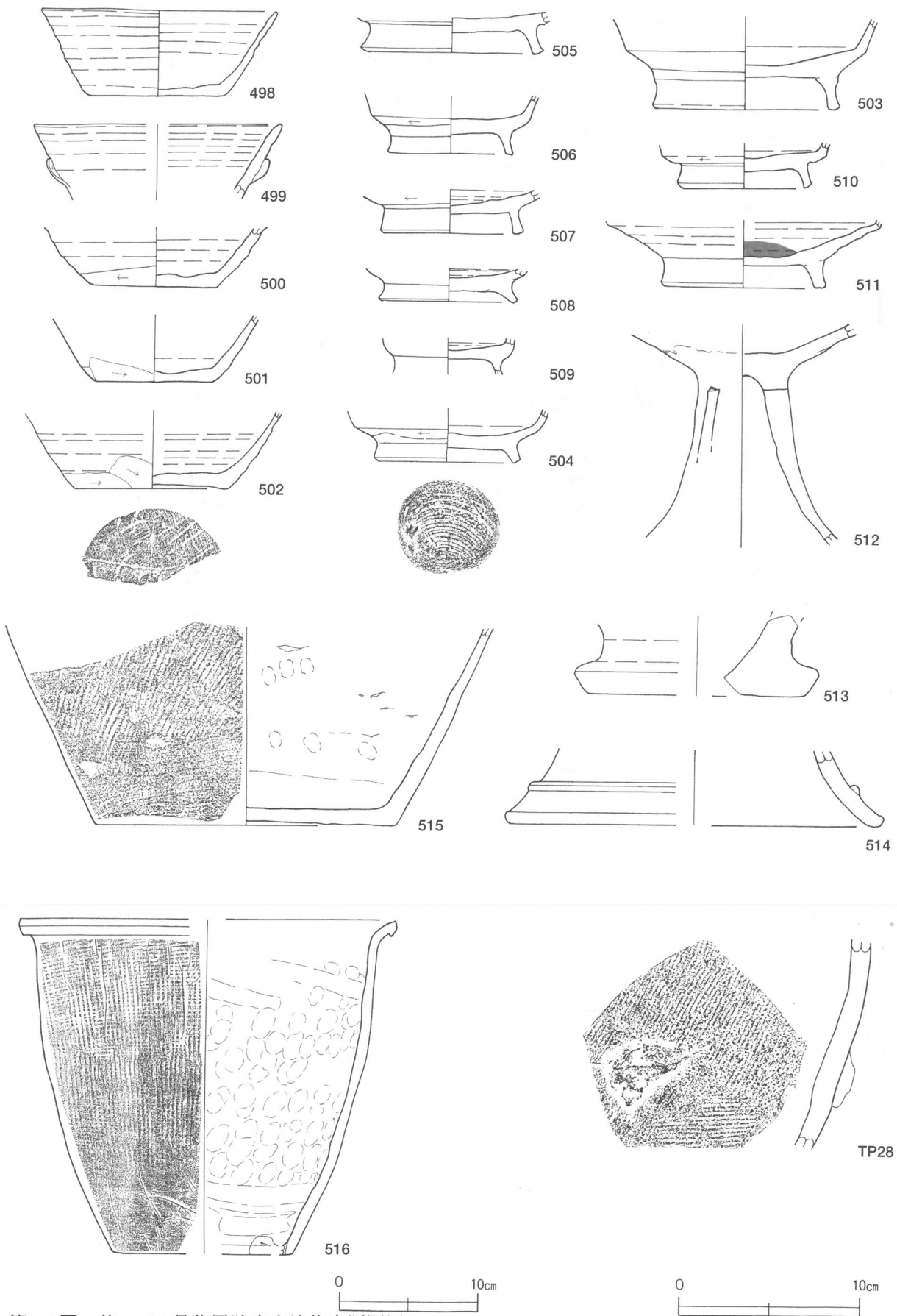
遺物出土状況 土師器片811点（坏108、甕・甑703）、須恵器片543点（坏・高台付坏328、盤・高盤19、蓋35、

甕・甌160, 捏鉢1), 鉄鏃2点, 不明鉄製品1点(刀子カ), 砥石2点が覆土下層を中心に出土している。出土した土器の大半は破断面の摩耗が少なく, 意図的に体部を打ち欠いた底部片が多いことや覆土下層からの出土が大半であることなどから, 住居廃絶後の窪地に投棄されたものと推測される。一方, 床面から出土したものは少なく, 図示したものではQ21・Q22だけである。漆が付着している511は南部の覆土中層から出土しており, 北西部の覆土中層から出土した510とともに底部内面が摩滅している。

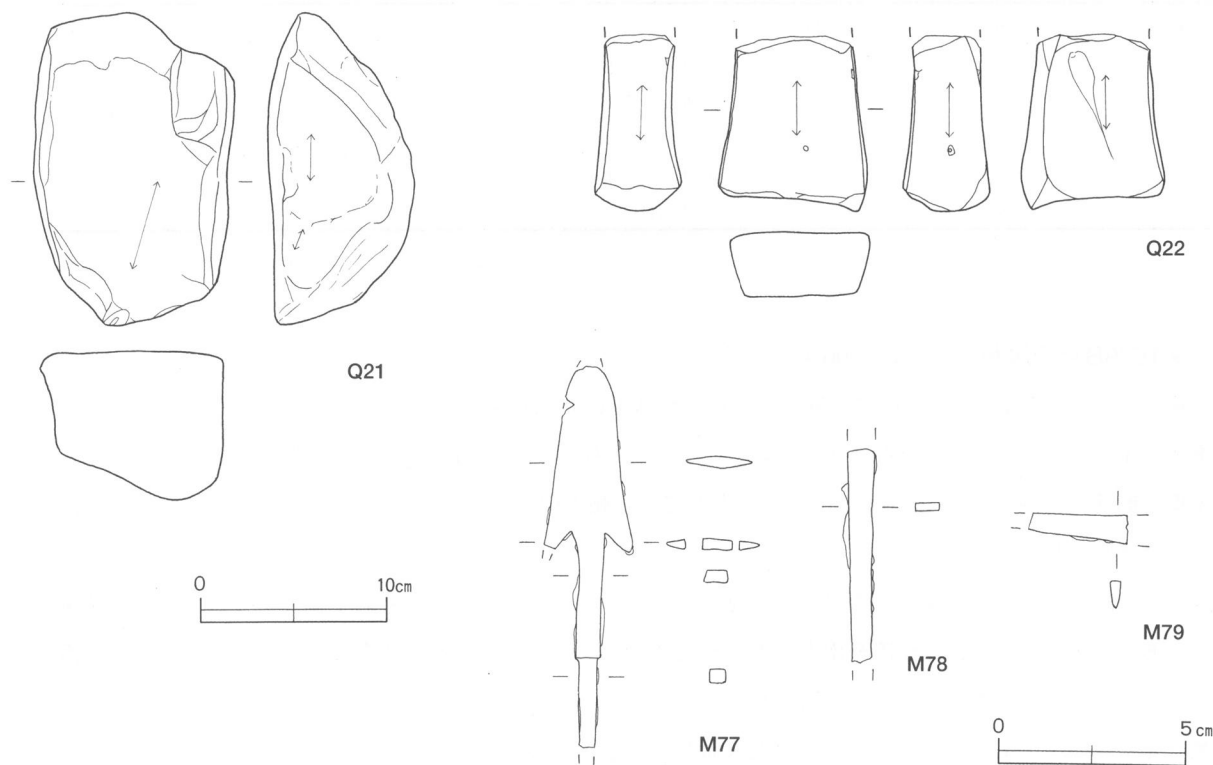
所見 覆土下層を中心に出土した須恵器坏や高台付坏の底部片は, その大半が体部を丁寧に打ち欠かれており, 廃棄に際しての意図した行為と判断することができる。投棄された時期は出土土器から9世紀前葉と判断でき, 本住居の存続時期は9世紀前葉ないしそれ以前と考えられる。



第197図 第1589A・B号住居跡実測図



第198图 第1589A号住居跡出土遺物実測図(1)



第199図 第1589A号住居跡出土遺物実測図(2)

第1589A号住居跡出土遺物観察表 (第198・199図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
498	須恵器	坏	12.8	4.7	7.3	雲母・長石・石英	褐灰	普通	底部回転ヘラ切り後, ヘラナデ	南部下層	75%, PL58
499	須恵器	坏	[13.4]	(3.6)	-	長石・石英	灰	普通	耳部ヘラ削り, 双耳坏の模倣カ	北西部下層	20%, PL58
500	須恵器	坏	-	(3.3)	6.7	雲母・長石・石英	灰	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	竈手下層	70%
501	須恵器	坏	-	(3.7)	6.3	長石・石英	黄灰	普通	底部一方向のヘラ削り	北西部下層	35%
502	須恵器	坏	-	(4.2)	8.4	雲母・長石	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後, 多方向のヘラ削り	東壁際中層	底部ヘラ書き 「+」, 30%
503	須恵器	高台付坏	-	(5.1)	9.9	長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り後, 高台貼り付け	中央部床面	底部内面摩減, 30%
504	須恵器	高台付坏	-	(3.0)	7.8	長石・石英	灰	普通	底部回転糸切り後, 高台貼り付け	北東部上層	底部内面摩減, 20%
505	須恵器	高台付坏	-	(2.3)	10.0	雲母・長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り後, 高台貼り付け	中央部下層	20%
506	須恵器	高台付坏	-	(3.2)	6.9	雲母・長石・石英	灰	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	北壁際下層	30%
507	須恵器	高台付坏	-	(2.4)	7.8	雲母・長石・石英	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ削り後, 高台貼り付け	北西部下層	30%
508	須恵器	高台付坏	-	(1.8)	7.6	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り後, 高台貼り付け	北壁際下層	20%
509	須恵器	高台付坏	-	(2.0)	-	長石・石英	暗灰	普通	底部回転ヘラ削り後, 高台貼り付け	西壁際下層	20%
510	須恵器	高台付坏	-	(2.6)	7.4	長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後, 高台貼り付け	北西部中層	底部内面摩減, 20%
511	須恵器	盤	-	(3.7)	9.0	雲母・長石・石英	灰黄褐	普通	底部回転ヘラ削り後, 高台貼り付け	南部中層	漆附着痕, 30%
512	須恵器	高盤	-	(12.0)	-	雲母・長石・石英	黄灰	普通	脚部の三方に透かし	北西部中～下層	40%
513	須恵器	捏ね鉢	-	(4.4)	[11.8]	雲母・長石・石英	にぶい黄橙	普通	底部ヘラナデ	P1覆土中	
514	須恵器	円面硯カ	-	(4.1)	[20.0]	雲母・石英	黄灰	普通	脚部に隆帯貼り付け後, ロクロナデ	覆土中	
515	須恵器	甃	-	(10.8)	16.3	長石・石英	灰	普通	体部内面ナデ・指頭痕・輪積み痕	北東部下層	30%
516	須恵器	甌	[27.4]	24.3	[13.2]	長石・石英	灰	普通	体部内面ヘラナデ・指頭痕	東・西壁際下層	40%
TP28	須恵器	大甃	-	-	-	長石・石英	黄灰	良好	外面斜位の平行叩き, 内面無文の当て具痕	南壁際下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
Q21	砥石	16.6	10.6	7.5	1700	砂岩	砥面2面, 他は自然面	南壁際下層	PL76
Q22	砥石	(4.6)	3.9	1.6	(50.4)	凝灰岩	砥面4面, 中央部折損	北西部床面	PL76
M77	鏃	(10.2)	(2.4)	0.5	(17.2)	鉄	両丸造, 両閃, 脇挟・茎部の先端欠損	中央部下層	PL80
M78	鏃カ	(5.7)	(0.8)	0.2	(5.6)	鉄	断面長方形の棒状	覆土下層	PL79
M79	刀子	(2.7)	(0.8)	0.3	(1.9)	鉄	刃部の破片	覆土上層	

第1589B号住居跡 (第197・200図)

位置 調査区中央部のR7f1区に位置し, 平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1612号住居跡を掘り込んでいる。また, 本住居から第1589A号住居に建て替えられている。

規模と形状 長軸4.65m, 短軸4.35mほどの方形で, 主軸方向はN-1°-Eである。壁高は37~42cmで, 各壁ともほぼ直立している。

床 第1589A号住居を構築する際に貼床が施され, その際に本住居の床面も若干掘り込まれており, 詳細は不明である。また, 壁溝は北壁際や南壁際から確認されており, 東壁際や西壁際では第1589A号住居の壁溝と重なりながら, ほぼ全周していたと推測される。

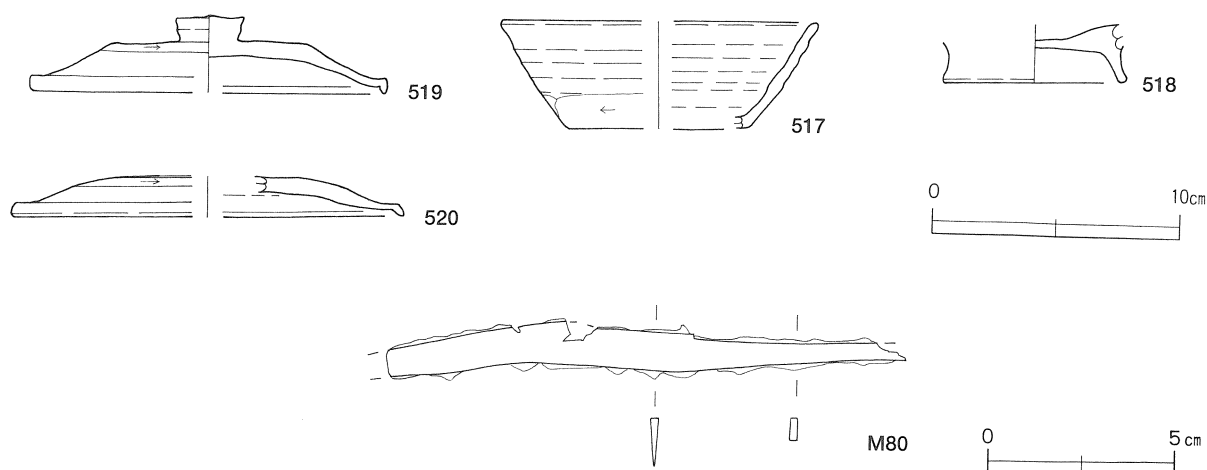
竈 北壁際の中央部から, 赤変硬化した火床面だけが確認されている。

ピット 5か所。支柱穴はP1~P4が相当し, 深さは40~54cmである。P5は深さ25cmで, 出入口施設に伴うピットである。

覆土 確認されていない。

遺物出土状況 土師器片89点 (坏17, 甕・甑72), 須恵器片47点 (坏・高台付坏29, 蓋6, 甕・甑12), 刀子1点, 鉄滓3が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており, 518・519は北東部の貼床を除去した際に出土している。

所見 本住居は第1589A号住居と規模や構造, 主軸方向がほぼ同一であり, 両住居間の時期差を示す土器の出土も見られないことから, 建て替えが行われたものと判断できる。従って, 本住居の時期は, 重複関係と出土土器から9世紀前葉ないしそれ以前と考えられる。



第200図 第1589B号住居跡出土遺物実測図

第1589B号住居跡出土遺物観察表（第200図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
517	須恵器	坏	[12.5]	4.3	[7.3]	雲母・長石・石英	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り	南東部貼床部	10%
518	須恵器	高台付坏	-	(2.3)	7.4	雲母・長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	北東部貼床部	15%
519	須恵器	蓋	[14.2]	3.0	-	長石・石英	褐灰	普通	天井部回転ヘラ削り	北東部貼床部	40%
520	須恵器	蓋	[15.6]	(1.7)	-	長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	北西部貼床部	15%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
M80	刀子	(13.9)	1.3	0.2	(13.2)	鉄	片関、刃先部・茎尻部欠損	北東部貼床部	PL78

第1591号住居跡（第201図）

位置 調査区中央部のR 7 h2区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1602号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.20m、短軸3.15mほどの方形で、主軸方向はN-18°-Eである。壁高は22~30cmで、各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、竈手前から中央部にかけて踏み固められており、壁溝が周回している。

竈 北東コーナー部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで90cm、袖部幅100cmほどである。袖部は床面の高さから10cmほど掘りくぼめた部分にローム土を埋め戻し、その上部に砂質粘土を用いて構築されている。火床部は浅い皿状を呈し、火床面が被熱によって赤変硬化している。また、煙道は火床部から外傾して緩やかに立ち上がった後、ほぼ直立している。

竈土層解説

1 暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量、 ロームブロック・炭化物少量	7 暗赤褐色	ロームブロック・焼土粒子中量、炭化物少量
2 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子中量、 ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量	8 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
3 暗赤褐色	焼土ブロック多量、灰中量	9 灰黄褐色	粘土粒子・砂粒多量、ロームブロック少量、 焼土粒子・炭化粒子微量
4 にぶい赤褐色	粘土粒子・砂粒多量、焼土粒子中量	10 にぶい赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒中量、 ローム粒子少量、炭化粒子微量
5 暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子中量、ローム粒子・ 炭化粒子・砂粒少量	11 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量
6 灰褐色	粘土粒子・砂粒中量、ロームブロック・ 焼土ブロック・炭化粒子少量	12 黒褐色	ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量、 焼土粒子微量
		13 暗褐色	ロームブロック多量

ピット 4か所。P 1は深さ25cmで、硬化面の広がりから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 2~P 4は形状から柱穴の可能性も考えられるが、位置が不揃いであり、性格は不明である。

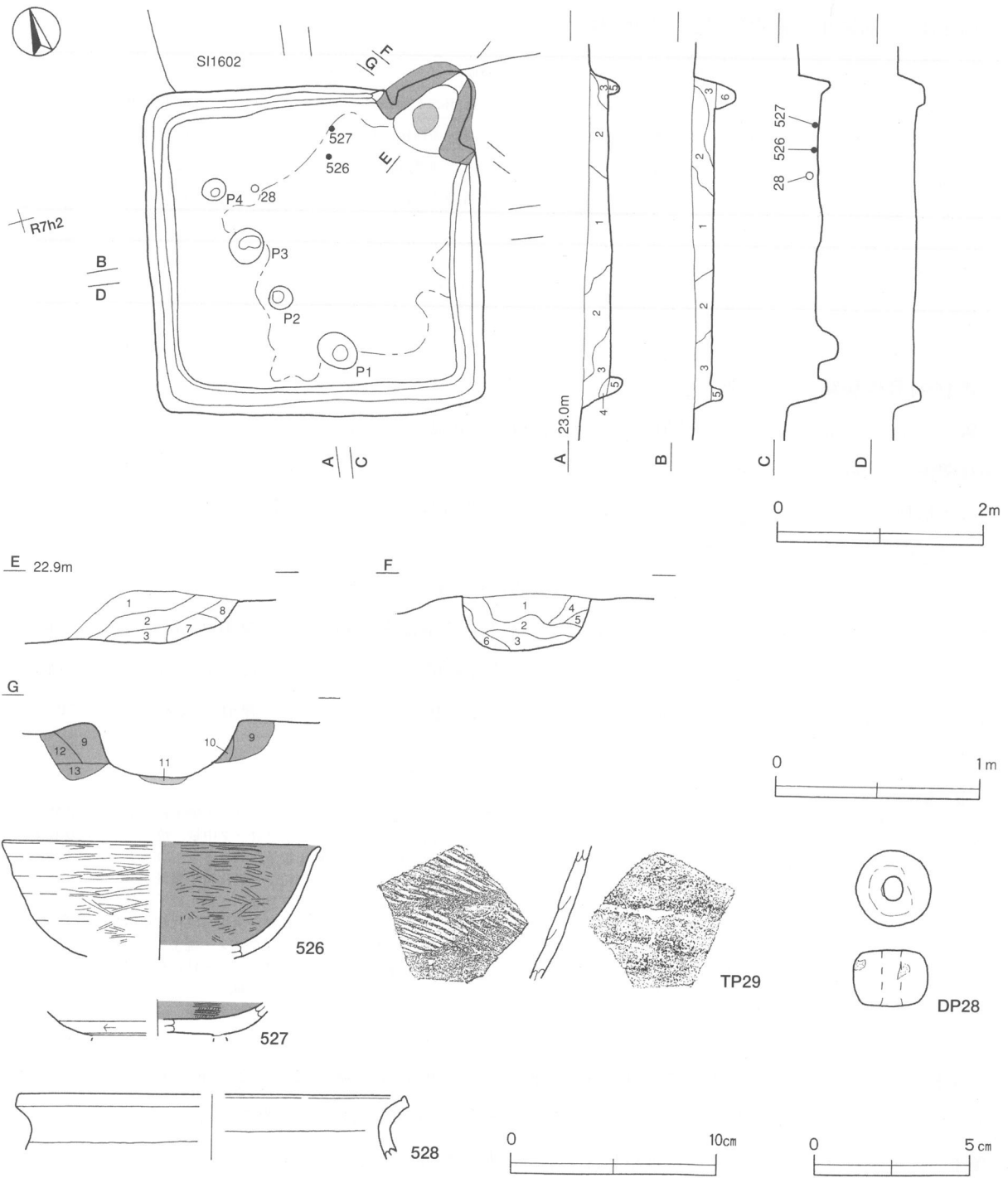
覆土 6層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子少量	4 暗褐色	ローム粒子・炭化物少量
2 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	5 暗褐色	ロームブロック中量
3 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量、 炭化粒子微量	6 褐色	ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片132点（坏・椀15、甕・甑117）、須恵器片6点（甕）、土玉1点が北壁際と南壁際を中心に出土している。526・527は北壁際の覆土下層から出土している。

所見 時期は、土師器小皿が見られないことや須恵器甕片が若干出土していることなどから、10世紀前半と考えられる。



第201図 第1591号住居跡・出土遺物実測図

第1591号住居跡出土遺物観察表（第201図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
526	土師器	椀	[15.4]	(5.5)	-	長石・赤色粒子	明赤褐	普通	体部内・外面ロクロナデ後、ヘラ磨き	北壁際下層	竈材付着,10%
527	土師器	椀	-	(1.5)	-	長石・石英	明赤褐	普通	底部回転ヘラ削り、高台貼り付け痕	北壁際下層	
528	土師器	甕	[18.6]	(3.3)	-	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ	南西部下層	
TP29	須恵器	甕	-	-	-	雲母・長石・石英	にぶい赤褐	不良	内面ロクロナデ・輪積み痕	北東部上層	

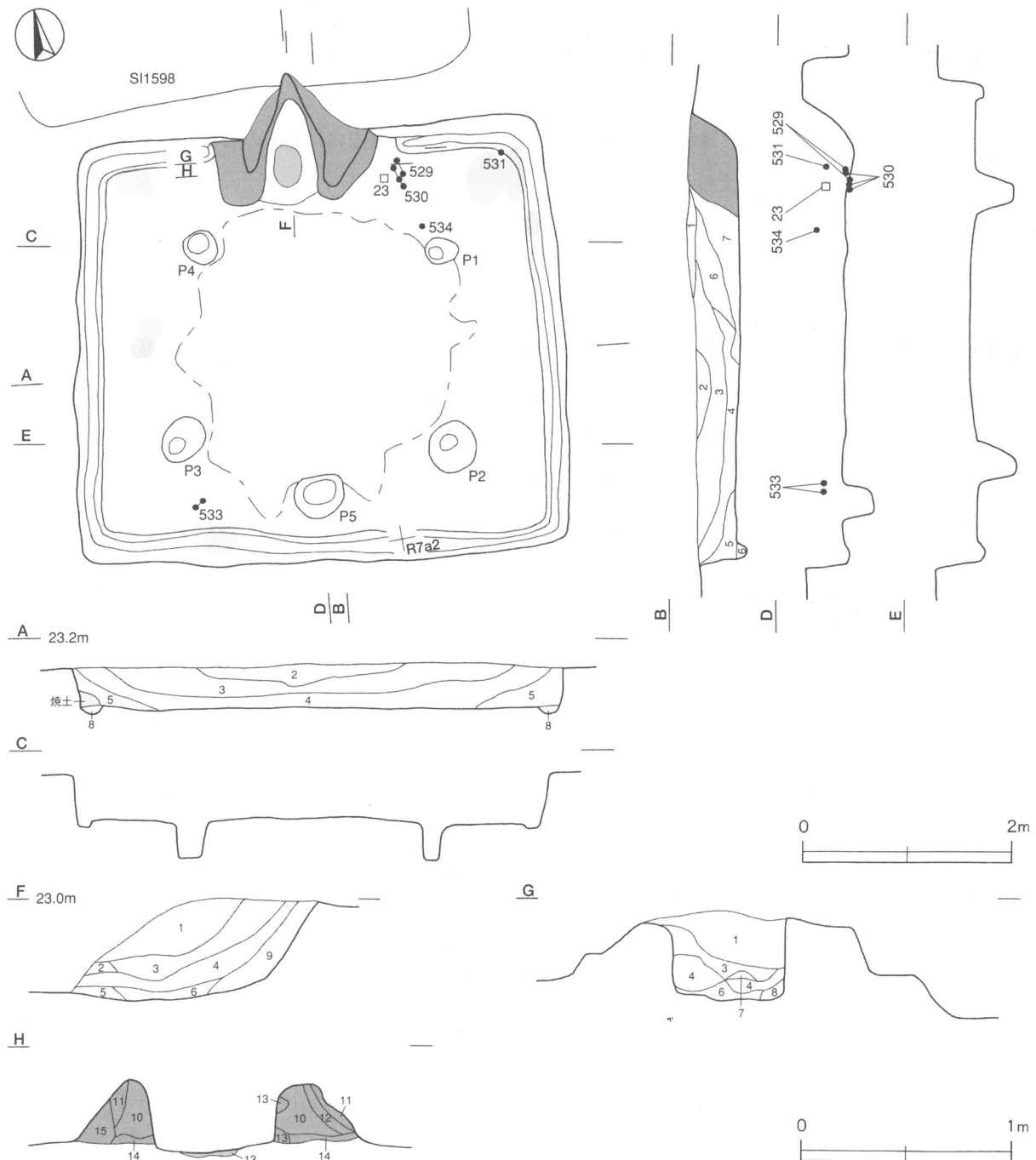
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
DP28	土玉	2.5	2.4	1.8	10.9	長石・赤色粒子	橙色，孔径0.6cm，ナデ，孔面にわずかな平坦面をもつ。	北部下層	PL73

第1592号住居跡（第202・203図）

位置 調査区中央部のR7j1区に位置し，平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1598号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.50m，短軸4.15mほどの方形で，主軸方向はN-11°-Eである。壁高は36~48cmで，各壁ともほぼ直立している。



第202図 第1592号住居跡実測図

床 ほぼ平坦で、ピットの内側がよく踏み固められており、壁溝が周回している。

竈 北壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで125cm、袖部幅170cmほどである。袖部は床面と同じ高さの地山面上に砂質粘土で構築されており、両袖とも内側が赤変している。火床部も地山面をそのまま使用し、火床面は被熱により赤変硬化している。また、煙道は急な傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------------|-----------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | 粘土粒子中量, 焼土粒子少量, ローム粒子微量 | 8 極暗赤褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子中量 |
| 2 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子中量 | 9 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子中量, ローム粒子少量 |
| 3 灰黄褐色 | 粘土粒子・砂粒多量, 焼土ブロック中量, 炭化物少量 | 10 にぶい黄褐色 | 粘土粒子・砂粒・炭化粒子多量, 焼土粒子少量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化物少量 | 11 暗褐色 | 粘土粒子・砂粒中量 |
| 5 灰褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量 | 12 にぶい黄褐色 | 粘土粒子・砂粒多量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物中量 | 13 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量, 粘土粒子・砂粒少量 |
| 7 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック多量, 炭化物少量 | 14 灰黄褐色 | 粘土粒子・砂粒多量, 焼土粒子微量 |
| | | 15 暗褐色 | 粘土粒子・砂粒中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |

ピット 5か所。支柱穴はP1～P4が相当し、深さは37～38cmである。P5は深さ32cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入口口施設に伴うピットである。

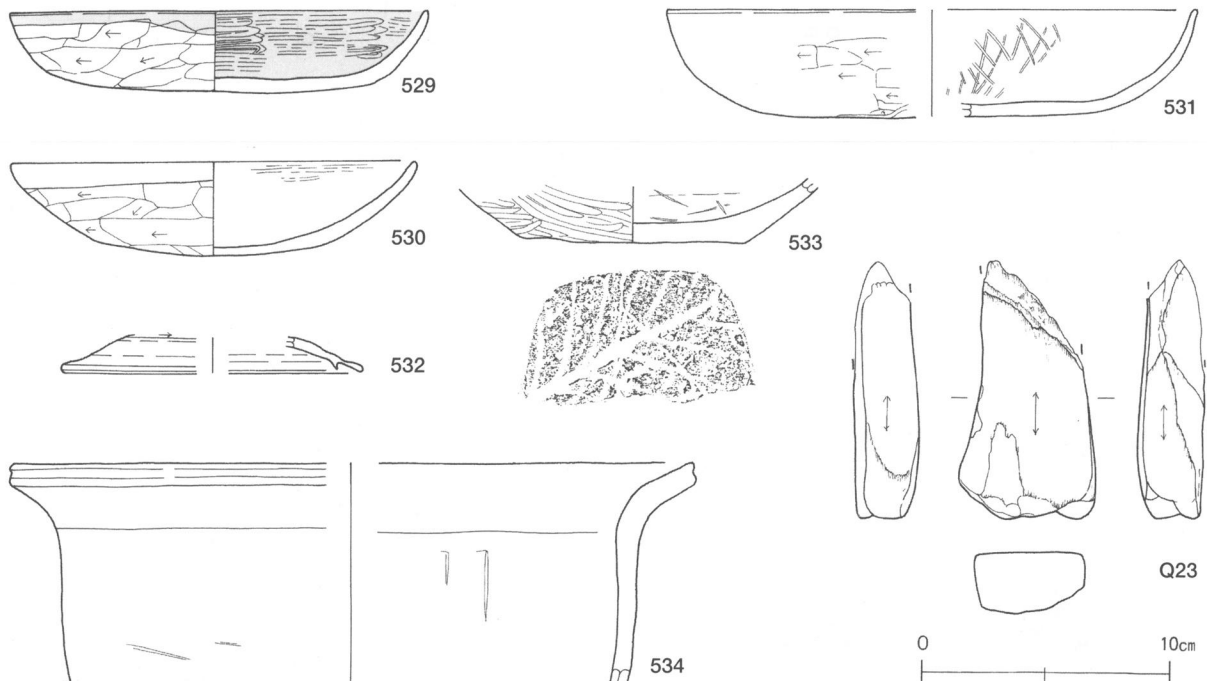
覆土 8層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。なお、各壁際には焼土の広がりが確認されており、焼失後に自然堆積したものと考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|--------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | 焼土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 灰褐色 | 粘土粒子・砂粒中量, 焼土粒子・炭化物少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 極暗褐色 | ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片486点(坏46, 盤3, 甕・甑437), 須恵器片42点(坏13, 蓋2, 甕・甑27), 砥石1点が北部を中心に出土している。床面直上から出土した遺物は少なく、焼土の上層からが大半であり、本住居焼失後の窪地に投棄されたことが推測される。529・530は竈の東側の覆土下層から重なり合って出土した破片が接合したものである。また、533は南壁際の覆土中層, 534は北東部の覆土中層から出土している。

所見 廃絶時期は、出土土器から8世紀前葉ないしそれ以前と考えられる。



第203図 第1592号住居跡出土遺物実測図

第1592号住居跡出土遺物観察表（第203図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
529	土師器	坏	16.8	3.3	-	長石・石英・黒色粒子	明赤褐	普通	底部二方向のヘラ削り，口縁部赤彩	竈東側下層	85%，PL59
530	土師器	坏	16.2	3.8	-	長石・石英・黒色粒子	明赤褐	普通	体部内面ヘラ磨き痕	竈東側下層	60%，PL59
531	土師器	皿	[21.2]	4.3	-	長石	にぶい赤褐	普通	内面格子状のヘラ磨き，外面ヘラ削り	北東部中層	10%
532	須恵器	蓋	[12.0]	(1.5)	-	長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	南東部上層	10%
533	土師器	甕	-	(2.2)	9.0	長石・石英	明赤褐	普通	底部内面ヘラナデ，底部木葉痕	南壁際中層	
534	土師器	甕	[27.0]	(8.8)	-	雲母・長石・石英	橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	北東部中層	

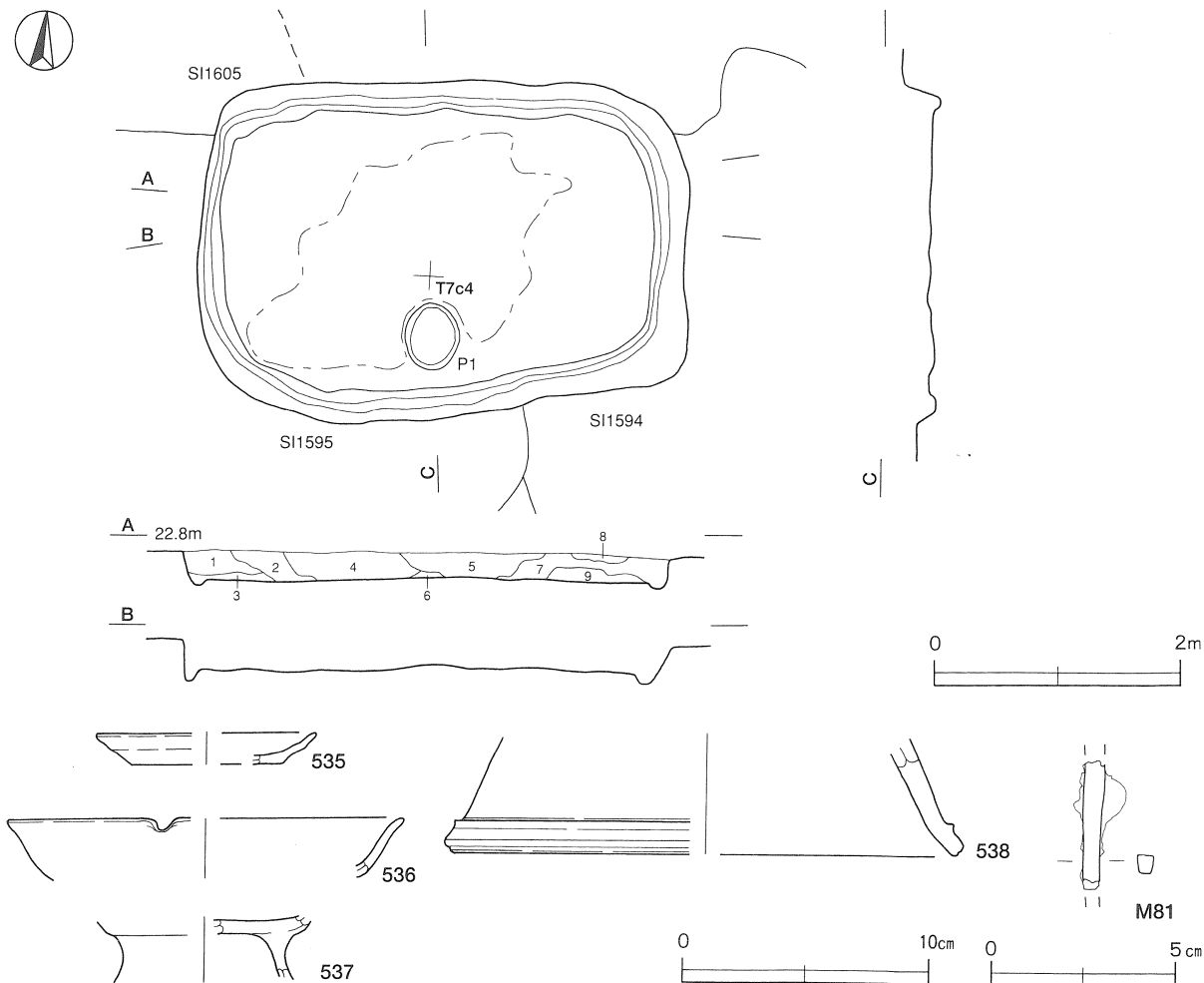
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
Q23	砥石	(10.4)	5.6	2.5	(162.0)	凝灰岩	砥面3面，その他は自然面，中央部折損	竈東側中層	PL76

第1593号住居跡（第204図）

位置 調査区中央部のT7b4区に位置し，平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1594・1595・1605号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.90m，短軸2.70mほどの長方形で，主軸方向はN-88°-Eである。壁高は10~23cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。



第204図 第1593号住居跡・出土遺物実測図

床 ほぼ平坦で、中央部から南西部にかけて踏み固められており、壁溝が全周している。

ピット 1か所。P1は深さ4cmで、浅い皿状を呈している。南壁際の中央部に位置し、その周囲にも硬化面が広がっていることから、出入口施設に伴うピットの可能性がある。

覆土 9層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------|--------|----------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック少量 | 6 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量 | 8 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量 | 9 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 |
| 5 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片39点（小皿1，坏・椀30，甕8），不明鉄製品1点（鉄鏃カ），混入と考えられる須恵器片27点が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており、そのほとんどが細片である。そのうち図示できたものは5点で、537は中央部の覆土下層，538は南西部の覆土上層から出土している。

所見 本跡からは竈が確認されておらず、何らかの工房跡の可能性も示唆されるが、それを裏付ける遺物は出土していない。時期は、重複関係と出土土器から10世紀後半以降と考えられる。

第1593号住居跡出土遺物観察表（第204図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
535	土師器	小皿	[8.8]	1.3	[6.0]	雲母・赤色粒子	褐灰	普通	底部回転ヘラ切り	西部覆土中	
536	土師器	椀	[15.8]	(2.4)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部ロクロナデ，口縁端部に輪花状の突出	西部覆土中	
537	土師器	椀	-	(2.6)	-	長石	橙	普通	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け，底部内面無調整	中央部下層	
538	須恵器	円面硯カ	-	(4.7)	[20.0]	長石	黄灰	良好	脚部ロクロナデ，下端に隆帯一条	南東部上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
M81	不明	(3.4)	0.6	0.5	(2.6)	鉄	断面方形の棒状	覆土中	

第1595号住居跡（第205図）

位置 調査区中央部のT7c3区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1594・1605号住居跡を掘り込み、第1593号住居と第1474号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.60m，短軸3.00mほどの長方形で、主軸方向はN-91°-Eである。壁高は8cmほどで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、西側部分から硬化面が確認されている。また、壁溝が周回している。

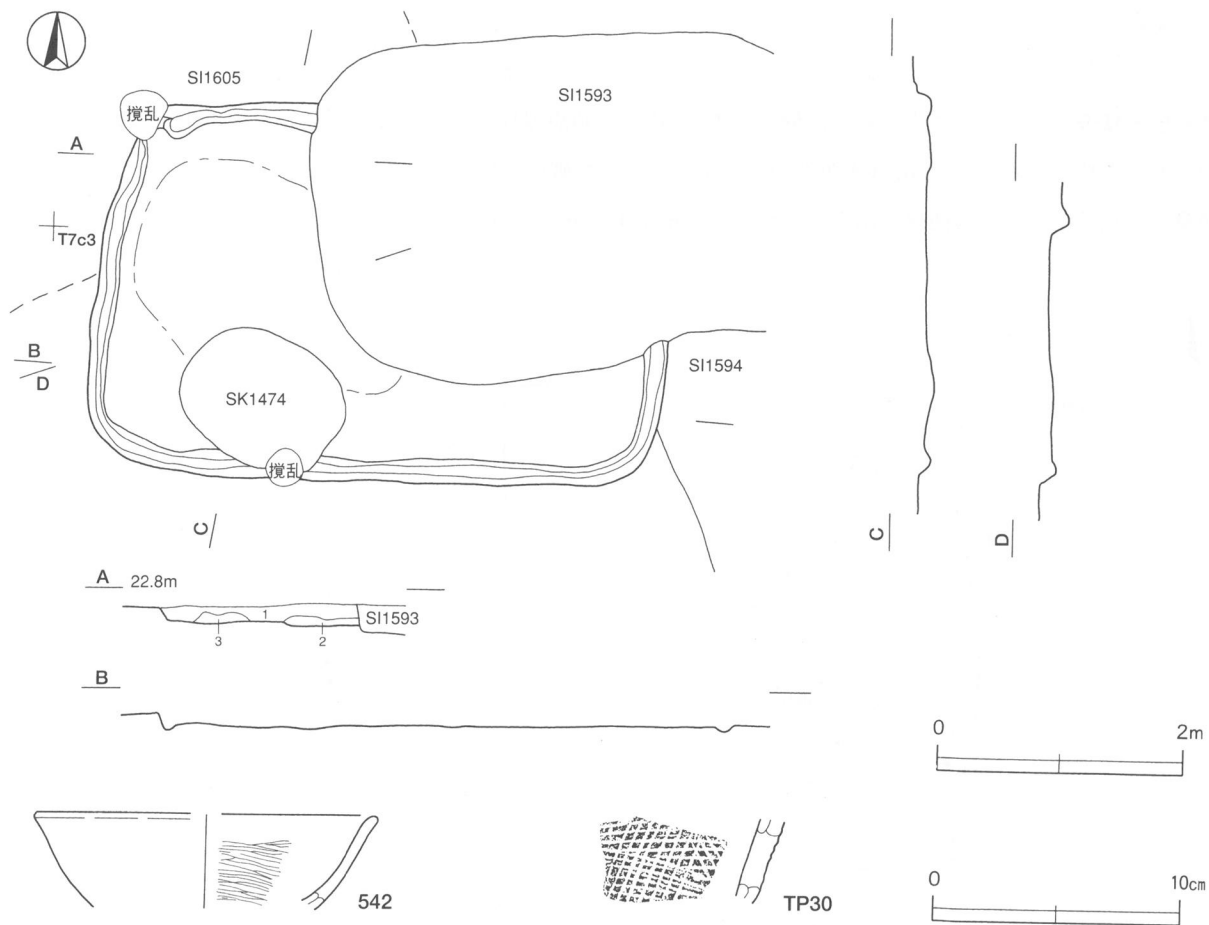
覆土 3層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量，焼土ブロック微量 | 3 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量 | | |

遺物出土状況 土師器片24点（坏13，甕11），須恵器片6点，縄文土器片1点が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており、そのほとんどが細片である。542は南西部の覆土中からの出土である。

所見 形状や硬化面の広がり，第1593号住居跡に類似している。時期は，出土土器や重複関係から10世紀代と考えられる。



第205図 第1595号住居跡・出土遺物実測図

第1595号住居跡出土遺物観察表（第205図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
542	土師器	椀	[13.6]	(3.8)	-	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部ロクロナデ，口縁端部摩滅	覆土中	
TP30	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	細線の斜格子目文	覆土中	早期中葉

第1597号住居跡（第206図）

位置 調査区中央部のR7i8区に位置し，平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1599号住居跡を掘り込み，第1578号住居と第144号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 南北軸は2.75mで，東西軸は第1578号住居跡に掘り込まれているために1.40mだけが確認されている。南壁の指す方向から判断して，N-1°-Wを主軸とする方形または長方形と推定される。壁高は17~28cmで，各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，北西部の壁際を除いて踏み固められており，壁溝が周回している。

竈 北壁際に粘土粒子が散在しており，竈材の一部が流出したものと考えられることから，その付近に竈が構築されていたと推測される。

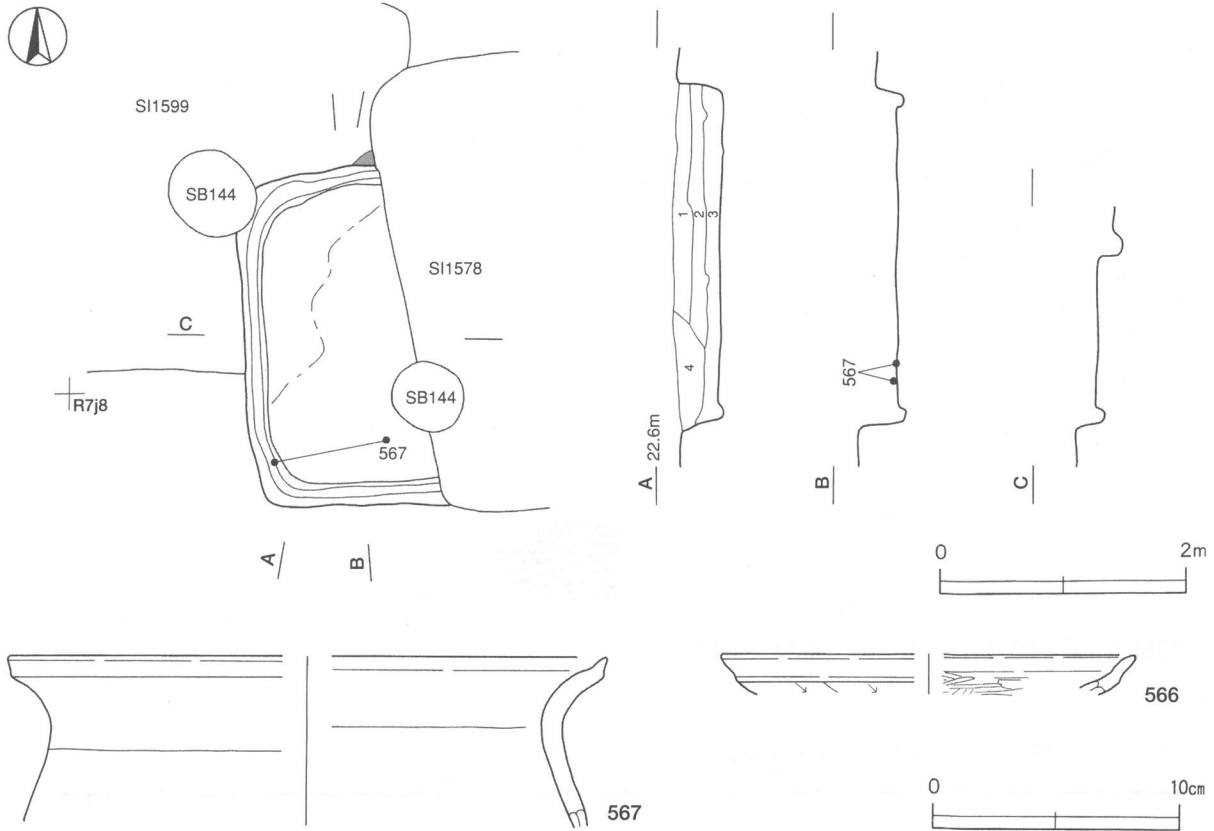
覆土 4層からなり，レンズ状に堆積した自然堆積である。また，南壁際の覆土上層には焼土の投げ込みが認められる。

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------|--------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物微量 | 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化物少量 |

遺物出土状況 土師器片85点(坏8, 盤2, 甕・甑75), 須恵器片2点(坏2)が散在して出土している。566は南西部の覆土下層から, 567は南西部の床面から出土した破片が接合したものである。

所見 廃絶時期は, 重複関係と出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第206図 第1597号住居跡・出土遺物実測図

第1597号住居跡出土遺物観察表 (第206図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
566	土師器	杯	[16.6]	(1.6)	-	長石・石英	橙	普通	体部内面へラ磨き, 口縁端部沈線一条	南西部下層	
567	土師器	甕	[24.0]	(6.7)	-	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ	南部床面	

第1599号住居跡 (第207図)

位置 調査区中央部のR7i8区に位置し, 平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1578・1597号住居と第142・144号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.90m, 短軸3.50mほどの若干歪んだ方形で, 主軸方向は南壁の指す方向を基準にするとN-3°-Eである。壁高は16~32cmで, 各壁とも急な傾斜で立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められており, 壁溝が周回している。また, 南西部からは焼土塊が認められ, 焼失住居の可能性も考えられるが, それ以外の場所からは確認されていない。

ピット 1か所。P1は深さ18cmで、南壁際に位置していることや硬化面の広がりや重なることなどから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

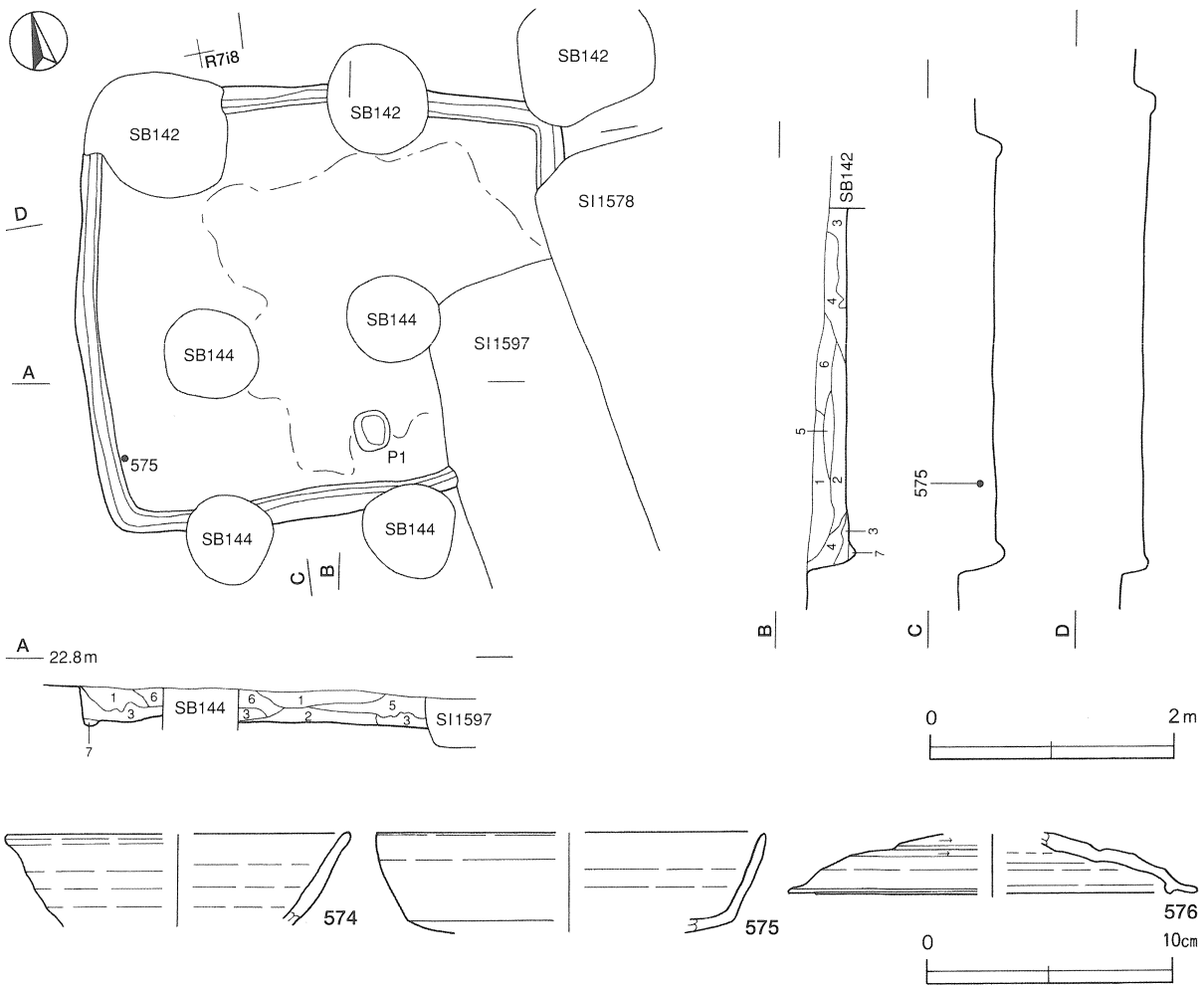
覆土 7層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック少量 | 6 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片94点(坏9, 甕・甑85), 須恵器片10点(坏6, 蓋1, 甕・甑3)が散在して出土している。575は南西部の覆土下層から出土している。

所見 廃絶時期は, 出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第207図 第1599号住居跡・出土遺物実測図

第1599号住居跡出土遺物観察表 (第207図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
574	須恵器	坏	[13.8]	(3.7)	-	雲母・長石・石英	灰白	普通	体部ロクロナデ	北東部覆土中	10%
575	須恵器	坏	[15.6]	(4.0)	-	雲母・長石・石英	灰	普通	体部ロクロナデ	南西部下層	10%
576	須恵器	蓋	[16.6]	(2.4)	-	長石・石英	灰白	普通	天井部回転ヘラ削り	北東部覆土中	10%

第1600号住居跡（第208・209図）

位置 調査区中央部のS7i3区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1608・1617号住居跡を掘り込んでいる。

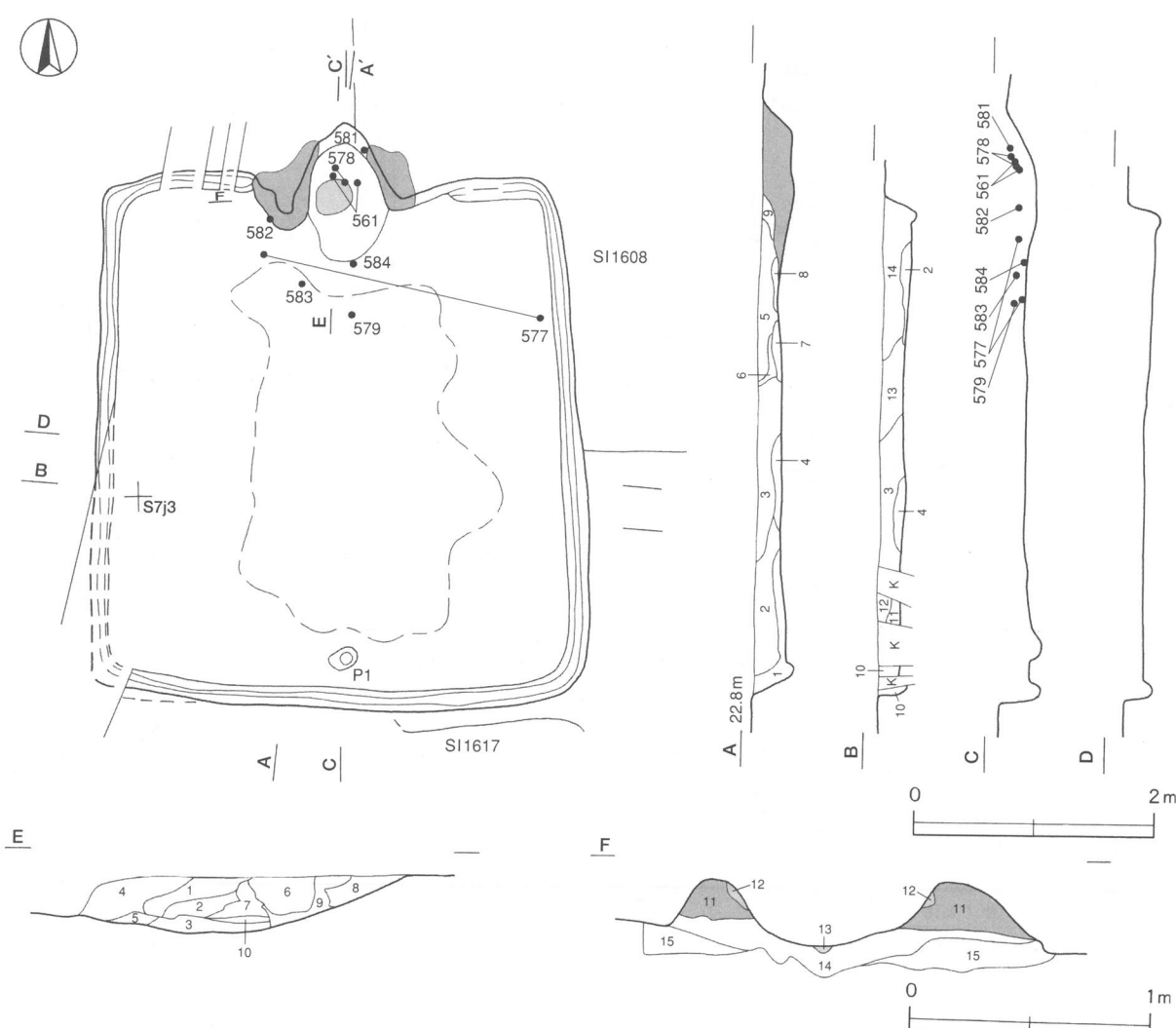
規模と形状 長軸4.40m、短軸3.95mほどの長方形で、主軸方向はN-1°-Wである。壁高は17~22cmで、各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、出入り口付近から竈の手前にかけて踏み固められており、壁溝が周回している。

竈 北壁の中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで115cm、袖部幅135cmで、壁外への掘り込みは45cmほどである。袖部は床面から10cmほど掘りくぼめた部分にローム土を埋め戻して基部とし、その上部に砂質粘土を用いて構築されており、両袖部とも内側が被熱している。火床部も同様に、10cmほど掘りくぼめた部分にローム土を埋め戻して使用しており、火床面が赤変硬化している。煙道の立ち上がり部には土師器甕が逆位で据えられて、支脚として使用されている。また、煙道は外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|----------|-------------------------------|
| 1 極暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化物少量 | 7 オリーブ黄色 | 粘土粒子・砂粒多量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量 |
| 4 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量 |
| 5 黒褐色 | 焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | | |



第208図 第1600号住居跡実測図

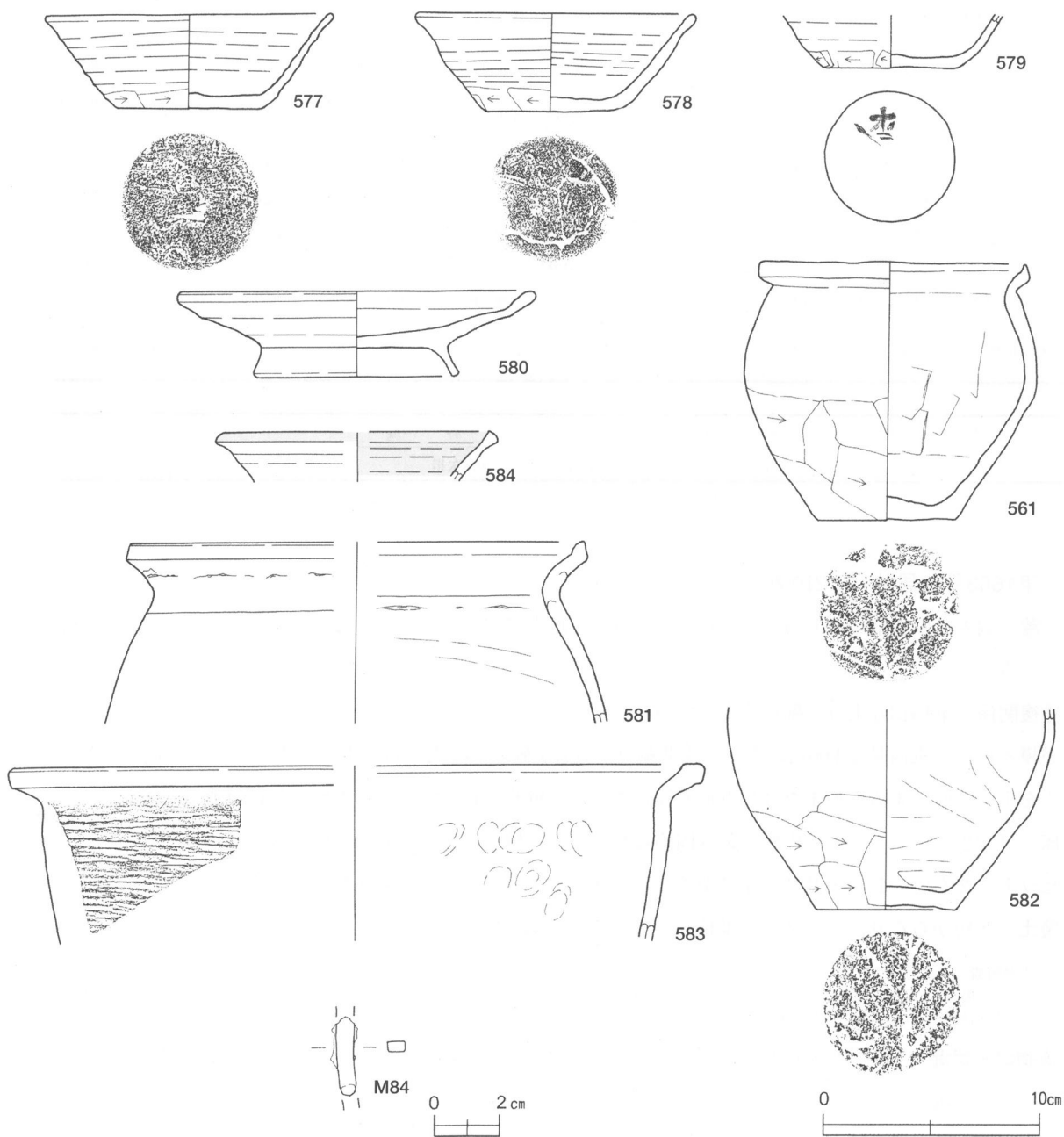
- | | |
|-------------------------------|-----------------------------|
| 10 暗赤褐色 焼土粒子多量 | 13 暗赤褐色 焼土粒子中量 |
| 11 オリーブ褐色 粘土粒子・砂粒中量, 焼土ブロック少量 | 14 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 |
| 12 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量 | 15 褐色 ロームブロック中量 |

ピット 1か所。P1は出入り口施設に伴うピットで、深さは12cmである。

覆土 14層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|--------------------------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量 | 8 黒褐色 炭化物少量, 粘土粒子・砂粒微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量 | 9 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量 | 10 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 4 極暗褐色 炭化物少量, ローム粒子微量 | 11 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 ロームブロック少量 | 12 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化物少量 |
| 6 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化物少量 | 13 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 |
| 7 褐色 ロームブロック中量 | 14 極暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化物微量 |



第209図 第1600号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片281点（坏・椀36，甕・甑245），須恵器片106点（坏・高台付坏45，蓋7，盤3，甕・鉢・甑51），灰釉陶器片1点（瓶カ），不明鉄製品1点が，竈周辺を中心に出土している。561は竈の支脚に転用された土師器甕で，煙道の立ち上がり部から逆位で出土し，被熱痕が認められる。また，578・581は竈内から，579・582～584は竈手前の覆土下層から出土している。

所見 廃絶時期は，出土土器から9世紀中葉と考えられる。本住居のように若干縦長の平面形で，主柱穴をもたない住居形態は，第1355号住居など当該期にいくつか類例が見られる。

第1600号住居跡出土遺物観察表（第209図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
577	須恵器	坏	13.0	4.4	6.5	雲母・長石・石英	褐灰	普通	底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラ削り	東壁際床面・竈手前下層	95%，PL59
578	須恵器	坏	12.3	4.5	5.8	長石・石英	褐灰	普通	底部一方向のヘラ削り	竈覆土中	60%
579	須恵器	坏	-	(2.5)	6.1	雲母・長石・石英	灰白	普通	底部一方向のヘラ削り	竈手前下層	底部外面墨書「坐カ」,20%,PL70
580	須恵器	盤	16.0	3.9	9.4	雲母・長石・石英	褐灰	普通	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け	覆土下層	90%，PL59
581	土師器	甕	[20.4]	(8.3)	-	雲母・長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面ナデ，内面ヘラナデ，輪積み痕	竈覆土中	
582	土師器	甕	-	(9.1)	6.4	雲母・長石・石英	明赤褐	普通	体部外面上位ナデ，下位ヘラ削り	竈手前下層	20%
561	土師器	甕	12.2	11.7	6.2	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面上位ナデ，下位ヘラ削り	竈火床部	支脚転用,85%,PL59
583	須恵器	鉢	[31.2]	(8.0)	-	雲母・長石・石英	灰	普通	体部内面指頭痕	竈手前下層	
584	灰釉陶器	長頸瓶	[12.0]	(2.3)	-	黒色粒子	灰白・灰オリーブ	良好	口縁部ロクロナデ	竈手前床面	猿投産

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M84	不明	(2.4)	0.5	0.3	(1.5)	鉄	断面長方形の棒状，両端欠損	南東部覆土中	

第1603号住居跡（第210図）

位置 調査区中央部のR 6 f0区に位置し，平坦な台地上に立地している。なお，北側部分は調査区域外に延びている。

重複関係 第1513号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東西軸は4.00mほどで，南北軸は2.00mが確認されただけであり，南壁の指す方向からN-1°-Wを主軸方向とする方形または長方形と推定される。壁高は18～25cmで，各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，ピットの内側が踏み固められており，壁溝が確認された壁際を巡っている。

ピット 2か所。P1・P2は深さがそれぞれ89cm，67cmで，形状から主柱穴と考えられる。

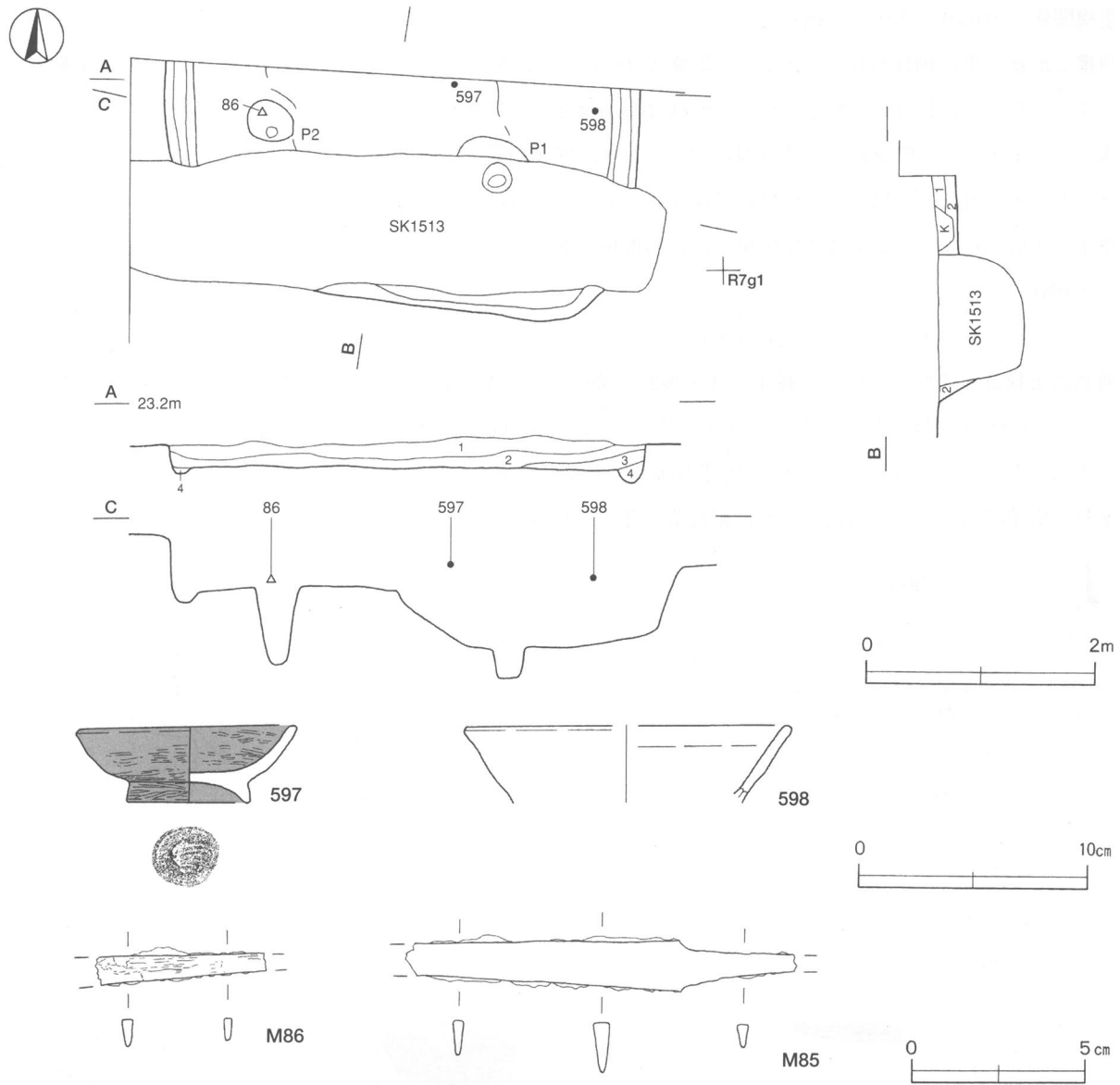
覆土 4層からなり，レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------|--------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 極暗褐色 | ローム粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片126点（坏・椀18，甕・甑108），須恵器片34点（坏15，甕・甑19），刀子2点，不明鉄製品1点，混入した土師器高坏片1点がほぼ全域から散在して出土している。土器片は床面から出土しているものが少なく，597は中央部の覆土中層から，598は東壁際の覆土下層から出土している。

所見 調査できた部分が限られているため時期を判断する資料に乏しいが、598の形状や遺構の形態から9世紀代と考えられる。



第210図 第1603号住居跡・出土遺物実測図

第1603号住居跡出土遺物観察表（第210図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
597	土師器	小椀	9.3	3.4	5.2	雲母	黒	普通	底部回転糸切り後、高台貼り付け	中央部中層	80%, PL59
598	須恵器	坏	[13.8]	(3.3)	-	雲母・長石	灰白	普通	体部ロクロナデ	東壁際下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M85	刀子	(11.2)	1.4	0.5	(17.5)	鉄	刃先部・茎尻部欠損、両関	南東部覆土中	PL78
M86	刀子	(4.9)	(0.8)	0.3	(5.0)	鉄	茎部の破片、木質付着	P2上面	PL78

第1604号住居跡（第211図）

位置 調査区中央部のR 8 g1区に位置し、平坦な台地上に立地している。なお、北側部分は調査区域外に延びている。

重複関係 第1601号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 東西軸は4.00mほどで、南北軸は1.00mだけが確認されており、平面形はN - 1° - Wを主軸方向とする方形または長方形と想定される。壁高は58cmほどで、壁は直立している。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められており、壁溝が巡っている。

ピット 1か所。P1は出入口施設に伴うピットで、深さは16cmである。

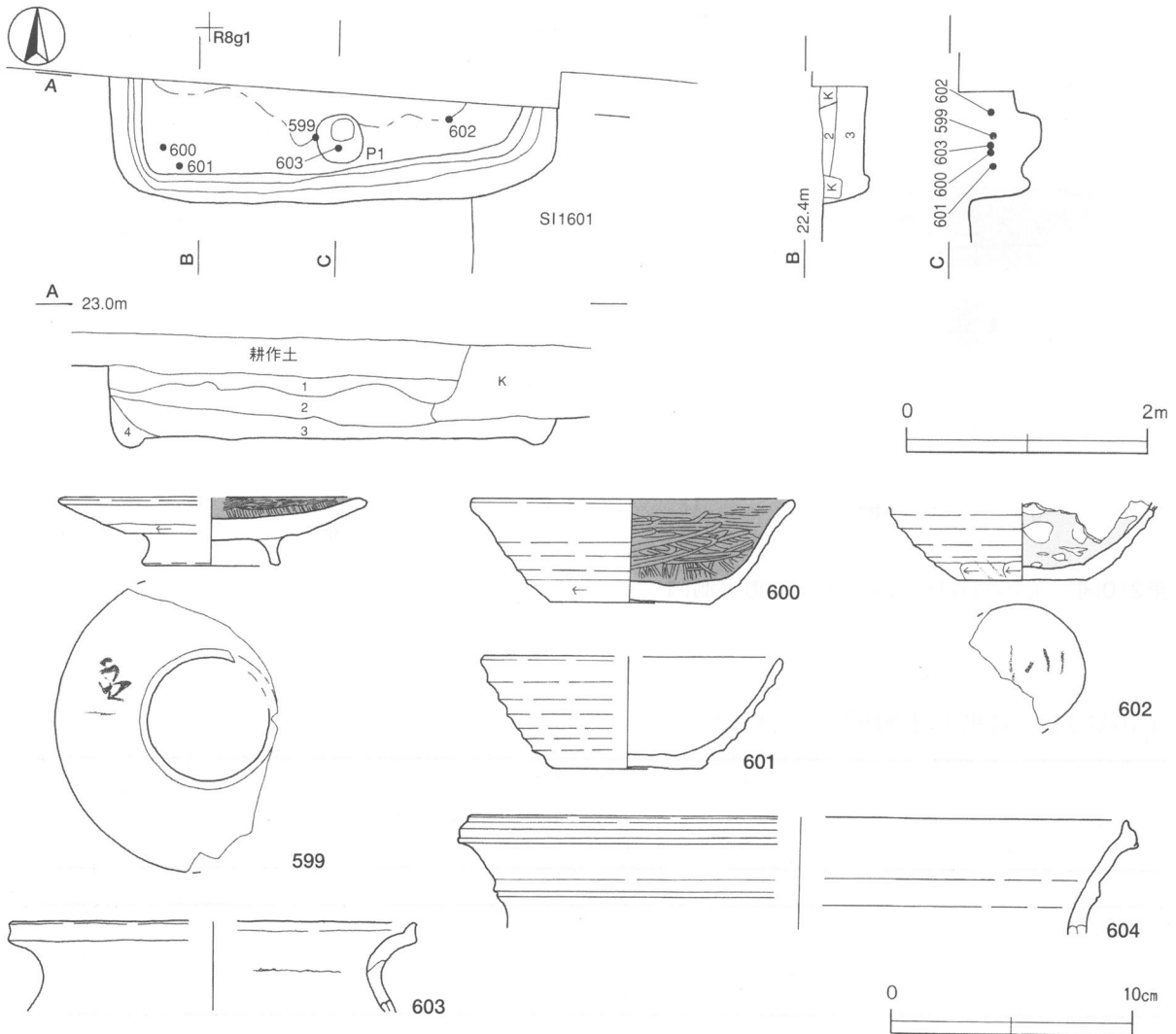
覆土 4層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

- | | |
|---------------------------|------------------------------|
| 1 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 暗褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 4 褐色 ロームブロック多量 |

遺物出土状況 土師器片85点（皿1，坏・碗21，甕63），須恵器片21点（坏13，甕・甑8）が散在して出土している。600・601は南西コーナー部の覆土中層から、599・603は南壁際の覆土中層から出土している。また、南東部の覆土下層から出土した602の底部内面には朱墨痕が認められる。

所見 廃絶時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第211図 第1604号住居跡・出土遺物実測図

第1604号住居跡出土遺物観察表 (第211図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
599	土師器	皿	[12.2]	2.8	4.4	石英	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	南壁際中層	体部外面墨書 「□」,50%,PL69
600	土師器	坏	13.2	4.3	6.5	雲母・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	南西部中層	80%, PL59
601	須恵器	坏	[12.0]	4.7	6.2	雲母・長石・石英	褐灰	普通	底部回転ヘラ削り後、一方向のヘラ削り	南西部中層	40%
602	須恵器	坏	-	(3.1)	[5.2]	雲母・長石・石英	暗灰黄	普通	底部回転ヘラ削り後、一方向のヘラ削り	南東部中層	底部外面墨書 「川カ」,内面朱墨痕,10%,PL69
603	土師器	甕	[16.6]	(3.2)	-	雲母・長石・石英	橙	普通	口縁部横ナデ、輪積み痕	南壁際中層	
604	須恵器	甕	[27.0]	(4.6)	-	黒色粒子	黄灰	良好	口縁部ロクロナデ、頸部に隆帯一条	覆土上層	湖西産カ

第1606号住居跡 (第212図)

位置 調査区中央部のT7c2区に位置し、平坦な台地上に立地している。

規模と形状 床面が露出した状態で確認されたため、暗褐色を呈した床面の広がりから、N-2°-Wを主軸方向とする長軸4.60m、短軸4.10mほどの方形と推定される。

床 中央部にわずかに硬化面が認められるだけであり、詳細は不明である。

竈 北壁中央部に砂質粘土を用いて構築されている。右袖部と火床部の一部が確認されており、火床面は被熱し、赤変硬化している。

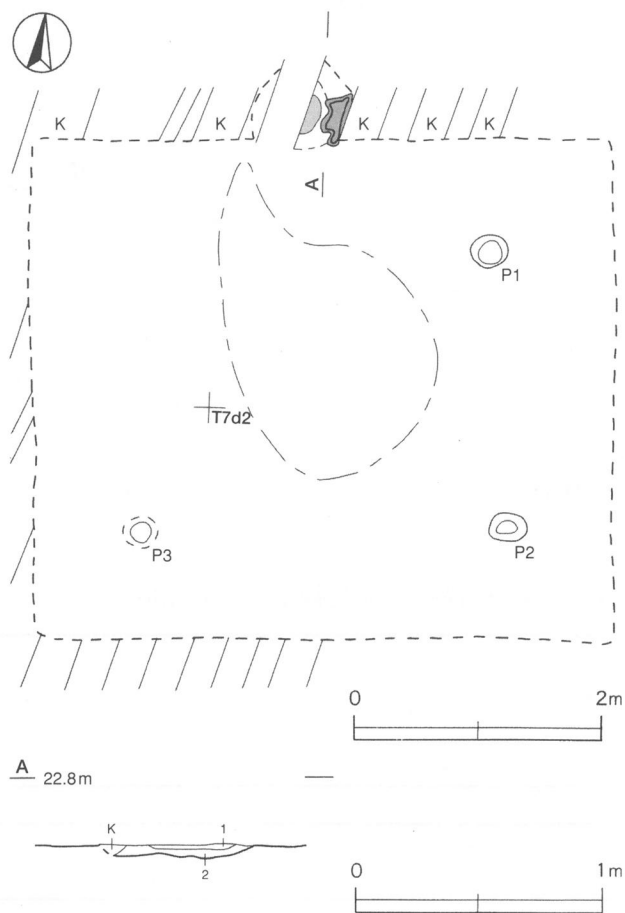
竈土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量

ピット 3か所。P1~P3は深さが5~11cmでいずれも浅いが、位置から支柱穴の可能性はある。4本主柱を想定した場合の北西部のピットは、攪乱を受けているために不明である。

遺物出土状況 土師器片23点(坏・碗10, 甕・甌13), 須恵器片4点(坏)が散在して出土している。

所見 形状をうかがい知ることのできる土器が出土していないため時期の特定は困難であるが、須恵器坏と土師器碗が共伴していることから見て、9世紀後半ないし10世紀前半に廃絶したと考えられる。



第212図 第1606号住居跡実測図

第1607号住居跡（第213図）

位置 調査区中央部のT7a2区に位置し、平坦な台地上に立地している。

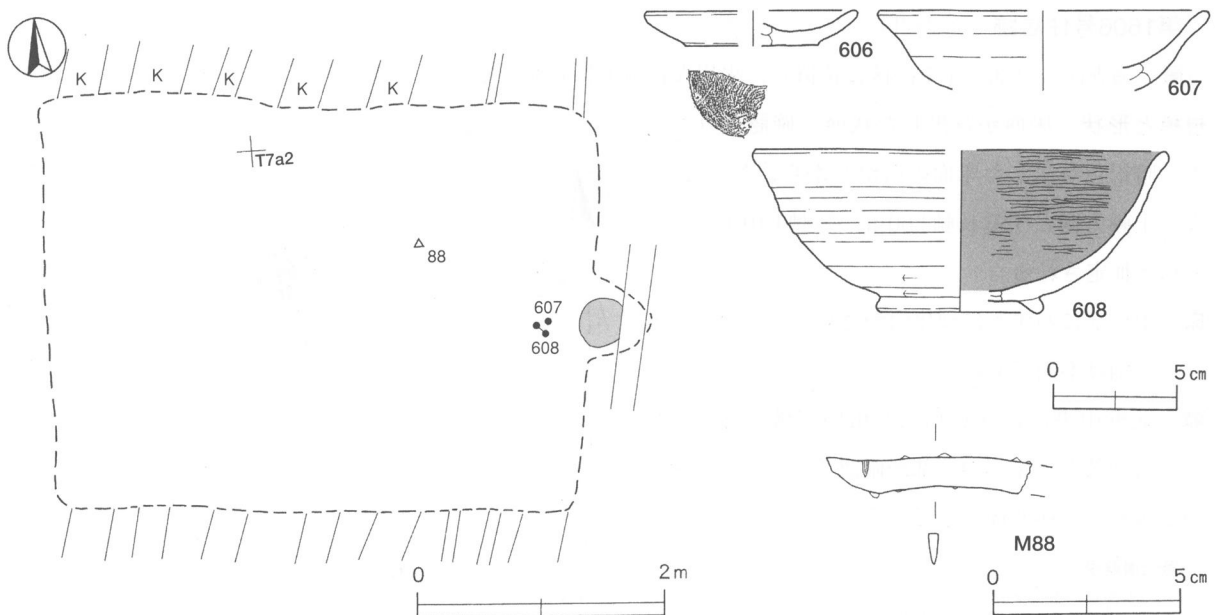
規模と形状 床面が露出した状態で確認されたため、暗褐色を呈した床面の広がりから、N-93°-Eを主軸方向とする長軸4.45m、短軸3.25mほどの長方形と推定される。

床 硬化面は耕作等により削平されたと考えられ、詳細は不明である。

竈 東壁中央部に付設されている。遺存状態が悪く、火床面の一部が確認されただけであり、竈材等も不明である。

遺物出土状況 土師器片33点（小皿2、坏・碗8、甕・甑23）、刀子1点が竈付近を中心に出土している。607・608はいずれも竈手前の床面から出土したものである。また、M88は中央部東寄りの床面から出土している。

所見 時期は、出土土器や東竈を有する住居形態から10世紀後半以降と考えられる。



第213図 第1607号住居跡出土遺物実測図

第1607号住居跡出土遺物観察表（第213図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
606	土師器	小皿	[8.0]	1.4	[5.2]	石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	南東部覆土中	20%
607	土師器	坏	[13.2]	(3.2)	-	石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部クロロナデ	竈手前床面	20%
608	土師器	碗	[16.6]	6.4	6.8	雲母・長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	竈手前床面	25%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M88	刀子	(5.6)	1.0	0.3	(5.2)	鉄	刃部の破片、刃先部に繊維質付着、刃部はわずかに彎曲する	中央部床面	PL78

第1608号住居跡（第214・215図）

位置 調査区中央部のS7i4区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1618号住居跡を掘り込み、第1600号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.20m, 短軸5.80mほどの方形で, 主軸方向はN-1°-Wである。壁高は28~33cmで, 各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で, ピットの内側が踏み固められており, 壁溝が周回している。また, 東壁際から焼土の広がりが確認されている。

竈 北壁中央部に付設されており, 規模は焚口部から煙道部まで105cm, 袖部幅150cmほどである。袖部は床面から20cmほど皿状に掘りくぼめた部分に, 砂質粘土を用いて構築されている。火床面は, 袖部を構築した後に床面の高さまでローム土を埋め戻して使用しており, 赤変硬化している。煙道は火床部から緩やかに外傾した後, ほぼ直立している。また, 煙道の奥壁や袖部の外側の壁にも砂質粘土が貼られており, 防火・防熱的な役割をしていたことが推測される。

竈土層解説

1	オリーブ褐色	粘土粒子・砂粒中量, 焼土ブロック・炭化物少量	11	にぶい赤褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
2	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量	12	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化物少量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒少量	13	オリーブ褐色	焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒少量
4	黒褐色	炭化粒子中量, 焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量	14	にぶい赤褐色	焼土粒子中量, 炭化粒子少量
5	オリーブ褐色	焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒少量	15	オリーブ褐色	粘土粒子・砂粒中量, 焼土ブロック少量
6	黒褐色	炭化粒子中量, 焼土粒子少量	16	にぶい黄褐色	焼土ブロック中量, 炭化物・粘土粒子・砂粒少量
7	暗赤褐色	焼土粒子中量, 炭化粒子少量	17	黒褐色	焼土粒子・炭化物・粘土粒子・砂粒少量
8	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量	18	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量, 炭化物・粘土粒子・砂粒少量
9	褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量	19	オリーブ褐色	焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量, 炭化粒子少量
10	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量	20	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量, 炭化物少量
			21	オリーブ褐色	粘土粒子・砂粒多量, 焼土ブロック・炭化物少量
			22	暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量, 炭化物少量

ピット 9か所。主柱穴はP1~P4が相当し, 深さは60~76cmである。P5・P6は出入り口施設に伴うピットで, 深さはそれぞれ35cm, 26cmである。また, P7~P9は南部の硬化面下から確認されており, 深さはそれぞれ73cm, 55cm, 36cmで, 位置と形状からP7・P8は主柱穴, P9は出入り口施設に伴うピットと判断できる。さらに, P1から深い掘り込み2か所が確認されており, P7・P8が硬化面下から確認されたことと合わせて, 拡張に伴う建て替えが行われたものと推測される。

P8土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土ブロック微量	3	黒褐色	ロームブロック少量
2	暗褐色	ロームブロック少量	4	暗褐色	ロームブロック中量

覆土 20層からなり, ブロック状に堆積した人為堆積である。また, 東壁際の床面から焼土の広がりが確認されており, 焼失後に埋め戻されたことが推測される。

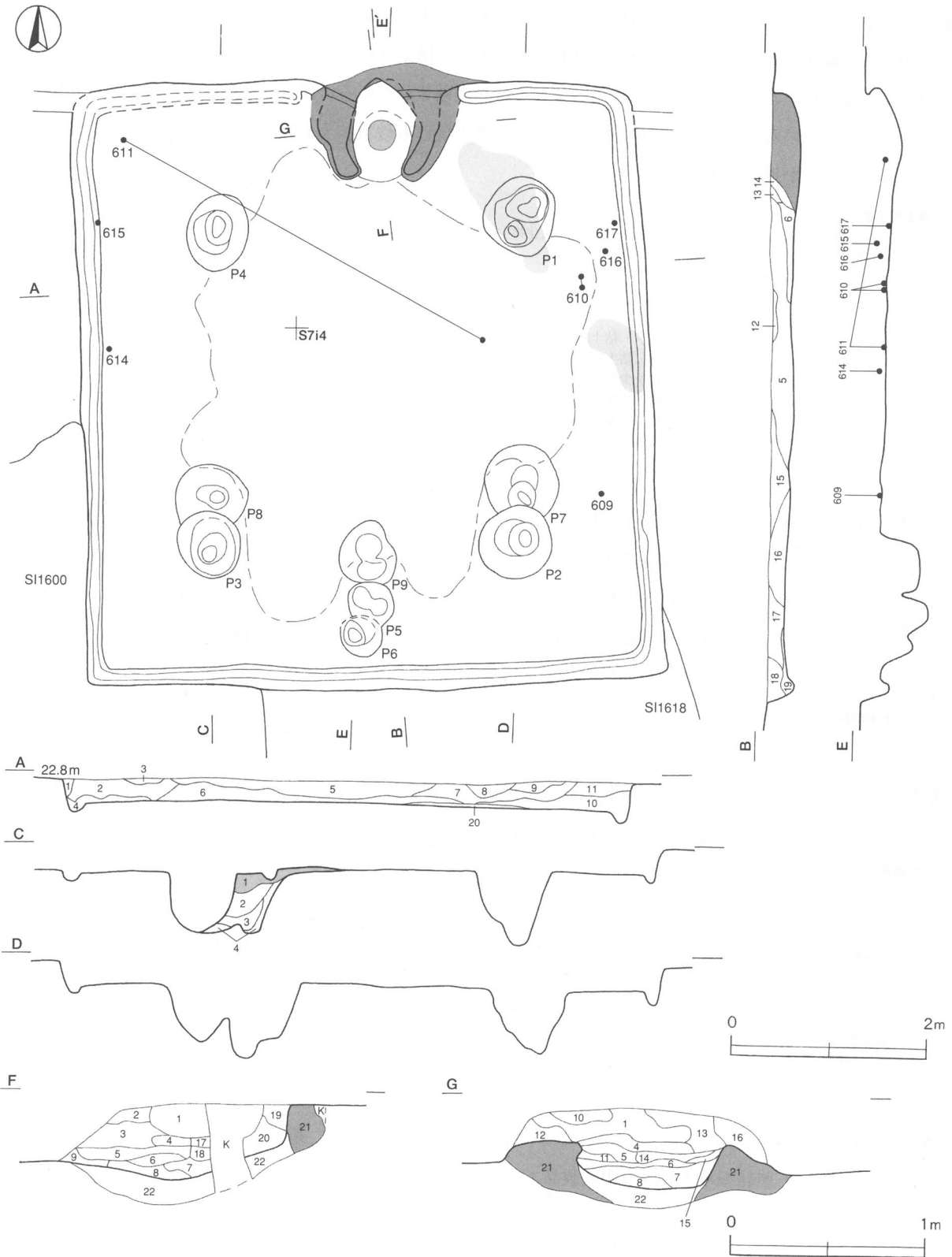
土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量	11	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量
2	黒褐色	焼土粒子・炭化物少量	12	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量	13	暗褐色	粘土粒子・砂粒中量, 焼土ブロック・炭化物少量
4	極暗褐色	ロームブロック・炭化物少量	14	暗褐色	粘土粒子・砂粒少量, 焼土ブロック・炭化物少量
5	黒褐色	焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒少量, ローム粒子微量	15	黒褐色	焼土ブロック中量, 炭化物少量
6	黒褐色	ロームブロック・炭化物少量, 焼土ブロック微量	16	黒色	焼土ブロック・炭化物少量
7	暗赤褐色	焼土ブロック中量, 炭化物・粘土粒子・砂粒少量	17	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
8	暗赤褐色	焼土ブロック少量	18	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
9	暗赤褐色	焼土ブロック少量, 炭化粒子微量	19	極暗褐色	ロームブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒少量
10	黒褐色	焼土ブロック少量, 炭化物微量	20	暗赤褐色	焼土ブロック中量, 炭化物少量

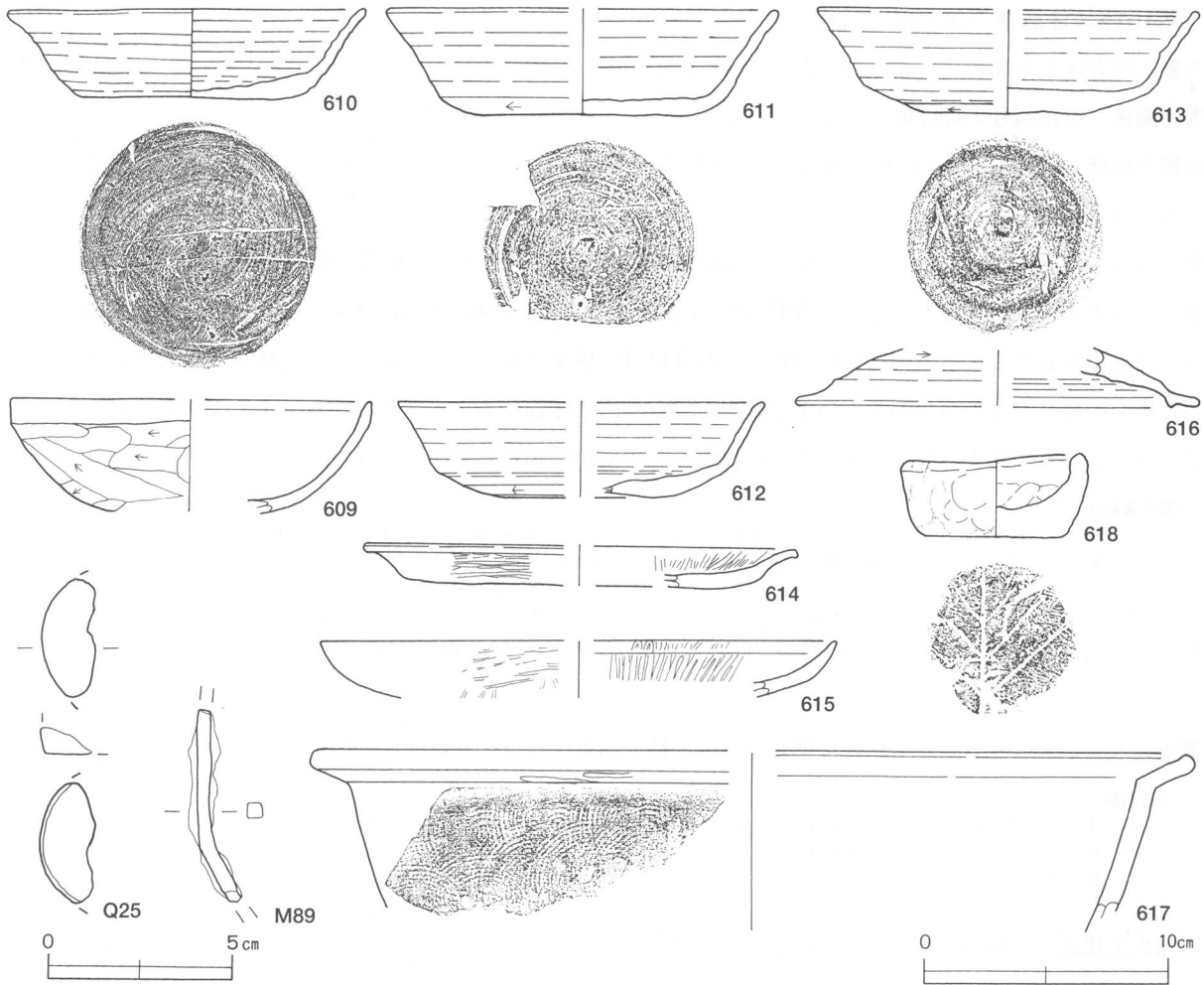
遺物出土状況 土師器片1225点(坏159, 皿2, 甕・甑1063, 手捏1), 須恵器片129点(坏67, 蓋23, 盤1, 甕・鉢・甑38), 石製紡錘車1点, 不明鉄製品1点(釘カ), 支脚1点が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており, 破断面の摩滅が少ないことや, 大半が焼土の上面から出土していることなどから, 本住居の焼失後に埋め戻される段階で投棄されたものと推測される。609・616・617は東壁寄りの覆土下層から出土している。611は北西コーナー部と中央部東寄りの覆土下層から出土した破片が接合したものである。また, 618はP2内

から、M89は床下から出土している。

所見 鉄製品が床下から、手捏土器がP 2内から出土しており、それぞれ住居構築時、住居廃絶時の意図的な行為とみられることもできる。廃絶時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第214図 第1608号住居跡実測図



第215図 第1608号住居跡出土遺物実測図

第1608号住居跡出土遺物観察表 (第215図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
609	土師器	坏	[14.6]	(4.6)	-	雲母・長石・石英	橙	普通	口縁部横ナデ, 体部内面ナデ	東部床面	25%
610	須恵器	坏	14.2	3.6	8.8	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	底部不定方向のヘラ削り	東部床面	底部外面鏡書 「-」.60%
611	須恵器	坏	[15.4]	4.3	8.4	雲母・長石・石英	黄灰	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	北西部・ 中央部下層	40%
612	須恵器	坏	[14.6]	3.9	[6.0]	雲母・長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り	P 6 覆土中	40%
613	須恵器	坏	[15.2]	4.2	7.0	雲母・長石・石英	暗灰黄	普通	底部回転ヘラ削り	覆土中	40%
614	土師器	皿	[17.2]	1.7	[14.4]	雲母・長石・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り後, ヘラ磨き	西壁際下層	15%
615	土師器	皿	[20.6]	(2.3)	-	雲母・長石	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ削り後, ヘラ磨き	西壁際中層	
616	須恵器	蓋	[16.2]	(2.3)	-	雲母・長石・石英	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り	東部下層	20%
617	須恵器	鉢カ	[35.0]	(7.1)	-	雲母・長石・石英	褐灰	普通	体部内面ナデ	東部下層	
618	土師器	手捏	7.0	3.4	5.7	雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	体部ナデ, 指頭痕, 輪積み痕	P 2 覆土中	80%, PL71

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q25	紡錘車	(3.2)	(1.5)	(0.7)	(3.7)	粘板岩	孔面の一部残存, 孔不明	西部下層	
M89	釘カ	(5.1)	0.4	0.4	(5.0)	鉄	断面方形の棒状, 中位で屈曲し, ややねじれる	北西部下層	

第1615号住居跡 (第216・217図)

位置 調査区中央部のS 614区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1524号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.05m、短軸3.00mほどの方形で、主軸方向はN-2°-Eである。壁高は18~25cmで、各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、出入り口付近から竈の手前かけて踏み固められており、壁溝が周回している。

竈 北壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで95cm、袖部幅105cmほどである。袖部は掘り残した地山を芯としてその周囲に砂質粘土を貼り付けて構築されており、両袖とも内側が被熱している。火床部は床面と同じ高さの地山面をそのまま使用しており、火床面が若干赤変している。また、煙道の立ち上がり部には土製支脚が据えられており、煙道は外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|----------------------------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 粘土粒子・砂粒多量, ローム粒子少量 | 5 暗赤褐色 焼土粒子・炭化物・粘土粒子・砂粒中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量 | 6 褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック多量, ロームブロック少量 | 7 暗褐色 粘土粒子・砂粒多量, ロームブロック中量 |
| 4 極暗褐色 炭化物多量, 焼土粒子中量 | 8 極暗赤褐色 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子少量 |

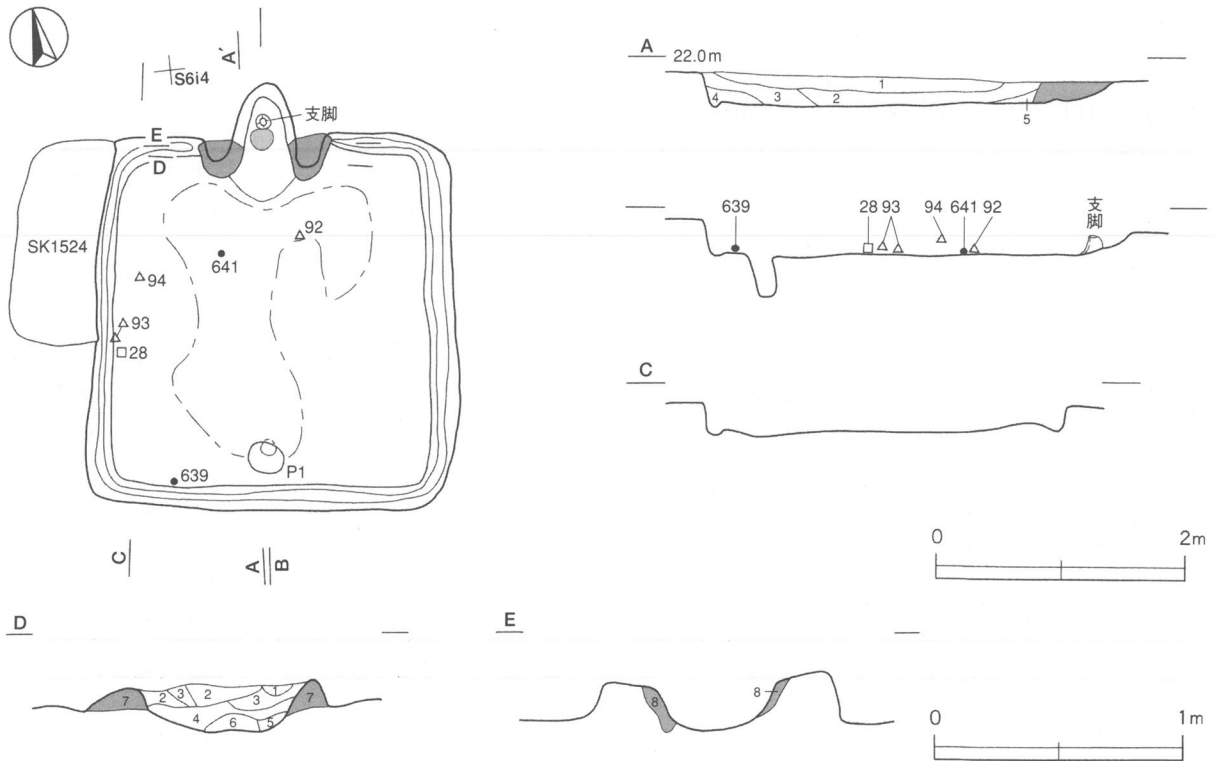
ピット 1か所。P1は深さ38cmの出入り口施設に伴うピットで、壁際から中央部に向かって斜めに掘り込まれている。

覆土 5層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

- | | |
|----------------------------|----------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 5 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子中量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子少量 | |

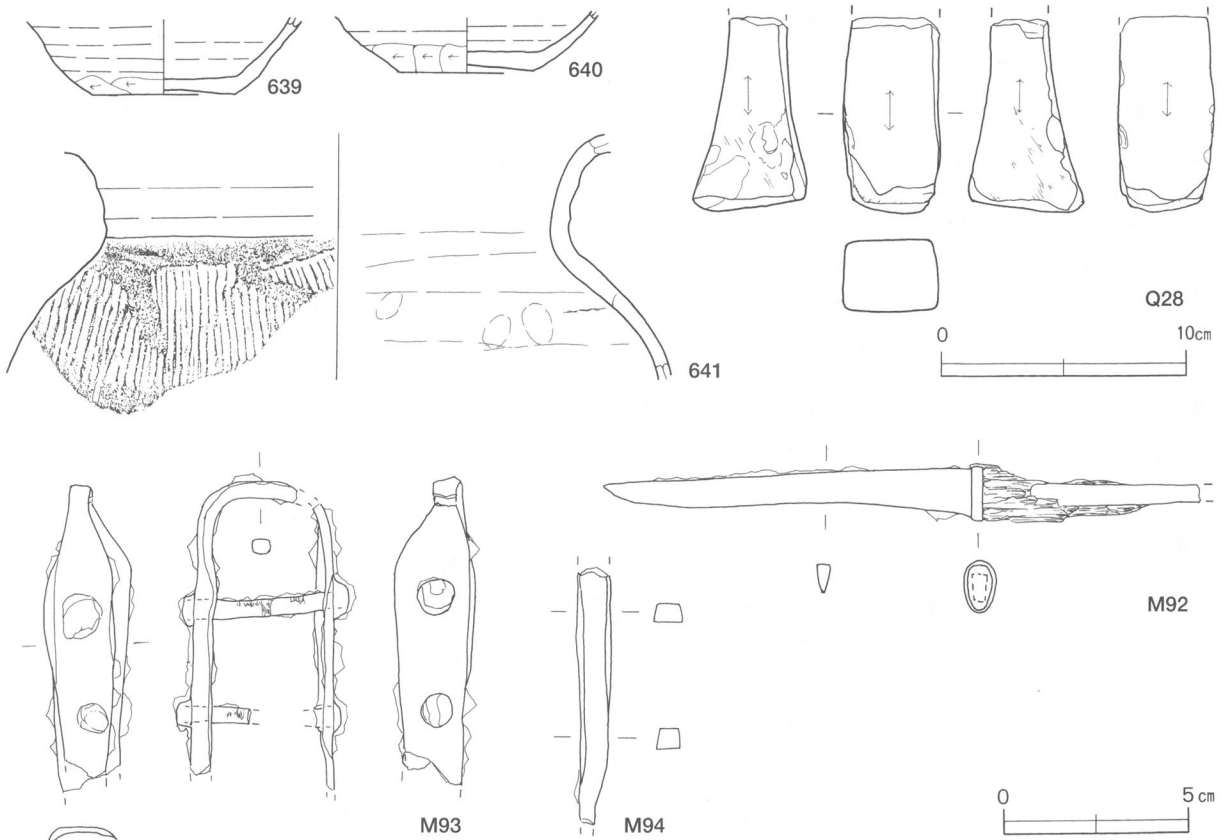
遺物出土状況 土師器片163点 (坏・椀36, 甕・甑127), 須恵器片30点 (坏13, 甕・甑17), 土製支脚1点, 刀子1点, 鍔金具1点, 釘カ1点, 砥石1点が出土している。遺物は西側部分から多く出土しており, M93は西



第216図 第1615号住居跡実測図

壁際の床面から出土している。M92は中央部の床面から、刃先部を北に向けた横位の状態で出土している。また、640は竈内から出土している。

所見 馬具の出土は、第1253号住居跡や第36号井戸跡から馬骨が出土していることと併せて、農耕や献納などに重宝される馬の飼育を裏付けるものといえる。廃絶時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第217図 第1615号住居跡出土遺物実測図

第1615号住居跡出土遺物観察表（第217図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
639	須恵器	坏	-	(3.0)	5.8	雲母・長石・石英	にぶい褐	不良	底部一方のヘラ削り	南壁際下層	30%
640	須恵器	坏	-	(2.4)	5.4	雲母・長石・石英	暗灰黄褐	普通	底部回転ヘラ切り後、一方のヘラ削り	竈覆土中	30%
641	須恵器	甕	-	(9.8)	-	雲母・長石・石英	灰白	普通	体部内面ヘラナデ、指頭痕	中央部床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q28	砥石	(7.8)	3.9	4.6	(171.9)	凝灰岩	砥面4面、中央部折損	西部下層	PL77
M92	刀子	(15.9)	1.4	1.0	(17.4)	鉄	錐残存、茎部木質付着	中央部床面	PL78
M93	鍔金具	(8.2)	4.7	2.3	(41.4)	鉄	釘に木質付着、鍔の吊手部分の留め金具	西壁際床面	PL82
M94	釘カ	(6.8)	0.8	0.6	(14.5)	鉄	断面方形の棒状、片側が尖る	西部下層	PL81

第1617号住居跡（第218・219図）

位置 調査区中央部のS7j3区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1609・1618号住居跡を掘り込み、第1600号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.50m，短軸4.10mほどのほぼ方形で，主軸方向はN-2°-Eである。壁高は10~17cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，ピットの内側が踏み固められており，壁溝が周回している。また，南壁際の中央部にはU字状に巡る高まりが認められ，上面が硬化している。

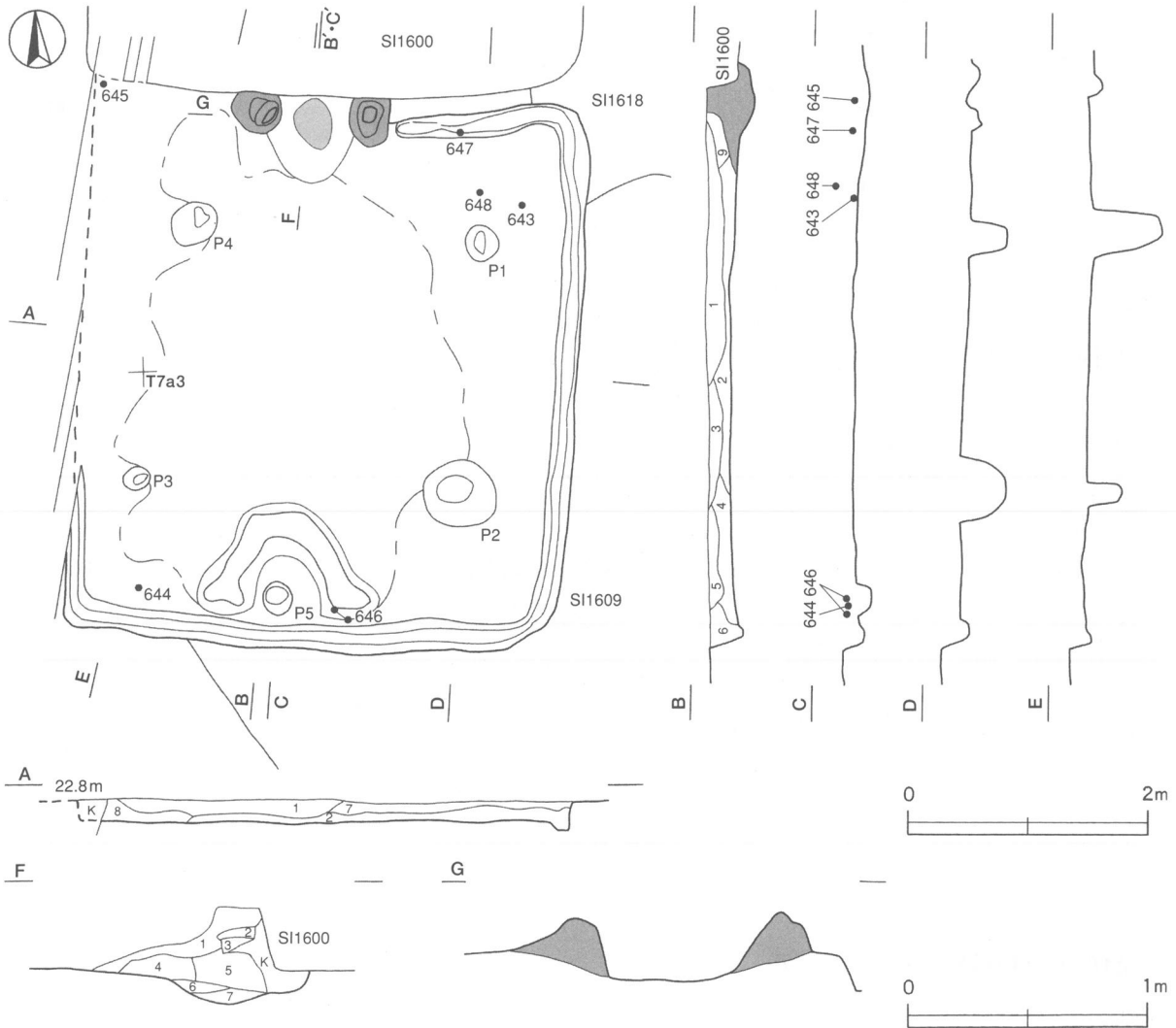
竈 北壁中央部に付設されており，袖部幅130cmである。袖部は，床面と同じ高さの地山面に砂質粘土を用いて構築されている。また，火床部は皿状に掘りくぼめられた地山面を使用しており，火床面が被熱によって赤変硬化している。煙道部は，第1600号住居に掘り込まれているために不明である。

竈土層解説

- | | |
|----------------------------|-------------------|
| 1 黒褐色 炭化物・粘土粒子・砂粒少量，焼土粒子微量 | 5 黄灰色 焼土ブロック少量 |
| 2 暗灰黄色 粘土粒子・砂粒多量 | 6 暗赤褐色 焼土粒子・炭化物少量 |
| 3 赤褐色 粘土粒子・砂粒多量，焼土粒子中量 | 7 暗赤褐色 焼土粒子少量 |
| 4 黒褐色 炭化粒子中量 | |

ピット 5か所。主柱穴はP1~P4が相当し，深さはP4だけが59cmと深く，その他は27~36cmである。P5は深さ14cmで，その周囲にはU字状に巡る床面の高まりが確認されており，出入口に伴う施設の一部と判断できる。

覆土 9層からなり，ブロック状に堆積した人為堆積である。



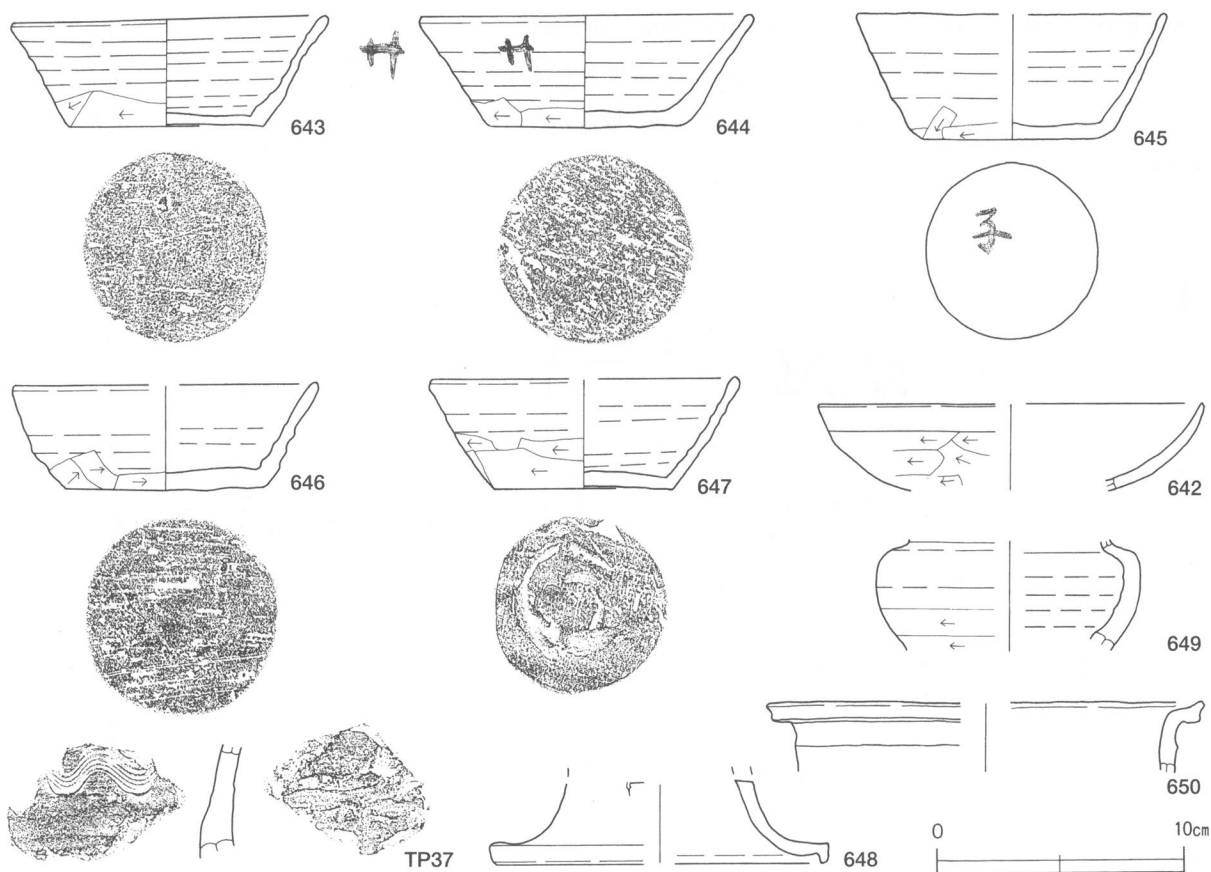
第218図 第1617号住居跡実測図

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------------------|----------|------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量 | 5 褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量 |
| 2 黒褐色 | 炭化物中量, ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量, 焼土ブロック微量 | 6 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量, ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化物微量 | 7 にぶい黄褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量 |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 8 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 |
| | | 9 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒少量 |

遺物出土状況 土師器片335点 (坏33, 甕・甑302), 須恵器片127点 (坏・高台付坏85, 蓋4, 盤・高盤6, 甕・甑31, 短頸壺1), 鉄滓1点が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており, その大半が土師器甕類の細片である。647は竈東側の床面から土圧でつぶれた状態で出土している。また, 643は北東部の床面, 648は北東部の覆土上層から出土している。

所見 廃絶時期は, 出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第219図 第1617号住居跡出土遺物実測図

第1617号住居跡出土遺物観察表 (第219図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
642	土師器	坏	[15.4]	(3.4)	-	雲母・長石・石英	明赤褐	普通	口縁部・体部内面横ナデ	P2覆土中	10%
643	須恵器	坏	12.5	4.4	7.8	雲母・長石・石英	黄灰	普通	底部一方向のヘラ削り	北東部床面	80%, PL59
644	須恵器	坏	13.2	4.6	7.7	雲母・長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後, 一方向のヘラ削り	南西部下層	体部外面墨書「サ」, 80%, PL69
645	須恵器	坏	[12.4]	5.1	6.9	雲母・長石・石英	灰	普通	底部二方向のヘラ削り	北西部下層	底部外面墨書「子」, 50%, PL69
646	須恵器	坏	[12.2]	4.2	8.0	長石・石英	灰	普通	底部一方向のヘラ削り	南壁際床面	60%

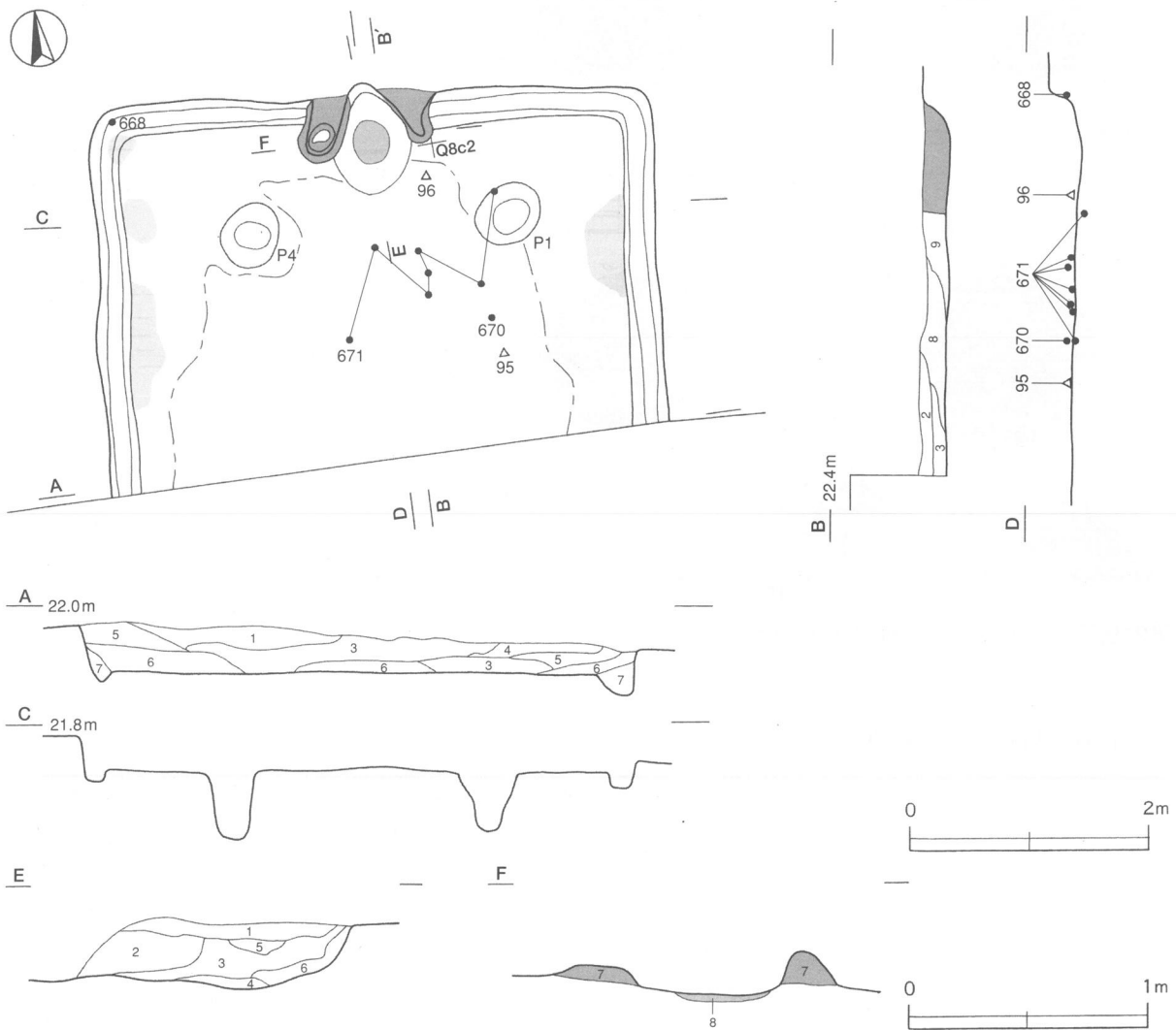
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
647	須恵器	坏	[12.2]	4.4	7.0	雲母・長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後、一方向のヘラ削り	竈東側床面	50%
648	須恵器	高盤	-	(3.1)	[13.2]	雲母・長石・石英	にぶい黄橙	普通	脚部ロクロナデ、透かし孔ヘラ削り	北東部上層	
649	須恵器	短頸壺	-	(4.5)	-	雲母・長石・石英	黄灰	普通	体部上半ロクロナデ、下半回転ヘラ削り	北東部下層	10%
650	土師器	甕	[17.2]	(2.9)	-	雲母・長石・石英	橙	普通	口縁部横ナデ	床面	
TP37	須恵器	大甕	-	-	-	雲母・長石	褐灰	普通	頸部櫛書波状文	北東部上層	

第1621号住居跡（第220・221図）

位置 調査区北部のQ 8 c1区に位置し、平坦な台地上に立地している。なお、南半部分は調査区域外に延びている。

規模と形状 東西軸は4.60mほどで、南北軸は3.20mだけが確認されており、N-8°-Eを主軸方向とする方形または長方形と推定される。壁高は12~28cmで、各壁ともほぼ直立している。

床 ほほ平坦で、壁際を除いて踏み固められており、壁溝が周回している。また、壁際から焼土の広がりも確認されている。



第220図 第1621号住居跡実測図

竈 北壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで90cm、袖部幅130cmほどである。袖部は、床面と同じ高さの地山面に砂質粘土を用いて構築されている。西袖部の中央には床面の高さまで掘り込まれたピットが確認されており、袖部の芯材として甕等を据えておいた痕跡とも考えられる。火床面は床面と同じ高さの地山面をそのまま使用しており、被熱し、赤変硬化している。また、煙道部は急な傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------------|----------|-----------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量 | 6 極暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量、粘土粒子・砂粒微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒中量、ロームブロック・炭化粒子少量 | 7 にぶい黄褐色 | 粘土粒子・砂粒多量、ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 8 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量、粘土粒子・砂粒微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、炭化粒子・灰少量 | | |
| 5 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量、炭化粒子微量 | | |

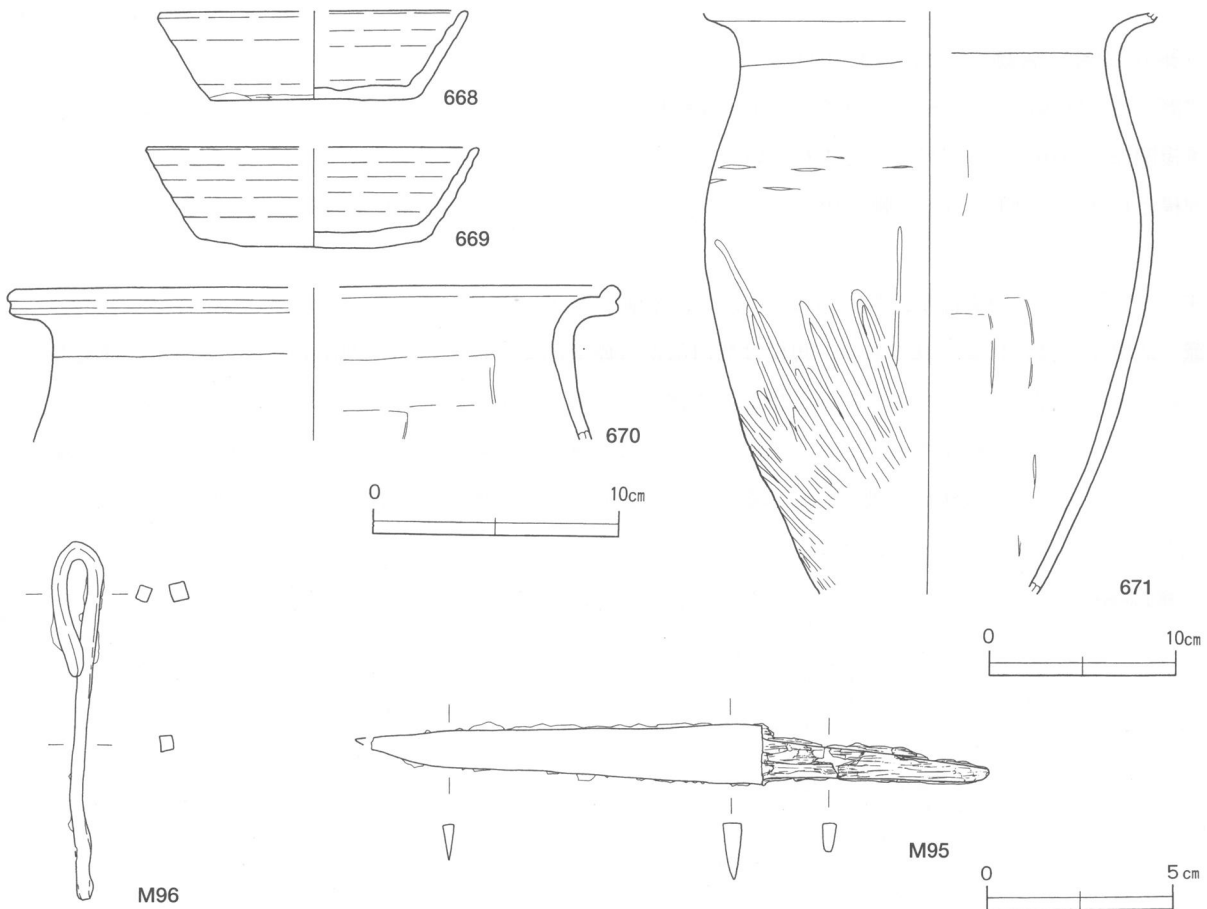
ピット 2か所。P1・P4は主柱穴で、深さはそれぞれ48cm、57cmである。

覆土 9層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。壁際の床面には焼土が広がっており、焼失後に埋め戻されたものと推測される。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------|--------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化物少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 6 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化物中量、ロームブロック少量 |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 黒褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量、砂粒少量 |
| | | 9 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・砂粒少量 |

遺物出土状況 土師器片83点（坏10, 甕・甗73）、須恵器片14点（坏11, 蓋1, 瓶1, 甕1）、刀子1点、鍵カ



第221図 第1621号住居跡出土遺物実測図

1点が出土している。遺物は竈手前から北東部にかけて多く出土しており、670は北東部の覆土下層から、671は北東部の床面や覆土下層、P1の覆土中から出土した破片が接合したものである。また、668は竈内と北西コーナー部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。なお、焼土は壁際を巡るように確認されているが、炭化材等は確認されていない。

所見 廃絶時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。

第1621号住居跡出土遺物観察表（第221図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
668	須恵器	坏	[12.2]	3.5	8.0	雲母・長石・石英	黄灰	普通	底部一方向のヘラ削り	竈覆土中・北西部下層	40%
669	須恵器	坏	[13.2]	4.0	8.6	雲母・長石・石英	灰白	普通	底部一方向のヘラ削り	北東部下層	30%
670	土師器	甕	[24.0]	(6.1)	-	雲母・長石・石英	にぶい褐	普通	体部外面ナデ、内面ヘラナデ	北東部下層	
671	土師器	甕	-	(31.0)	-	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面上半ヘラナデ、下半ヘラ磨き、内面ヘラナデ	中央部床面・下層・P1覆土中	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M95	刀子	(16.4)	1.6	0.5	(21.0)	鉄	両関、茎部に木質付着	東部床面	PL78
M96	不明	9.5	1.4	0.5	9.9	鉄	断面方形の棒状、一端を折り返す	竈手前床面	PL82

第1622号住居跡（第222・223図）

位置 調査区西部のT6 a4区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1623号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.85m、短軸4.70mほどの方形で、主軸方向はN-17°-Eである。壁高は22~38cmで、各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められており、壁溝が周回している。

竈 北壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで120cm、袖部幅160cmほどである。煙道部付近に天井部の一部が残存しており、厚さは最大で16cmほどある。袖部は掘り残した地山を基部として、その上部に砂質粘土を用いて構築されている。火床部は10cmほど掘りくぼめた部分にローム土を床面の高さまで埋め戻して使用しており、火床面が被熱して赤変硬化している。また、煙道は円筒状を呈し、外傾して緩やかに立ち上がっており、径は8~10cmほどである。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------------|-----------|--------------------------------|
| 1 暗赤褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量、炭化物微量 | 7 極暗褐色 | 焼土ブロック・砂粒中量、ローム粒子・炭化物・粘土粒子少量 |
| 2 灰褐色 | 粘土粒子多量、砂粒中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 8 灰黄褐色 | 粘土粒子・砂粒中量、ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 3 暗赤褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物・灰少量 | 9 にぶい黄褐色 | 粘土粒子・砂粒多量、ロームブロック少量 |
| 4 灰褐色 | 灰多量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 10 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒中量、ローム粒子少量 |
| 5 灰黄褐色 | 粘土粒子・砂粒多量、ロームブロック・焼土ブロック少量 | 11 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量 | 12 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒少量 |

ピット 5か所。P1~P4は主柱穴で、深さはP1・P3が37cm、43cm、P2・P4が19cm、20cmとばらつ

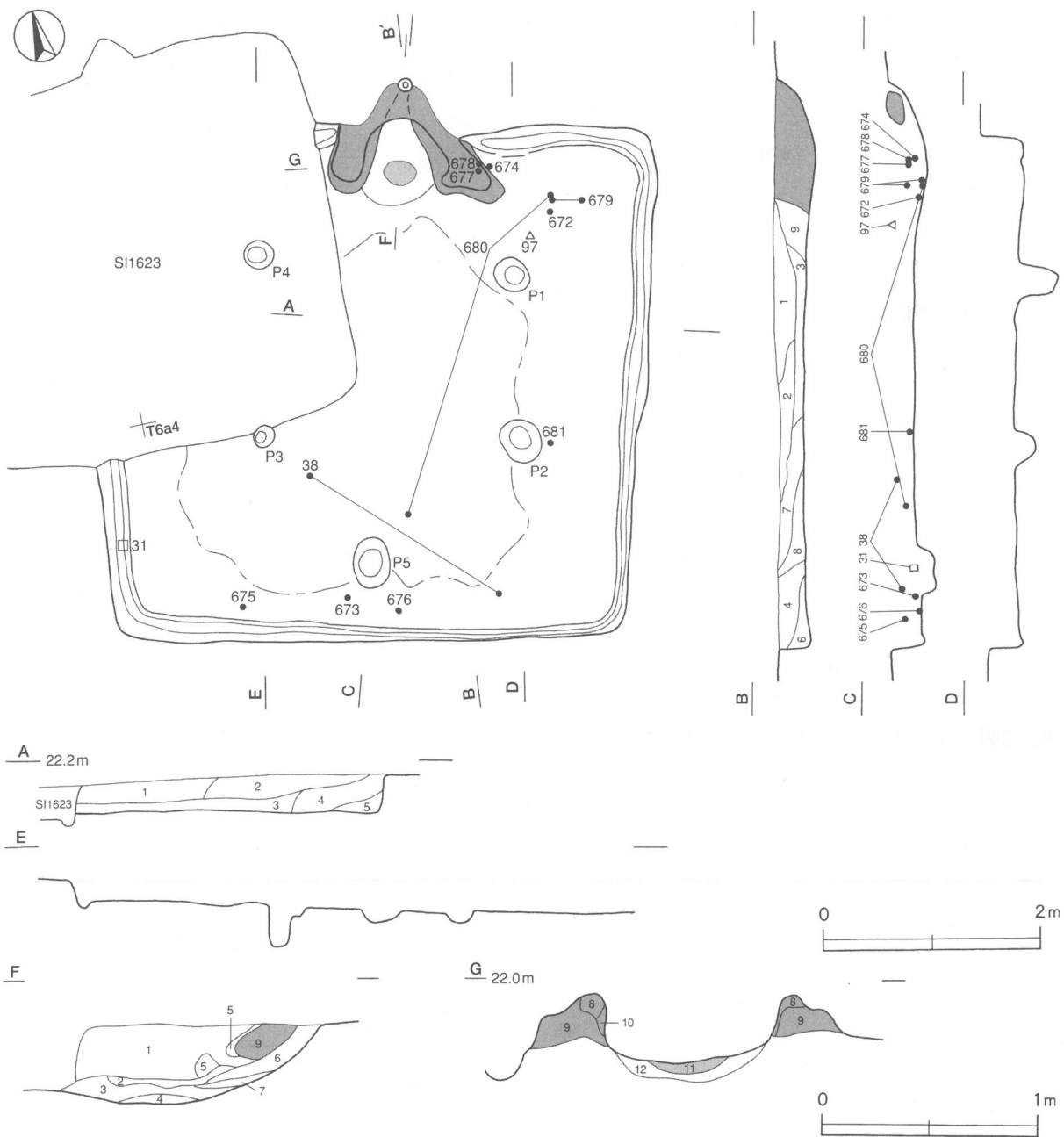
きがある。P5は出入り口施設に伴うピットで、深さ15cmである。

覆土 9層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------|-------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化物少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子・砂粒・粘土粒子少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量 | | |

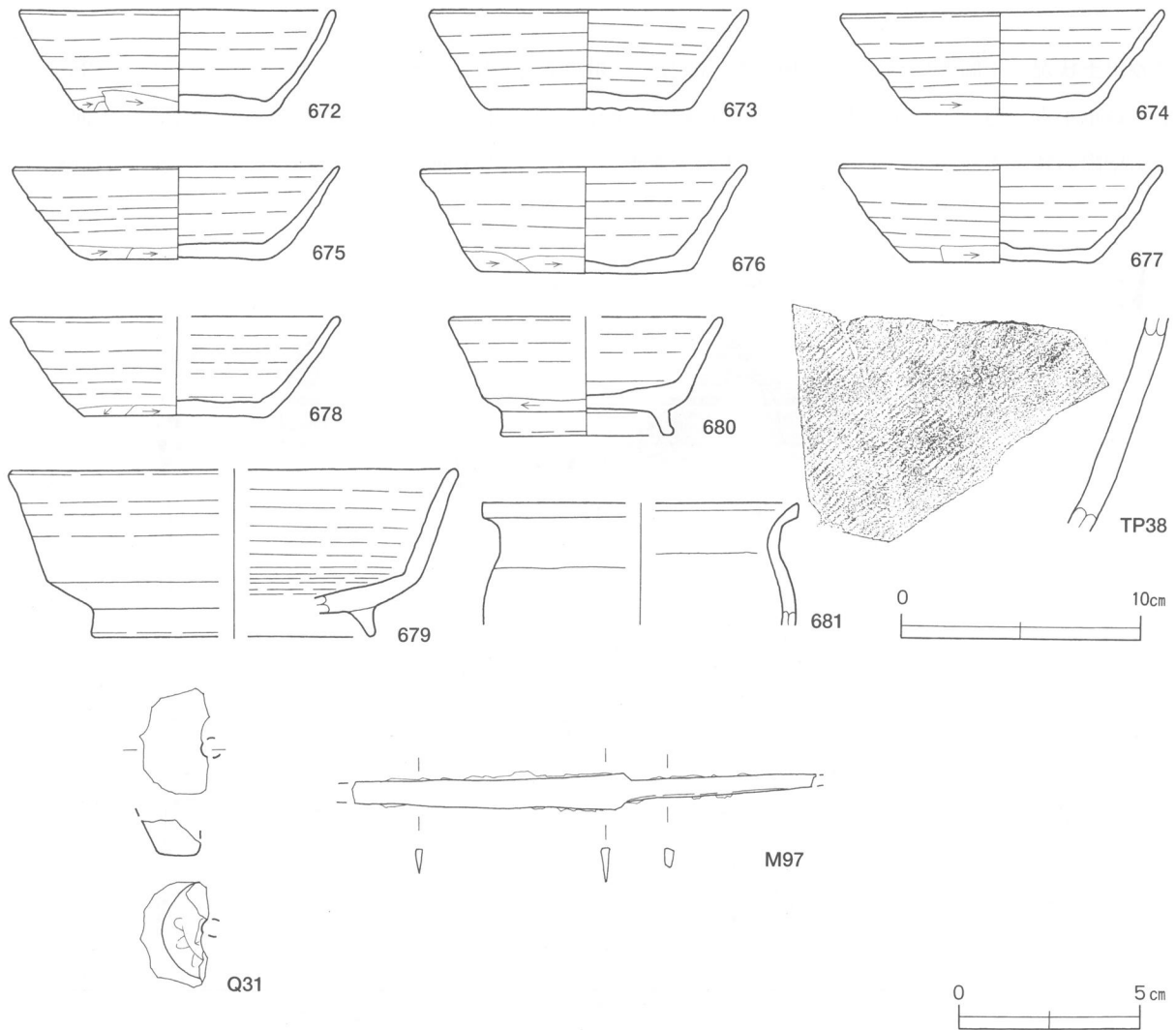
遺物出土状況 土師器片255点(坏40, 甕・甑215), 須恵器片130点(坏・高台付坏92, 蓋3, 甕・甑35), 石製紡錘車1点, 刀子1点が出土している。遺物は壁際から多く出土しており, 673・676は南壁際の床面, 675は南壁際の覆土中層から出土している。また, 北東コーナー部の床面からは672・679・680, 竈の右袖脇の床



第222図 第1622号住居跡実測図

面からは674・677・678が重なって出土しており、こうした出土状況からこれらの土器は廃絶時に遺棄されたものと考えられる。M97は北東部の覆土上層から出土している。

所見 廃絶時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。当該期には、石製や土製の紡錘車が古墳時代に続いて使用されている。



第223図 第1622号住居跡出土遺物実測図

第1622号住居跡出土遺物観察表（第223図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
672	須恵器	坏	13.0	4.3	7.8	長石・石英	黄灰	普通	底部二方向のヘラ削り	北東部床面	90%, PL59
673	須恵器	坏	13.0	4.1	8.1	雲母・長石・石英	灰白	普通	底部回転ヘラ切り後、一方向のヘラ削り	南壁際床面	95%
674	須恵器	坏	13.4	4.4	7.0	雲母・長石・石英	褐灰	普通	底部一方向のヘラ削り	竈東側下層	85%, PL59
675	須恵器	坏	13.5	3.9	7.6	長石・石英	褐灰	普通	底部一方向のヘラ削り	南壁際中層	90%, PL60
676	須恵器	坏	13.5	4.5	8.8	雲母・長石・石英	灰黄褐	普通	底部回転ヘラ切り後、ヘラナデ	南壁際床面	85%, PL60
677	須恵器	坏	13.3	4.1	7.6	雲母・長石・石英	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後、一方向のヘラ削り	竈東側下層	80%
678	須恵器	坏	[13.6]	4.1	7.6	雲母・長石・石英	灰	普通	底部一方向のヘラ削り	竈東側下層	45%
679	須恵器	高台付坏	[18.4]	7.0	[11.6]	長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	北東部床面	30%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
680	須恵器	高台付坏	[11.0]	4.9	7.0	雲母・長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	中央部下層・ 北東部床面	70%
681	土師器	小形甕	[13.0]	(5.0)	-	石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ、体部ナデ	東部床面	
TP38	須恵器	大甕	-	-	-	長石	灰	普通	外面斜位の平行叩き、内面ロクロナデ	南東部・ 中央部中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q31	紡錘車	(2.9)	(1.9)	(1.0)	(5.2)	粘板岩	孔面と側面の一部残存、孔径不明	南西部下層	
M97	刀子	(12.8)	1.0	0.3	(8.1)	鉄	刃先部・茎尻部欠損、両関	北東部上層	PL78

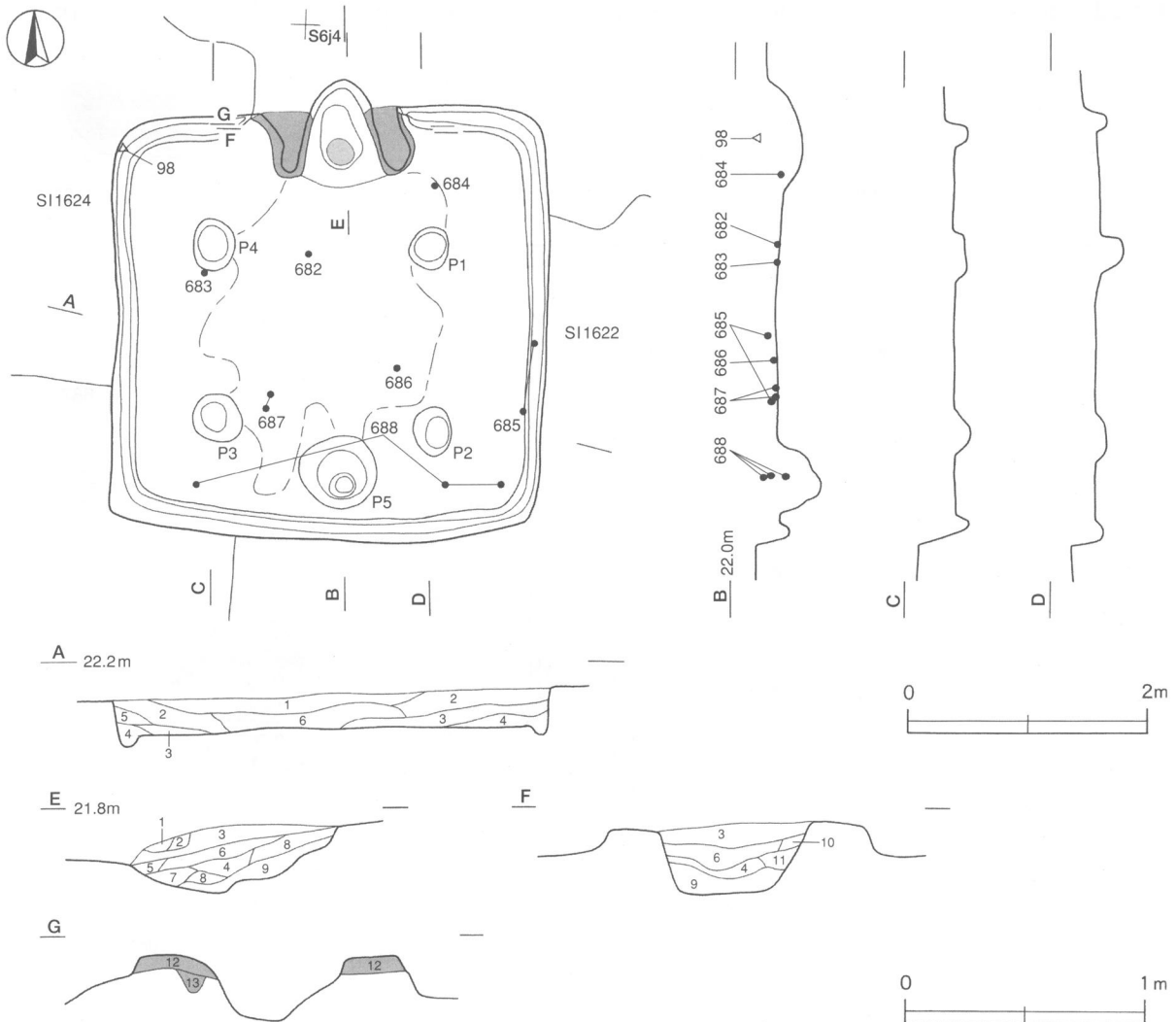
第1623号住居跡 (第224・225図)

位置 調査区西部のS 6j4区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1622・1624号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 一辺が3.60mほどの方形で、主軸方向はN-1°-Wである。壁高は22~30cmで、各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、ピットの内側が踏み固められており、壁溝が周回している。



第224図 第1623号住居跡実測図

竈 北壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで90cm、袖部幅115cmほどである。袖部は掘り残した地山を基部として、その上部に砂質粘土を用いて構築されている。火床部は15cmほど皿状に掘りくぼめられて、火床面は若干赤変している。また、煙道は外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・焼土ブロック少量、炭化粒子微量	8 にぶい黄褐色	粘土粒子・砂粒中量、焼土ブロック・炭化粒子少量
2 にぶい黄褐色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒中量	9 極暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子中量
3 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	10 極暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
4 暗赤褐色	焼土ブロック多量、灰中量	11 極暗褐色	焼土粒子・炭化粒子中量、ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量
5 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量	12 にぶい黄褐色	粘土粒子多量、ロームブロック・砂粒少量、焼土ブロック微量
6 暗赤褐色	灰多量、焼土ブロック中量	13 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・粘土粒子少量
7 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量		

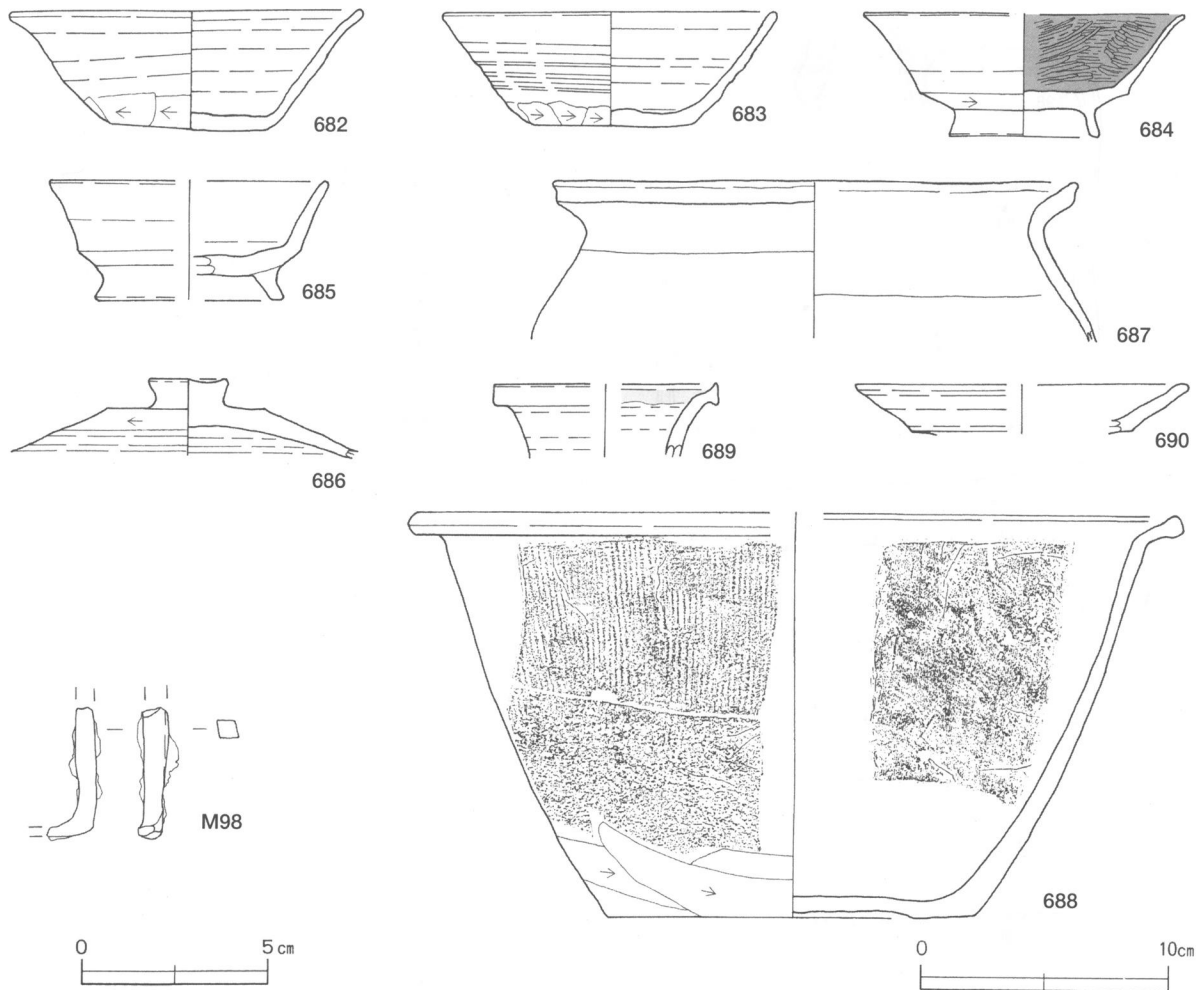
ピット 5か所。P1～P4は主柱穴に相当し、深さは8～21cmである。P5は出入り口施設に伴うピットで、深さ35cmである。

覆土 6層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量	4 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	5 暗褐色	焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	6 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片356点（坏・碗38，甕・甑318），須恵器片246点（坏・高台付坏99，盤1，甕・鉢・甑



第225図 第1623号住居跡出土遺物実測図

146), 灰釉陶器片2点(長頸瓶), 不明鉄製品1点(釘カ)が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており, 684は北東部の床面, 686は中央部の覆土下層から出土している。688は南西部の床面と南東部の覆土下層から中層にかけて出土した破片が接合したものである。

所見 廃絶時期は, 出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第1623号住居跡出土遺物観察表(第225図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
682	須恵器	坏	14.0	4.8	6.4	雲母・長石・石英	橙	普通	底部回転ヘラ切り後, ヘラナデ	中央部床面	70%, PL60
683	須恵器	坏	13.2	4.6	6.5	雲母・長石・石英	橙	普通	底部一方向のヘラ削り	中央部床面	95%, PL60
684	土師器	高台付坏	[12.8]	4.9	6.0	雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	底部回転ヘラ削り後, 高台貼り付け	北東部床面	60%
685	須恵器	高台付坏	[11.0]	4.8	[7.4]	長石・石英	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ削り後, 高台貼り付け	東壁際下層	35%
686	須恵器	蓋	-	(3.0)	-	雲母・長石・石英	にぶい赤褐	普通	天井部回転ヘラ削り	中央部下層	50%
687	土師器	甕	20.8	(6.3)	-	雲母・長石・石英	橙	普通	口縁部横ナデ, 体部ナデ	南部下層	
688	須恵器	鉢	[30.4]	16.1	14.8	雲母・長石・石英	黄灰	普通	底部ヘラナデ	南西部床面・南東部中～下層	30%
689	灰釉陶器	長頸瓶	[8.4]	(3.0)	-	長石	灰褐	良好	口縁部ロクロナデ, 一部降灰による自然釉	竈覆土中	井ヶ谷78号窯式カ
690	灰釉陶器	皿カ	[13.4]	(2.0)	[8.8]	長石	オリーブ黒・にぶい黄	良好	口縁部ロクロナデ, 内面降灰による自然釉	覆土中	尾張産

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M98	釘カ	(3.5)	0.7	0.5	(5.1)	鉄	断面方形の棒状, 片側が細る	南西部上層	

第1624号住居跡(第226・227図)

位置 調査区西部のS6j3区に位置し, 平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1623号住居に掘り込まれている。

規模と形状 一辺が2.90mほどの方形で, 主軸方向はN-14°-Eである。壁高は14~28cmで, 各壁とも急な傾斜で立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 出入り口付近から竈の手前にかけて踏み固められており, 壁溝が東壁際を除いて巡っている。

竈 北壁中央部に付設されており, 規模は焚口部から煙道部まで95cm, 袖部幅145cmほどである。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土を用いて構築されている。火床部は10cmほど皿状に掘りくぼめられており, 火床面が被熱して赤変硬化している。また, 煙道は外傾して直線的に立ち上がっている。

甗土層解説

- | | | | |
|----------|---------------------------------|-----------|-----------------------------|
| 1 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒少量 | 8 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量, ローム粒子少量 |
| 2 灰褐色 | 粘土粒子・砂粒中量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 9 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 3 極暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒少量 | 10 灰黄褐色 | ロームブロック・粘土粒子・砂粒中量, 焼土ブロック微量 |
| 4 にぶい赤褐色 | 灰中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 11 にぶい黄褐色 | 粘土粒子・砂粒多量, ロームブロック少量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量, ローム粒子・炭化粒子少量 | 12 褐色 | ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化物微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土粒子少量 | 13 極暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化物少量 |
| 7 にぶい黄褐色 | 粘土粒子多量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | | |

ピット 1か所。P1は出入口施設に伴うピットで、深さ11cmである。

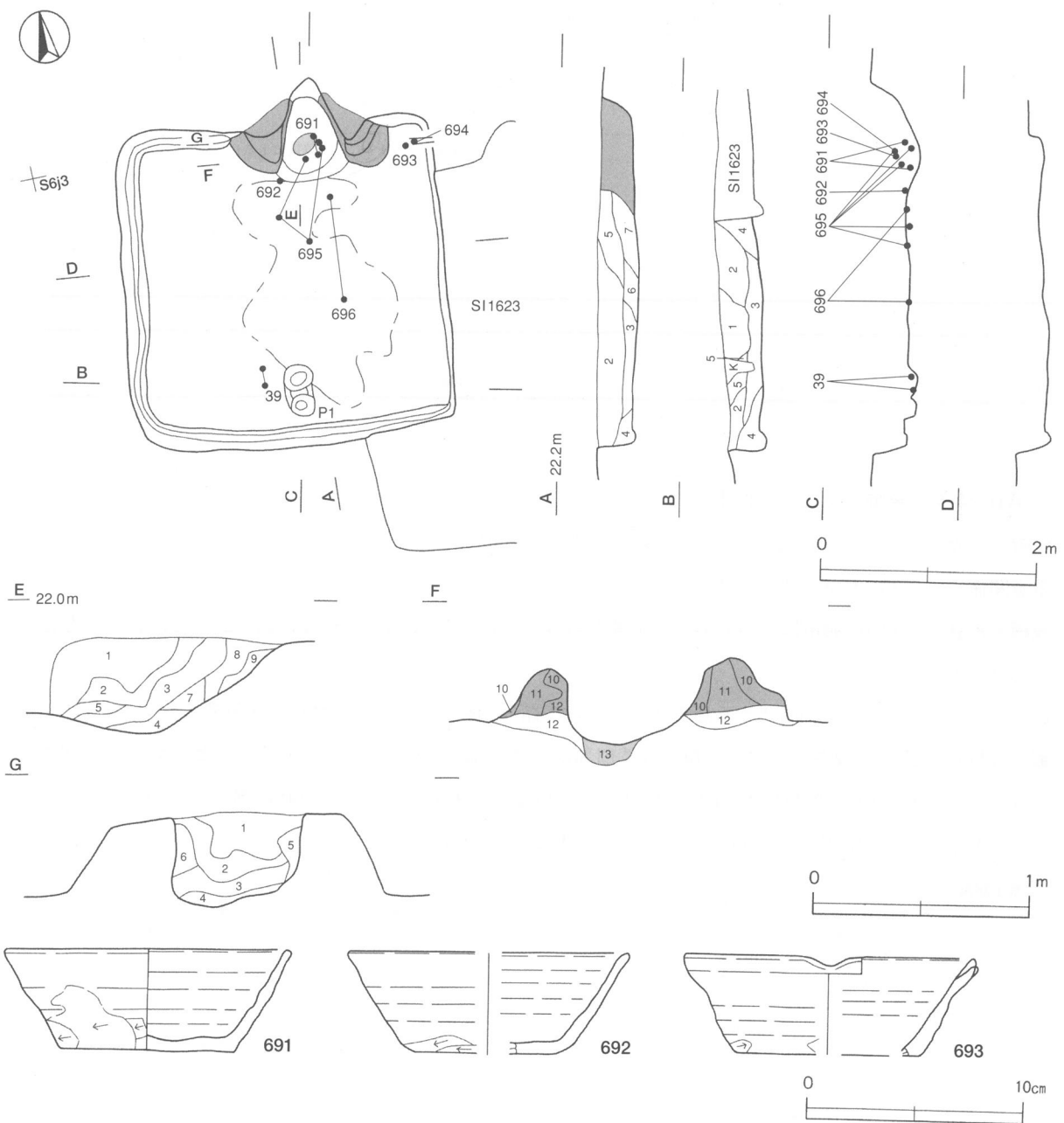
覆土 7層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

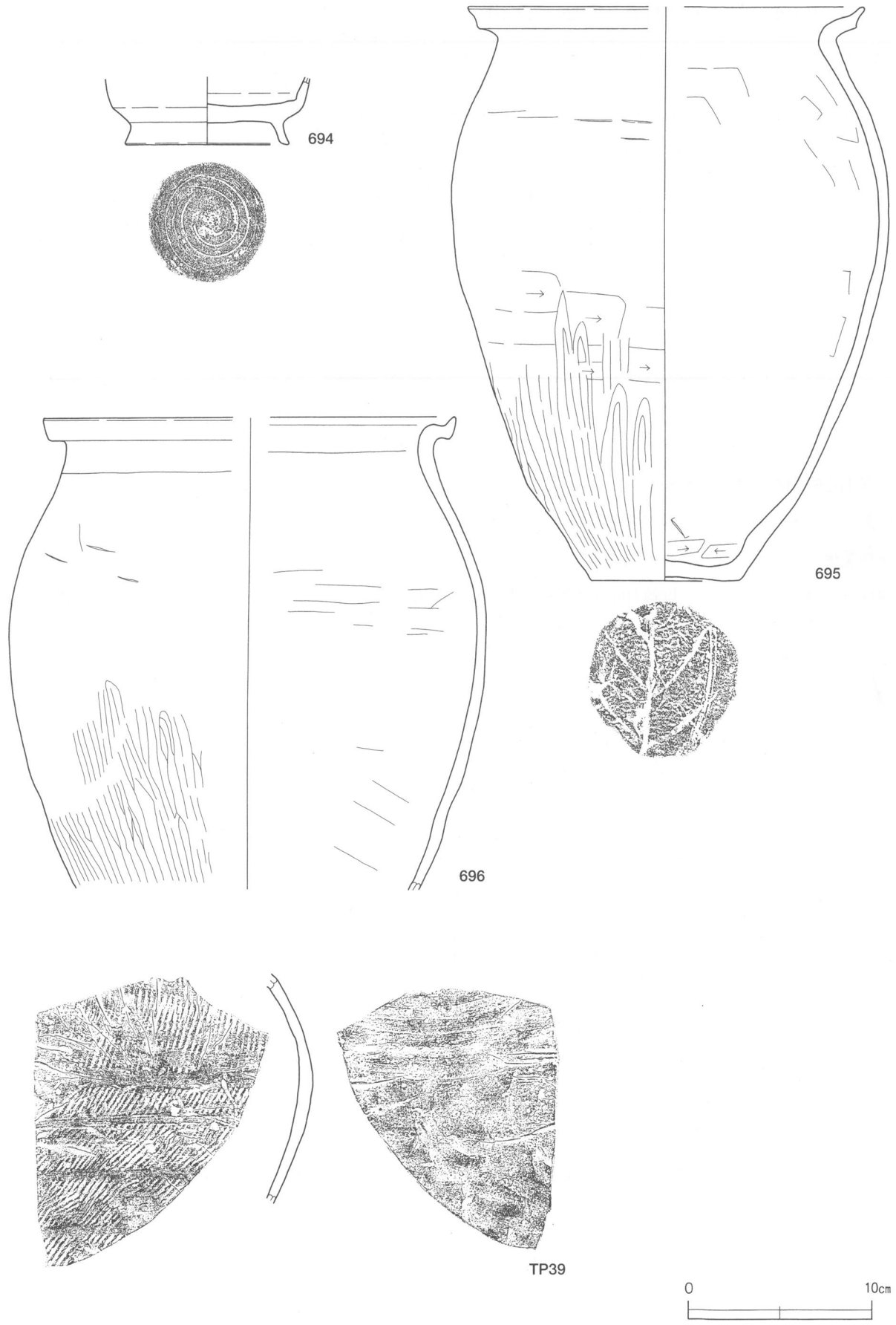
- | | | | |
|-------|----------------------------------|-------|------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック多量, 焼土粒子少量 | 7 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子・砂粒中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量 | | |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子・砂粒中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片256点, 須恵器片51点(坏・高台付坏35, 蓋2, 甕・甑14)がほぼ全域から出土している。695は中央部の床面と竈内の覆土下層から出土した破片が接合したもので, 696は中央部の床面から土圧でつぶれた状態で出土している。また, 693・694は北東コーナー部の覆土下層から出土している。

所見 廃絶時期は出土土器から9世紀前葉と考えられ, 当該期における最も小形の住居である。



第226図 第1624号住居跡・出土遺物実測図



第227图 第1624号住居跡出土遺物実測図

第1624号住居跡出土遺物観察表 (第226・227図)

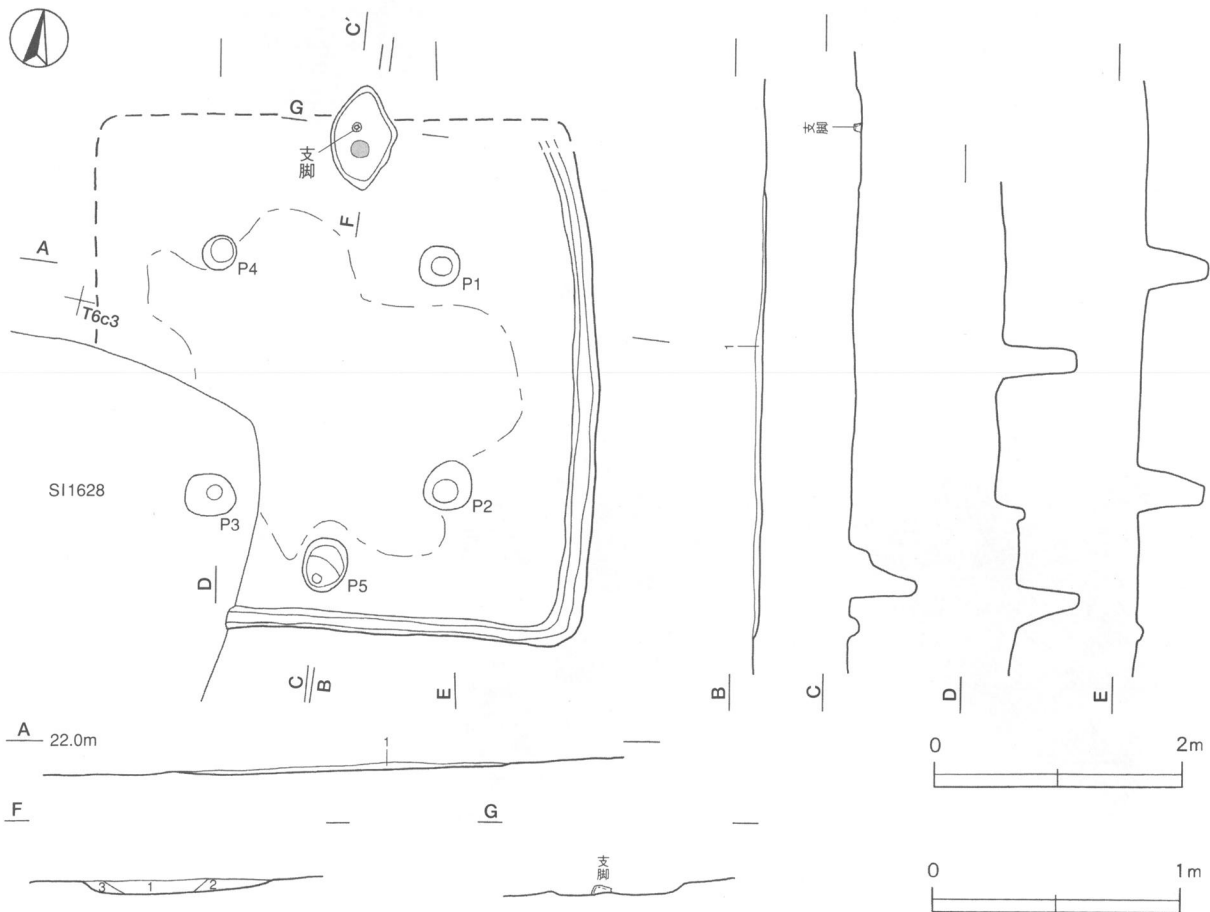
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
691	須恵器	坏	13.0	4.6	8.0	長石・石英	褐灰	普通	底部二方向のヘラ削り	竈火床部	60%
692	須恵器	坏	[12.6]	4.6	[6.4]	雲母・長石・石英	にぶい黄橙	普通	底部一方向のヘラ削り	竈手前床面	20%
693	須恵器	高台付坏	[13.2]	4.5	[8.4]	雲母・長石・石英	褐灰	普通	口縁端部の突出した破損部分を研磨し、注口状にして再利用	北東部下層	15%
694	須恵器	高台付坏	-	(3.6)	8.8	雲母・長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	北東部下層	50%
695	土師器	甕	[21.4]	30.9	8.0	長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部外面上半・内面ヘラナデ	中央部床面・竈内下層	40%
696	土師器	甕	[22.0]	(25.5)	-	雲母・長石・石英	橙	普通	体部外面上半・内面ヘラナデ	中央部床面	20%
TP39	須恵器	甕	-	-	-	雲母・長石・石英	灰黄	普通	内面無文の当て具痕・ロクロナデ	南部・東部・西部下層～床面	

第1626号住居跡 (第228図)

位置 調査区西部のT 6 b3区に位置し、西に若干傾斜した台地上に立地している。

重複関係 第1628号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.05m、短軸3.95mほどの方形で、主軸方向はN-14°-Wである。確認された壁高は2cmしかなく、壁の立ち上がり具合は判然としない。



第228図 第1626号住居跡実測図

床 ほぼ平坦で、ピットの内側が踏み固められている。壁溝は、東壁際から南壁際にかけて確認されている。
竈 北壁中央部に付設されている。火床面は6cmほど皿状に掘りくぼめられて赤変硬化しており、その北側には土製支脚が据えられている。なお、袖部や煙道部の様子は、遺存状態が悪いため不明である。

竈土層解説

- | | |
|---------------------------------------|---------------------------|
| 1 極暗褐色 焼土粒子中量, ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量 | 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| | 3 暗褐色 焼土粒子少量, ローム粒子微量 |

ピット 5か所。主柱穴はP 1～P 4が相当し、深さは50～58cmである。P 5は出入り口施設に伴うピットで、深さ56cmである。

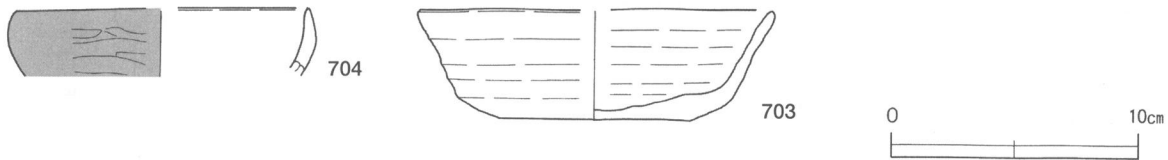
覆土 単一層のため、堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片23点(坏3, 甕・甔20), 須恵器片4点(坏)が散在して出土している。703は南西部, 704は北東部の覆土中から出土している。

所見 遺存状態は良くないが、住居の規模やピットの配置など8世紀代の住居形態の典型を示している。廃絶時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第229図 第1626号住居跡出土遺物実測図

第1626号住居跡出土遺物観察表 (第229図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
703	須恵器	坏	[14.0]	4.4	7.6	雲母・長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後、一方向のヘラ削り	南西部覆土中	40%
704	土師器	坏	[11.8]	(2.6)	-	石英	明赤褐	普通	口縁部・体部内面横ナデ	北東部覆土中	

第1627号住居跡 (第230図)

位置 調査区西部のT 6 c2区に位置し、西に若干傾斜した台地上に立地している。

重複関係 第1626号住居跡を掘り込み、第1613号土坑に掘り込まれている。また、本住居の北側部分を拡張して第1628号住居が構築されている。

規模と形状 長軸4.40m, 短軸2.50mほどの長方形で、主軸方向はN-90°-Eである。壁高は8～10cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められており、壁溝は北東部を除いて巡っている。壁溝が確認されていない北東部にもわずかなくほみが連続して認められることから、ほぼ全周していたものと推測される。

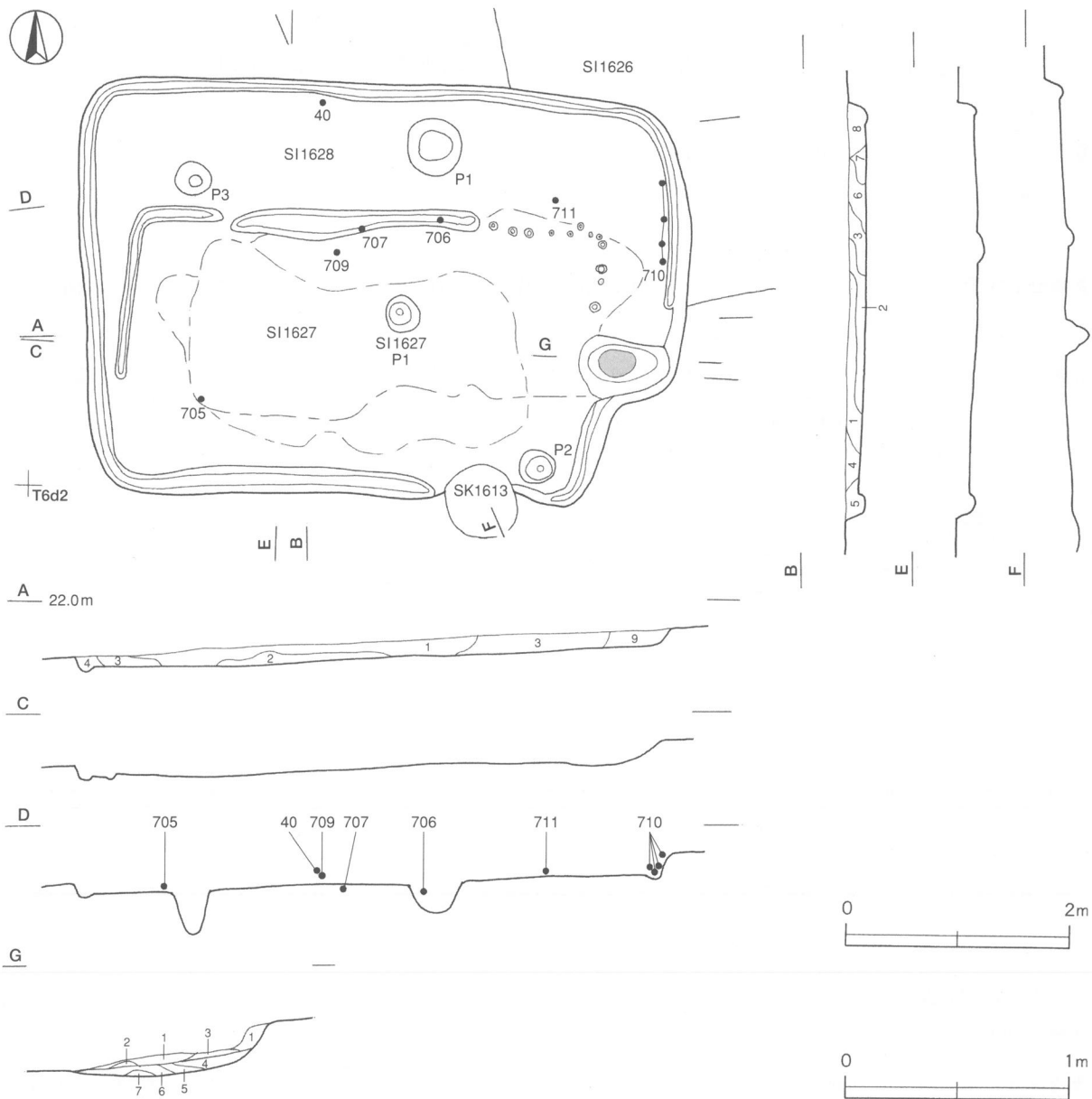
竈 確認されている竈は拡張後の第1628号住居のものであるが、その他に竈の痕跡が認められないことから、同じ場所に付設されていた可能性がある。

ピット 1か所。P 1は深さ24cmで、第1628号住居の硬化面下から確認されている。ほぼ中央に位置しており、1本主柱を想定した場合の柱穴の可能性も考えられる。

覆土 確認された土層は拡張後のもので、本住居に伴うものは確認されていない。

遺物出土状況 出土していない。

所見 時期は、第1628号住居の年代観から10世紀後半ないしそれ以前と考えられる。



第230図 第1627・1628号住居跡実測図

第1628号住居跡（第230・231図）

位置 調査区西部のT 6 c2区に位置し、西に若干傾斜した台地上に立地している。

重複関係 第1626号住居跡を掘り込み、第1613号土坑に掘り込まれている。また、第1627号住居跡の北側部分を拡張して、本住居が構築されている。

規模と形状 長軸5.35m、短軸3.65mほどの長方形で、主軸方向はN-90°-Eである。東壁の南側部分の立ち上がりは北側部分よりも70~80cmほど手前で確認されており、竈の右側に柵状施設が存在していたことも考え

られる。また、壁高は10～18cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部分が踏み固められており、壁溝が周回している。

竈 東壁の南寄りに付設されている。天井部や袖部は遺存せず、竈内の覆土の含有物から、砂質粘土で構築されていたと推測される。火床部は浅い皿状を呈し、若干赤変している。また、煙道は外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------|---------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 極暗褐色 | 炭化粒子中量, 焼土粒子少量 | 6 極暗赤褐色 | 炭化粒子多量, 焼土粒子中量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 粘土粒子・砂粒少量, 炭化粒子微量 | 7 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化物・粘土粒子・砂粒少量 | | |

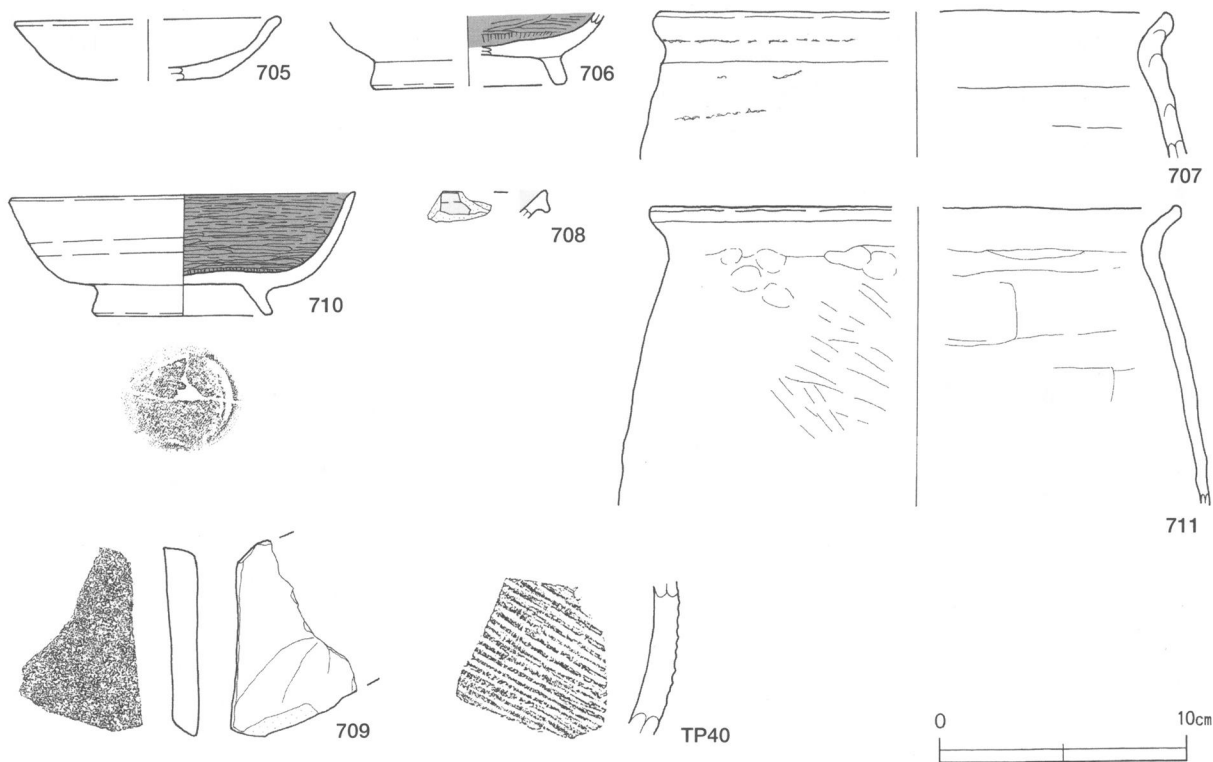
ピット 3か所。P1～P3は深さ30～40cmで、形状から柱穴の可能性も考えられるが、配置が不揃いであり、性格は不明である。

覆土 9層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片132点（小皿1, 坏・碗37, 甕・甔94）、須恵器片14点（甕）、灰釉陶器片1点（長頸瓶）、鉄滓5点が散在して出土している。705は南西部の床面から出土している。710は東壁際の覆土下層から上層にかけて出土した破片が接合したものである。また、TP40は北壁際の覆土上層から出土した体部片で、内面が摩滅しており、硯として転用されたものと考えられる。



第231図 第1628号住居跡出土遺物実測図

所見 時期は、出土土器から10世紀後半と考えられる。本住居の床面の大半は、第1627号住居と共有している。

第1628号住居跡出土遺物観察表（第231図）

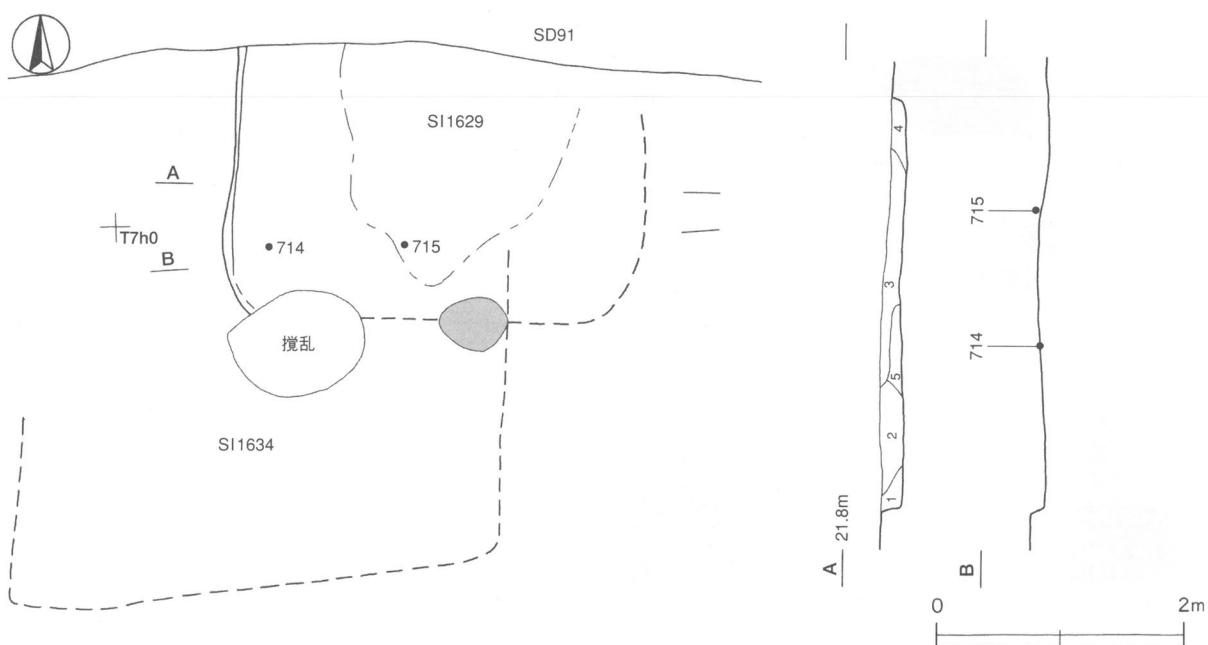
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
705	土師器	小皿	[10.4]	2.4	[5.9]	雲母・長石・石英	橙	普通	底部回転ヘラ切り	南西部床面	40%
706	土師器	椀	-	(2.7)	[7.8]	雲母・長石・石英	橙	普通	底部内面放射状のヘラ磨き、外面回転ヘラ切り後高台貼り付け	中央部床面	15%
710	土師器	椀	13.7	5.1	6.8	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	底部回転糸切り後、高台貼り付け	東壁際上～下層	95%, PL60
707	土師器	甕	[20.2]	(5.8)	-	長石・石英	橙	普通	体部外面ナデ・輪積み痕、内面ヘラナデ	中央部床面	
711	土師器	甕	[20.8]	(11.9)	-	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面指頭によるナデ、内面ヘラナデ	北東部上層	
709	須恵器	大甕	-	(7.3)	-	長石・石英・黒色粒子	黄灰	良好	体部外面自然釉、側面研磨	中央部下層	内面摩滅・転用硯
708	灰釉陶器	長頸瓶	-	(1.2)	-	長石	灰オリーブ	良好	口縁部ロクロナデ	P 2 覆土中	猿投産カ
TP40	須恵器	大甕	-	-	-	雲母・長石・石英	灰黄	普通	外面斜位の平行叩き、内面ロクロナデ	北壁際上層	

第1629号住居跡（第232・233図）

位置 調査区中央部のT 7 g0区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1630・1636A号住居跡と第168号掘立柱建物跡を掘り込み、第1634号住居と第91号堀に掘り込まれている。

規模と形状 遺存状態が悪く、壁の立ち上がりは西部で確認されただけであり、東西軸は暗褐色を呈した床面の広がりから3.30mほどと推定される。また、南北軸は第91号堀に掘り込まれているために2.15mだけが確認され、硬化面が南北に広がりを見せていることから、N-1°-Eを主軸方向とする方形または長方形と推定される。西壁の高さは10cmほどで、外傾して立ち上がっている。



第232図 第1629・1634号住居跡実測図

床 ほぼ平坦で、硬化面が南北に広がって確認されている。

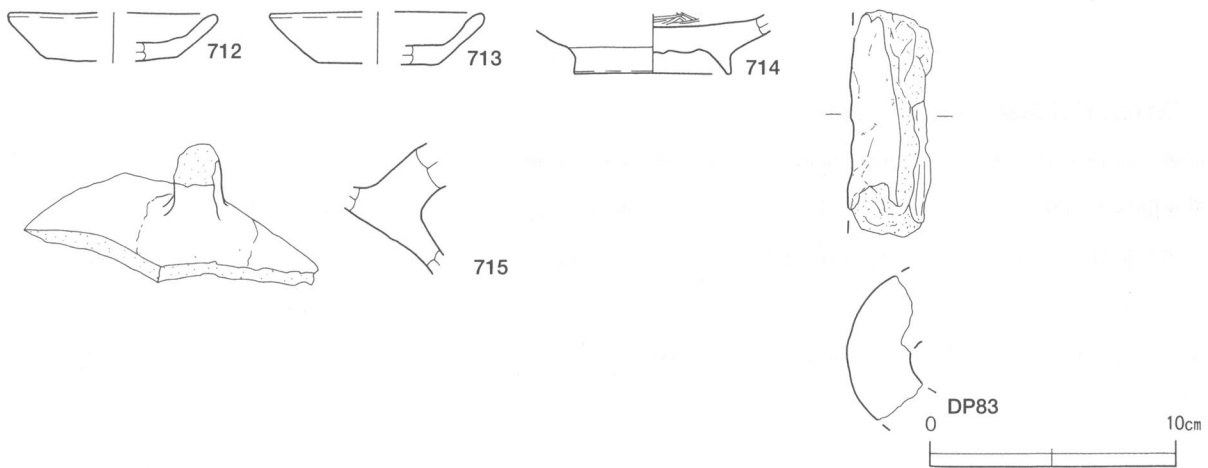
覆土 5層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------|--------|---------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 4 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化物微量 | | |

遺物出土状況 土師器片156点（小皿2，坏・碗73，甕81），須恵器片2点（壺，大甕），鞆羽口1点が散在して出土している。712は東部の覆土上層，713は西部の覆土上層，714は西壁際の覆土下層から出土している。

所見 時期は，出土土器から10世紀後半以降と考えられる。鞆羽口の出土から，集落内で鍛冶関連の手工業が行われていたことが推測される。



第233図 第1629号住居跡出土遺物実測図

第1629号住居跡出土遺物観察表（第233図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
712	土師器	小皿	[8.2]	1.9	[5.2]	長石・石英	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り	東部上層	40%
713	土師器	小皿	[8.4]	2.0	[4.8]	長石・石英	橙	普通	底部回転ヘラ切り	西部上層	20%
714	土師器	碗	-	(2.3)	6.2	赤色粒子	橙	普通	底部内面格子状のヘラ磨き	西壁際下層	20%
715	須恵器	壺カ	-	(5.7)	-	長石・石英・黒色粒子	浅黄橙・黄 灰	良好	体部外面自然釉，内面ロクロナデ，耳部貼り付け	南部下層	

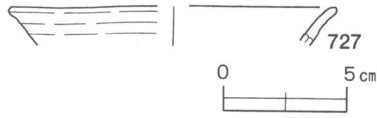
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP83	鞆羽口	(9.1)	(3.5)	(6.4)	(131.8)	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色，ナデ，繊維質を含む	東部上層	

第1634号住居跡（第232・234図）

位置 調査区中央部のT7h0区に位置し，平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1629・1630号住居跡，第168・170号掘立柱建物跡を掘り込み，第1543号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 床面が露出した状態で検出されたため，暗褐色を呈した床面の広がりから東西軸3.90m，南北軸2.15mほどが確認されただけである。竈の位置からN-87°-Eを主軸方向とする方形または長方形と推測される。



第234図 第1634号住居跡
出土遺物実測図

床 床面は調査前に削平されており、詳細は不明である。

竈 東壁際に火床面だけが確認されている。竈材等も不明である。

遺物出土状況 土師器片17点(坏・椀3, 甕・甑14)が竈の火床部から出土している。

所見 時期は、重複関係から10世紀後半以降と考えられる。

第1634号住居跡出土遺物観察表 (第234図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
727	土師器	坏	[13.0]	(1.6)	-	赤色粒子	にぶい橙	普通	体部ロクロナデ	竈覆土中	

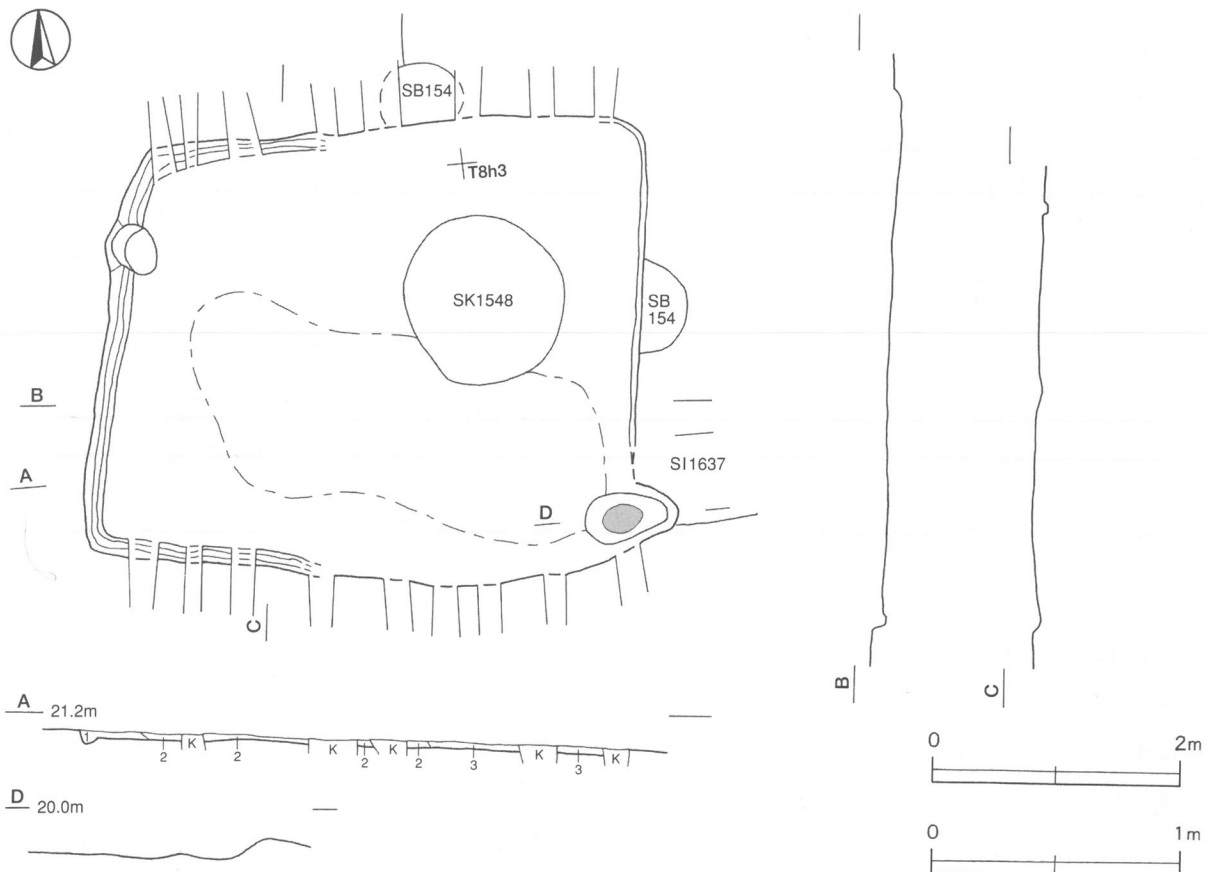
第1631号住居跡 (第235・236図)

位置 調査区中央部のT 8 h2区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1637号住居跡と第154号掘立柱建物跡を掘り込み、第1548号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.30m, 短軸3.40mほどの長方形で、主軸方向はN-98°-Eである。壁高は5cmほどで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、竈の手前から西壁際にかけて東西に長く硬化面が確認されている。壁溝は南西部から北西部



第235図 第1631号住居跡実測図

にかけて確認されている。また、西壁際の北側部分にはスロープ状に硬化した面が確認されており、出入り口施設の一部とも考えられる。

竈 南東コーナー部に付設され、規模は焚口部から煙道部まで75cmほどである。袖部や天井部は遺存せず、火床部は床面と同じ高さの平坦面を使用し、火床面が若干変色している。煙道は外傾して立ち上がっている。

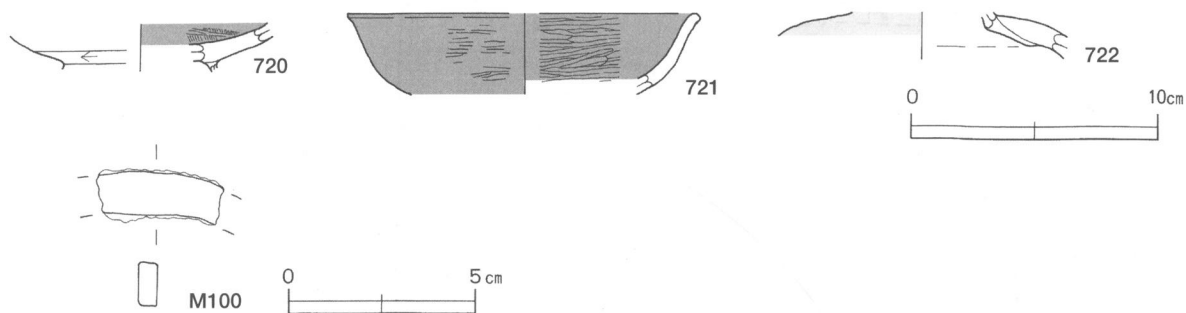
覆土 3層からなる。各層ともロームブロックを含んでおり、人為堆積の可能性が高い。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片29点（坏・椀13, 甕・甔16）, 須恵器片1点（長頸瓶）, 不明鉄製品1点, 混入した土師器片4点, 須恵器片14点が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており、そのほとんどが細片である。720は南西部, 721・722は南東部の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から10世紀前半と考えられる。



第236図 第1631号住居跡出土遺物実測図

第1631号住居跡出土遺物観察表（第236図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
720	土師器	椀	-	(1.8)	-	長石・赤色粒子	にぶい褐	普通	底部内面一方向のヘラ磨き	南西部覆土中	10%
721	土師器	椀	[14.0]	(4.2)	-	石英	灰	普通	体部内外面ヘラ磨き	南東部覆土中	
722	須恵器	長頸瓶	-	(1.9)	-	黒色粒子	灰	良好	肩部自然袖, 頸部二段接合	南東部覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M100	不明	(3.4)	1.2	0.6	(7.5)	鉄	断面長方形の板状, 弓状に緩やかに彎曲	竈覆土中	

第1632号住居跡（第237図）

位置 調査区中央部のT8h4区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1637・1638号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.35m, 短軸3.80mほどの長方形で、主軸方向はN-2°-Eである。壁の立ち上がりは明瞭でなく、土層断面から部分的に確認されただけである。確認された壁高は5~10cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められている。

竈 北壁際の東寄りに付設されている。袖部や天井部は遺存せず、火床面だけが確認されている。火床面は床

面と同じ高さの平坦面を使用しており、被熱して赤変硬化している。

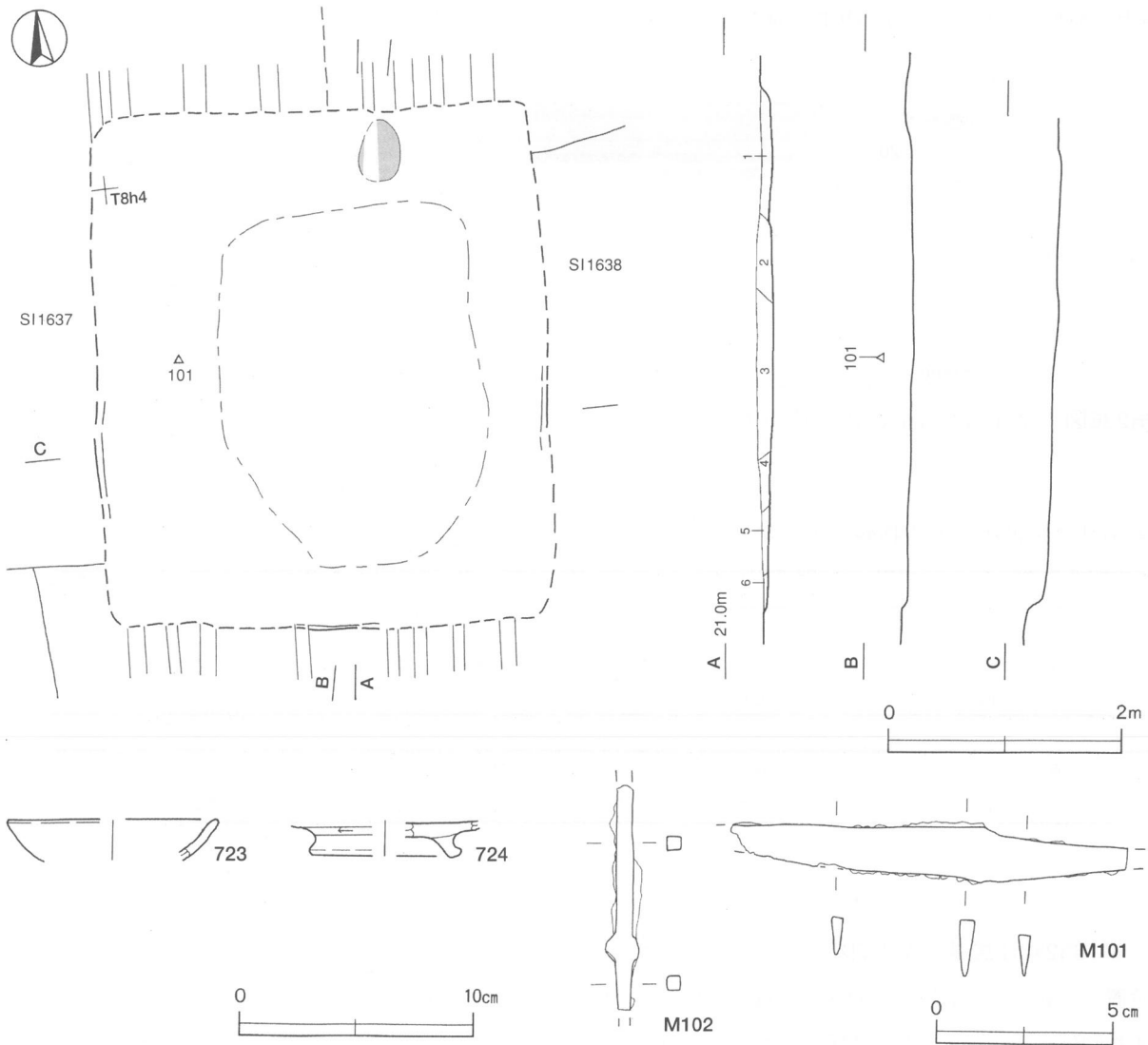
覆土 6層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------|--------|----------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化物・砂粒少量 | 4 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化物少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 3 極暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 6 極暗褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片139点（小皿1，坏・碗19，甕・甑119），須恵器片2点（坏），灰釉陶器片1点（瓶），刀子1点，鉄鏃1点が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており、そのほとんどが細片である。723・M102は南西部の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から10世紀後半以降と考えられる。



第237図 第1632号住居跡・出土遺物実測図

第1632号住居跡出土遺物観察表（第237図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
723	土師器	坏	[9.0]	(1.7)	-	石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部ロクロナデ	南西部覆土中	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
724	土師器	椀	-	(1.5)	[6.4]	長石・石英	にぶい橙	普通	底部内面ヘラ磨き, 外面ヘラ切り後高台貼り付け	北西部覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M101	刀子	(11.2)	1.5	0.4	(17.1)	鉄	刃先部・茎尻部欠損, 片関	西部上層	PL78
M102	鏃	(6.3)	(1.0)	0.4	(5.4)	鉄	箆被部から茎部にかけての破片, 断面方形, 棘関	南西部覆土中	PL80

第1633号住居跡 (第238図)

位置 調査区中央部のT 7 h9区に位置し, 若干南に傾斜した台地上に立地している。

重複関係 第170号掘立柱建物跡を掘り込み, 第107号溝に掘り込まれている。

規模と形状 床面が露出した状態で検出されたため, 南半部分の様相は不明である。東西軸3.10m, 南北軸1.22mだけが確認され, N-1°-Eを主軸方向とする方形または長方形と推定される。

床 ほぼ平坦で, 竈の手前が踏み固められている。また, 壁溝が確認された壁際を巡っている。

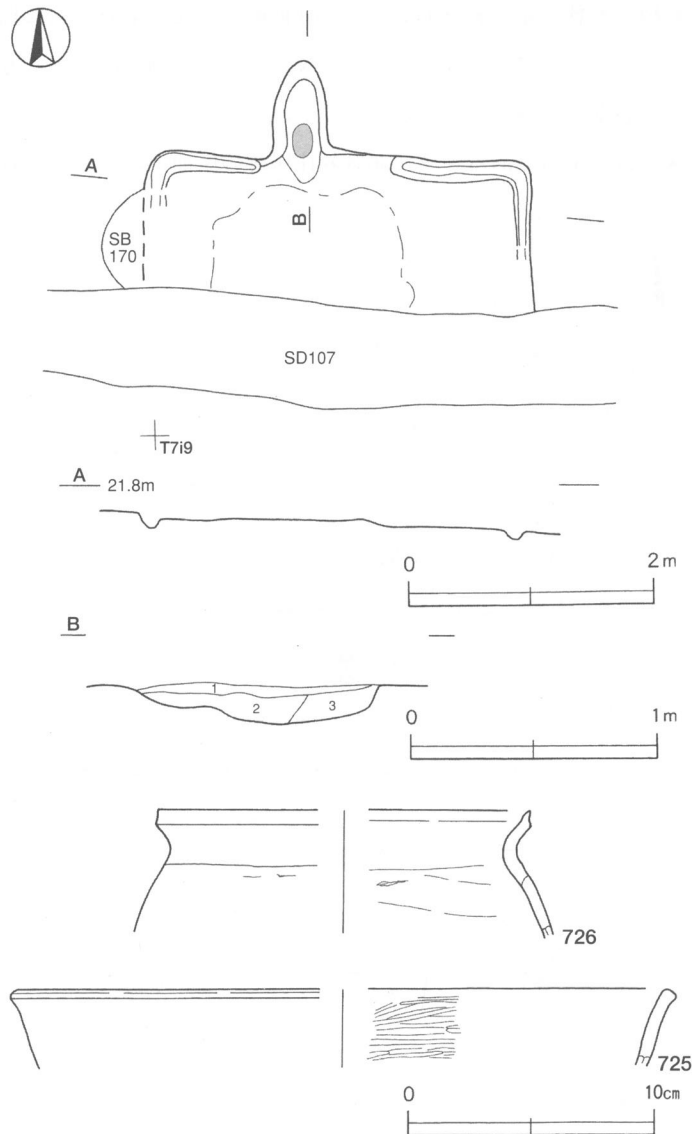
竈 北壁の若干西寄りに, 壁外へ75cmほど掘り込んで構築されている。袖部や天井部は遺存していないが, 覆土の含有物から砂質粘土で構築されていたと推測される。火床部は皿状を呈し, 火床面が被熱して赤変硬化している。

竈土層解説

- 1 極暗赤褐色 焼土ブロック中量, ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化物・粘土粒子・砂粒少量
- 3 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量

遺物出土状況 土師器片9点(坏3, 甕・甑5, 鉢1), 須恵器片1点(甕)が出土している。図示した土器はすべて竈内から出土したものである。

所見 時期は, 出土土器から10世紀以降と考えられる。



第238図 第1633号住居跡・出土遺物実測図

第1633号住居跡出土遺物観察表 (第238図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
725	土師器	鉢	[26.0]	(3.2)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	体部ロクロナデ	竈覆土中	
726	土師器	甕	[15.0]	(4.9)	-	雲母・長石・石英	にぶい褐	普通	体部外面ナデ, 内面ヘラナデ	竈覆土中	

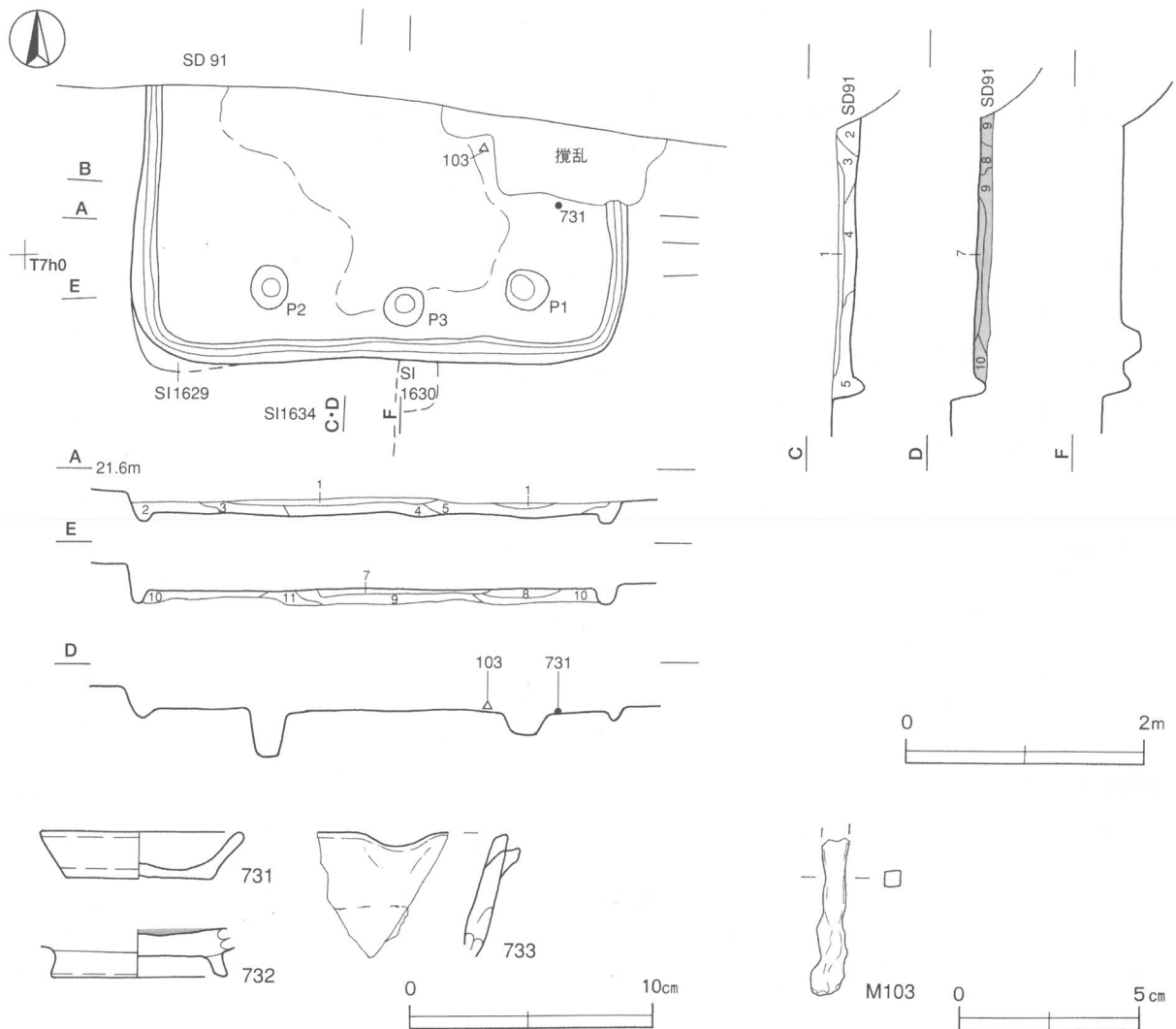
第1636A号住居跡 (第239図)

位置 調査区中央部のT7g0区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1630号住居跡と第168号掘立柱建物跡を掘り込み、第1629・1634号住居と第91号堀に掘り込まれている。また、第1636B号住居跡の床面上に貼床をして本住居が構築されている。

規模と形状 東西軸は4.05mで、南北軸は北部が第91号堀に掘り込まれているために2.35mだけが確認されている。南壁の指す方向からみて、 $N-0^{\circ}$ を主軸方向とする方形または長方形と推測される。壁高は2~10cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。第1636B号住居跡の床面上にロームブロックを用いて均一に貼床が施されており、硬化



第239図 第1636A号住居跡・出土遺物実測図

面は出入り口施設付近から中央部に向かって確認されている。また、壁溝が確認された壁際を巡っている。
 ピット 3か所。P1・P2は主柱穴に相当し、深さはそれぞれ22cmと40cmである。P3は出入り口施設に伴うピットで、深さは17cmである。

覆土 11層に分層され、第1～6層が廃絶後の堆積土層で、ブロック状に堆積した人為堆積である。その下部にある第7～11層は、住居を構築した際の貼床部の土層である。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量、粘土粒子微量	7	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量
2	極暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	8	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物少量	9	暗褐色	ロームブロック多量
4	極暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化物・粘土粒子少量	10	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
5	暗褐色	ロームブロック中量	11	褐色	ロームブロック多量
6	黒褐色	ローム粒子少量			

遺物出土状況 土師器片57点（小皿1，坏・椀30，鉢1，甕・甑25），不明鉄製品1点，混入した須恵器片19点が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており，731は東壁寄りの床面から出土している。

所見 時期は，出土土器から10世紀後半以降と考えられる。本住居は，第1636B号住居からの建て替え住居と推測される。

第1636A号住居跡出土遺物観察表（第239図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
731	土師器	小皿	8.4	2.0	6.1	石英・長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り	東壁寄り床面	70%，PL60
732	土師器	椀	-	(2.0)	7.1	雲母・長石・石英	橙	普通	底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け	覆土中	15%
733	土師器	鉢	-	(5.1)	-	長石・石英	浅黄橙	普通	注口状の突出、内面黒色処理	南西部覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M103	不明	(4.3)	1.0	0.5	(4.5)	鉄	断面方形の棒状、片側欠損	中央部上層	

第1636B号住居跡（第240図）

位置 調査区中央部のT7g0区に位置し，平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1630号住居跡と第168号掘立柱建物跡を掘り込み，第1629・1634号住居と第91号堀に掘り込まれている。また，本住居の床面上に貼床をして第1636A号住居が構築されている。

規模と形状 東西軸は4.05m，南北軸は2.35mだけが確認されており，N-0°を主軸方向とする方形または長方形と推測される。壁高は25～28cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 中央部から東側部分にかけてほぼ平坦で，南壁際から中央部に向かって硬化面が確認されている。また，西側部分には他の床面と比べて5cmほど高いベッド状の高まりが認められ，その上面が硬化している。この硬化面は中央部の硬化面とは連続していない。なお，ほぼ中央から，灰と炭化物の広がり確認されている。

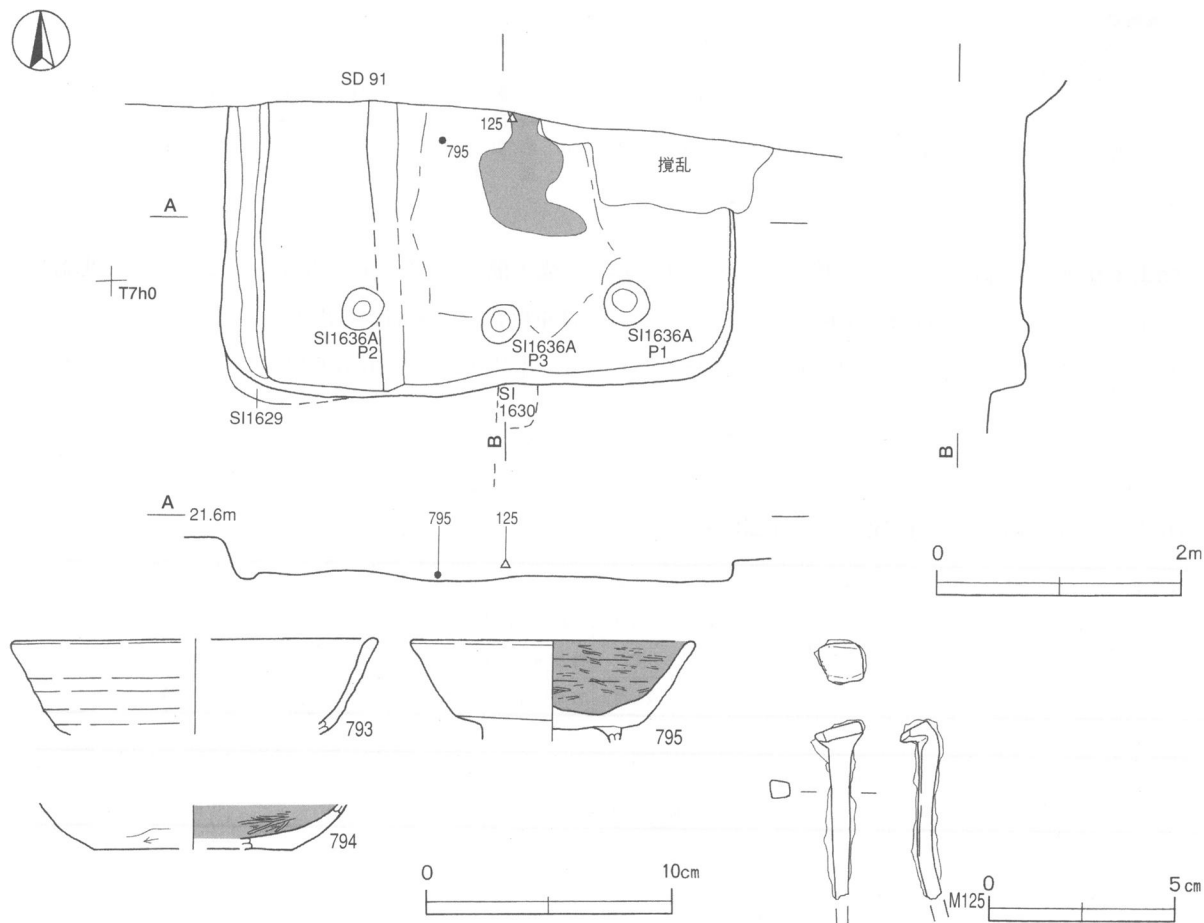
ピット 確認されているピットはいずれも第1636A号住居に帰属するものであるが，本住居のピットが建て替え後も利用された可能性も考えられる。

覆土 本住居の床面上には第1636A号住居の貼床が施されており，本住居に伴う覆土は確認されていない。

遺物出土状況 土師器片56点（坏・椀37，甕・甑19），鉄釘1点，混入した須恵器片7点が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており，795は中央部の覆土下層から出土している。また，中央部の床面には灰と炭化

物が薄く広がっており、焼失したか、廃絶時に有機物を燃やしたかのいずれかと考えられる。なお、焼土は確認されていない。

所見 西側部分のベッド状の高まりは、住居内の使い分けを想起させるものである。時期は、本住居から第1636A号住居への建て替えが行われたと推測されることから、第1636A号住居の年代観に従って10世紀後半以降と考えられる。



第240図 第1636B号住居跡・出土遺物実測図

第1636B号住居跡出土遺物観察表（第240図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
793	土師器	坏	[14.6]	(3.8)	-	石英・赤色粒子	明赤褐	普通	体部ロクロナデ	南東部覆土中	
794	土師器	坏	-	(1.8)	[7.8]	雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端・底部手持ちヘラ削り	南東部覆土中	
795	土師器	高台付坏	11.2	(4.0)	-	石英	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	南西部下層	80%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M125	釘	(4.7)	1.3	0.5	(6.2)	鉄	断面方形の棒状、頭部屈曲	南東部下層	PL81

第1637号住居跡（第241～243図）

位置 調査区中央部のT 8 h3区に位置し、東に緩やかに傾斜した台地の縁辺部に立地している。

重複関係 第1638号住居跡を掘り込み、第1631・1632号住居と第154・167号掘立柱建物、第6号柱穴列、第

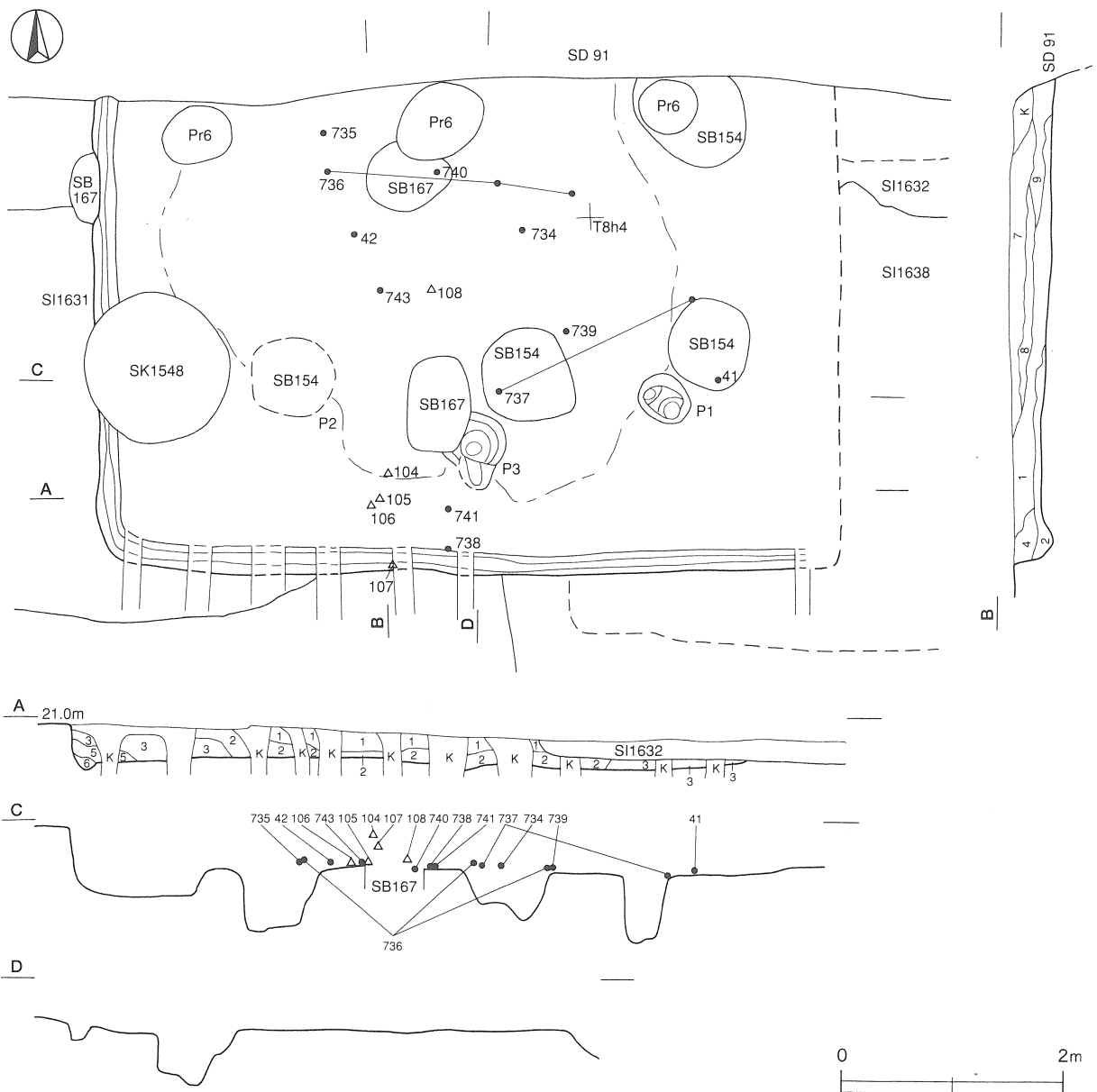
1548号土坑，第91号堀に掘り込まれている。

規模と形状 南北軸は北部が第91号堀に掘り込まれているために4.40mだけが確認され，東西軸は東壁の立ち上がりが確認されなかったため，床面の広がりとおびットの位置から6.55mほどと推定される。平面形は方形または長方形と考えられ，主軸方向は南壁の指す方向から $N-2^{\circ}-E$ と判断できる。残存する壁はほぼ直立しており，西壁の高さは30cmほどである。

床 ほぼ平坦で，壁際を除いて踏み固められており，壁溝が確認された壁際を巡っている。

ピット 3か所。P1は主柱穴に相当し，深さは62cmである。P3は出入口施設に伴うピットで，深さは53cmである。

覆土 9層からなる。第1～6層は，レンズ状に堆積した自然堆積である。その上層に堆積している第8・9層はロームブロックを含み，埋没途中に人為的に埋め戻されている層であり，その後は第7層が自然に堆積している。



第241図 第1637号住居跡実測図

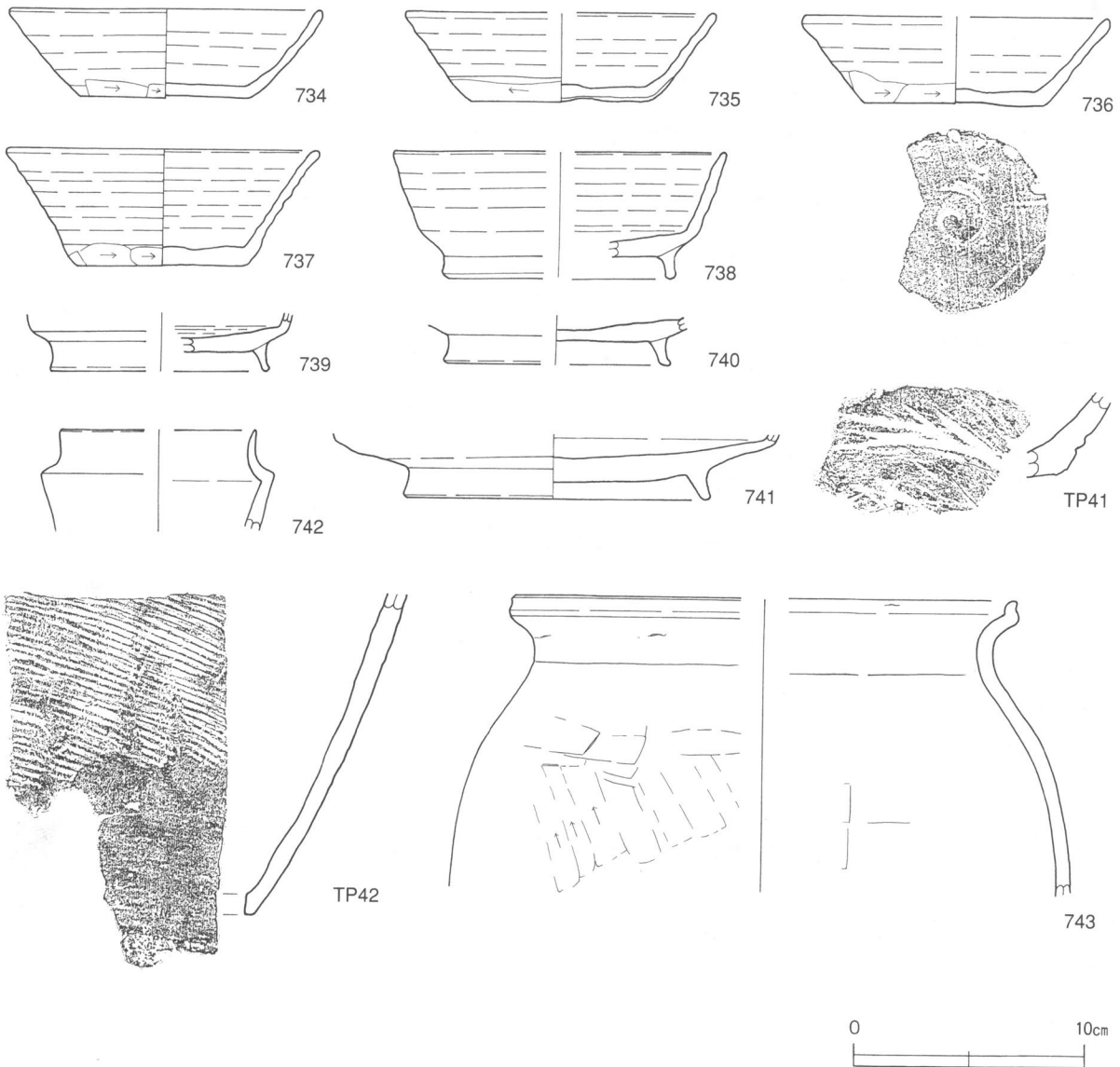
土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 極暗褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量

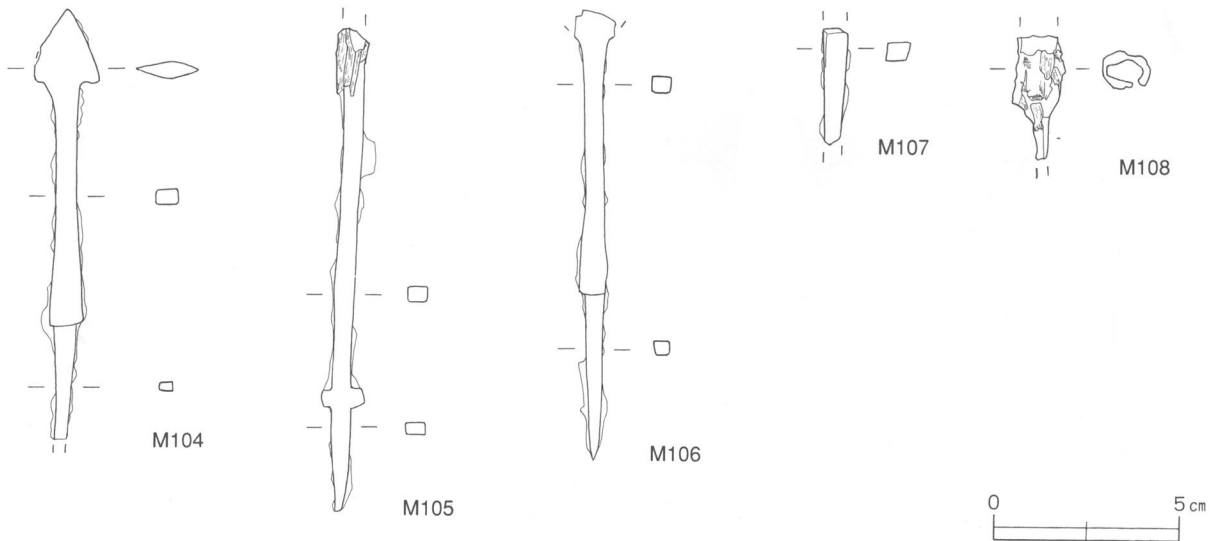
- 6 褐色 ローム粒子多量
- 7 黒褐色 ローム粒子少量
- 8 暗褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 9 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片243点(坏20, 甕・甑223), 須恵器片242点(坏・高台付坏160, 蓋6, 盤1, 甕・甑74, 短頸壺1), 支脚1点, 鉄鏃3点, 不明鉄製品2点, 鉄滓1点が覆土下層を中心に出土している。出土した土器の大半は破断面の摩耗が少ないことから, 廃絶時あるいは廃絶から間もない時期に投棄されたものと考えられる。734~736・739は, いずれも中央部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。740は中央部の床面から出土しており, 底部内面が摩滅している。また, M104~107は南壁際中央部の覆土下層から上層にかけて出土している。737は重複する掘立柱建物に伴う可能性がある。

所見 出土土器に占める須恵器供膳具の割合が高く, そうした食器を管理する施設が本住居付近に存在していたことがうかがわれる。廃絶時期は, 出土土器から8世紀中葉から後葉と考えられる。



第242図 第1637号住居跡出土遺物実測図(1)



第243図 第1637号住居跡出土遺物実測図(2)

第1637号住居跡出土遺物観察表 (第242・243図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
734	須恵器	坏	13.3	3.8	7.3	雲母・長石・石英	灰	普通	底部一方向のヘラ削り	中央部下層	80%, PL60
735	須恵器	坏	[13.2]	3.8	7.4	雲母・長石・石英	褐灰	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	中央部下層	40%
736	須恵器	坏	[13.0]	3.8	7.8	雲母・長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り後、一方向のヘラ削り	中央部下層	45%
737	須恵器	坏	13.2	5.0	7.2	長石・石英	黄灰	普通	底部一方向のヘラ削り	南東部下層～床面	60%
738	須恵器	高台付坏	[14.2]	5.4	[9.4]	雲母・長石・石英	褐灰	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	南壁際下層	40%
739	須恵器	高台付坏	-	(2.4)	[9.3]	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	南東部下層	視転用, 20%
740	須恵器	高台付坏	-	(2.1)	[9.4]	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	中央部床面	視転用, 20%
741	須恵器	盤	-	(2.8)	12.8	雲母・長石・石英	褐灰	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	南壁際下層	80%, PL60
742	須恵器	短頸壺	[8.4]	(4.4)	-	長石・石英	灰	普通	口縁部・体部ロクロナデ	西部下層	
743	土師器	甕	[21.4]	(12.7)	-	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	中央部下層	
TP41	土師器	甕	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	筋状の金属研磨痕	南東部下層	
TP42	須恵器	甌	-	-	-	雲母・長石・石英	暗灰黄	普通	内面無文の当て具痕・ナデ、孔はヘラ切り	中央部下層	

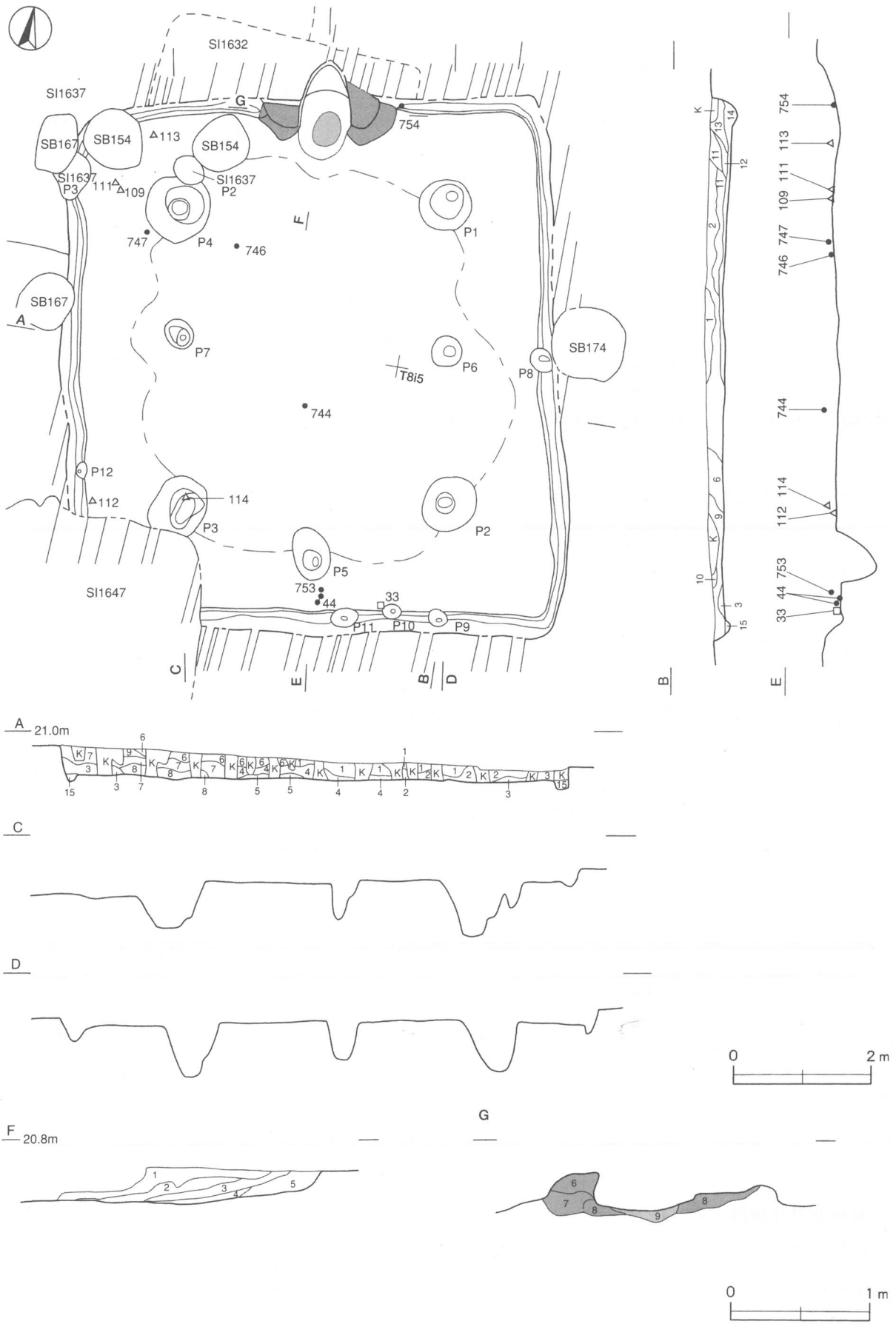
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M104	鎌	(11.4)	1.7	0.5	(16.8)	鉄	両丸造, 台状関	南壁際上層	PL80
M105	鎌	(12.9)	1.2	0.4	(10.7)	鉄	鎌身部に木質付着, 棘関	南壁際下層	PL80
M106	鎌	(11.9)	1.1	0.4	(12.8)	鉄	台状関, 鎌身部欠損	南壁際下層	PL80
M107	不明	(3.2)	(0.7)	(0.5)	(2.9)	鉄	断面方形の棒状	南壁際上層	
M108	不明	(3.4)	(1.0)	(0.6)	(3.4)	鉄	錆化が激しく, 形状不明	中央部下層	

第1638号住居跡 (第244・245図)

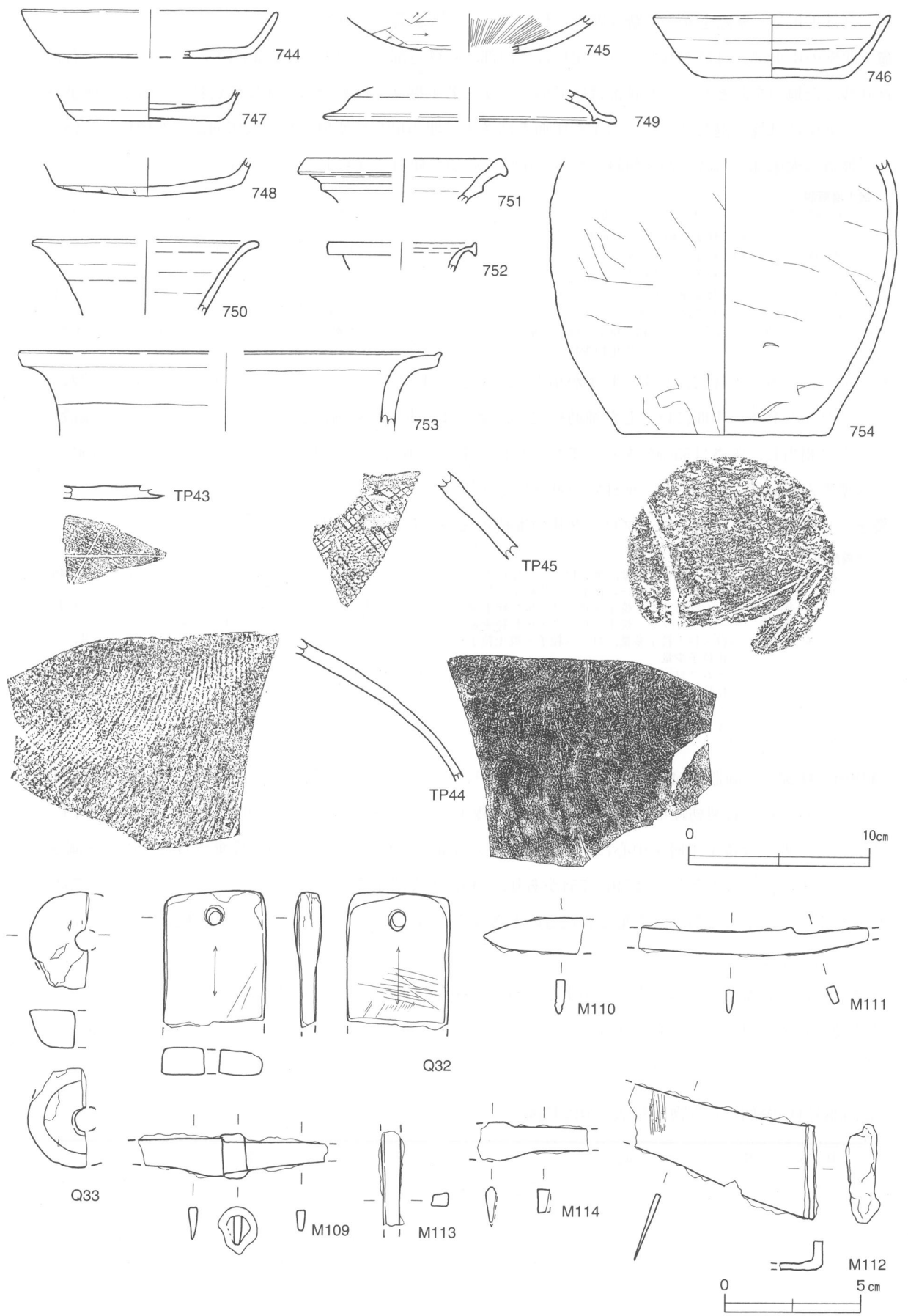
位置 調査区中央部のT 8 h4区に位置し, 東に緩やかに傾斜した台地の縁辺部に立地している。

重複関係 第1632・1637・1647号住居と第154・167・174号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.70m, 短軸7.10mほどの方形で, 主軸方向はN-9°-Wである。壁高は20~24cmで, 各壁とも外傾して立ち上がっている。



第244图 第1638号住居跡実測图



第245图 第1638号住居跡出土遺物実測図

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められており、壁溝が巡っている。

竈 北壁の中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで140cm、袖部幅195cmほどである。右袖部は掘り残した地山を芯として、左袖部は床面の高さから若干掘りくぼめた地山面に砂質粘土を用いて構築されている。火床部は焼土混じりのローム土を床面の高さまで埋め戻して使用され、火床面が赤変硬化している。また、煙道は火床部から緩やかに傾斜した後、中位から急な傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|---------------------------------|----------|---------------------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量 | 6 にぶい黄褐色 | 砂粒多量、粘土粒子中量、ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 2 灰黄褐色 | 粘土粒子・砂粒多量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 7 にぶい黄褐色 | 粘土粒子・砂粒多量、ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 炭化物多量、焼土ブロック・灰少量 | 8 にぶい黄褐色 | 粘土粒子・砂粒多量、ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 にぶい赤褐色 | 焼土粒子多量、灰中量 | 9 にぶい赤褐色 | ロームブロック・焼土粒子中量、炭化物・粘土粒子・砂粒少量 |
| 5 灰褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒中量、ロームブロック・炭化物少量 | | |

ピット 12か所。主柱穴はP 1～P 4が相当し、深さは54～74cmである。また、P 6・P 7はそれぞれP 1とP 2、P 3とP 4の中間に位置した補助柱穴で、深さはいずれも55cmほどである。P 5は出入り口施設に伴うピットに相当し、深さは55cmである。また、P 11の深さは70cm、その他のP 8～P 12は深さ22～27cmで、いずれも壁際から確認されており、壁柱穴の可能性がある。

覆土 15層からなり、含有物やブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

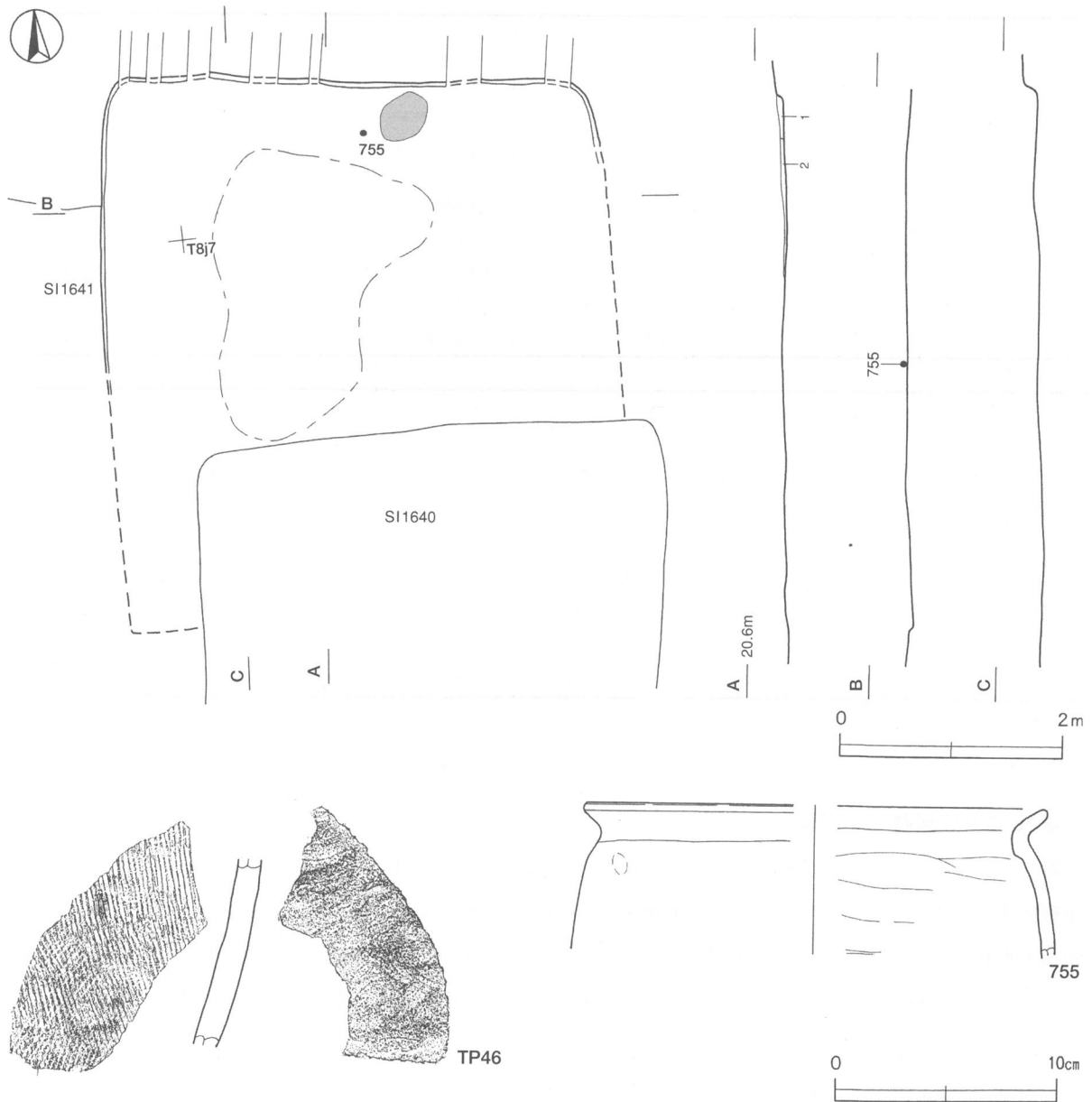
- | | | | |
|--------|-----------------------------|---------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物少量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 10 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 11 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂粒・粘土粒子少量 |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 12 赤灰色 | 砂粒・粘土粒子多量、焼土粒子中量、ローム粒子・炭化物微量 |
| 5 灰黄褐色 | 砂粒・粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 13 暗褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子・砂粒・粘土粒子少量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 | 14 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・砂粒・粘土粒子少量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量、焼土ブロック微量 | 15 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 8 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片741点（坏150、甕・甔591）、須恵器片354点（坏・高台付坏226、蓋17、瓶3、甕・甔108）、砥石1点、石製紡錘車1点、刀子3点、鉄鎌1点、不明鉄製品2点、炭化種子1点（桃）が出土している。土器の大半は覆土中層を中心に出土しており、廃絶後の埋め戻しの途中で投棄されたものと推測される。床面から出土したものとしては746・754があり、746は中央部北西寄りから土圧でつぶれた状態で、754は竈右側から正位で出土しており、遺棄されたものと考えられる。また、M109・M111は北西部の覆土下層からまともに出土している。

所見 鉄器や石器などがまともに出土しており、保有形態の一端をうかがうことができる。廃絶時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。

第1638号住居跡出土遺物観察表（第245図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
744	土師器	坏	[14.0]	2.6	[11.2]	雲母・長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ、底部ヘラ削り	中央部中層	20%
745	土師器	坏	-	(2.2)	-	長石・石英	橙	普通	底部内面放射状の暗文、外面ヘラ削り	P 6 覆土中	
746	須恵器	坏	13.0	3.5	8.5	雲母・長石・石英	灰	普通	底部井桁状のヘラ削り	中央部床面	70%、PL60
747	須恵器	坏	-	(1.7)	8.0	雲母・長石・石英	黄灰	普通	底部一方向のヘラ削り	北西部下層	40%
748	須恵器	坏	-	(2.1)	[10.0]	雲母・長石・石英	灰	普通	底部一方向のヘラ削り	西部下層	15%
749	須恵器	蓋	[16.0]	(1.8)	-	雲母・長石・石英	暗灰黄	普通	口縁部口ロナデ	P 2 覆土中	
750	須恵器	瓶	[12.0]	(4.0)	-	長石・石英	黄灰	良好	口縁部口ロナデ、内面自然釉	南西部上層	平瓶カ



第246図 第1639号住居跡・出土遺物実測図

第1639号住居跡出土遺物観察表 (第246図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
755	土師器	甕	[20.4]	(6.6)	-	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ナデ, 内面ヘラナデ	竈左側床面	
TP46	須恵器	大甕	-	-	-	雲母・長石・石英	灰	普通	外面斜位の平行叩き, 内面無文の当て具痕	南西部覆土中	

第1640号住居跡 (第247図)

位置 調査区中央部のT8j7区に位置し, 南東に緩やかに傾斜した台地の縁辺部に立地している。

重複関係 第1639号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.95m, 短軸3.40mほどの長方形で, 主軸方向はN-91°-Eである。壁高は2~7cmで, 各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められており、壁溝が周回している。

竈 東壁の南寄りに付設されており、規模は焚口部から煙道部まで80cm、燃烧部幅60cmほどである。天井部と袖部は遺存せず、袖部の想定される壁際にその痕跡が若干確認されるだけである。火床部は地山を皿状に掘りくぼめて使用され、火床面は被熱によって赤変している。また、煙道の立ち上がり部には雲母片岩が据えられて、支脚として使用されている。煙道の様子は攪乱のため不明である。

竈土層解説

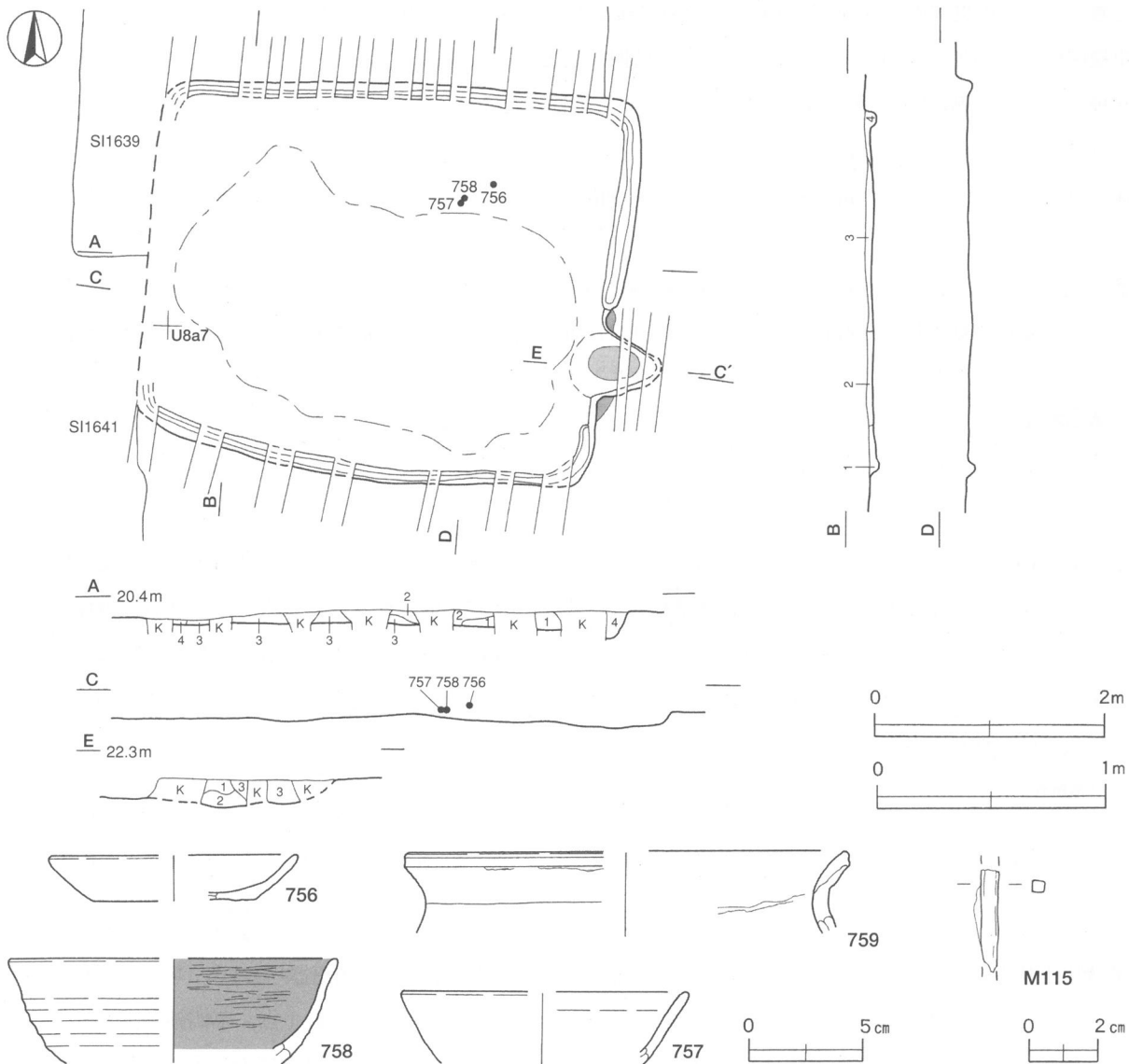
- 1 暗褐色 焼土粒子中量, ローム粒子少量
- 2 にぶい赤褐色 焼土粒子・灰多量, 炭化物中量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

覆土 4層からなり、各層ともロームブロックを含んだ人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 焼土粒子・炭化物中量, ロームブロック少量
- 4 極暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片116点 (小皿1, 坏・碗32, 甕・甔83), 不明鉄製品1点, 石製支脚1点, 混入した須恵器片22点が出土している。遺物は北東部から多く出土しており、756~758はいずれも北東部の覆土下層から出土している。



第247図 第1640号住居跡・出土遺物実測図

所見 時期は、出土土器から10世紀後半以降と考えられる。

第1640号住居跡出土遺物観察表（第247図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
756	土師器	小皿	[10.5]	2.0	[6.9]	赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ切り	北東部下層	20%
757	土師器	坏	[12.1]	(3.1)	-	石英・赤色粒子	橙	普通	体部ロクロナデ	北東部下層	10%
758	土師器	椀	[14.0]	(4.5)	-	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部ロクロナデ、内面ヘラ磨き	北東部下層	10%
759	土師器	甕	[18.6]	(3.6)	-	雲母・長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ・輪積み痕	北東部覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M115	不明	(2.9)	0.5	0.4	(1.9)	鉄	断面方形の棒状	南東部覆土中	

第1641号住居跡（第248・249図）

位置 調査区中央部のT 8 j5区に位置し、南東に緩やかに傾斜した台地の縁辺部に立地している。

重複関係 第1639・1640号住居と第1551号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.00m、短軸6.70mほどの方形で、主軸方向はN-7°-Wである。壁高は18~29cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められており、壁溝が周回している。また、焼土がほぼ全体に散在して確認されている。

竈 北壁の中央部に付設されており、壁外への掘り込みは45cmほどである。天井部と袖部は遺存せず、付近の床面には砂粒や粘土粒子が散在している。火床部は床面と同じ高さの平坦面を使用しており、被熱した部分は認められない。また、煙道は外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------------------|--------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量 | 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子中量、焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量 | 5 黒褐色 | 炭化物多量、焼土粒子少量 |
| 3 灰黄褐色 | 粘土粒子・砂粒多量、ロームブロック少量、
焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

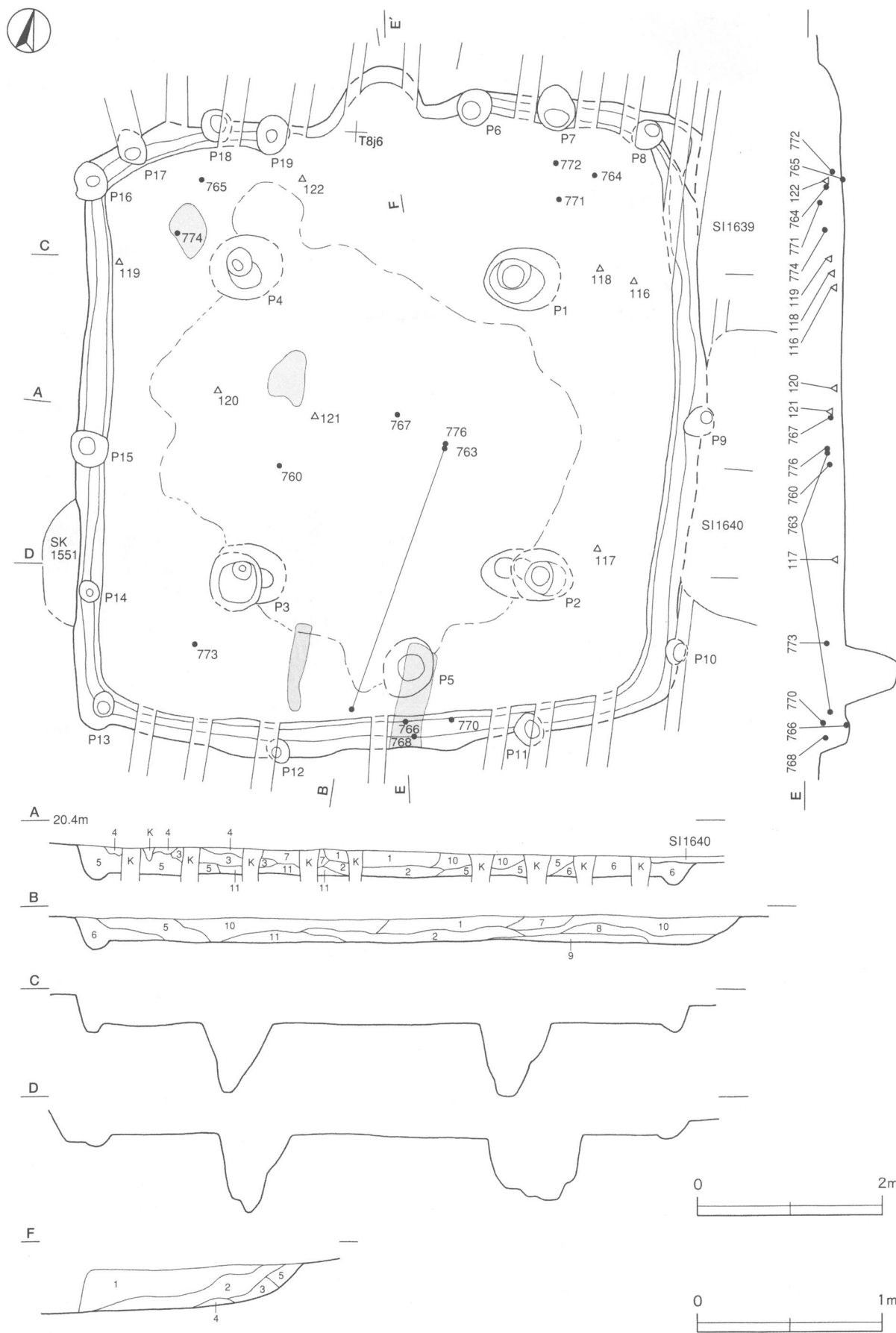
ピット 19か所。主柱穴はP 1~P 4が相当し、深さは73~83cmである。また、P 5は出入り口施設に伴うピットで、深さは63cmである。P 6~P 19は壁柱穴で、壁溝内に規則的に配されている。深さは竈の両側に位置するP 6・P 19がそれぞれ90cm、80cmと深くなっており、それ以外のピットは41~73cmの深さである。

覆土 11層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。床面上には焼土が散在していることから、焼失後に人為的に埋め戻されたものと考えられる。

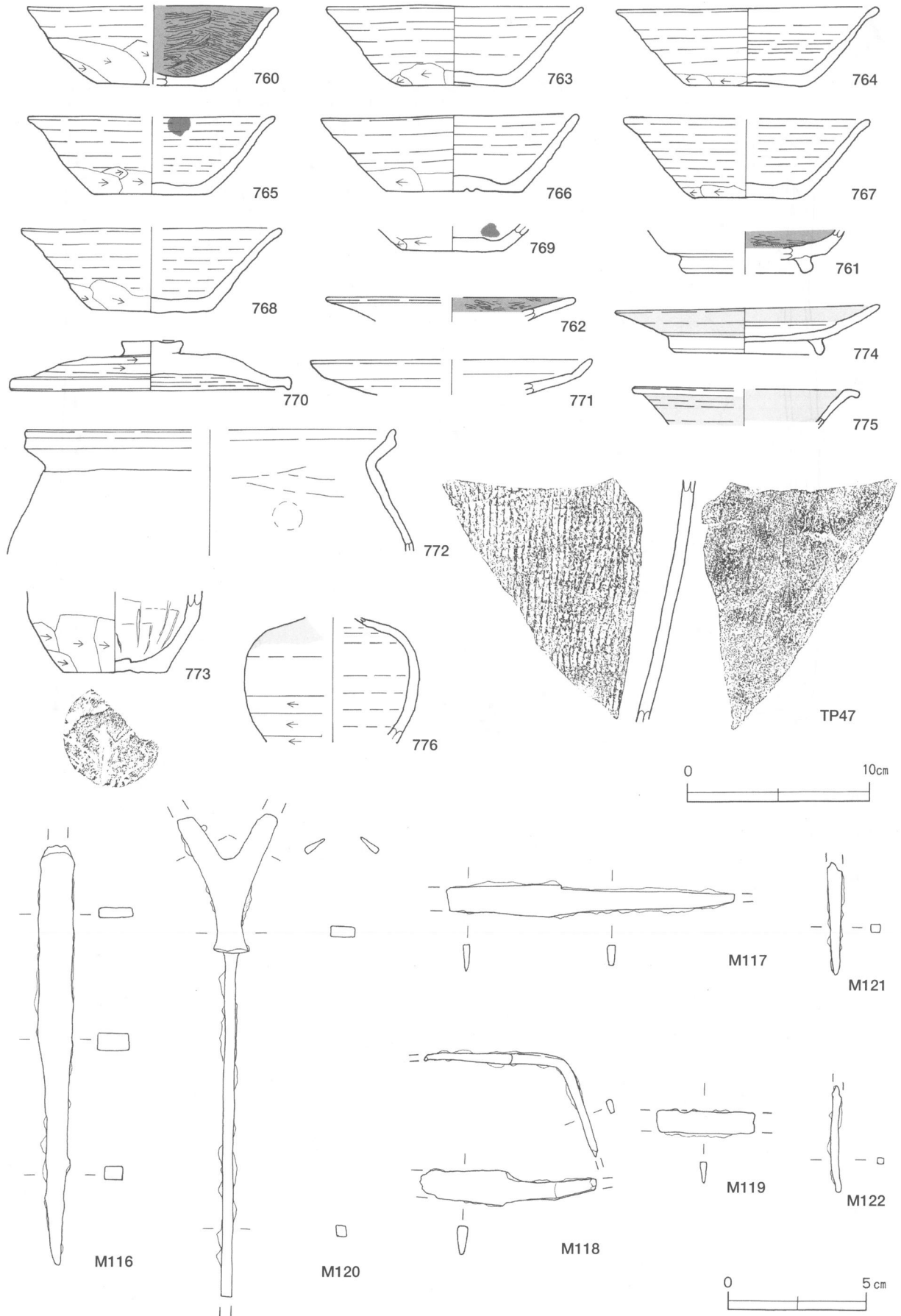
土層解説

- | | | | |
|---------|-----------------------|---------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 7 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 8 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量 |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 9 黒褐色 | 炭化粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子・
砂粒少量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子少量 | 10 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化物少量 |
| 5 極暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 11 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化物少量 | | |

遺物出土状況 土師器片732点（坏・椀193, 皿・盤2, 鉢3, 甕・甗534）, 須恵器片471点（坏・高台付坏190, 蓋19, 盤4, 甕・甗257, 瓶1）, 灰釉陶器片2点（皿・小瓶）, 刀子3点, 鉄鏃1点, 不明鉄製品2点（鉄鏃カ, 鑿カ）が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており、出土土器の大半は破断面の摩耗が少ないことから、廃絶後の埋め戻しに伴って投棄されたものと推測される。北西部の床面から出土した765とP 4の覆土中



第248图 第1641号住居跡実测图



第249图 第1641号住居跡出土遺物実測図

から出土した769には油煙が付着している。また、北西部の覆土下層から出土した774は硯に転用されており、底部外面には朱墨痕が認められる。鉄器・鉄製品類では、M116・M118が北東部、M117が南東部、M119が北西部、M120が西部、M121が中央部、M122が竈手前と、出土位置にまともは見られないが、いずれも床面から若干浮いた状態で出土している。

所見 壁柱穴が規則的に配された住居形態から、当集落の中心的な住居の一つと考えられる。灰釉陶器や朱墨痕のある転用硯油煙付着土器、豊富な鉄製品など、出土遺物も卓越している。廃絶時期は、供膳具に占める土師器と須恵器の割合がほぼ同等であることから、9世紀中葉と考えられる。

第1641号住居跡出土遺物観察表（第249図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
760	土師器	坏	[13.4]	4.2	[6.4]	石英・赤色粒子	灰黄褐	普通	底部不定方向のヘラ削り	中央部下層	30%
761	土師器	高台付坏	-	(2.3)	[6.5]	石英	にぶい橙	普通	高台貼り付け後、ロクロナデ	南西部下層	10%
762	土師器	皿	[13.4]	(1.2)	-	雲母・石英	にぶい橙	普通	体部内面ヘラ磨き・黒色処理	南東部上層	15%
763	須恵器	坏	13.8	4.3	6.2	雲母・長石・石英	橙	普通	底部回転ヘラ切り後、一方向のヘラ削り	中央部中層・ 南壁際下層	90%、PL61
764	須恵器	坏	14.1	4.3	6.4	雲母・長石・石英	暗灰黄褐	普通	底部回転ヘラ切り後、ヘラナデ	北東部中層	70%、PL61
765	須恵器	坏	[13.4]	4.2	6.4	雲母・長石・石英	暗灰黄褐	普通	底部回転ヘラ切り後、一方向のヘラ削り	北西部床面	油煙付着,60%,PL61
766	須恵器	坏	13.8	4.3	7.5	雲母・長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り後、二方向のヘラ削り	南壁際床面	80%、PL61
767	須恵器	坏	[13.4]	4.3	5.7	雲母・長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後、ヘラナデ	中央部下層	45%
768	須恵器	坏	[14.0]	4.5	6.6	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り後、ヘラナデ	南壁際中層	40%
769	須恵器	坏	-	(1.4)	5.2	長石・石英	黄灰	普通	底部ヘラナデ	P4覆土中	油煙付着
770	須恵器	蓋	15.1	2.7	-	長石・石英	黄灰	普通	天井部ロクロナデ	南壁際中層	60%
771	須恵器	盤	[15.2]	(1.9)	-	雲母・長石・石英	灰黄褐	普通	口縁部ロクロナデ	北東部上層	10%
772	土師器	甕	[20.0]	(6.7)	-	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ナデ、内面ヘラナデ	北東部中層	
773	土師器	小形甕	-	(4.4)	5.6	石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ	南西部中層・ P3覆土中	20%
774	灰釉陶器	皿	14.2	2.7	7.9	緻密	灰黄・ 灰オリーブ	良好	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け、釉は刷毛塗りカ	北西部上層	内外面朱墨痕,東濃産,50%,PL62
775	須恵器	瓶	[12.4]	(2.1)	-	黒色粒子	灰・ 灰オリーブ	良好	口縁部ロクロナデ、内・外面自然釉	北東部上層	平瓶カ
776	灰釉陶器	小瓶	-	(6.8)	-	白色の吹き出し	灰黄褐・ 灰褐	良好	体部ロクロナデ、外面下半回転ヘラ削り、肩部降灰による自然釉	中央部中層	井ヶ谷78号窯式,20%、PL62
TP47	須恵器	甕	-	-	-	雲母・長石・石英	黒	普通	外面格子状の叩き、内面ナデ・輪積み痕	P1覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M116	鑿カ	(15.2)	1.2	0.7	(39.9)	鉄	先端部欠損、撫闕	北東部下層	PL82
M117	刀子	(10.5)	1.3	0.4	(11.8)	鉄	刃部から茎部にかけての破片、片闕	南東部下層	PL79
M118	刀子	(9.1)	1.2	0.4	(8.0)	鉄	刃部から茎部にかけての破片、両闕、茎部屈曲	北東部中層	PL79
M119	刀子	(3.6)	0.8	0.2	(2.8)	鉄	刃部の破片	北西部下層	
M120	鎌	(17.5)	(3.6)	0.6	(25.6)	鉄	鎌身部から茎部にかけての破片、台状闕、雁又式	西部下層	PL80
M121	不明	(4.0)	(0.6)	(0.5)	(1.7)	鉄	断面方形の棒状、片側が尖る	中央部下層	
M122	不明	(3.8)	(0.4)	(0.4)	(1.4)	鉄	断面方形の棒状、片側が尖る	竈手下層	

第1642号住居跡 (第250・251図)

位置 調査区中央部のT 8 b1区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1567・1586・1590号住居跡と第157・159・183号掘立柱建物跡を掘り込み、第1552・1553・1585・1594号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南北軸は3.20mで、東西軸は床面の広がりと竈の位置から3.50mほどであり、N-96°-Eを主軸方向とする方形と推定される。壁高は遺存状態の良い西壁でも5cmほどしかなく、壁の立ち上がり具合は判然としない。

床 やや凹凸があり、中央部が踏み固められている。また、壁溝は北西部から南西部にかけて確認されている。

竈 東壁の南寄りに付設されている。遺存状態が悪く、火床面が確認されたただけであり、構築材等も不明である。火床部は床面と同じ高さの平坦面を使用しており、火床面が被熱によって赤変硬化している。

炉 中央部に付設されている。平面形は円形で、床面とほぼ同じ高さの地床炉である。

炉土層解説

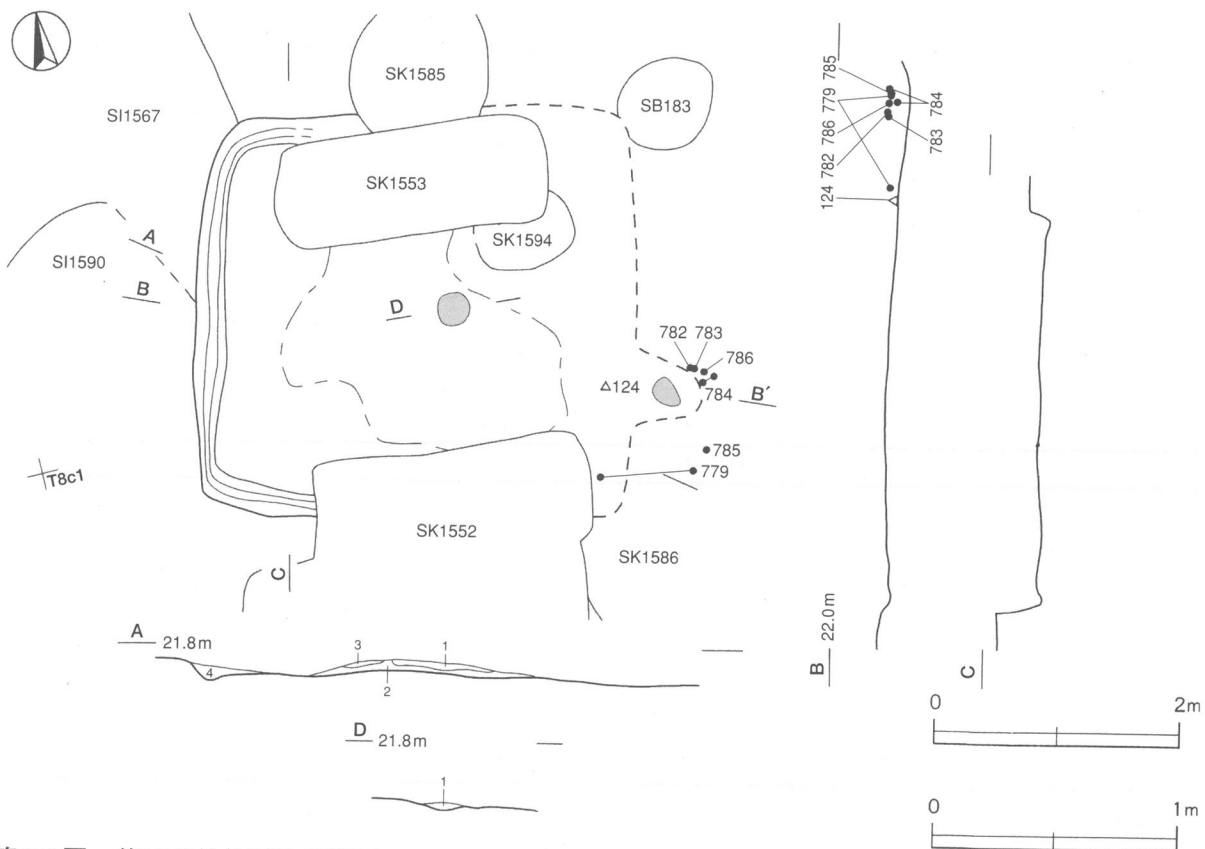
- 1 赤 色 焼土粒子多量

覆土 4層からなり、各層とも焼土や炭化粒子を含んだ人為堆積である。

土層解説

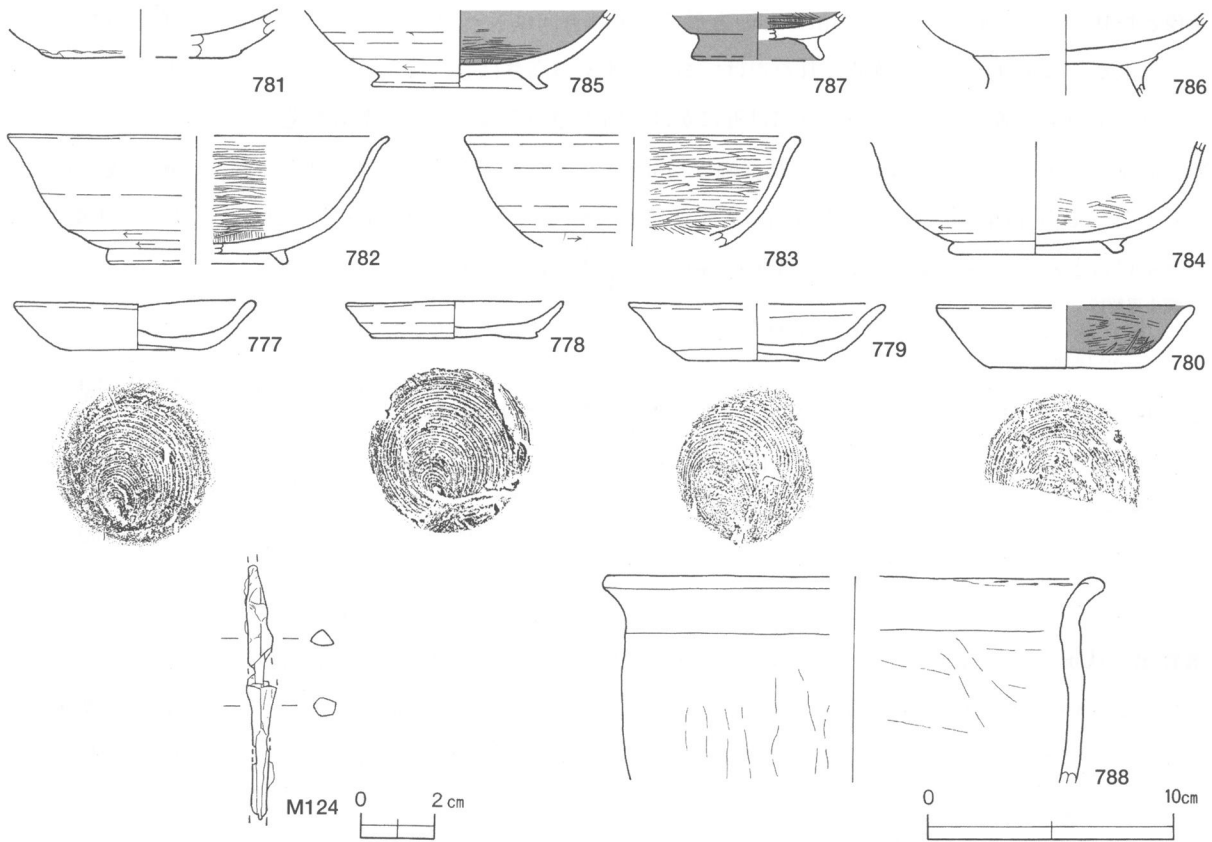
- 1 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量
 2 暗赤褐色 炭化粒子中量、焼土ブロック少量
 3 黒褐色 炭化粒子中量、焼土ブロック少量
 4 にぶい赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片248点(小皿5, 坏・椀99, 甕・甑144), 不明鉄製品2点(釘カ1, 不明1), 混入した須恵器片13点が出土している。遺物は竈から南東コーナー部にかけてまとまって出土しており、竈の火床部からは782~784・786, 南東コーナー部の覆土下層からは779・785が出土している。



第250図 第1642号住居跡実測図

所見 出土した土師器小皿と坏は、胎土や手法の特徴から見て、当調査区の東部で確認された土器焼成遺構で焼かれたものと考えられる。時期は、出土土器から10世紀後半以降と考えられる。



第251図 第1642号住居跡出土遺物実測図

第1642号住居跡出土遺物観察表 (第251図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
777	土師器	小皿	9.4	2.0	5.4	雲母・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	南東部覆土中	100%, PL60
778	土師器	小皿	8.6	1.5	6.7	雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	南東部覆土中	100%, PL60
779	土師器	小皿	[10.3]	2.2	5.4	石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	南東部下層	50%
780	土師器	小皿	[10.2]	2.5	6.2	長石・石英	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り	南東部覆土中	50%
781	土師器	坏	-	(1.9)	[8.0]	石英	浅黄橙	普通	底部回転糸切り	南壁際下層	
782	土師器	椀	[15.2]	5.1	[7.0]	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り後、高台貼り付け	竈火床部	45%
783	土師器	椀	[13.4]	(4.4)	-	雲母・石英・赤色粒子	橙	普通	底部内面一方向のヘラ磨き	竈火床部	30%
784	土師器	椀	-	(4.5)	6.4	雲母・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	竈火床部	35%
785	土師器	椀	-	(3.1)	7.0	雲母・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	南東部下層	20%
786	土師器	椀	-	(3.3)	-	雲母・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	竈火床部	30%
787	土師器	椀	-	(1.9)	[5.4]	雲母・赤色粒子	黒褐	普通	高台貼り付け後、ロクロナデ	南東部覆土中	10%
788	土師器	甕	[19.6]	(8.2)	-	石英・長石	にぶい橙	普通	体部外面指頭によるナデ、内面ヘラナデ	北東部覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M124	不明	(6.7)	(0.8)	(0.8)	(4.1)	鉄	錆化が激しく、形状不明	南東部床面	PL83

第1643号住居跡 (第252・253図)

位置 調査区南部のU 8 f3区に位置し、南に傾斜した斜面部に立地している。

重複関係 第181号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.00m、短軸3.95mほどの方形で、主軸方向はN-6°-Wである。傾斜した地形のため、壁の立ち上がりは東部と北部で確認されただけである。北壁の高さは5cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、竈の手前から出入り口付近にかけて踏み固められており、壁溝が巡っている。

竈 北壁の中央部に付設されており、袖部幅は145cmほどである。天井部は遺存せず、袖部は掘り残した地山を芯としてその周囲に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部は地山を若干掘りくぼめた皿状を呈し、被熱痕はほとんど見られない。また、煙道は外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|-----------------|----------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量 | 3 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量 |
| 2 にぶい黄褐色 | 粘土粒子・砂粒多量 | 4 灰褐色 | 灰中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |

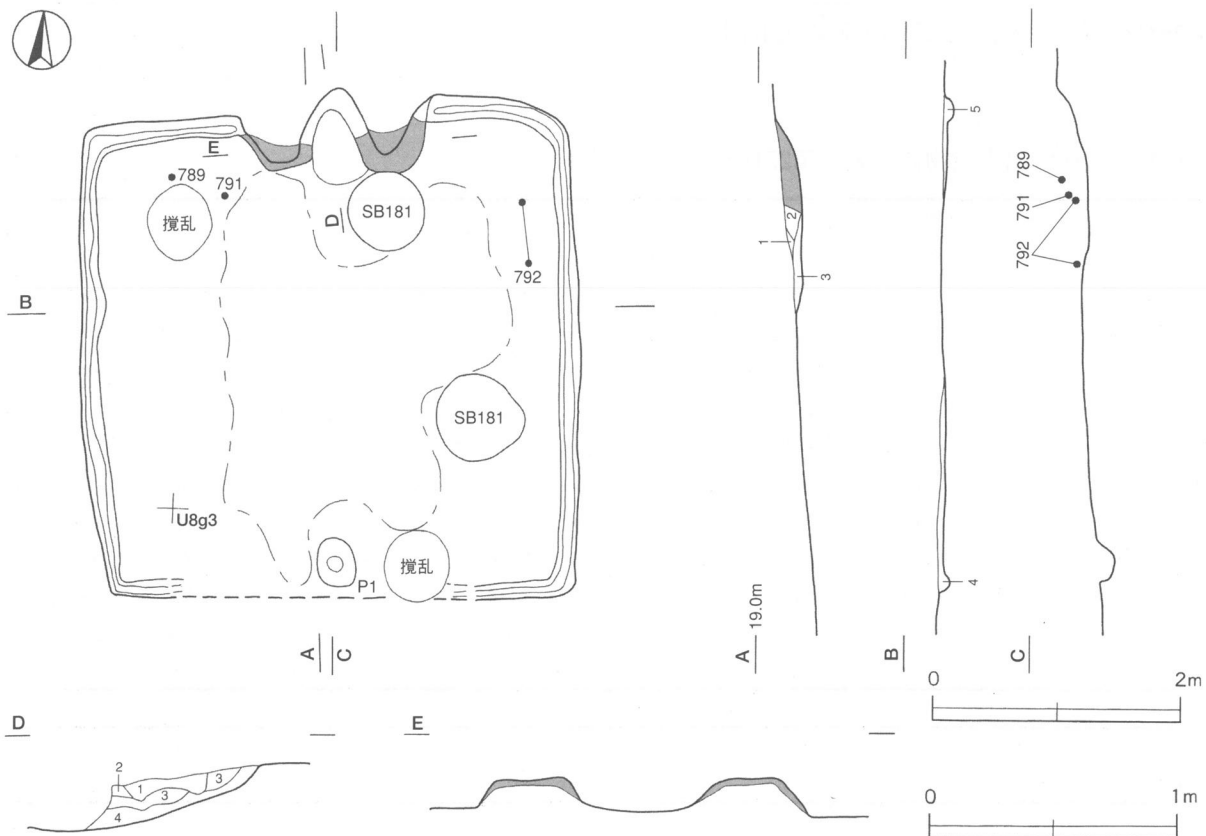
ピット 1か所。P1は出入り口施設に伴うピットで、深さは14cmである。

覆土 5層からなる。竈周辺を除くとほぼ単一層であり、自然堆積の可能性が高い。

土層解説

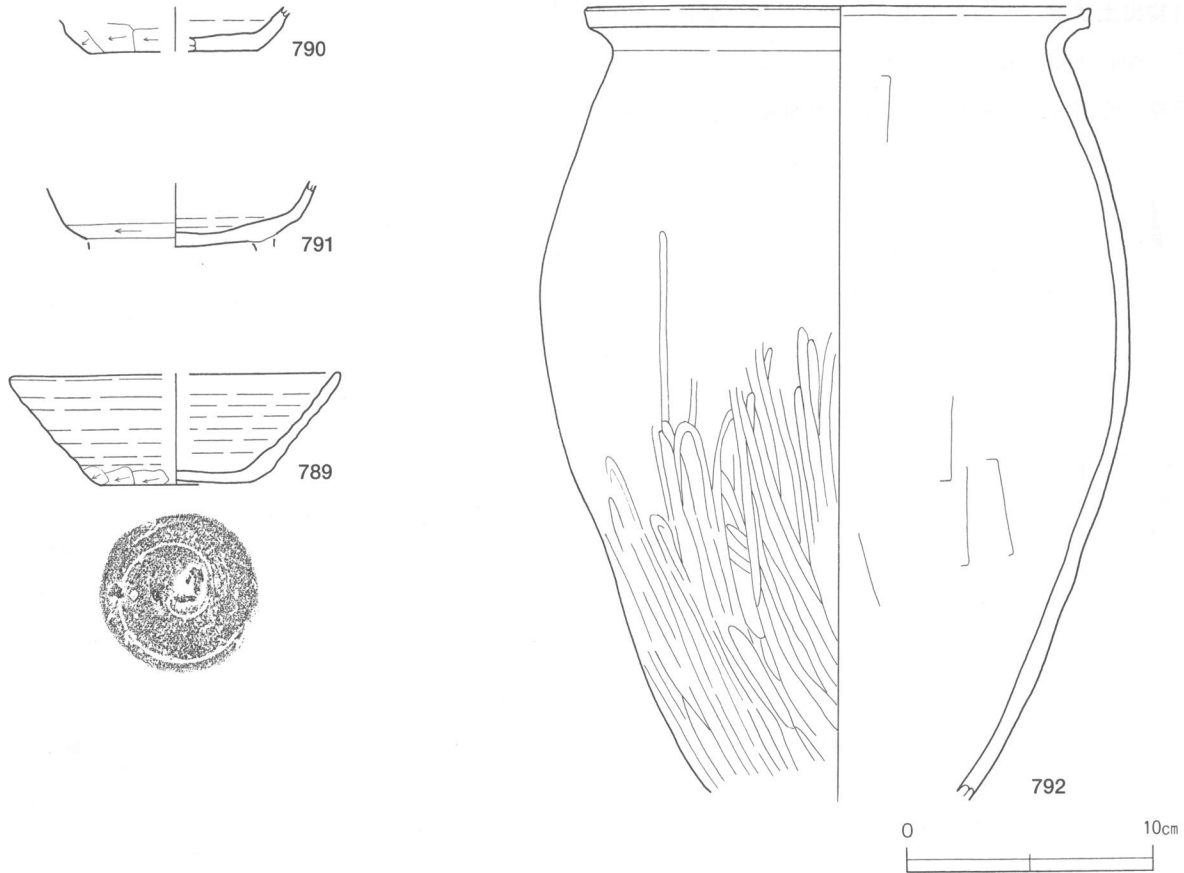
- | | | | |
|-------|-------------------------|--------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量、砂粒微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・砂粒少量 | 4 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| | | 5 暗褐色 | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片132点(坏・碗12, 甕・甔120), 須恵器片24点(坏・高台付坏10, 蓋4, 甕・甔10)が出土している。遺物は遺構の遺存状態を反映して、北壁際を中心に出土している。789は北西部の覆土下層と竈内から出土した破片が接合したものである。また、792は北東部の覆土下層から二つに割れた状態で出土した破片が接合したものである。



第252図 第1643号住居跡実測図

所見 廃絶時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第253図 第1643号住居跡出土遺物実測図

第1643号住居跡出土遺物観察表（第253図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
789	須恵器	坏	[13.0]	4.4	6.3	雲母・長石・石英	にぶい褐	普通	底部回転ヘラ切り後、ヘラナデ	北西部下層・ 竈覆土中	45%
790	須恵器	坏	-	(1.7)	[6.8]	長石・石英	灰黄褐	普通	底部一方向のヘラ削り	南西部覆土中	20%
791	須恵器	高台付坏	-	(2.6)	-	雲母・長石・石英	黒褐	普通	底部回転ヘラ削り、高台貼り付け痕	北西部下層	30%
792	土師器	甕	20.0	(31.7)	-	雲母・長石・石英	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ磨き、内面ヘラナデ	北東部下層	80%, PL61

第1646号住居跡（第254図）

位置 調査区南部のU 8 e3区に位置し、南に傾斜した斜面部に立地している。

重複関係 第1635号住居跡を掘り込み、第181号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 壁の立ち上がり不明のため、竈の位置と暗褐色を呈した床面の広がりから、長軸3.90m、短軸3.50mほどの長方形と推定される。主軸方向は、N-88°-Wである。

床 ほぼ平坦で、竈の手前が踏み固められている。

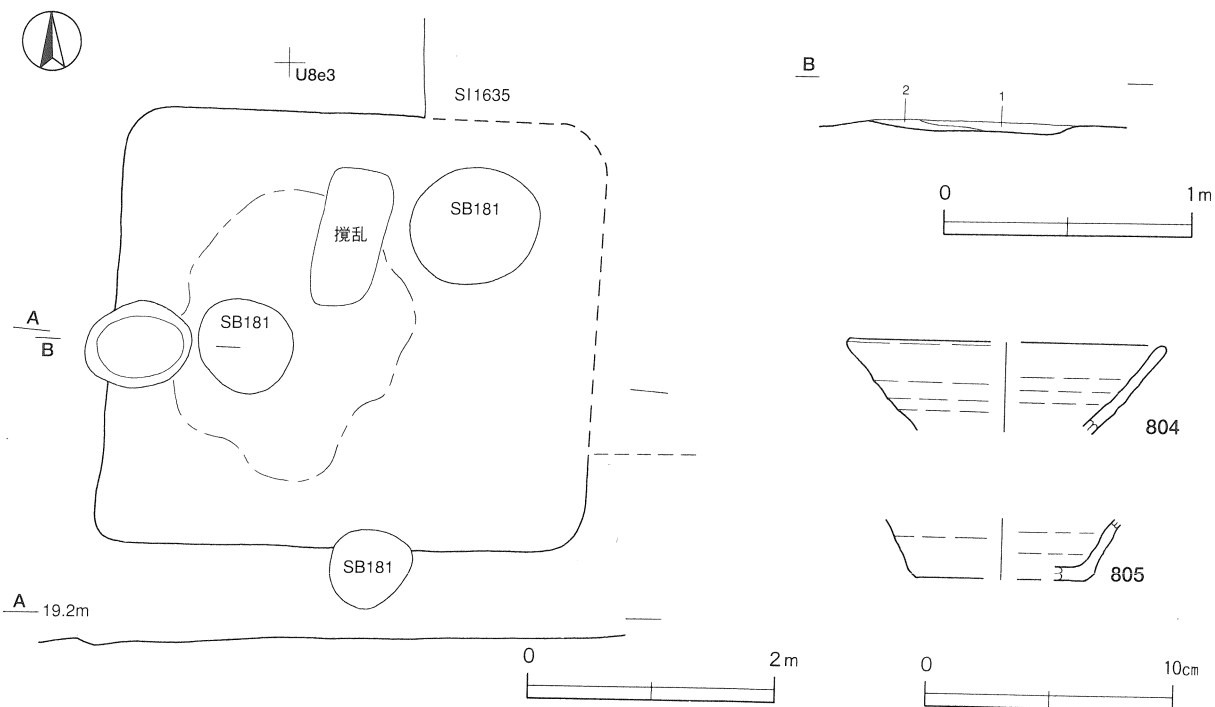
竈 西壁中央部に付設されている。袖部や天井部は遺存せず、火床面だけが確認されている。火床部は皿状に浅く掘りくぼめられて、わずかに赤変している。

竈土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土ブロック・砂粒少量
 2 暗赤褐色 ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物・砂粒少量

遺物出土状況 土師器片20点（坏3，甕・甑17），須恵器片8点（坏4，蓋2，甕2）が散在して出土している。804・805は床面上から出土している。

所見 時期は，出土土器から8～9世紀と考えられる。



第254図 第1646号住居跡・出土遺物実測図

第1646号住居跡出土遺物観察表（第254図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
804	須恵器	坏	[12.6]	(3.1)	-	雲母・長石	灰黄褐	普通	体部ロクロナデ	北西部床面	
805	須恵器	坏	-	(2.5)	[6.8]	長石	黄灰	普通	体部下端・底部手持ちヘラ削り	北西部床面	

第1647号住居跡（第255・256図）

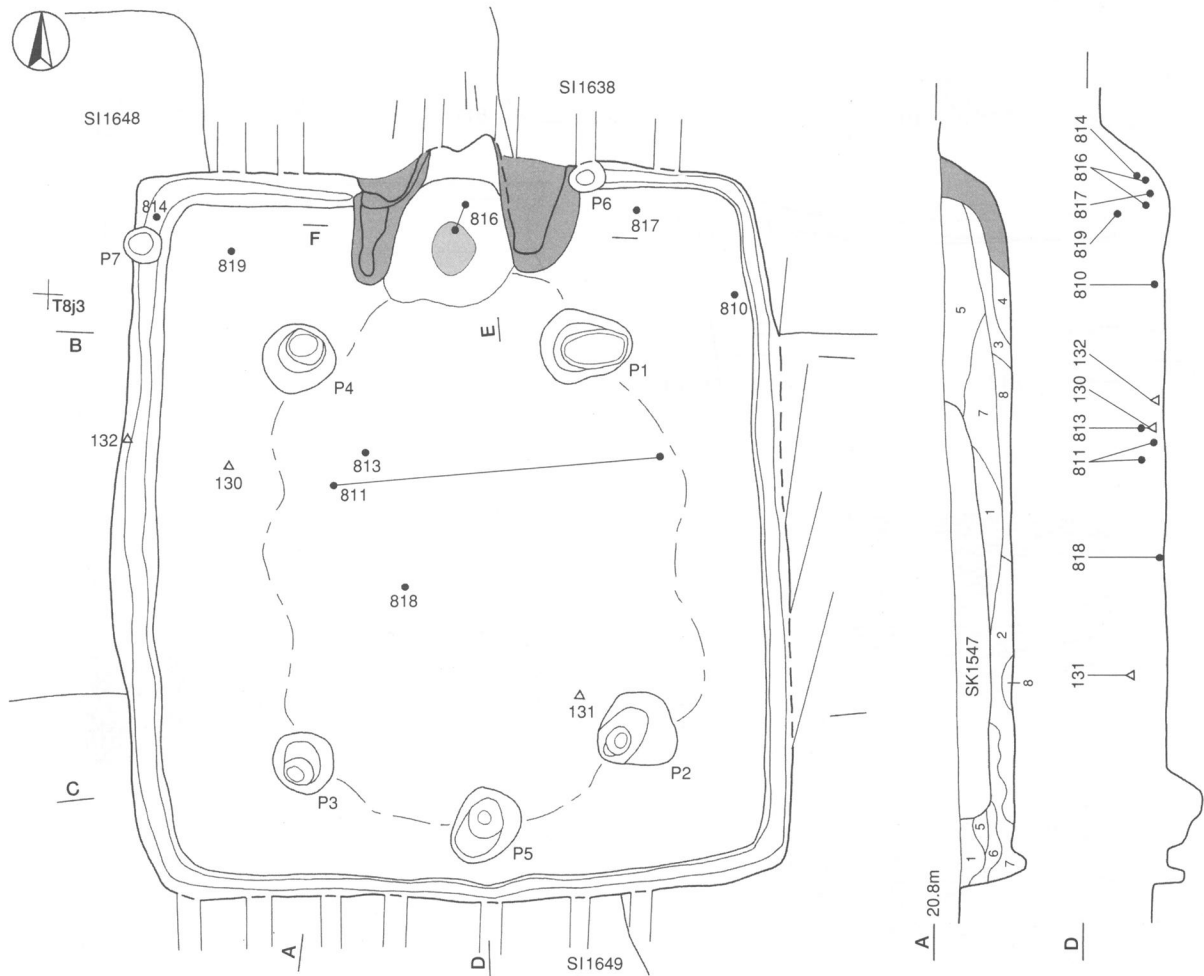
位置 調査区中央部のT8j3区に位置し，平坦な台地の縁辺部に立地している。

重複関係 第1638・1648・1649号住居跡を掘り込み，覆土上層を第1547号土坑に掘り込まれている。

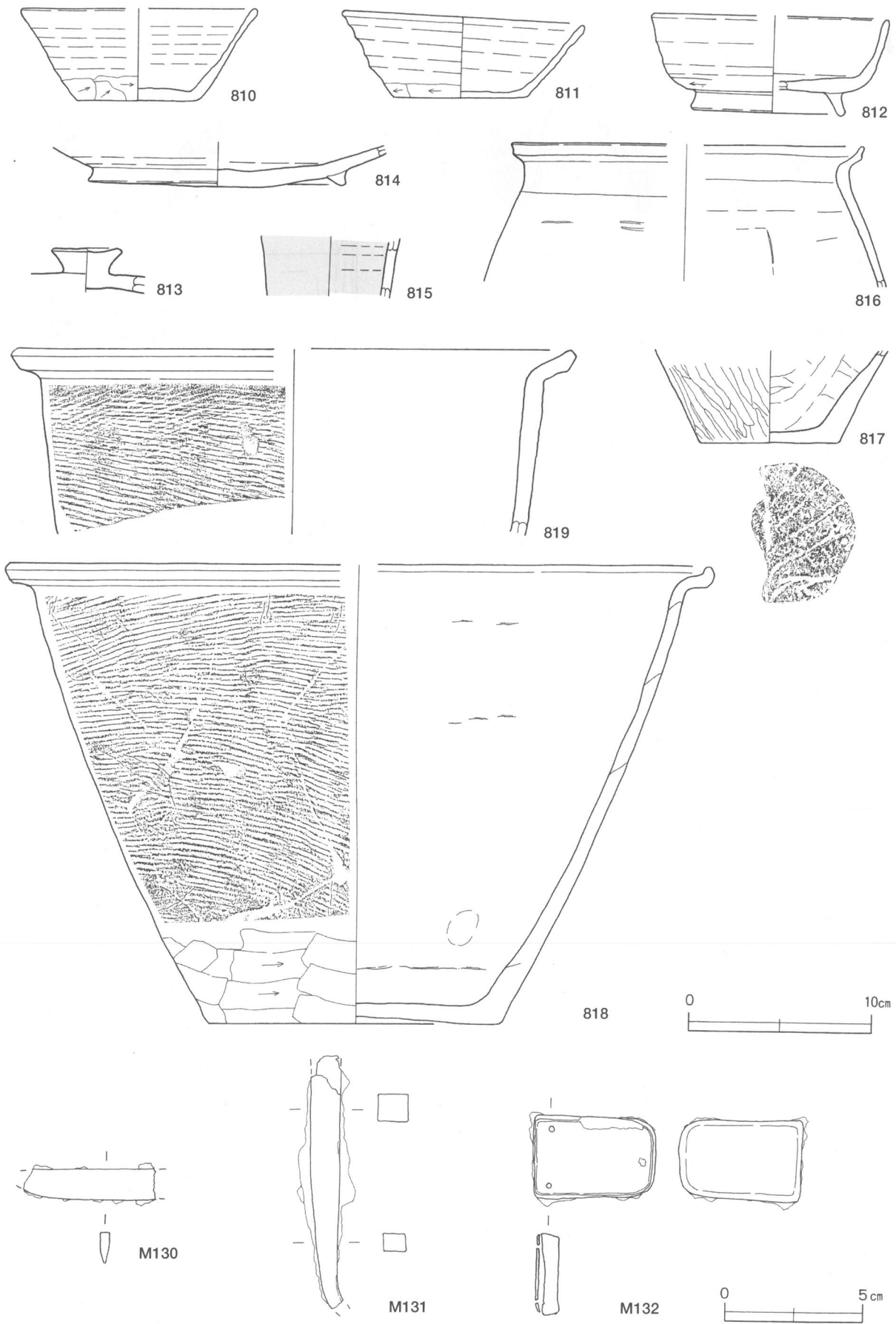
規模と形状 長軸5.85m，短軸5.35mほどのほぼ方形で，主軸方向はN-3°-Wである。壁高は12～34cmで，各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，ピットの内側が踏み固められている。また，壁溝が周回している。

竈 北壁の中央部に砂質粘土で構築されており，規模は焚口部から煙道部まで140cm，袖部幅180cmほどである。天井部は遺存せず，袖部と火床部は床面の高さから30cmほど掘りくぼめられた部分にローム土を埋め戻して構築されている。火床部は皿状を呈し，火床面が赤変硬化している。煙道は急な傾斜で立ち上がっている。



第255图 第1647号住居跡実測図



第256图 第1647号住居跡出土遺物実測図

竈土層解説

1	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	7	暗褐色	ローム粒子中量, 粘土粒子・砂粒少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒色	炭化物多量, 焼土粒子少量, ローム粒子微量	8	にぶい黄褐色	粘土粒子・砂粒多量, ロームブロック中量, 焼土ブロック少量
3	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量, 灰少量, 炭化粒子微量	9	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化物中量, 灰少量
4	にぶい黄褐色	粘土粒子・砂粒中量, ロームブロック少量, 焼土ブロック微量	10	暗赤褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量
5	極暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量	11	暗褐色	ロームブロック多量, 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
6	灰黄褐色	粘土粒子・砂粒多量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量			

ピット 7か所。主柱穴はP 1～P 4が相当し、深さは64～97cmである。P 5は深さ33cmで、出入り口施設に伴うピットである。P 6・P 7は壁溝内に位置しており、壁柱穴の可能性はあるが、対応するピットは見当たらない。

覆土 8層からなり、各層ともロームブロックを含んだ人為堆積である。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	5	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	6	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
3	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	7	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
4	極暗褐色	粘土粒子・砂粒中量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	8	暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片517点(甕・甑517), 須恵器片419点(坏・高台付坏239, 蓋34, 盤11, 甕・甑・鉢135), 灰釉陶器片3点(長頸瓶1, 不明2), 刀子1点, 不明鉄製品1点, 釘カ1点が出土している。遺物は覆土下層を中心にほぼ全域から出土しており、破断面の磨耗が少ないことや残存率のよいものが目立つことから、廃絶時あるいは廃絶から間もない時期に投棄された可能性が高い。818は中央部の床面から土圧でつぶれた状態で出土しており、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。また、812は竈とP 4の覆土中、及び北東部と南東部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。M132は西壁際の覆土下層から出土している。

所見 廃絶時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。M132は鉄地金銅張りであり、当遺跡では類例がないものである。

第1647号住居跡出土遺物観察表 (第256図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
810	須恵器	坏	[12.6]	5.0	6.6	長石・石英	黄灰	普通	底部一方向のヘラ削り	北東部下層	50%
811	須恵器	坏	13.2	4.7	7.2	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り後、ヘラナデ	東部・中央部中層	内面漆付着, 70%
812	須恵器	高台付坏	[12.8]	5.3	[7.9]	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	竈・P 4 覆土中	底部内面摩滅, 45%
813	須恵器	蓋	-	(2.4)	-	長石・石英	褐灰	普通	天井部回転ヘラ削り	中央部中層	10%
814	須恵器	盤	-	(2.4)	13.9	雲母・長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	北西部中層	底部内面摩滅,30%
816	土師器	甕	[19.6]	(7.5)	-	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	竈覆土中	10%
817	土師器	甕	-	(5.0)	7.6	雲母・長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部内面下端指頭によるナデ	北東部中層	外面電材付着
818	須恵器	鉢	[37.8]	24.9	16.0	雲母・長石・石英	黄灰	普通	口縁部・体部内面ロクロナデ	中央部床面	30%, PL61
819	須恵器	甑カ	[30.0]	(10.1)	-	雲母・長石・石英	黄灰	普通	口縁部・体部内面ロクロナデ	北西部上層	
815	灰釉陶器	長頸瓶	-	(3.2)	-	黒色粒子	灰白・灰オリーブ	良好	頸部ロクロナデ、施釉技法不明	竈覆土中	猿投産

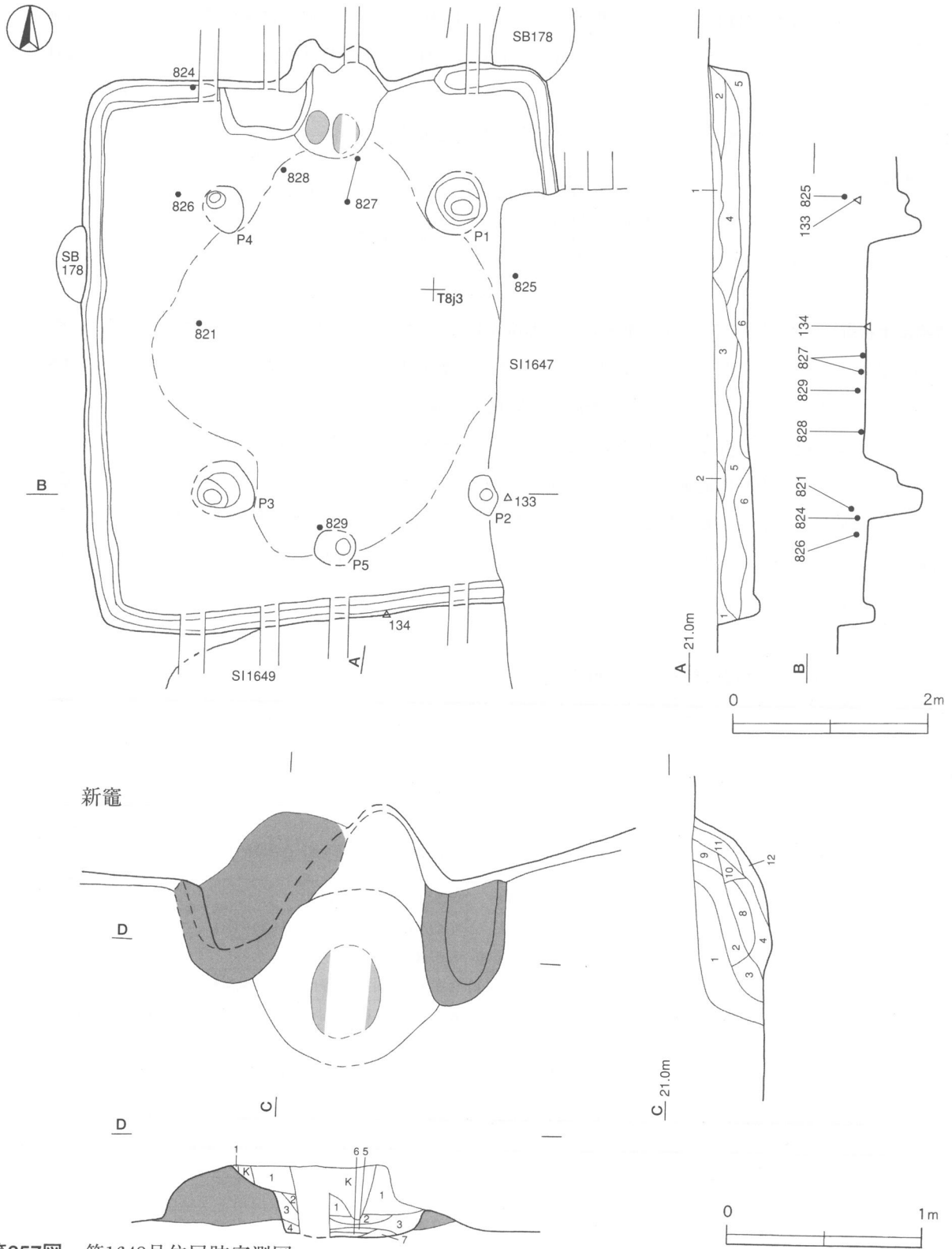
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M130	刀子	(4.8)	1.1	0.4	(6.8)	鉄	刃部の破片	西部下層	PL79
M131	釘	(9.1)	1.2	1.0	(38.6)	鉄	断面方形の棒状、片側が尖る	南東部上層	PL83
M132	不明	4.4	2.9	0.9	42.3	鉄地金銅張り	鏝3か所、馬具の一部カ	西壁際下層	PL82

第1648号住居跡 (第257・258図)

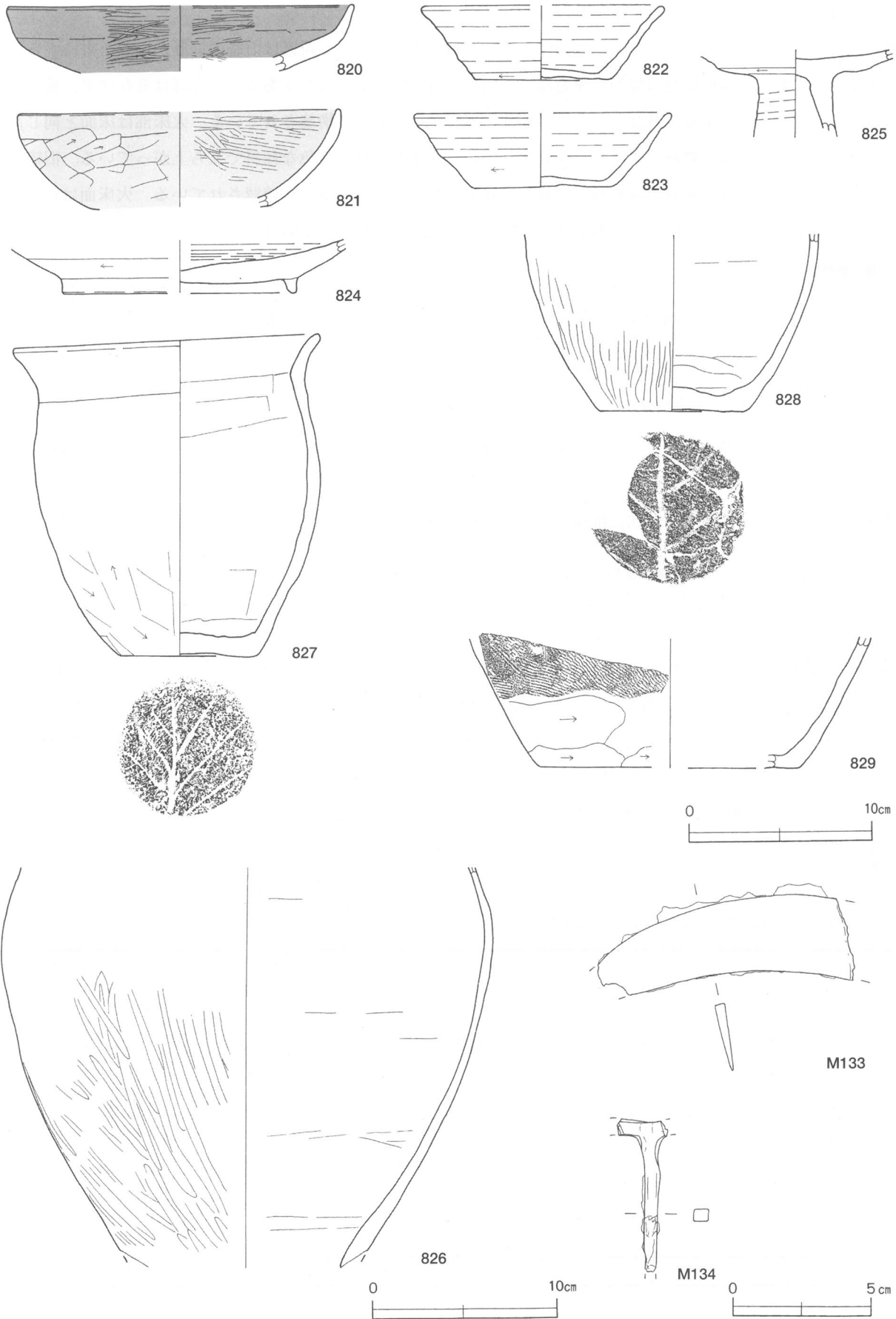
位置 調査区中央部のT 8 j2区に位置し、平坦な台地の縁辺部に立地している。

重複関係 第1649号住居跡を掘り込み、第1647号住居と第178号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.60m、短軸4.75mほどの長方形で、主軸方向はN - 6° - Wである。壁高は30~41cmで、各壁ともほぼ直立している。



第257図 第1648号住居跡実測図



第258図 第1648号住居跡出土遺物実測図

床 ほぼ平坦で、ピットの内側が踏み固められており、壁溝が周回している。

竈 北壁の中央部に付設されており、竈の作り替えが確認されている。新竈は旧竈の位置から若干東にずらして構築されており、規模は焚口部から煙道部まで135cm、袖部幅165cmほどである。天井部は遺存せず、袖部はローム土を突き固めた部分を基部としてその上部に砂質粘土を用いて構築されている。火床部は床面と同じ高さの地山面で、火床面が被熱によって赤変硬化している。また、煙道は急な傾斜で立ち上がっている。旧竈の火床部と煙道部は、竈の掘り方調査時に西袖部を除去した際にその下部から確認されている。火床面は新竈と同様に地山面がそのまま使用され、赤変硬化している。また、煙道は急な傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|-----------------------------------|-----------|----------------------------------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量 | 7 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック多量, ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗 赤 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量, 粘土粒子・砂粒微量 | 8 極暗赤褐色 | 焼土粒子・砂粒中量, 炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 3 にぶい赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量, 炭化粒子微量 | 9 灰 褐 色 | 粘土粒子・砂粒中量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 4 灰 褐 色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 10 暗 赤 褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子中量, 炭化物少量, 粘土粒子・砂粒微量 |
| 5 赤 褐 色 | 焼土ブロック多量 | 11 暗 赤 褐色 | 焼土ブロック多量, ロームブロック少量, 炭化物微量 |
| 6 灰 赤 色 | 焼土ブロック中量 | 12 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量 |

ピット 5か所。支柱穴はP1～P4が相当し、深さは52～68cmである。P5は深さ37cmで、出入口施設に伴うピットである。

覆土 6層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------|---------|--------------------------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 5 暗 褐 色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 暗 褐 色 | ロームブロック多量, 焼土粒子微量 | 6 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化物少量 |

遺物出土状況 土師器片440点(皿1, 坏74, 甕・甑365), 須恵器片251点(坏103, 蓋21, 盤6, 甕・甑121), 鉄鎌1点, 不明鉄製品1点が出土している。遺物は覆土下層を中心に出土しており、破断面の磨耗が少ないことや残存率のよいものが目立つことから、廃絶時あるいは廃絶から間もない時期に投棄された可能性が高い。828は竈手前の床面から土圧でつぶれた状態で出土したものに、竈内から出土した小破片が接合したものである。また、824は北壁際の覆土下層, 820はP5内から出土している。

所見 廃絶時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。

第1648号住居跡出土遺物観察表 (第258図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
820	土師器	坏	[18.4]	(3.5)	-	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部・体部ヘラ磨き	P5覆土中	20%
821	土師器	坏	[17.4]	(5.2)	-	長石・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り, 内面ヘラ磨き	西部下層	15%
822	須恵器	坏	[12.8]	4.1	7.2	雲母・長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後, 回転ヘラ削り	北東部下層	45%
823	須恵器	坏	[13.6]	4.0	7.4	雲母・長石・石英	褐灰	普通	底部回転ヘラ切り	北東部下層	45%
824	須恵器	盤	-	(2.9)	12.6	雲母・長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り後, 高台貼り付け	北壁際下層	20%
825	須恵器	高盤	-	(4.8)	-	雲母・長石・石英	黄灰	普通	坏部底部回転ヘラ削り後, 脚部貼り付け	東部上層	20%
826	土師器	甕	-	(21.6)	-	雲母・長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部内面ヘラナデ, 下端指頭によるナデ	北西部下層	20%
827	土師器	甕	15.4	17.4	7.2	雲母・長石・石英	橙	普通	体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ	竈手前床面	75%, PL61
828	土師器	甕	-	(9.6)	8.0	雲母・長石・石英	明赤褐	普通	体部内面ヘラナデ, 下端指頭によるナデ	竈内・手前床面	20%
829	須恵器	甕	-	(7.0)	[14.2]	雲母・長石・石英	灰	普通	体部内面ナデ	南部下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M133	鎌	(9.3)	3.0	0.4	(30.8)	鉄	刃部の破片, 曲刃鎌	南東部下層	PL81
M134	不明	(6.5)	(1.8)	0.7	(7.9)	鉄	断面方形, T字状	南壁溝内	PL83

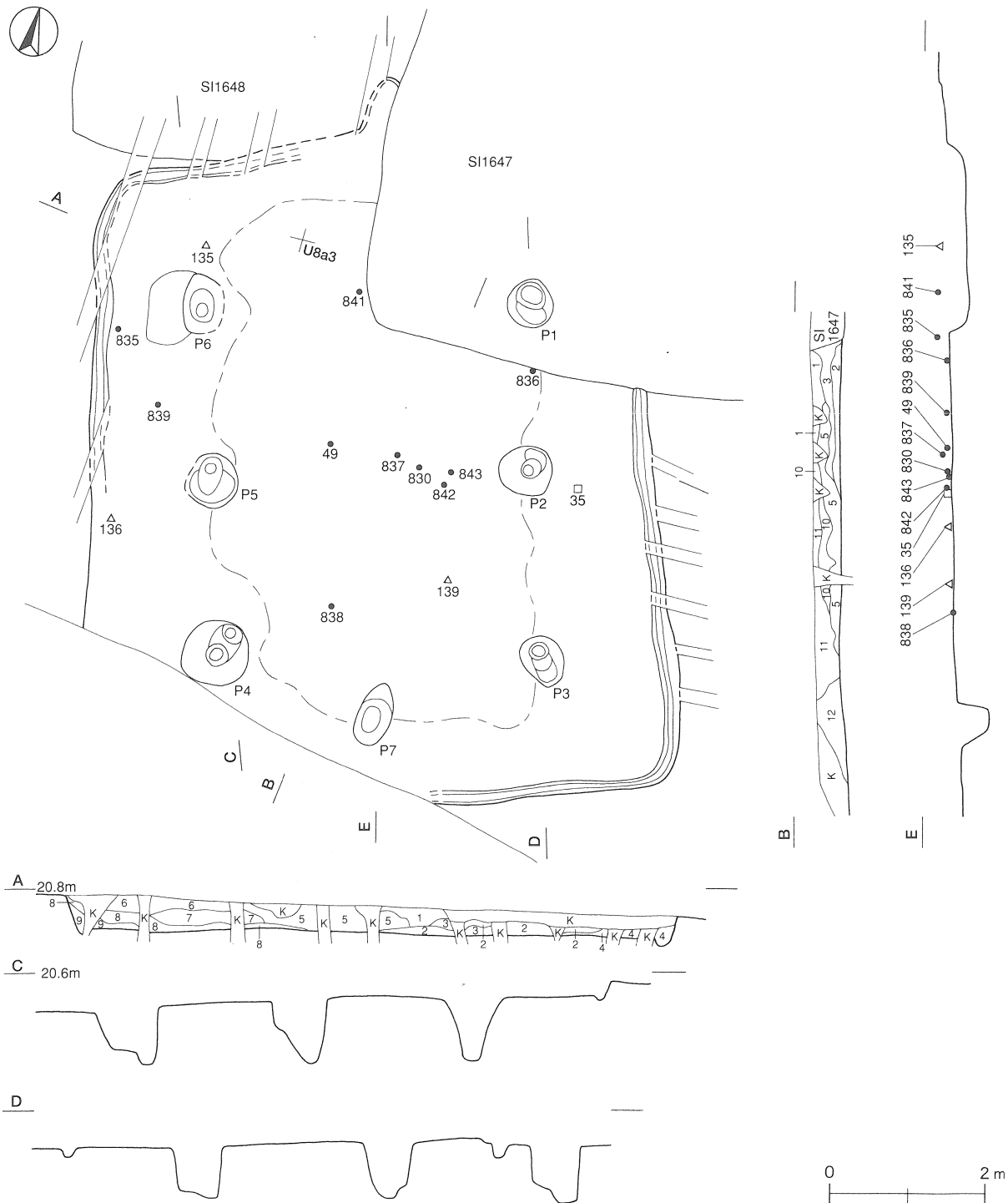
第1649号住居跡（第259・260図）

位置 調査区中央部のU 8 a3区に位置し、平坦な台地の縁辺部に立地している。

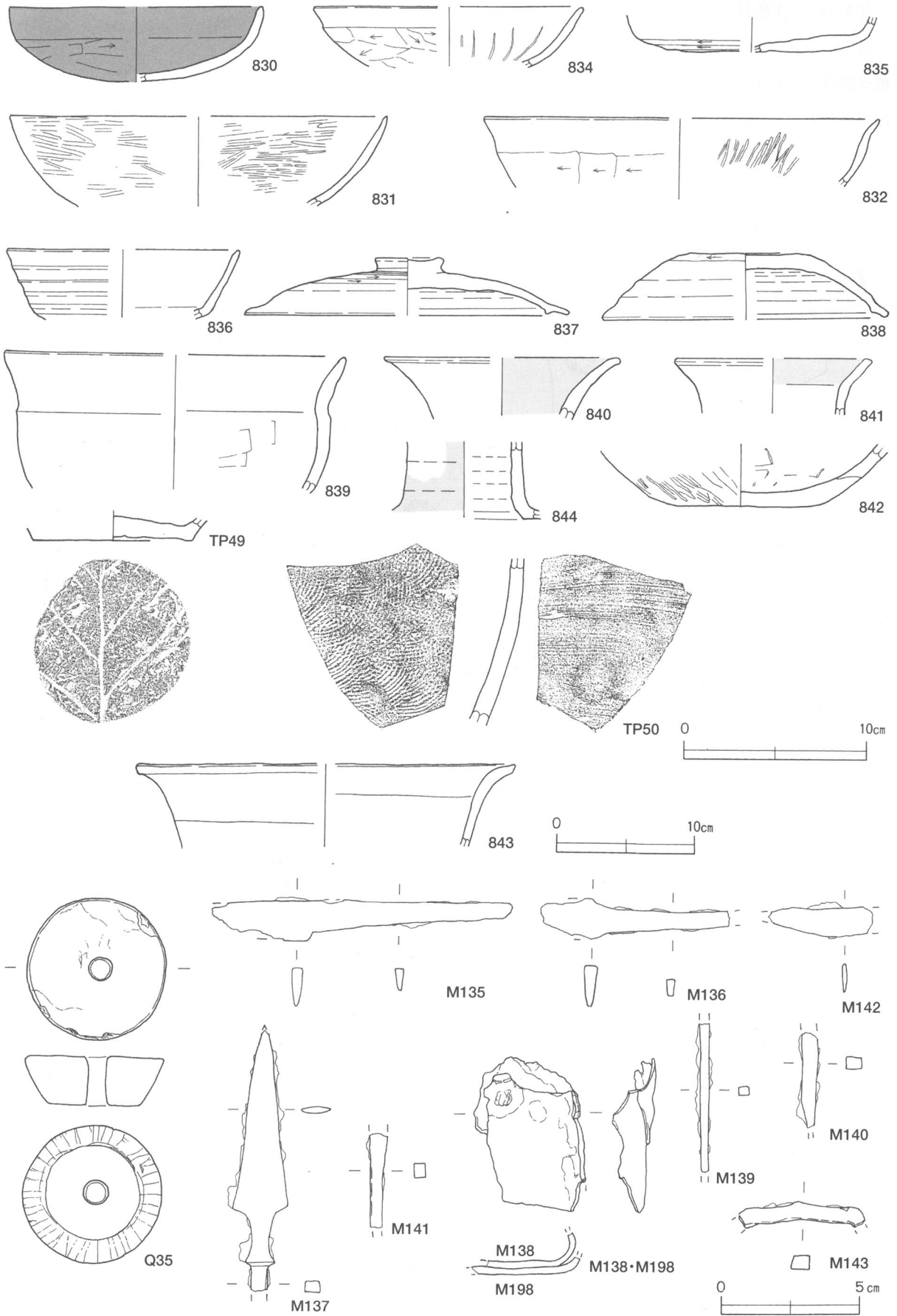
重複関係 第1647・1648号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸8.65m、短軸7.15mほどの長方形で、主軸方向はN-17°-Wである。壁高は20~32cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、ピットの内側が踏み固められている。壁溝は攪乱を受けている南西部で不明瞭となるが、全周していたと推測される。



第259図 第1649号住居跡実測図



第260图 第1649号住居跡出土遺物実測図

竈 北壁の中央部に、壁外に50cmほど掘り込んで構築されている。他の遺構との重複や攪乱が激しいため、煙道部の一部が確認されただけである。付近の床面には粘土粒子や砂粒が散在しており、砂質粘土で構築されていたと推測される。

ピット 7か所。主柱穴はP1～P6が相当し、深さは68～85cmである。P7は深さ40cmで、出入り口施設に伴うピットである。

覆土 12層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。覆土中層から上層にかけて炭化物の混入が見られる。

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------------|--------|---------------------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化物少量 | 7 黒褐色 | 炭化物中量, ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・砂粒少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 10 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 |
| 5 黒褐色 | 炭化物中量, ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量 | 11 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 12 黒褐色 | ローム粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片2233点（坏566, 鉢4, 甕・甔1663）, 須恵器片569点（坏311, 蓋149, 盤2, 甕・甔104, 瓶3）, 刀子3点, 鉄鏃1点, 鉄鎌2点, 不明鉄製品4点, 石製紡錘車1点, 炭化種子1点（桃）, 鉄滓1点が出土している。遺物は大半が覆土中層から下層にかけての出土であり、破断面の磨耗が少ないことや残存率のよいものが目立つことから、廃絶時あるいは廃絶から間もない時期に投棄されたものと推測される。床面直上から出土したものとしては836・843があり、836は東部から、843は中央部から出土している。また、830は中央部、839は西壁際のいずれも床面から若干浮いた状態で出土している。

所見 廃絶時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。同時期で、住居の規模も類似する第1638号住居では補助柱穴という表現をとったが、本跡では規模から6本主柱と判断した。6本の主柱穴によって上屋が支えられている構造は、当遺跡においては類例がないものである。

第1649号住居跡出土遺物観察表（第260図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
830	土師器	坏	[13.8]	4.1	-	長石	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り, 内面ナデ	中央部下層	20%
831	土師器	坏	[20.6]	(4.9)	-	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面ヘラ磨き	北西部上層	10%
832	土師器	坏	[21.4]	(3.7)	-	雲母・長石	明赤褐	普通	口縁部横ナデ, 体部外面横位のヘラ削り	西部下層	
834	土師器	坏	[14.6]	(3.3)	-	長石・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部内面放射状の暗文, 内外面黒色処理痕	P4覆土中	10%
835	須恵器	坏	-	(1.9)	[12.4]	雲母・石英	黄灰	普通	底部ナデ, 外周部回転ヘラ削り	西壁際上層	25%
836	須恵器	高台付坏	[12.6]	(3.8)	-	雲母・長石・石英	黒褐	普通	体部ロクロナデ	東部床面	10%
837	須恵器	蓋	[17.6]	3.1	-	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	天井部回転ヘラ削り	中央部中層	50%
838	須恵器	蓋	[15.4]	3.6	-	長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラ削り, つまみ接合痕無し	南部床面	30%
839	土師器	鉢	[18.4]	(7.4)	-	石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面ナデ, 内面ヘラナデ	西壁際下層	
840	須恵器	瓶	[12.7]	(3.4)	-	緻密	灰黄	良好	口縁部ロクロナデ	北西部上層	内面自然釉, 湖西産か
841	須恵器	瓶	[10.5]	(3.0)	-	長石	黄灰	良好	口縁部ロクロナデ	竈手前上層	内面自然釉, 湖西産か
842	土師器	甕	-	(3.4)	9.1	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	体部内面・底部外面ヘラナデ	中央部下層	
843	土師器	甔	[28.8]	(6.4)	-	雲母・長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部外面ナデ, 内面ヘラナデ	中央部床面	
844	須恵器	長頸壺	-	(4.2)	-	黒色粒子	灰白	普通	頸部ロクロナデ	南部中層	外面自然釉

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP49	土師器	甕	-	(1.4)	9.1	雲母・長石・石英	にぶい黄褐色	普通	底部内面指頭によるナデ、外面木葉痕	中央部下層	
TP50	須恵器	甕	-	-	-	雲母・長石	灰黄	普通	外面同心円状の叩き、内面ロクロナデ	P4 覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q35	紡錘車	5.0	5.0	1.8	58.8	粘板岩	孔径0.7~0.9cm, 側面に工具による縦位の調整痕有り	東部床面	PL75
M135	刀子	(10.9)	1.4	0.4	(13.5)	鉄	刃部から茎部にかけての破片, 片関	北西部上層	PL79
M136	刀子	(6.8)	1.5	0.4	(8.3)	鉄	刃部から茎部にかけての破片, 両関	西壁際下層	PL79
M137	鋸	(9.5)	2.0	0.4	(15.9)	鉄	鋸身部から茎部にかけての破片, 両丸造, 台状関, 柳葉式	北部下層	PL80
M138	鎌	(3.8)	(4.2)	0.2	(16.7)	鉄	基部は全体を折り返す。M198と分離不可	北部中層	PL81
M198	鎌	(3.5)	(3.1)	0.2	(16.7)	鉄	基部の破片。M138と重ねられたまま錆化によって付着	北部中層	PL81
M139	不明	(5.4)	0.4	0.3	(2.5)	鉄	断面方形の棒状, 両端欠損	中央部下層	
M140	不明	(3.5)	(0.6)	(0.4)	(1.8)	鉄	断面長方形の棒状, 片側が尖る。	南西部上層	
M141	鋸カ	(3.4)	0.7	0.5	(3.0)	鉄	断面方形の棒状, 両端欠損	東部中層	
M142	刀子	(3.8)	1.1	0.2	(1.9)	鉄	刃部の破片	東部下層	
M143	不明	(4.5)	0.7	0.5	(8.5)	鉄	断面方形の棒状, 両端欠損	南東部下層	

第1651号住居跡 (第261~263図)

位置 調査区南部のV7b8区に位置し、南に傾斜した斜面部に立地している。

重複関係 第1650号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.80m, 短軸3.60mほどの方形で、主軸方向はN-19°-Eである。壁高は40~46cmで、各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められており、壁溝が周回している。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで140cm, 袖部幅120cmほどで、壁外への掘り込みは55cmである。土層断面からは天井部の崩落した部分が明瞭にとらえられ、第2・4層が相当する。火床部は浅い皿状を呈し、煙道の立ち上がり部には土製の支脚が据えられている。また、煙道は径12cmほどの円筒状を呈し、急な傾斜で直線的に立ち上がっており、上面が被熱によって赤変している。

竈土層解説

1 黒褐色	炭化粒子中量, ロームブロック・焼土粒子微量	11 黒褐色	焼土粒子微量
2 にぶい黄褐色	粘土粒子・砂粒多量, ローム粒子微量	12 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗赤褐色	焼土ブロック多量, 炭化粒子中量	13 暗褐色	粘土粒子・砂粒中量
4 にぶい黄褐色	粘土粒子・砂粒多量, 焼土ブロック・炭化物中量	14 暗褐色	ロームブロック中量
5 灰褐色	焼土ブロック中量, 炭化物少量	15 暗赤褐色	焼土ブロック多量, 炭化粒子少量
6 暗赤褐色	焼土粒子多量, 炭化粒子少量	16 暗褐色	砂粒多量, ロームブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子少量
7 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子・砂粒中量	17 褐色	砂粒多量, ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
8 暗赤褐色	炭化物多量, 焼土ブロック中量, ローム粒子微量		
9 黒褐色	粘土粒子・砂粒少量, ローム粒子微量		
10 灰黄褐色	粘土粒子・砂粒多量		

ピット 1か所。P1は出入り口施設に伴うピットで、深さは20cmである。

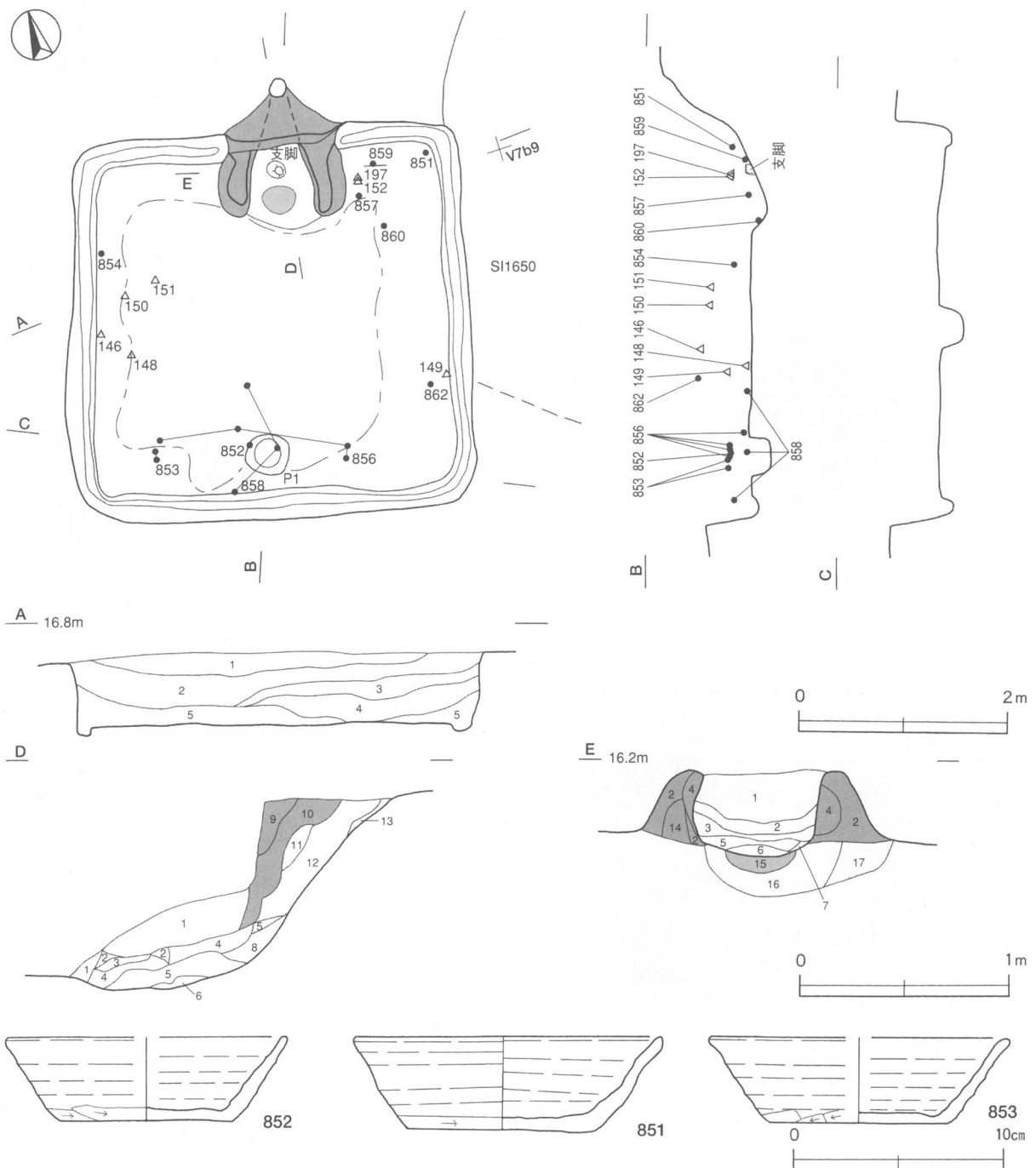
覆土 5層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。中位に東側からのロームブロックの投げ込みが認められる。

土層解説

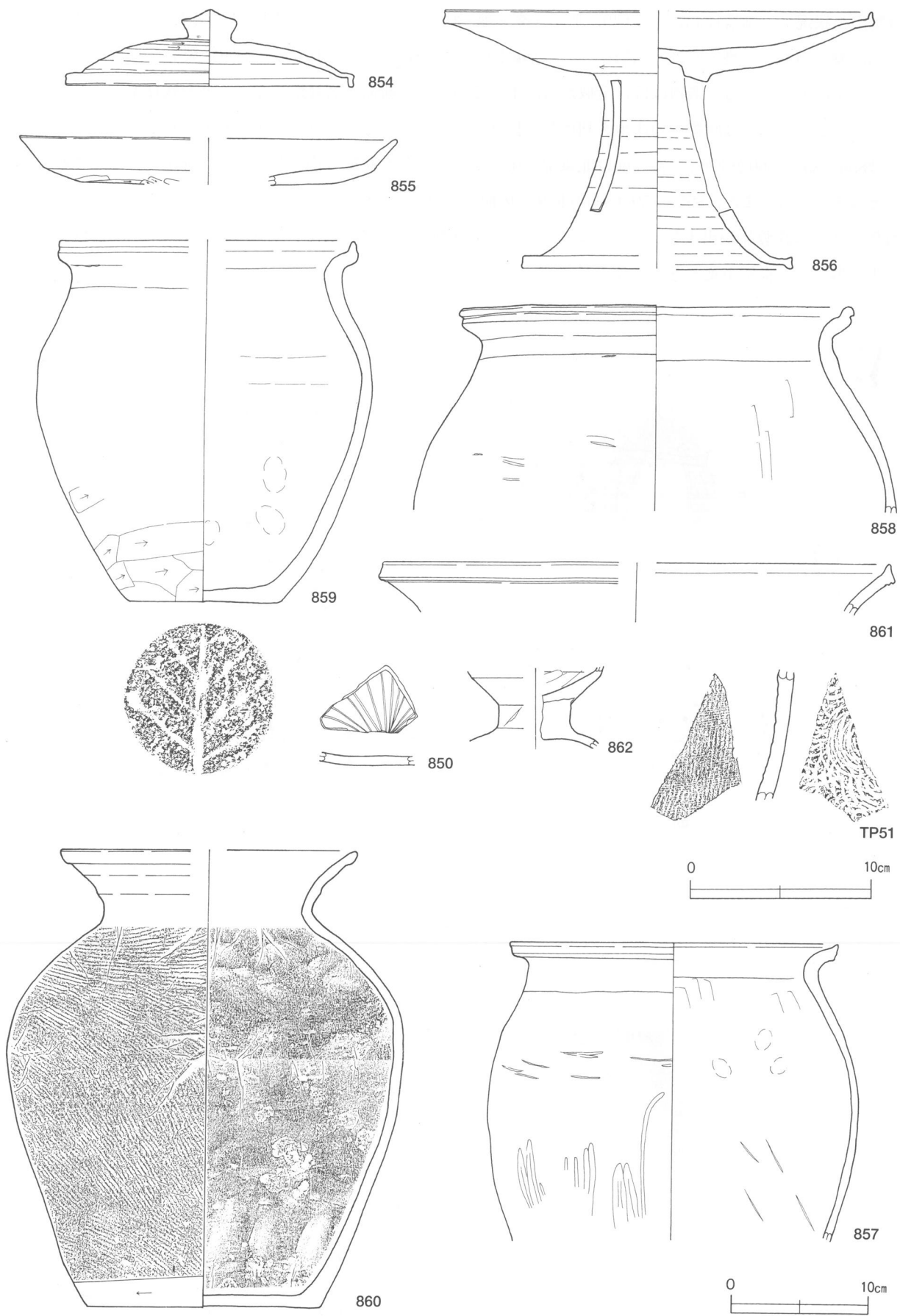
1 黒褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量	4 黒褐色	ローム粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量	5 暗褐色	ローム粒子少量
3 暗褐色	ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化物微量		

遺物出土状況 土師器片437点（坏49，皿1，甕・甑386，ミニチュア1），須恵器片101点（坏・高台付坏55，蓋16，盤・高盤2，甕・甑28），鉄鏃2点，鉄鎌1点，火打金1点，刀子1点，不明鉄製品3点（楔カ1，不明2）が出土している。遺物はほぼ全域から出土しており，破断面の磨耗が少ないことや残存率のよいものが多いことから，大半は廃絶後の窪地を利用して投棄されたものと考えられる。床面直上から出土したものとしては856・858・860があり，特に860は北東部の床面から直立した状態で出土しており，廃絶時に遺棄されたものと考えられる。また，857・859は860の北側の床面から出土している。

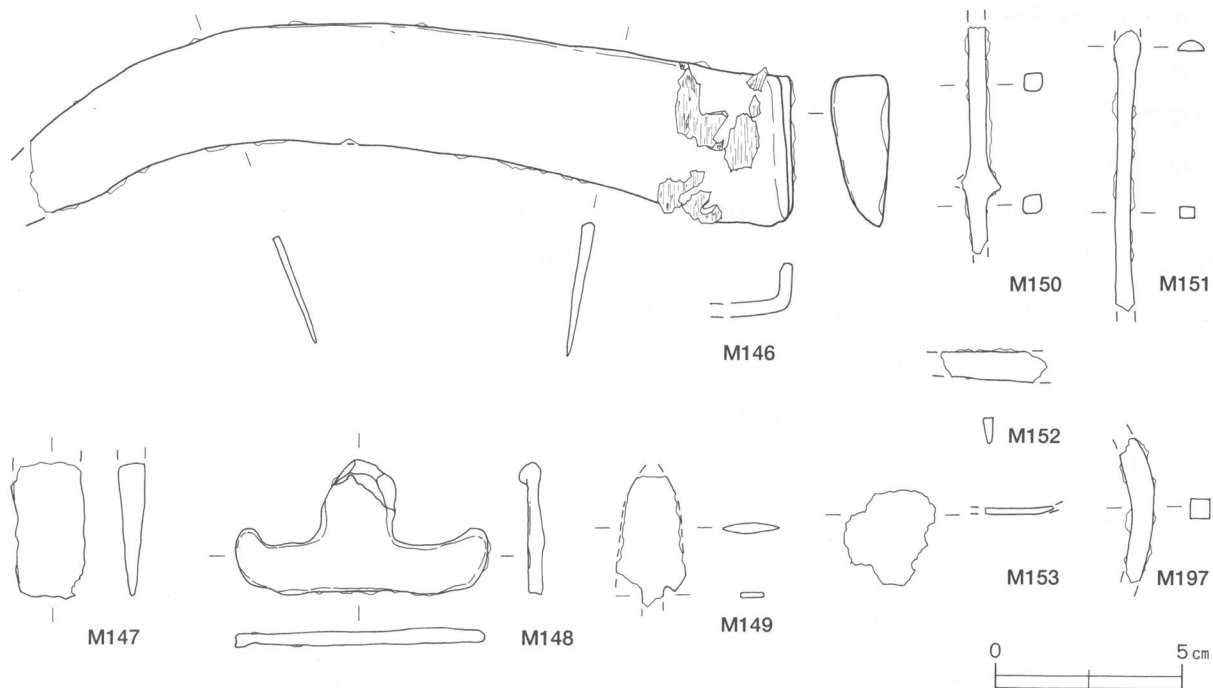
所見 多くの鉄製品が出土しており，当時の鉄器保有形態の一端をうかがい知ることができる。廃絶時期は，出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第261図 第1651号住居跡出土遺物実測図



第262图 第1651号住居跡出土遺物実測図(1)



第263図 第1651号住居跡出土遺物実測図(2)

第1651号住居跡出土遺物観察表 (第261~263図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
850	土師器	坏	-	(0.5)	-	雲母・長石	明赤褐	普通	底部内面放射状の暗文, 外面ヘラ削り	覆土上層	
851	須恵器	坏	14.3	4.5	8.8	雲母・長石・石英	灰	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	北東部下層	100%, PL62
852	須恵器	坏	[13.0]	3.9	8.0	長石・石英	灰	普通	底部二方向のヘラ削り	南部下層	30%
853	須恵器	坏	[14.0]	4.0	8.2	雲母・長石・石英	黒	普通	底部回転ヘラ削り後, 多方向のヘラ削り	南西部下層	30%
854	須恵器	蓋	15.6	4.1	-	長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	北西部下層	100%, PL62
855	土師器	皿	[20.4]	2.5	-	雲母・長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部内面ナデ, 外面ヘラ削り	覆土上層	20%
856	須恵器	高盤	[23.2]	14.0	[14.8]	雲母・長石・石英	灰	普通	脚部にヘラ削りによる透かし3か所	南部下層	50%, PL62
857	土師器	甕	23.8	(21.7)	-	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面上半ヘラナデ, 下半ヘラ磨き	北東部床面	50%
858	土師器	甕	21.0	(11.2)	-	雲母・長石・石英	橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	南部下層	10%
859	土師器	甕	[16.0]	19.6	8.2	雲母・長石・石英	暗赤褐	普通	体部外面上半ナデ, 下半ヘラ削り	北東部床面	亀材付着,70%,PL61
860	須恵器	甕	[21.2]	33.2	17.0	雲母・長石・石英	灰	普通	体部内面無文の当て具痕	北東部床面	90%, PL62
861	須恵器	甕	[27.6]	(2.7)	-	長石	灰白	良好	口縁部ロクロナデ	南西部中層	湖西産
862	土師器	ミニチュア	-	(4.3)	-	雲母	にぶい橙	普通	坏部・脚部・底部ナデ	東壁際上層	30%
TP51	須恵器	大甕	-	-	-	長石	青灰	普通	外面平行叩き後, カキ目	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M146	鎌	(20.3)	4.0	0.4	(96.2)	鉄	刃先部欠損, 繊維質付着, 基部は全体を折り返す	西壁際中層	PL81
M147	楔カ	(3.6)	1.9	(0.6)	(12.1)	鉄	断面長方形, 片側が薄くなる	南東部中層	PL82
M148	火打金	6.8	3.6	0.5	20.6	鉄	完形, 孔不明, 両端部は上方に彎曲	西部下層	PL83
M149	鎌	(3.5)	(1.9)	0.3	(2.9)	鉄	両丸造, 腸扶不明	東壁際下層	PL80
M150	鎌	(6.0)	(1.0)	(0.5)	(5.9)	鉄	断面方形, 棘閃	北西部下層	PL80
M151	鎌	(7.4)	0.8	0.3	(4.8)	鉄	片丸造, 基部不明	北西部下層	
M152	刀子	(2.9)	(0.8)	0.3	(1.5)	鉄	刃部の破片	北東部下層	
M153	不明	(2.4)	(2.4)	0.2	(3.2)	鉄	板状	覆土上層	
M197	不明	(3.9)	0.8	0.5	(2.5)	鉄	断面方形の棒状, 緩やかに彎曲	北東部下層	

第1652号住居跡 (第264・265図)

位置 調査区南部のU7j7区に位置し、台地から低地に下りる斜面部に立地している。

重複関係 第1655号住居跡を掘り込み、第1653号住居に掘り込まれている。

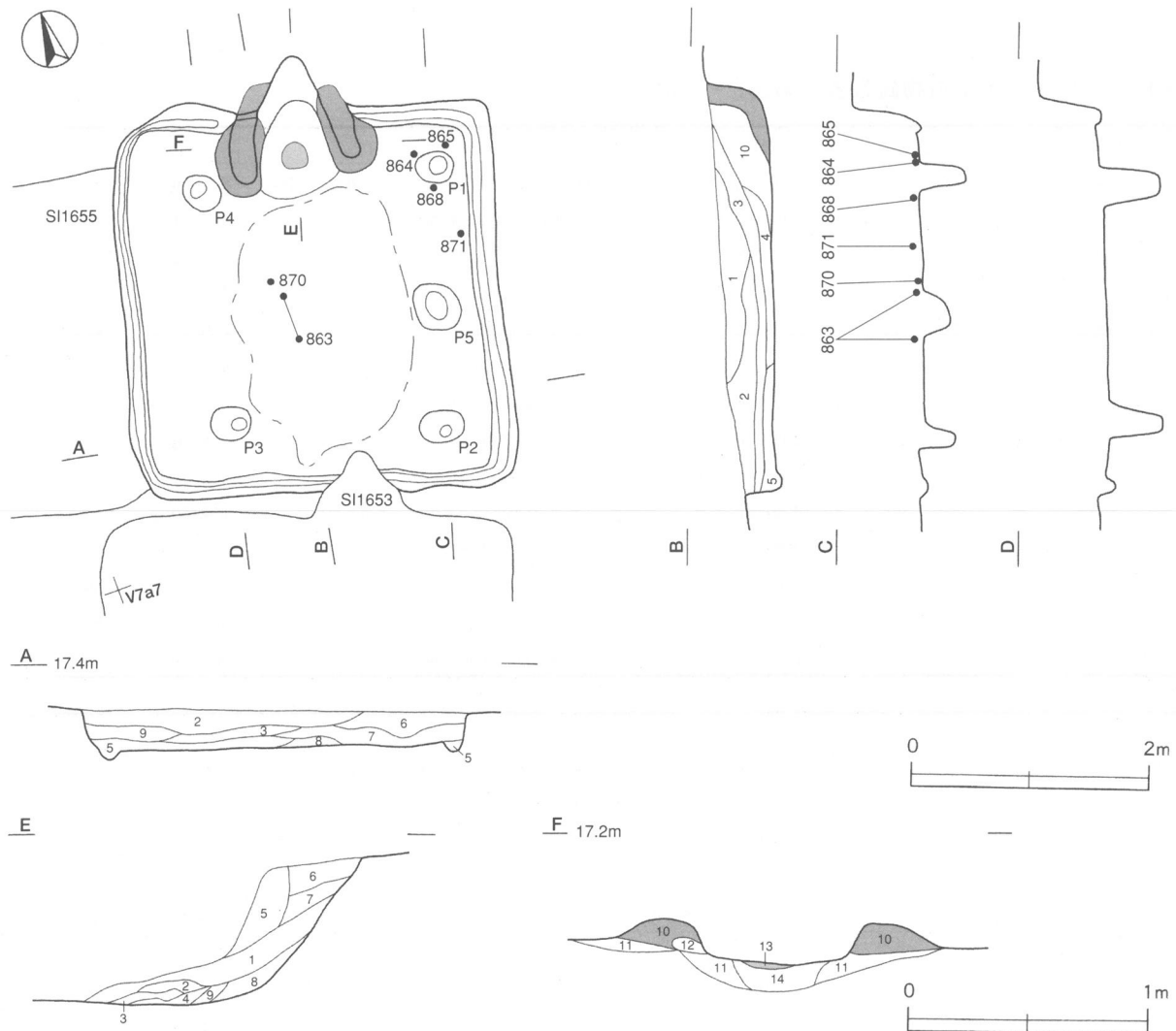
規模と形状 長軸3.20m、短軸3.15mほどの方形で、主軸方向はN-18°-Eである。壁高は5~52cmで、傾斜した地形のために南側部分ほど低くなっており、各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、南壁際の中央部から竈の手前にかけて踏み固められている。また、壁溝が周回している。

竈 北壁の中央部に砂質粘土で構築されており、規模は焚口部から煙道部まで115cm、袖部幅135cmほどである。火床部は10cmほど掘りくぼめた部分にローム土を床面の高さまで埋め戻して使用され、火床面は赤変硬化している。また、煙道は急な傾斜で直線的に立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------------|-----------|---------------------------------|
| 1 暗褐色 | 粘土粒子・砂粒中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 8 黒褐色 | 粘土粒子・砂粒・炭化物中量, ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子中量 | 9 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量 |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子多量, 焼土粒子中量, 灰少量 | 10 にぶい黄褐色 | 粘土粒子・砂粒多量, ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 4 灰褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量 | 11 極暗褐色 | ローム粒子少量, 砂粒微量 |
| 5 黒褐色 | 焼土粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 6 黒褐色 | 粘土粒子・砂粒中量, 炭化物少量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 13 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量 |
| 7 黒褐色 | 粘土粒子・砂粒中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 極暗褐色 | 砂粒中量, ロームブロック微量 |



第264図 第1652号住居跡実測図

ピット 5か所。支柱穴はP1～P4が相当し、深さは28～48cmである。P5は深さ23cmで、P1とP2の中間に位置しており、補助柱穴の可能性はある。

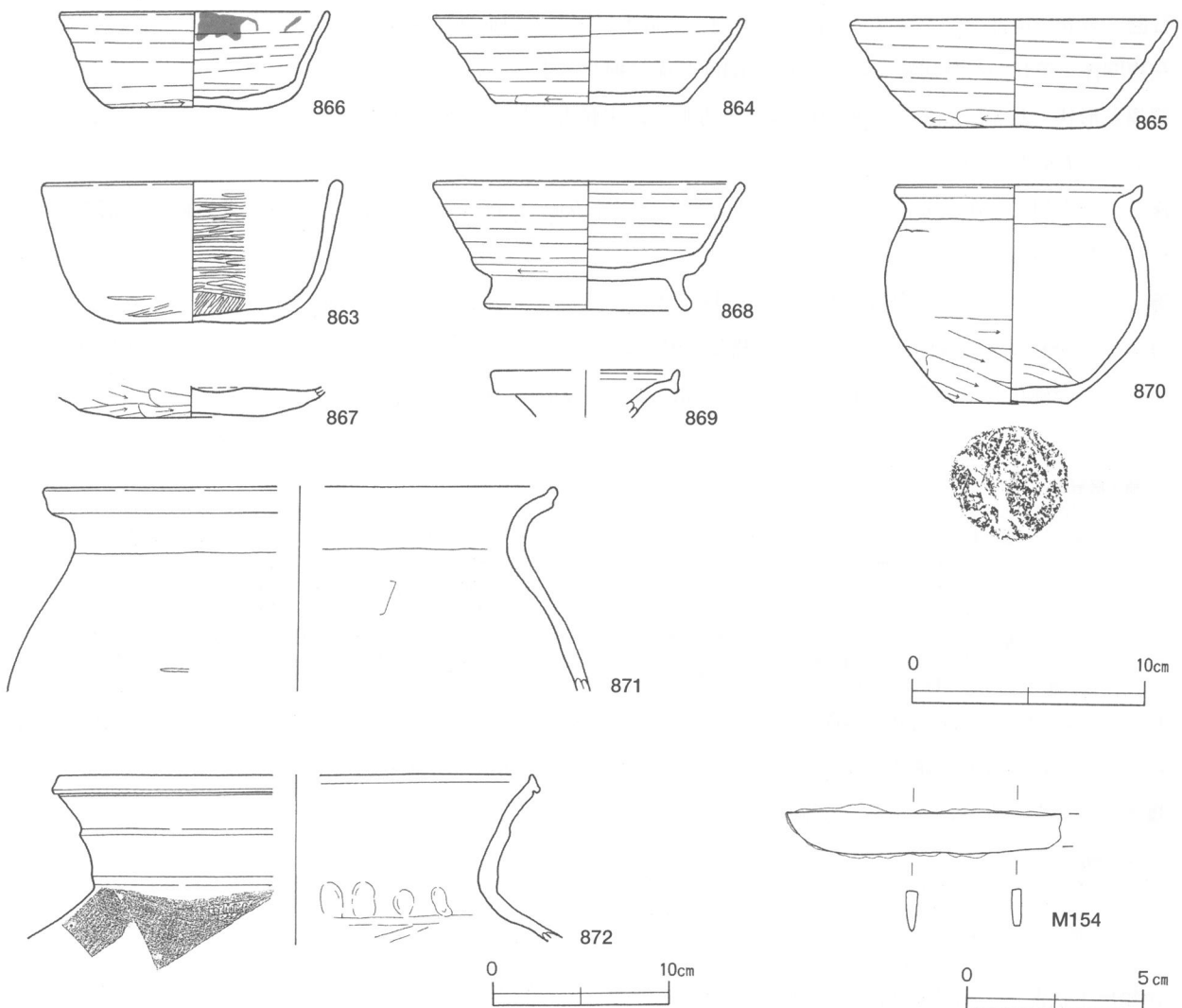
覆土 10層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|---------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 8 極暗褐色 | 炭化粒子中量, ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量, ローム粒子微量 | 9 極暗赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 4 黒褐色 | 焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量 | 10 黒褐色 | 焼土粒子・炭化物・粘土粒子・砂粒少量, ローム粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量 | | |
| 6 暗褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 土師器片194点(坏23, 甕・甑171), 須恵器片66点(坏・高台付坏27, 蓋1, 盤・高盤1, 長頸瓶1, 甕・甑36), 灰釉陶器片2点(長頸瓶), 土製支脚1点, 刀子1点がほぼ全域から散在して出土している。床面直上から出土しているのは863～865・868・870・871で、そのうち864・865・868は北東コーナー部から正位で出土しており、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。また、油煙の付着した866は南西コーナー部の覆土下層から、硯に転用された867は西壁際の覆土下層から出土している。

所見 本住居のように、台地から低地に下りる斜面部に立地する住居の大半は、4m四方未満の小形のものである。廃絶時期は、出土土器と重複関係から8世紀中葉と考えられる。



第265図 第1652号住居跡出土遺物実測図

第1652号住居跡出土遺物観察表 (第265図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
863	土師器	坏	12.4	6.0	6.9	赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面ロクロナデ, 底部ヘラナデ	中央部床面	80%, PL62
864	須恵器	坏	13.1	3.7	8.0	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り後, ヘラナデ	北東部床面	80%, PL62
865	須恵器	坏	13.8	4.6	7.6	雲母・長石・石英	灰	普通	底部二方向のヘラ削り	北東部床面	80%, PL62
866	須恵器	坏	11.2	4.1	6.6	雲母・長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後, 多方向のヘラ削り	南西部下層	油煙付着,100%,PL63
867	須恵器	坏	-	(1.2)	[6.0]	雲母・長石・石英	褐灰	普通	底部多方向のヘラ削り	西壁際下層	内面摩滅,10%
868	須恵器	高台付坏	13.0	5.4	8.2	雲母・長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り後, 高台貼り付け	北東部床面	60%, PL62
869	須恵器	長頸瓶	[7.8]	(1.9)	-	長石	灰	良好	口縁部ロクロナデ	北東部下層	
870	土師器	小形甕	10.3	9.2	4.8	雲母・長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ削り, 内面ナデ	中央部床面	95%, PL63
871	土師器	甕	[21.4]	(8.6)	-	雲母・長石・石英	橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	東壁際床面	
872	須恵器	甕	[26.6]	(9.7)	-	長石	灰白	良好	頸部内面指頭痕, 体部内面ヘラナデ	北西部中層	湖西産

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M154	刀子	(7.8)	1.2	0.4	(11.3)	鉄	刃部から茎部にかけての破片, 関部不明瞭, 片関カ	北西部土層	PL79

第1653号住居跡 (第266図)

位置 調査区南部のV7a7区に位置し, 台地から低地に下りる斜面部に立地している。

重複関係 第1652号住居跡を掘り込み, 第106号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.35m, 短軸3.20mほどの方形で, 主軸方向はN-20°-Eである。壁高は15~32cmで, 各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で, 出入り口付近から竈の手前にかけて踏み固められている。また, 壁溝は北壁際の一部を除いて周回している。

竈 北壁のやや東寄りに付設されており, 規模は焚口部から煙道部まで95cm, 袖部幅120cmほどである。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部も地山面をそのまま使用し, 火床面は被熱によって赤変硬化している。煙道の立ち上がり部には土製の支脚が据えられ, 煙道は急な傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|------------------------------------|-----------|-------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量, 焼土粒子微量 | 7 黒褐色 | ローム粒子・砂粒少量, 炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | 粘土粒子・砂粒少量, ロームブロック・
焼土粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 にぶい黄褐色 | 粘土粒子・砂粒中量, 焼土粒子・炭化粒子少量,
ローム粒子微量 | 9 黒褐色 | 炭化粒子多量, 焼土ブロック中量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 にぶい黄褐色 | 粘土粒子・砂粒多量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量, 炭化物中量 | 11 暗褐色 | 粘土粒子・砂粒中量 |
| 6 黒褐色 | 炭化物多量, 焼土ブロック中量 | 12 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| | | 13 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 炭化粒子微量 |

ピット 4か所。P1~P3は深さ14~27cmで, 配置からみて主柱穴の可能性があるが, 4本主柱を想定した場合の北西部の柱穴が確認されていない。P4は深さ19cmで, 出入り口施設に伴うピットである。

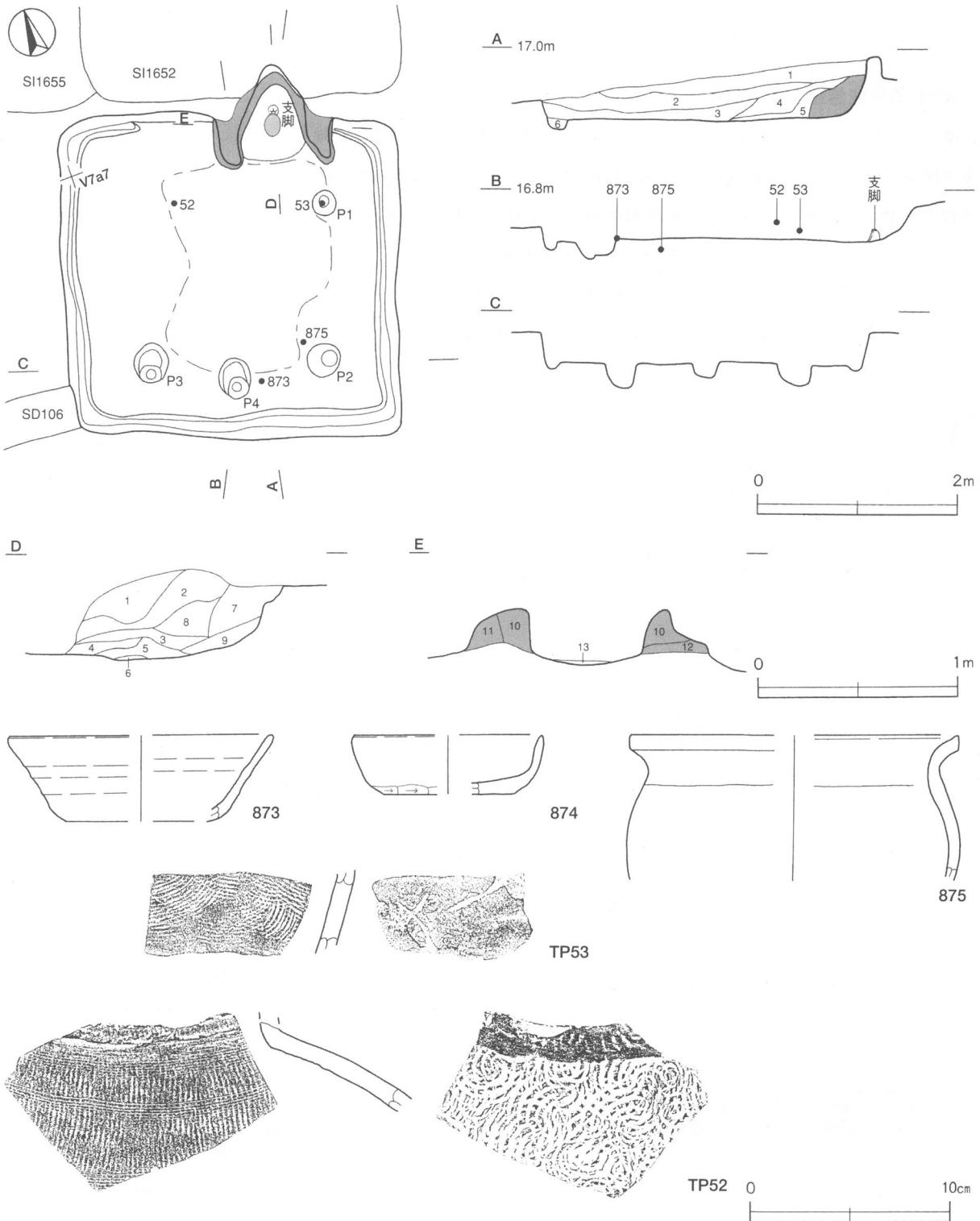
覆土 6層からなり, レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------|------|------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, 粘土粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子多量, 粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 | 5 褐色 | ローム粒子多量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子多量 | 6 褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 土師器片109点(坏20, 甕・甌89), 須恵器片37点(坏24, 蓋2, 盤1, 甕・甌10)が出土している。遺物は中央部の覆土下層を中心に出土しており, 破断面の摩滅した細片が多いことから, 大半は廃絶後

の窪地に流入したものと考えられる。875は南東部の床面から、873は同じく南部の覆土下層から出土している。
 所見 廃絶時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。本住居の竈は、この時期の一般的な傾向である北壁の中央部には構築されていない。小形の住居であることや作り替えた痕跡が認められないことなどから、竈の付設場所として当初から北壁の東寄りの位置を選定し、室内空間の有効活用を図ったとも考えられる。



第266図 第1653号住居跡・出土遺物実測図

第1653号住居跡出土遺物観察表（第266図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
873	須恵器	坏	[13.0]	4.3	[7.6]	雲母・長石・石英	灰	普通	体部ロクロナデ	南部下層	30%
874	須恵器	坏	[9.4]	3.0	[6.4]	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り後、ヘラナデ	覆土中	10%
875	土師器	甕	[16.4]	(7.2)	-	雲母・長石・石英	橙	普通	体部内・外面ナデ	南東部床面	
TP52	須恵器	大甕	-	-	-	長石	青灰	普通	外面平行叩き後、カキ目	北西部中層	TP51と同一個体か
TP53	須恵器	甕	-	-	-	雲母・石英	黒褐	普通	外面同心円状の叩き、内面ナデ	北東部中層	

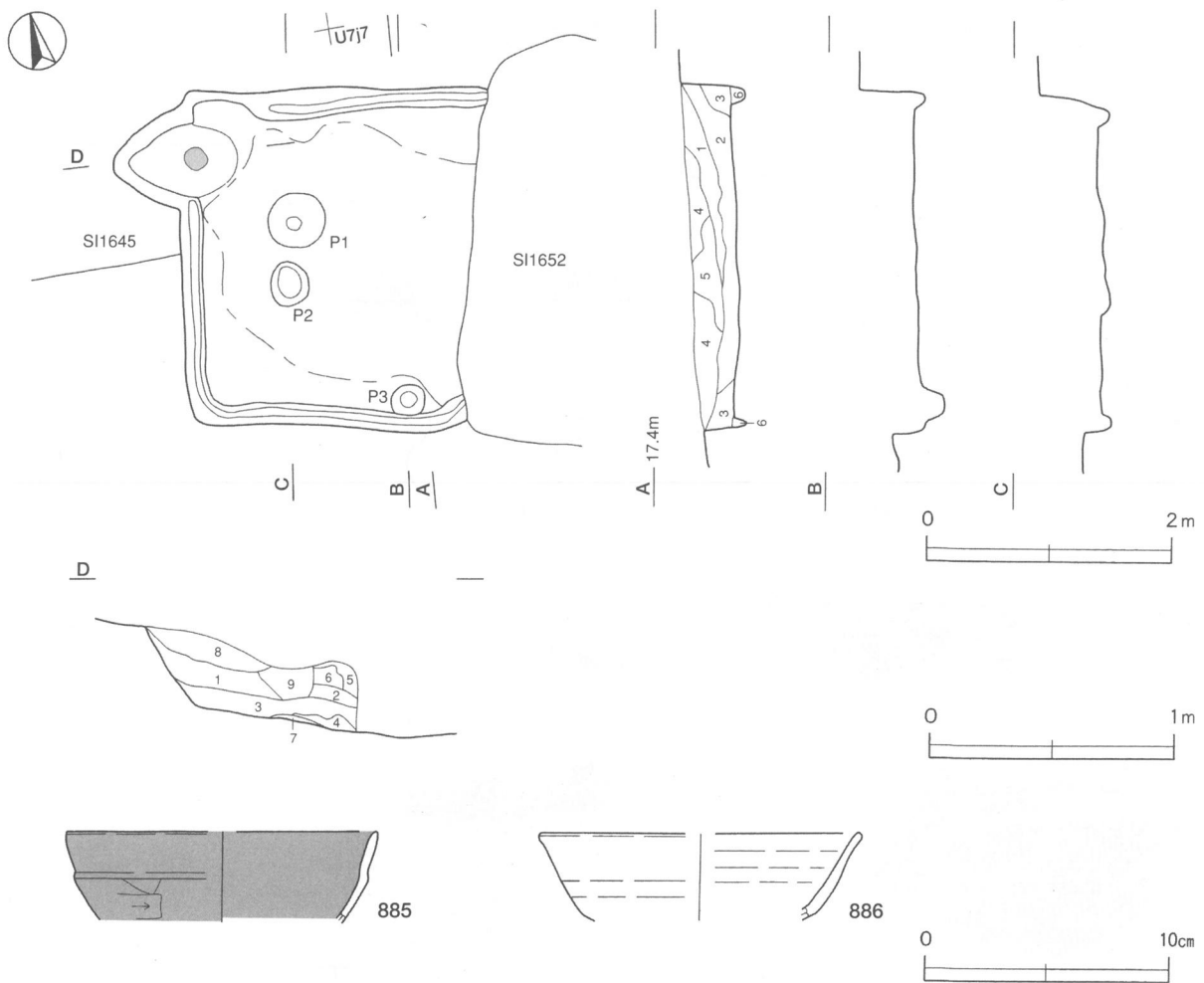
第1655号住居跡（第267図）

位置 調査区南部のU7j6区に位置し、台地から低地に下りる斜面部に立地している。

重複関係 第1645号住居跡を掘り込み、第1652号住居に掘り込まれている。

規模と形状 南北軸は2.70mで、東西軸は第1652号住居に掘り込まれているために2.30mだけが確認されている。平面形は方形または長方形と推測され、主軸方向はN-82°-Wである。壁高は12~42cmで、傾斜した地形のために南側部分ほど低くなっており、各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められており、壁溝が周回している。



第267図 第1655号住居跡・出土遺物実測図

竈 北西コーナー部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで100cmほどで、壁外への掘り込みは60cmである。天井部と袖部は遺存せず、付近の床面には粘土粒子や砂粒が散在しており、砂質粘土で構築されていたと考えられる。火床部は床面と同じ高さの地山面を使用しており、火床面が被熱し、赤変硬化している。また、煙道は急な傾斜で直線的に立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------------|----------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 7 にぶい赤褐色 | 焼土粒子多量、炭化粒子少量 |
| 3 極暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化物微量 |
| 4 黒褐色 | 炭化物中量、焼土ブロック少量 | 9 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・砂粒中量 | | |

ピット 3か所。深さはP 1が8cm、P 2が9cm、P 3が23cmで、配置や規模に規則性が見られず、性格は不明である。

覆土 6層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------|-------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量 |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック少量 | 6 暗褐色 | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片59点（坏17、甕・甑42）、須恵器片5点（坏3、甕2）が散在した状態で出土している。885は北西部の覆土下層、886は竈内から出土している。

所見 廃絶時期は、出土土器と重複関係から8世紀前葉かそれ以前と考えられる。

第1655号住居跡出土遺物観察表（第267図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
885	土師器	坏	[12.4]	(3.6)	-	雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り、内面ナデ	北西部下層	
886	須恵器	坏	[12.9]	(3.5)	-	雲母・長石・石英	黄灰	普通	体部ロクロナデ、下端手持ちヘラ削り	竈内	

第1656号住居跡（第268図）

位置 調査区南部のV 8 d3区に位置し、台地から低地に下りる斜面部に立地している。

重複関係 第1658号住居に掘り込まれている。

規模と形状 南北軸は3.30mで、東西軸は2.05mだけが確認されており、硬化面の広がりから見てN-0°を主軸方向とする方形または長方形と推測される。壁高は10cmほどで、壁は直立している。

床 ほぼ平坦で、硬化面が南北に長く確認されている。また、壁溝が周回している。

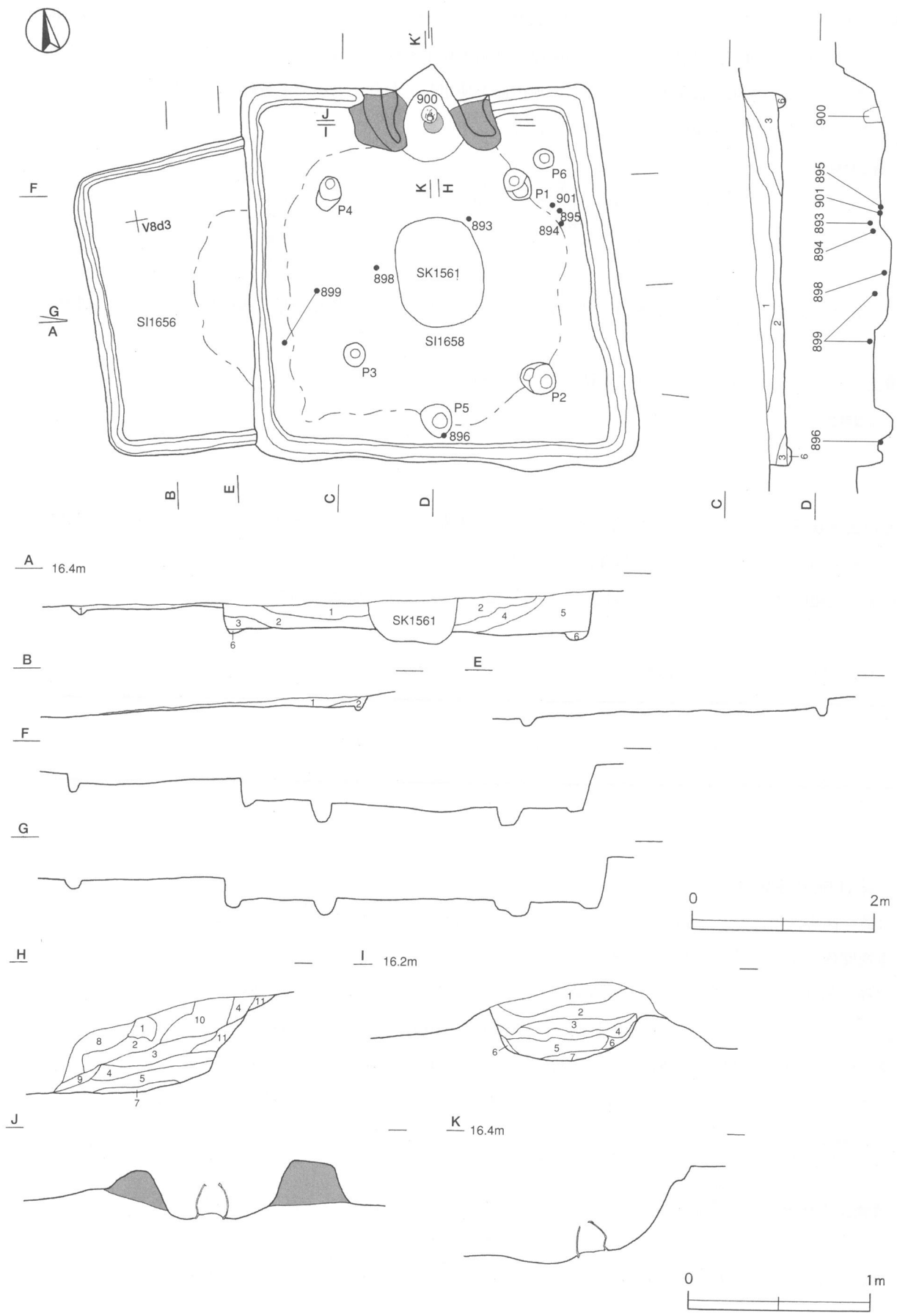
覆土 2層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|---------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 2 暗褐色 | ローム粒子少量 |
|-------|----------------|-------|---------|

遺物出土状況 土師器片14点（坏・高台付坏5、甕・甑9）、須恵器片4点（坏）、混入した石鏃1点が出土している。

所見 時期は重複関係から9世紀後葉以前と考えられるが、出土土器が細片のため詳細な時期は不明である。



第268图 第1656·1658号住居跡実测图

第1658号住居跡（第268～270図）

位置 調査区南部のV 8 d3区に位置し、台地から低地に下りる斜面部に立地している。

重複関係 第1656号住居跡を掘り込み、第1561号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.05m、短軸3.95mほどの方形で、主軸方向はN-10°-Eである。壁高は25～48cmで、各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められており、壁溝が周回している。

竈 北壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで105cm、袖部幅155cmほどである。袖部は砂質粘土で構築され、火床部は床面と同じ高さの平坦面を使用している。煙道の立ち上がり部には底部を欠いた土師器甕が逆位で据えられて、支脚として使用されている。また、煙道は急な傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------------|----------|-----------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量、
焼土粒子微量 | 7 灰褐色 | 焼土ブロック・灰多量、炭化粒子中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 8 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量 | 9 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子中量 | 10 廃棄褐色 | 粘土粒子・砂粒多量、ローム粒子・焼土粒子・
炭化粒子少量 |
| 5 黒褐色 | 炭化物多量、焼土粒子少量 | 11 極暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子・
粘土粒子・砂粒少量 |
| 6 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 | | |

ピット 6か所。主柱穴はP 1～P 4が相当し、深さは18～24cmである。P 5は出入口施設に伴うピットで、深さ21cmである。P 6は深さ22cmで、性格不明である。

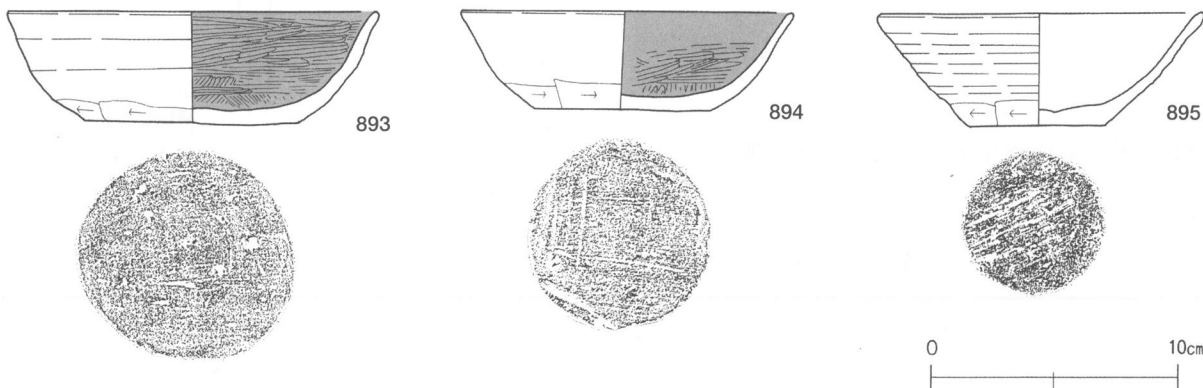
覆土 6層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

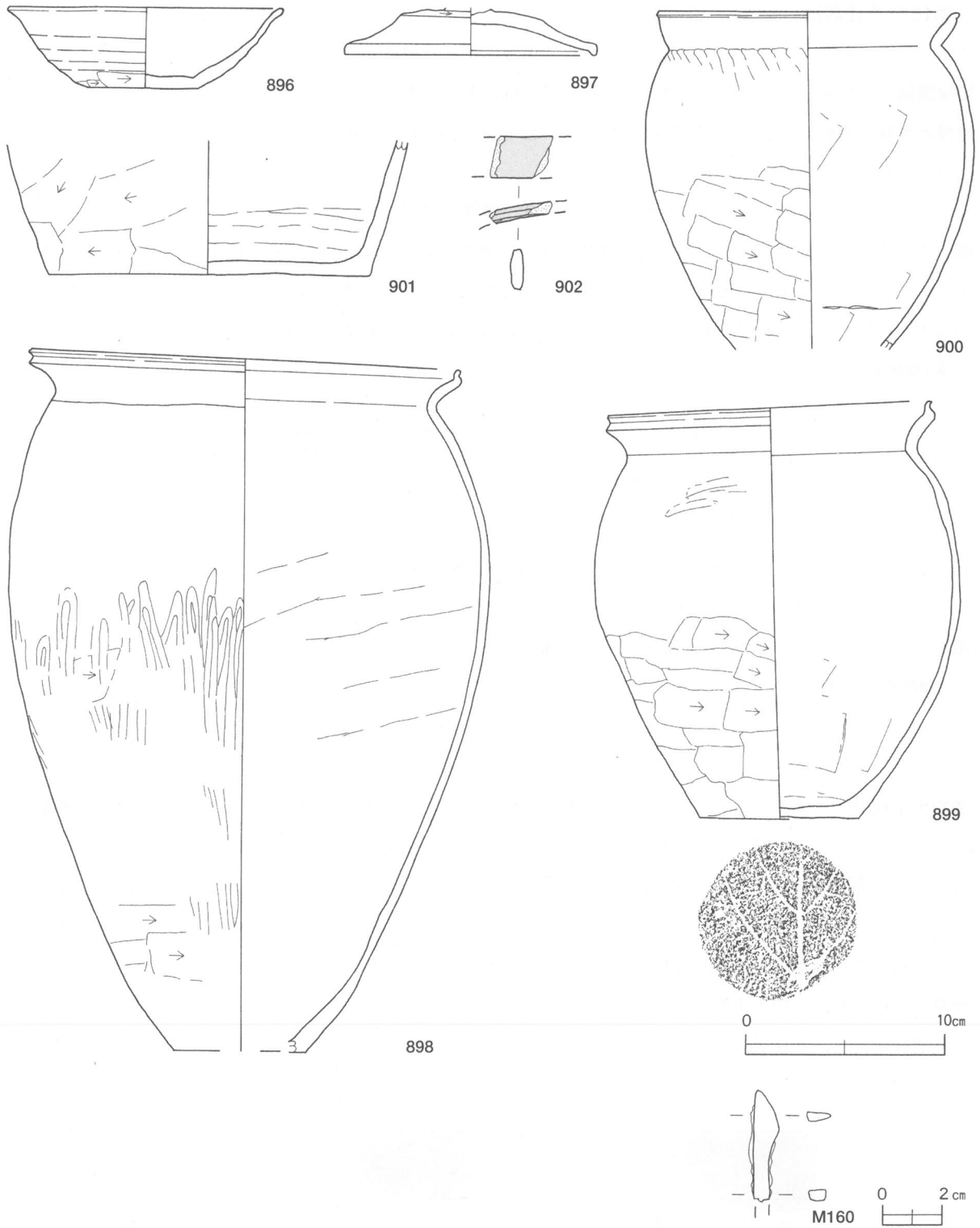
- | | | | |
|--------|-------------------|--------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量、
炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子微量 | 5 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片240点（坏・碗33、甕・甑207）、須恵器片141点（坏・高台付坏53、蓋2、甕・甑86）、灰釉陶器片2点（瓶、壺）、鉄鏃1点が出土している。遺物は覆土下層を中心にほぼ全域から出土しており、特に土師器甕類の細片が多い。898は中央部の覆土下層から土圧でつぶれた状態で出土している。また、896は南壁際の床面から、901は東壁際の床面から出土しており、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。900は支脚として転用された土師器甕で、被熱痕が認められる。

所見 廃絶時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。台地から低地に下りる斜面部においては4本主柱の住居は少なく、本住居はその少ない事例の一つである。



第269図 第1658号住居跡出土遺物実測図(1)



第270図 第1658号住居跡出土遺物実測図(2)

第1658号住居跡出土遺物観察表 (第269・270図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
893	土師器	坏	14.7	4.6	8.5	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部一方向のヘラ削り	中央部下層	95%, PL63
894	土師器	坏	13.2	4.0	7.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部一方向のヘラ削り	北東部下層	100%, PL63
895	須恵器	坏	12.9	4.5	5.4	雲母・長石・石英	にぶい黄褐	不良	底部一方向のヘラ削り	北東部床面	100%, PL63

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
896	須恵器	坏	13.6	4.0	5.3	雲母・長石・石英	にぶい赤褐	不良	底部一方向のヘラ削り	南壁際床面	70%
897	須恵器	蓋	12.4	(2.2)	-	雲母・長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラ削り後、つまみ接合痕	南東部上層	90%, PL63
898	土師器	甕	21.0	34.6	[6.6]	雲母・長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ磨き, 内面ヘラナデ	中央部下層	80%, PL63
899	土師器	甕	16.0	20.7	7.9	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ	西壁際下層	85%, PL64
900	土師器	甕	14.8	(16.7)	-	雲母・長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ	竈火床部	支脚転用, 75%, PL64
901	須恵器	甕	-	(6.7)	15.9	雲母・長石・石英	にぶい黄褐	普通	体部外面縦位の平行叩き, 下端ヘラ削り	東壁際床面	20%
902	灰釉陶器	平瓶カ	-	(0.6)	-	緻密, 黒色粒子	オリーブ 黒・ 灰オリーブ	良好	把手部ヘラ削り	南東部下層	猿投産

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M160	鎌	(3.6)	0.9	0.4	(2.7)	鉄	鎌身部から筥被部にかけての破片, 片刃箭式	南東部下層	

第1657号住居跡 (第271図)

位置 調査区南部のV 8 d1区に位置し, 台地から低地に下りる斜面部の最下部に立地している。

重複関係 第1659・1665・1670号住居と第103号溝に掘り込まれている。

規模と形状 東西軸は5.20mで, 南北軸は第103号溝に掘り込まれているために3.80mだけが確認されており, N-25°-Eを主軸方向とする方形または長方形と推定される。壁高は30~45cmほどで, 各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。また, 壁溝は確認された壁際を周回している。

竈 北壁中央部に付設されており, 規模は焚口部から煙道部まで120cm, 袖部幅135cmほどである。天井部は崩落しており, 土層断面図中の第2層が崩落土に相当する。袖部は砂質粘土で構築されており, 右袖の内側には被熱痕が認められる。火床部は15cmほど掘りくぼめた部分にローム土が埋め戻されて皿状を呈し, 火床面が赤変硬化している。また, 煙道は急な傾斜で直線的に立ち上がっている。

竈土層解説

1	黒黄褐色	粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量	7	極暗赤褐色	焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化物・粘土粒子少量
2	灰黄褐色	粘土粒子多量	8	にぶい黄褐色	粘土粒子・砂粒多量
3	灰黄褐色	粘土粒子多量, 焼土粒子中量	9	暗褐色	粘土粒子中量, ロームブロック少量
4	にぶい赤褐色	焼土粒子多量, 粘土粒子中量	10	暗褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量
5	黒褐色	炭化物多量, 焼土ブロック少量			
6	極暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量, ロームブロック少量			

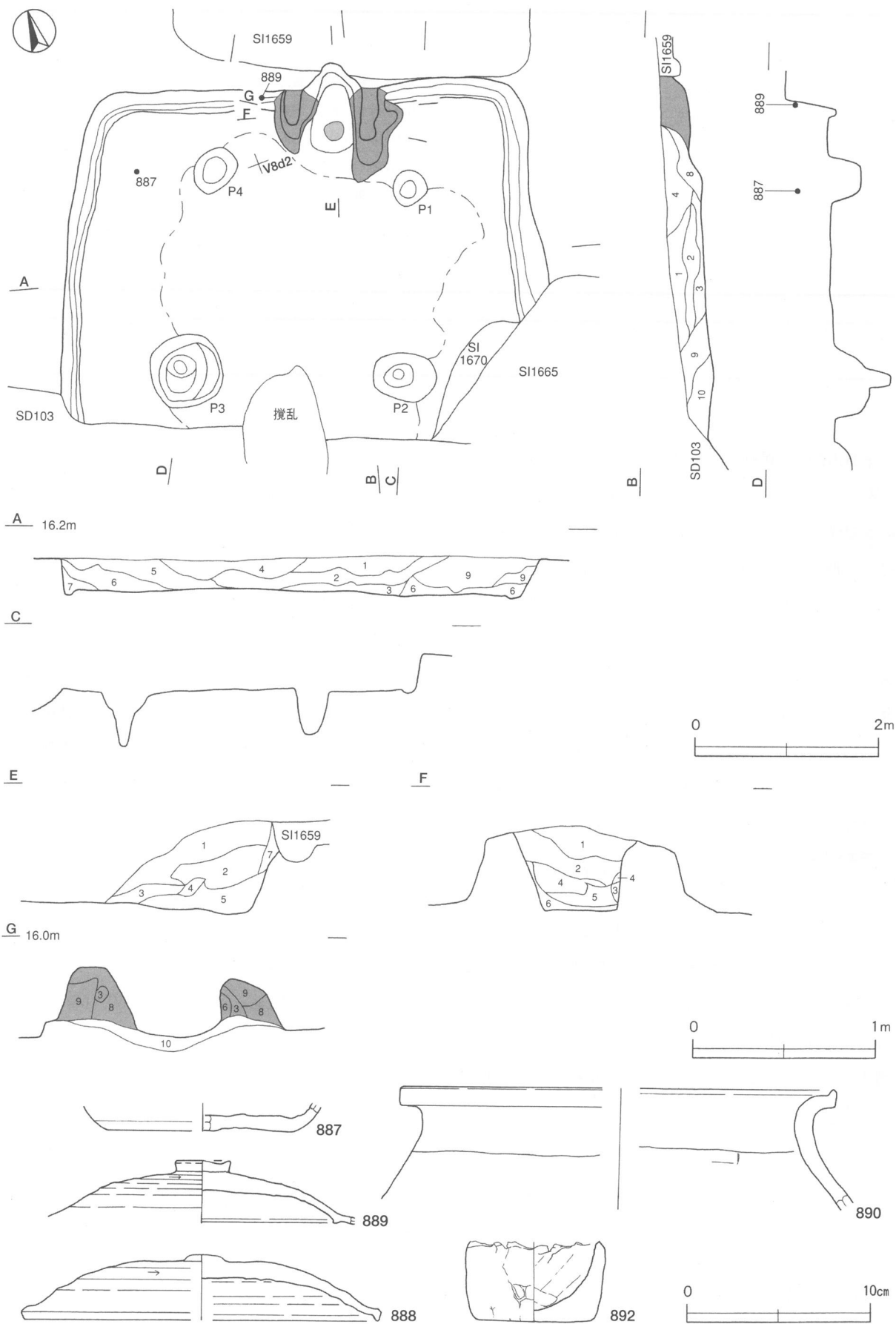
ピット 4か所。主柱穴はP 1~P 4が相当し, 深さはP 1・P 4が46・35cm, P 2・P 3が60・63cmと, 南側に位置する柱穴が深くなっている。

覆土 10層からなり, ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

1	黒褐色	焼土ブロック・炭化物・粘土粒子少量, ロームブロック微量	7	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
2	黒褐色	炭化粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・粘土粒子微量	8	灰黄褐色	粘土粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂粒少量
3	極暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量	9	極暗褐色	ロームブロック・砂粒少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
4	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量	10	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子中量, 炭化粒子少量
5	極暗褐色	ロームブロック少量			
6	極暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量			

遺物出土状況 土師器片300点 (坏43, 甕・甗256, 手捏1), 須恵器片32点 (坏・高台付坏18, 蓋4, 甕・甗10) が出土している。遺物は竈周辺から多く出土しており, 889は竈西側の覆土上層から出土している。また, 887は北西コーナー部の覆土上層から出土している。



第271图 第1657号住居跡・出土遺物実測図

所見 廃絶時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。

第1657号住居跡出土遺物観察表（第271図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
887	須恵器	坏	-	(1.5)	[10.2]	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ削り	北西部上層	15%
888	須恵器	蓋	[19.0]	(3.2)	-	長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	南東部床面	45%
889	須恵器	蓋	-	(3.4)	-	雲母・長石・石英	にぶい褐	普通	天井部回転ヘラ削り	竈西側上層	45%
890	土師器	甕	[23.0]	(6.5)	-	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ	南東部床面	
892	土師器	手捏	[6.9]	4.3	6.0	赤色粒子	にぶい黄褐	普通	体部指頭によるナデ	南東部上層	25%

第1659号住居跡（第272・273図）

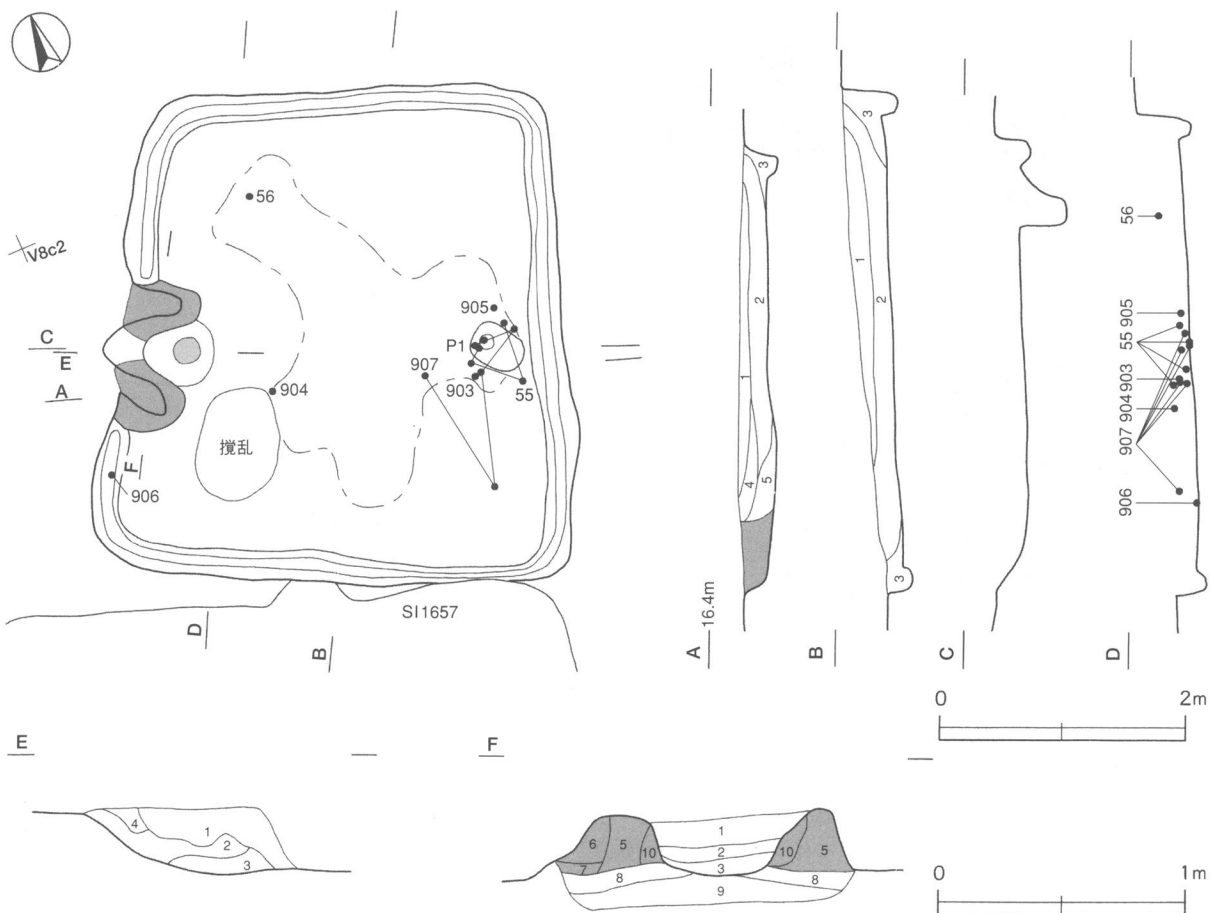
位置 調査区南部のV8c3区に位置し、台地から低地に下りる斜面部に立地している。

重複関係 第1657号住居跡を掘り込んでいる。

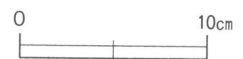
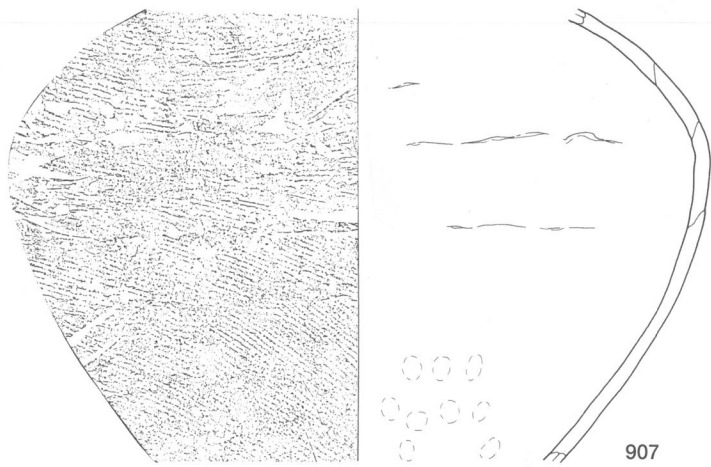
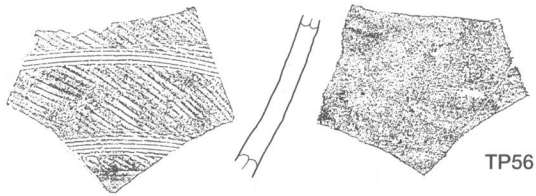
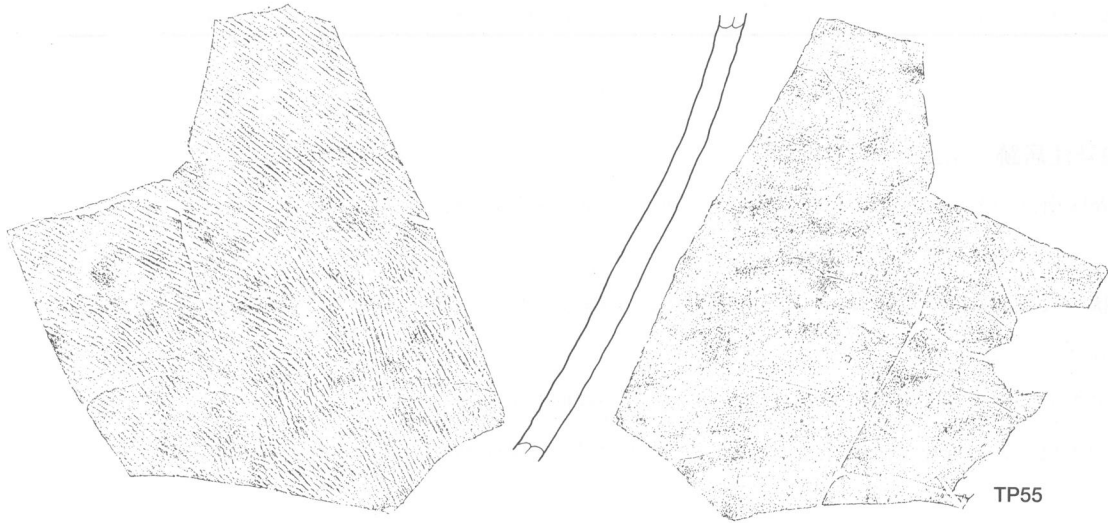
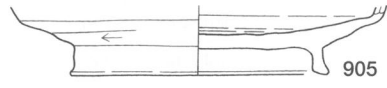
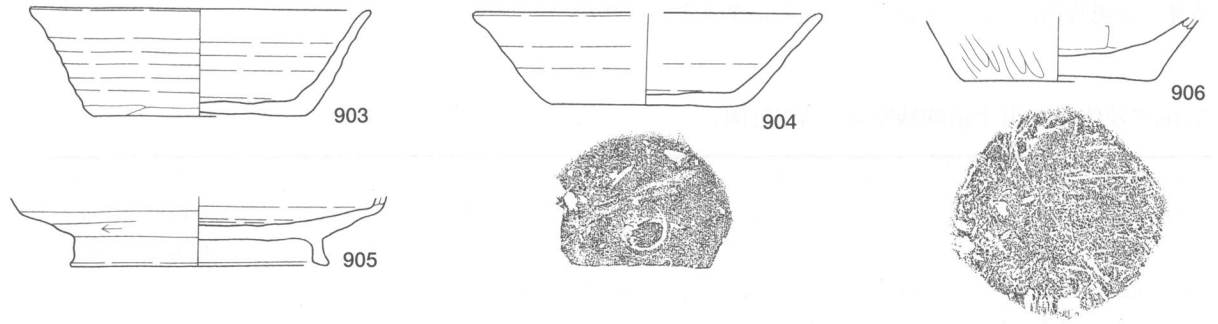
規模と形状 長軸3.90m、短軸3.80mほどの方形で、主軸方向はN-63°-Wである。壁高は15~32cmで、各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められており、壁溝が周回している。

竈 西壁の中央部に砂質粘土で構築されており、規模は焚口部から煙道部まで90cm、袖部幅120cmほどである。



第272図 第1659号住居跡実測図



第273图 第1659号住居跡出土遺物実測図

天井部は崩落しており、土層断面図中の第2・4層が崩落土に相当する。袖部や火床部は10cmほど掘りくぼめた部分にローム土を床面の高さまで埋め戻して構築されており、袖部の内側と火床面が赤変硬化している。また、煙道は外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量	5 灰黄褐色	粘土粒子・砂粒多量
2 暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒中量、 ローム粒子・炭化物少量	6 黒褐色	砂粒中量
3 極暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・ 粘土粒子・砂粒少量	7 暗褐色	砂粒中量、ロームブロック少量
4 灰黄褐色	粘土粒子・砂粒中量、ロームブロック・ 焼土ブロック・炭化粒子少量	8 黒褐色	ロームブロック少量
		9 暗褐色	ロームブロック中量
		10 極暗赤褐色	粘土粒子・砂粒中量、焼土粒子少量

ピット 1か所。P1は深さ42cmで、出入り口施設に伴うピットである。

覆土 5層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	4 黒褐色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量、焼土粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	5 暗褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック微量
3 暗褐色	ロームブロック少量		

遺物出土状況 土師器片90点（坏9，甕・甑81），須恵器片37点（坏・高台付坏18，蓋5，盤1，甕・甑13）が、東壁際を中心に出土している。903・905・907は東壁際中央部の覆土下層からまとまって出土しており、廃絶時に遺棄ないし投棄されたものと考えられる。また、906は南西コーナー部の床面から出土している。

所見 当調査区で確認された西竈の住居は、本跡の他に第1646・1655号住居があり、いずれも調査区南部の台地から低地に下りる斜面部に立地している。廃絶時期は、出土土器から8世紀中葉から後葉と考えられる。

第1659号住居跡出土遺物観察表（第273図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
903	須恵器	坏	13.6	4.3	8.4	雲母・長石・石英	褐灰	普通	底部回転ヘラ切り後、一方向のヘラ削り	東壁際下層	70%
904	須恵器	坏	[13.8]	3.8	7.6	雲母・長石・石英	オリーブ黒	普通	底部回転ヘラ切り後、ヘラナデ	中央部中層	35%
905	須恵器	高台付坏	-	(2.8)	10.2	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	東壁際下層	60%
906	土師器	甕	-	(2.6)	7.6	雲母・長石・石英	にぶい赤褐	普通	底部一方向のヘラ削り	南西部床面	20%
907	須恵器	甕	-	(24.3)	-	雲母・長石・石英	灰黄褐	普通	体部内面ロクロナデ・輪積み痕・指頭痕	東壁際下層	20%
TP55	須恵器	大甕	-	-	-	雲母・長石・石英	黄灰	普通	外面斜位の平行叩き、内面ナデ	南壁際床面	
TP56	須恵器	甕	-	-	-	雲母・長石・石英	褐灰	普通	外面斜位の平行叩き後、カキ目	北東部中層	

第1660号住居跡（第274図）

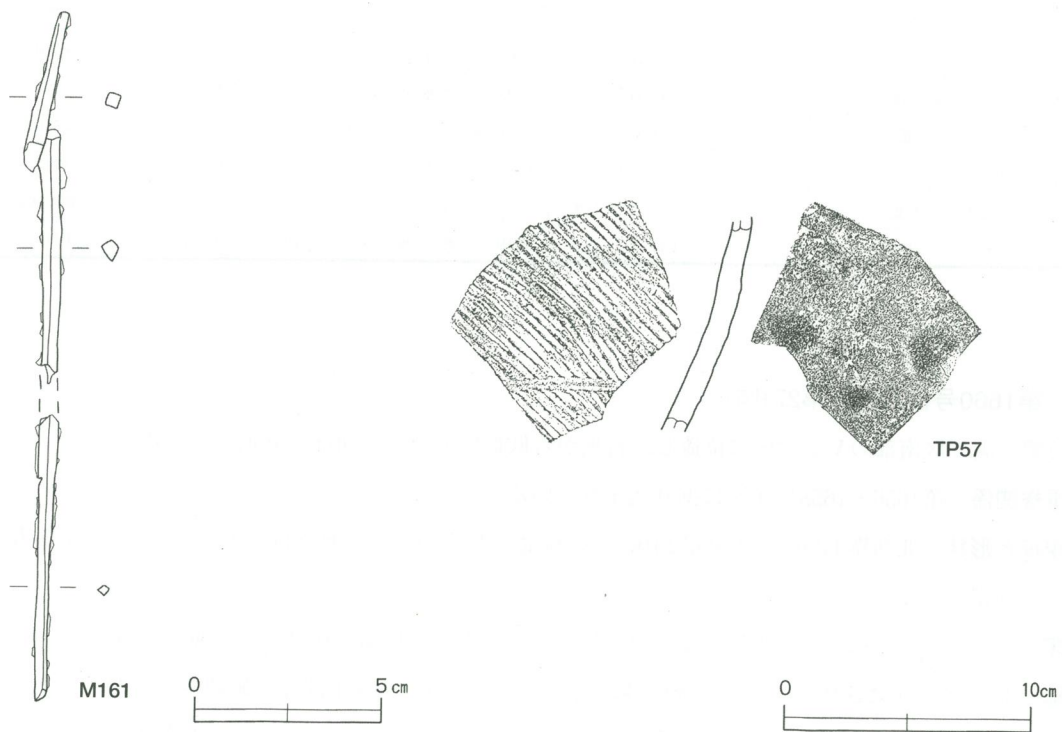
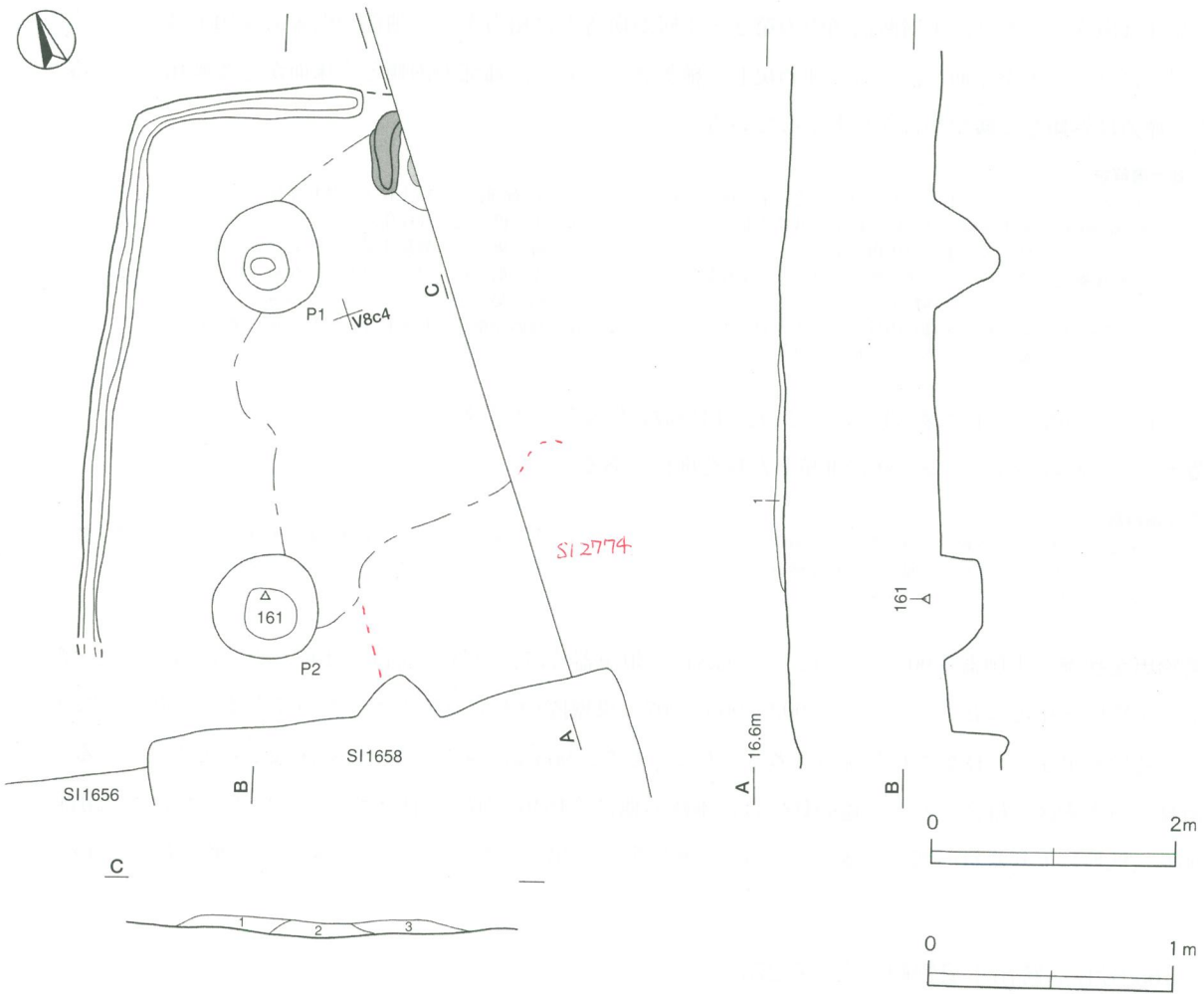
位置 調査区南部のV8c3区に位置し、台地から低地に下りる斜面部に立地している。

重複関係 第1656・1658号住居に掘り込まれている。

規模と形状 北西壁4.30m，北東壁2.10mだけ確認されている。主軸方向をN-25°-Eとする方形または長方形と推定される。

床 ほぼ平坦で、ピットの内側がよく踏み固められており、壁溝は確認された壁際を巡っている。

竈 北壁部に付設されている。調査区外に延びているために、西半部分が確認されただけである。袖部は、床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床面は、被熱によって赤変硬化している。



第274图 第1660号住居跡・出土遺物実測図

竈土層解説

- 1 灰黄褐色 ロームブロック・粘土粒子・砂粒中量
- 2 暗赤褐色 粘土ブロック多量, ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量

ピット 2か所。支柱穴はP1・P2が相当し、深さは52cmと34cmである。

覆土 単一層である。砂粒とロームブロックが多く含まれており、人為堆積の可能性が高い。

土層解説

- 1 暗褐色 砂粒多量, ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片13点(甕), 須恵器片8点(坏4, 甕4), 鉄製品1点(紡錘車の軸)が出土している。その他, 土師質土器片3点(内耳鍋)が攪乱により混入している。TP57は壁溝の覆土中, M161は南部の覆土下層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から8世紀後半ないし9世紀前半頃と考えられる。

第1660号住居跡出土遺物観察表 (第274図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP57	須恵器	甕	-	-	-	長石	暗紫灰	普通	外面斜位の平行叩き, 内面ナデ	壁溝内	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M161	紡錘	(17.6)	0.4	0.4	(11.3)	鉄	両端部欠損, 紡錘の軸部	南部下層	PL82

第1661号住居跡 (第275・276図)

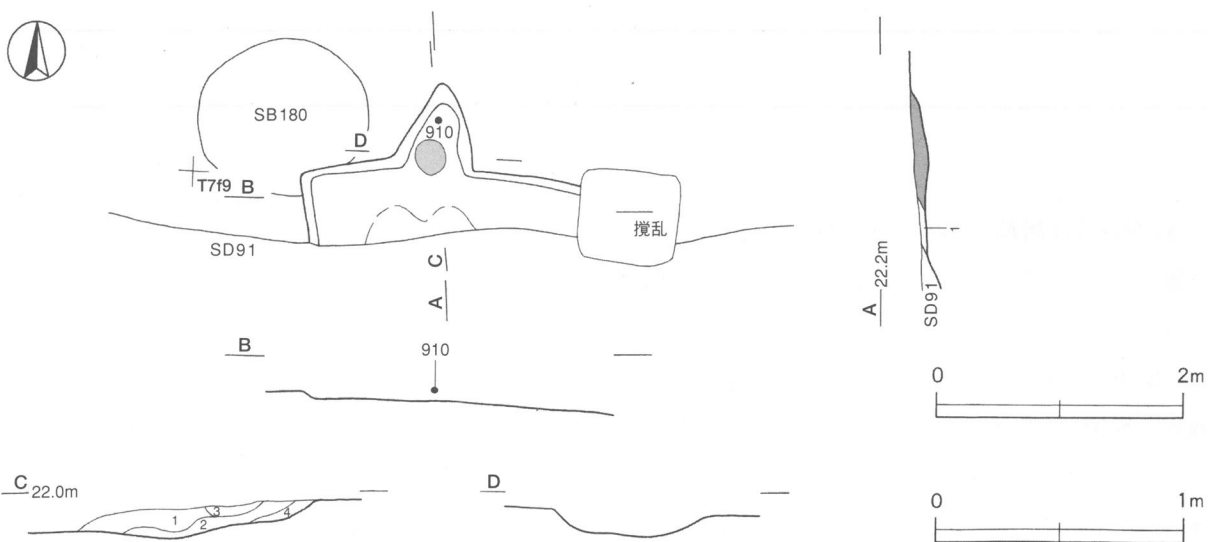
位置 調査区中央部のT7f9区に位置し, 平坦な台地上に立地している。

重複関係 第180号掘立柱建物跡を掘り込み, 第91号堀に掘り込まれている。

規模と形状 東西軸は2.60mほどで, 南北軸は0.90mだけが確認されている。平面形は方形または長方形と推定され, 主軸方向はN-2°-Wである。壁高は5cmほどで, 壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 竈の手前が踏み固められている。

竈 北壁の西寄りに付設されており, 壁外に60cmほど掘り込んで構築されている。天井部や袖部は遺存せず,



第275図 第1661号住居跡実測図

覆土の含有物から砂質粘土で構築されていたと考えられる。火床部は床面と同じ高さの平坦面で、火床面が被熱によって若干赤変している。また、煙道は傾斜して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|-----------------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 3 暗赤褐色 焼土ブロック中量, 炭化物少量 |
| 2 にぶい黄褐色 焼土ブロック中量, 炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量 | 4 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化物少量 |

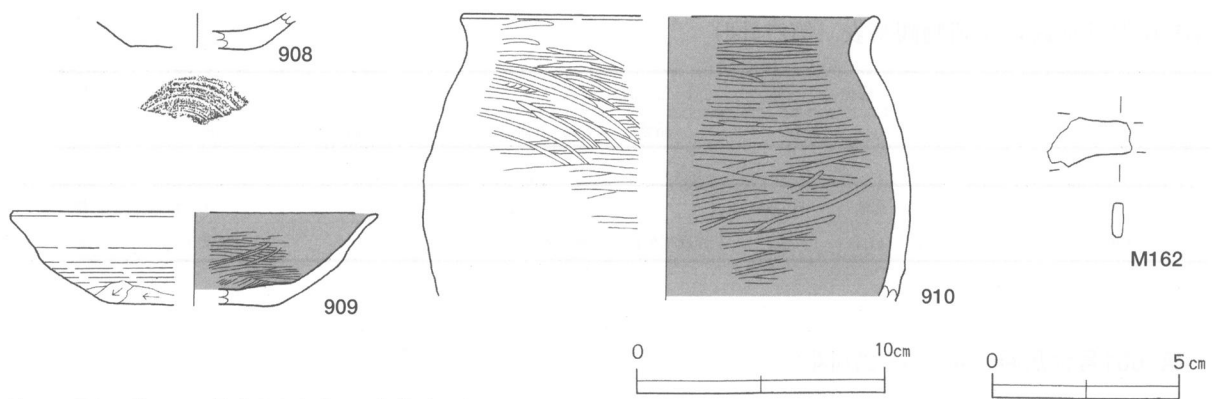
覆土 単一層である。ロームブロックを含まないことから、自然堆積の可能性が高い。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化物微量

遺物出土状況 土師器片52点（小皿1, 坏・碗26, 甕・甑25）, 刀子1点, 混入した須恵器片17点が、竈付近を中心に出土している。909・910は竈の火床部から出土している。

所見 時期は、出土土器から10世紀後半から11世紀頃と考えられる。



第276図 第1661号住居跡出土遺物実測図

第1661号住居跡出土遺物観察表（第276図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
908	土師器	小皿	-	(1.4)	[5.4]	長石・石英	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	北東部覆土中	
909	土師器	坏	[14.8]	3.7	[7.0]	石英・赤色粒子	明褐	普通	体部下端・底部手持ちヘラ削り	竈覆土中	40%
910	土師器	甕	[16.6]	(11.3)	-	白色粒子・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部内・外面ロクロナデ後、ヘラ磨き	竈覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M162	刀子	(2.3)	1.3	0.3	(1.8)	鉄	茎部の破片, 両関カ	北東部覆土中	

第1662号住居跡（第277・278図）

位置 調査区南部のU7h3区に位置し、台地から低地に下りる斜面部に立地している。また、西側部分は調査区域外に延びている。

重複関係 第1672号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南北軸は3.60mほどで、東西軸は3.15mだけが確認されている。平面形は方形または長方形と推定され、主軸方向はN-22°-Eである。壁高は10~20cmほどで、各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、竈の手前から中央部にかけて踏み固められており、壁溝が北壁際を除いて巡っている。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで110cm, 袖部幅120cmで、壁外への掘り込みは50cmほ

どである。袖部は掘り残した地山を芯として、その周囲に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部は床面と同じ高さの地山面をそのまま使用しており、火床面が被熱によって赤変硬化している。また、煙道は火床部から緩やかに立ち上がった後、ほぼ直立している。

竈土層解説

- | | |
|-----------------------------------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 5 暗褐色 ロームブロック多量、焼土ブロック少量 |
| 2 にぶい黄褐色 粘土粒子・砂粒多量、ロームブロック・焼土粒子少量 | 6 暗褐色 粘土粒子・砂粒多量、焼土ブロック少量、ローム粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子・灰少量 | 7 極暗赤褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化物微量 |
| 4 極暗赤褐色 焼土粒子・炭化物多量、ローム粒子微量 | |

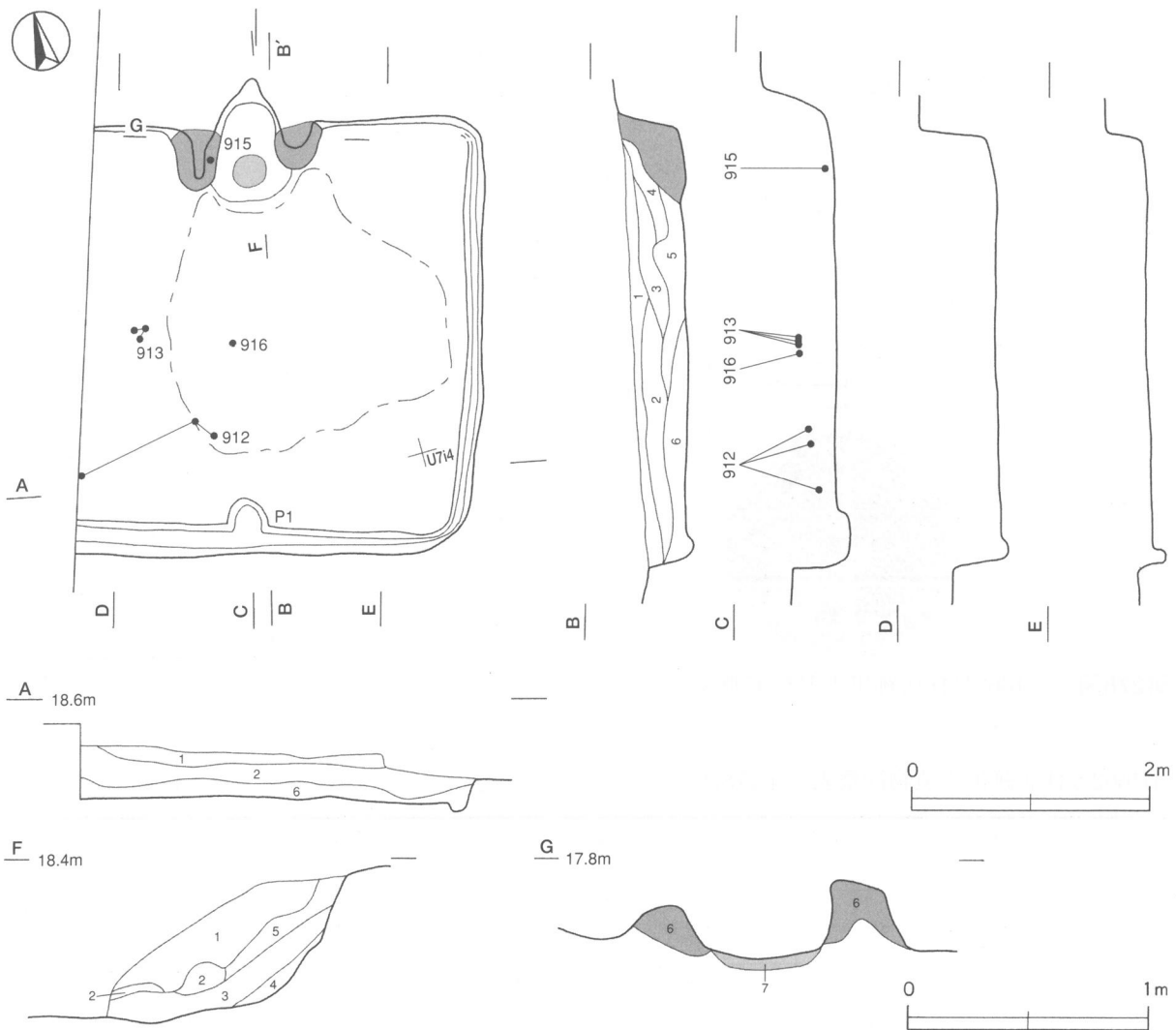
ピット 1か所。P1は出入り口施設に伴うピットで、深さは12cmである。

覆土 6層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

- | | |
|--------------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック・砂粒少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 5 黒褐色 砂粒少量、ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 | 6 暗褐色 ローム粒子中量 |

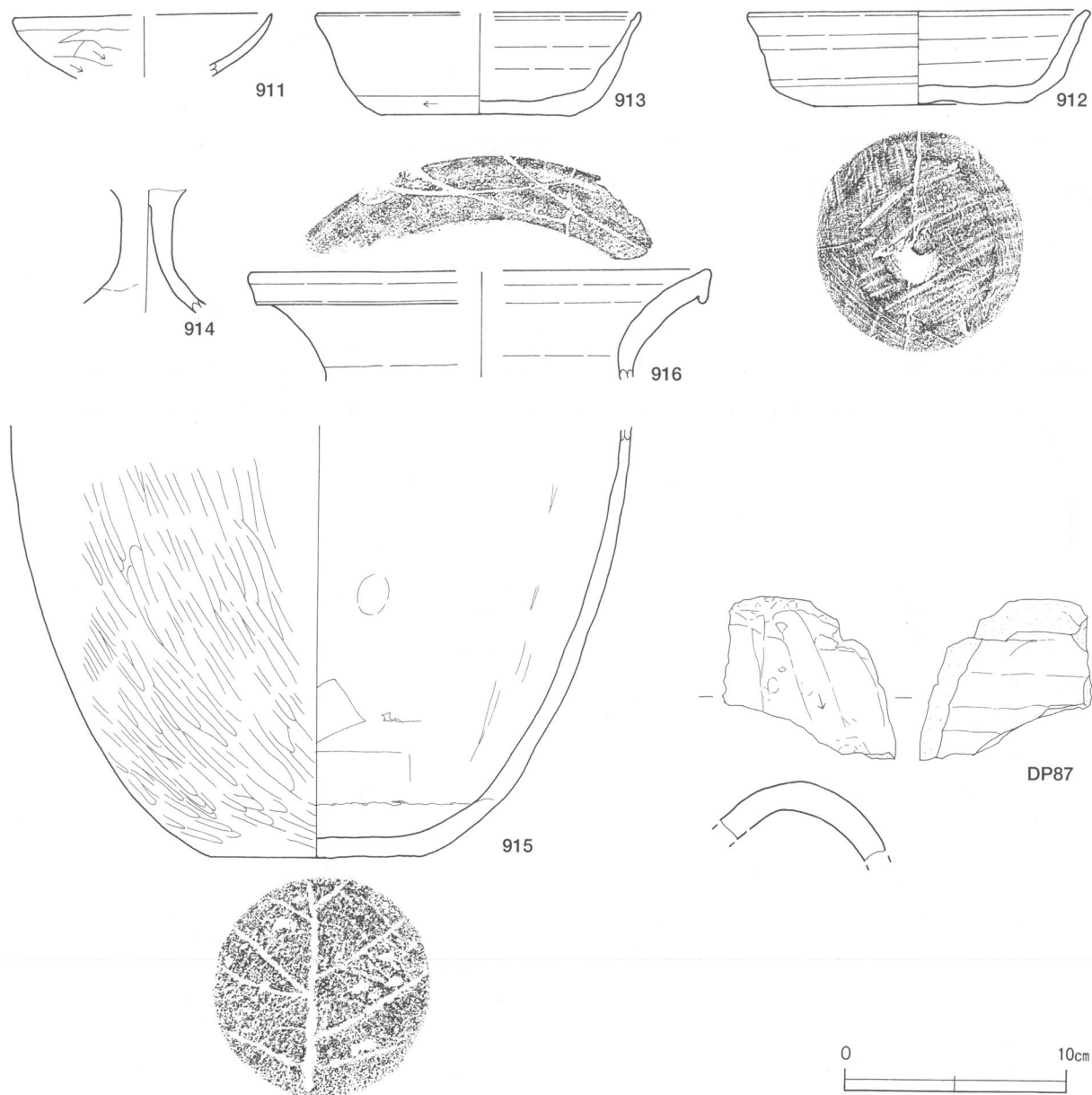
遺物出土状況 土師器片98点(坏14, 甕・甑84), 須恵器片13点(坏5, 高盤1, 壺1, 甕・甑6), 土製支脚1点が出土している。遺物はほぼ全域から散在して出土しており, 913・916は中央部の覆土中層, 915は北壁



第277図 第1662号住居跡実測図

際の覆土下層から出土している。また、912は中央部と南西部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。

所見 廃絶時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第278図 第1662号住居跡出土遺物実測図

第1662号住居跡出土遺物観察表 (第278図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
911	土師器	坏	[11.6]	(2.7)	-	石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部・体部内面横ナデ	北西部上層	
912	須恵器	坏	15.2	4.1	9.4	雲母・石英・黒色粒子	褐灰	普通	底部回転ヘラ切り後、多方向のヘラ削り	中央部・ 南西部下層	90%, PL63
913	須恵器	坏	[14.3]	4.5	8.4	雲母・長石・石英	褐灰	普通	体部下端回転ヘラ削り、底部ヘラナデ	中央部中層	60%
914	須恵器	高坏	-	(5.4)	-	長石・石英	灰	普通	脚部ロクロナデ	北東部上層	20%
915	土師器	甕	-	(19.2)	9.6	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	体部内面ヘラナデ、底部木葉痕	北壁際下層	40%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
916	須恵器	甕	[20.6]	(4.8)	-	雲母・長石・石英	褐灰	普通	口縁部ロクロナデ	中央部中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
DP87	支脚	(7.1)	(7.7)	1.3	(83.6)	長石・赤色粒子	にぶい橙色、外面ヘラ削り、内面ナデ・輪積み痕、円筒状	北東部下層	

第1663号住居跡（第279～281図）

位置 調査区南部のU7j4区に位置し、台地から低地に下りる斜面部に立地している。

重複関係 床下から第1667号住居跡が確認されている。

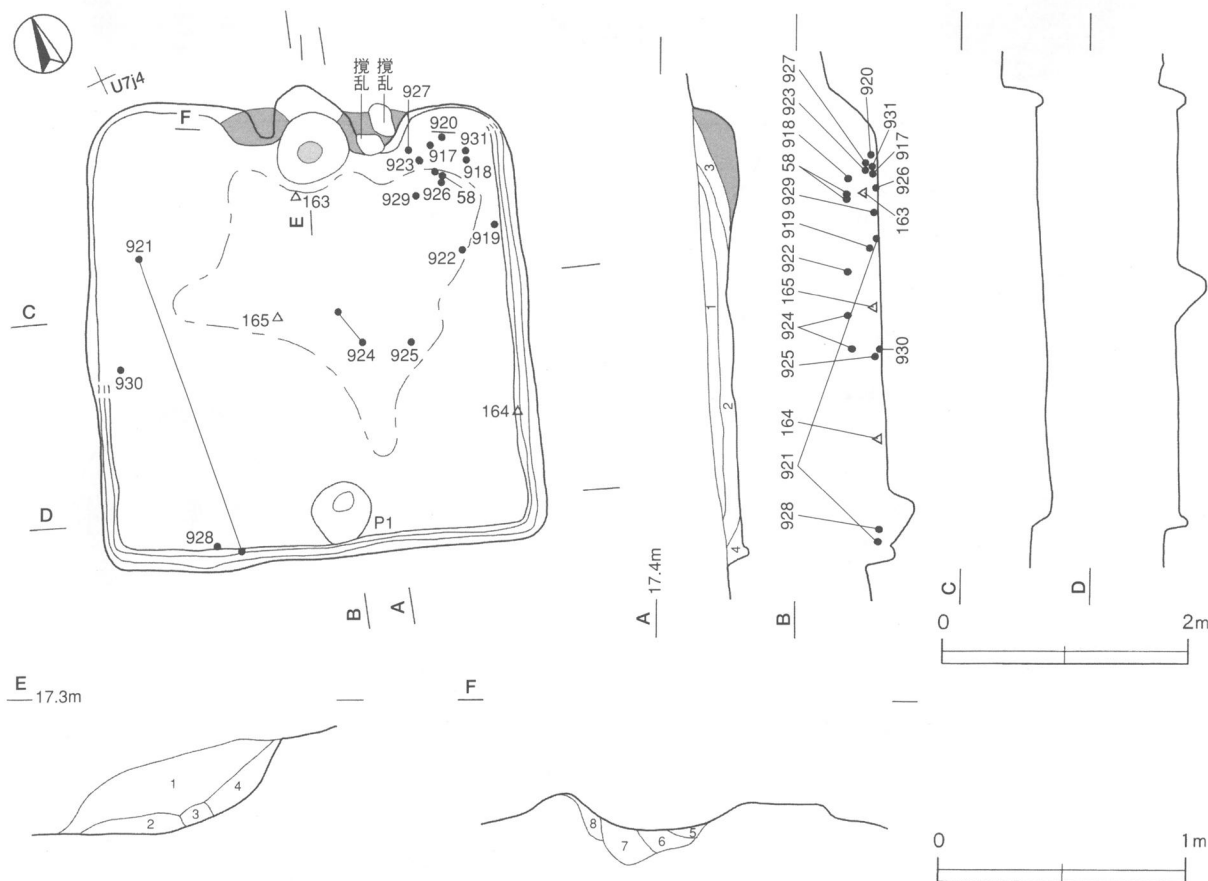
規模と形状 長軸3.55m、短軸3.50mほどの方形で、主軸方向はN-24°-Eである。壁高は15～30cmほどで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部から竈の手前にかけて踏み固められており、壁溝が南西部から東部にかけて巡っている。

竈 北壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで80cm、袖部幅150cmで、壁外への掘り込みは20cmほどである。袖部は掘り残した地山を芯として、その周囲に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部は15cmほど掘りくぼめた部分に焼土やローム土、砂質粘土を充填して使用されており、火床面が赤変硬化している。また、煙道は火床部から緩やかに立ち上がった後、ほぼ直立している。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------------|---------|----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量 | 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子中量 |
| | | 3 極暗赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子少量 |



第279図 第1663号住居跡実測図

- 4 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子・砂粒多量
- 5 極暗赤褐色 ロームブロック・焼土粒子少量
- 6 暗褐色 砂粒多量, ローム粒子微量

- 7 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量, 炭化粒子少量
- 8 極暗赤褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量

ピット 1か所。P1は出入り口施設に伴うピットで、深さは26cmである。

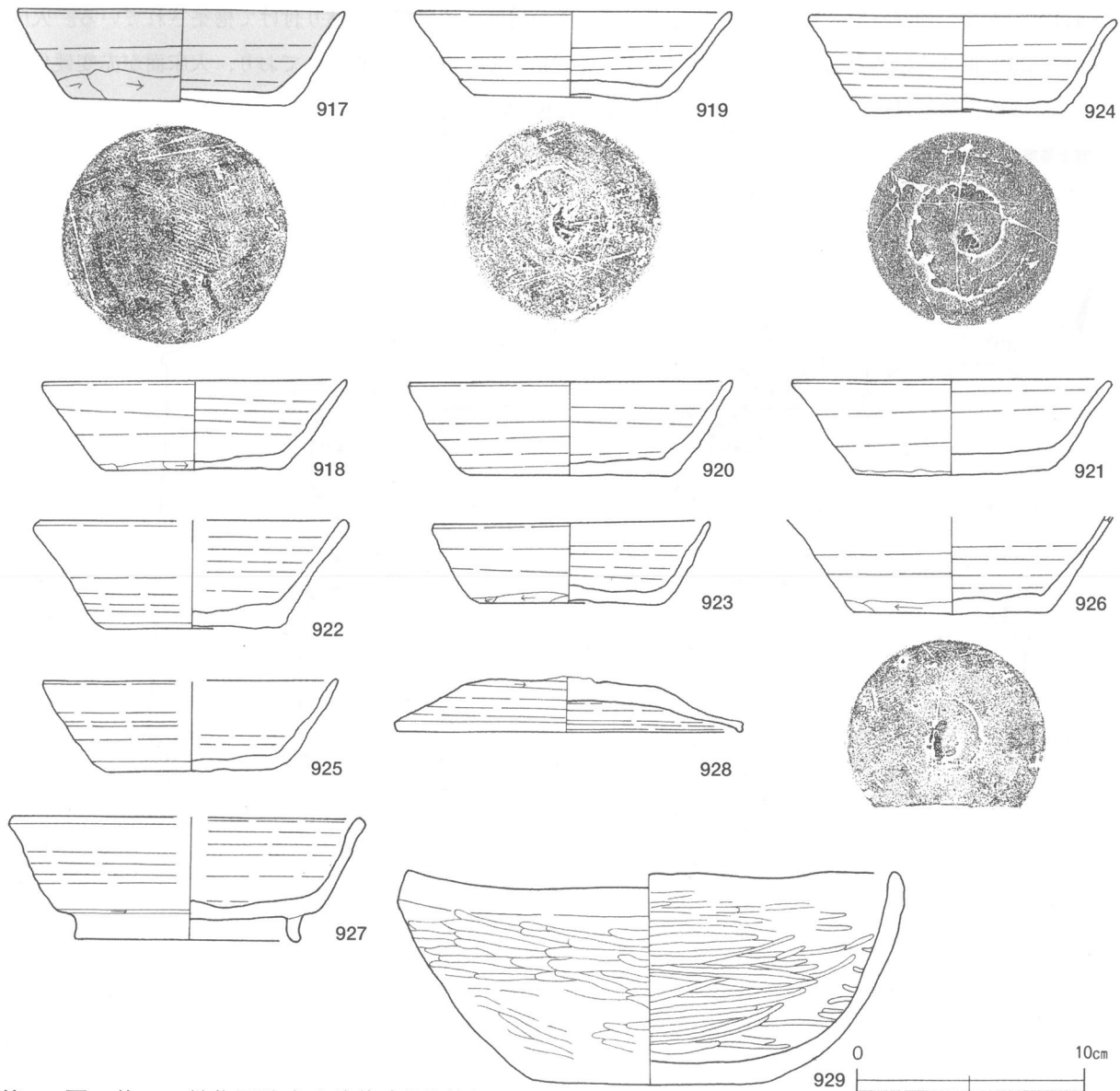
覆土 4層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

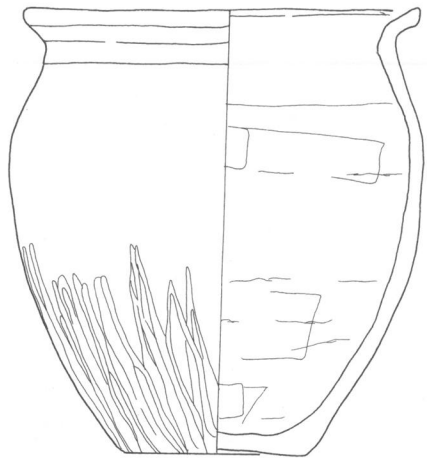
- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 極暗褐色 焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片239点(坏28, 鉢1, 甕・甑210), 須恵器片42点(坏・高台付坏35, 蓋1, 甕・甑6), 刀子1点, 手鎌1点, 鉄鏃1点が北東部を中心に出土している。917~920・922・926・927・929・931はいずれも北東部コーナー部の覆土下層から上層にかけての出土であり, そのうち923は917の上部に重なっていずれも正位で出土しており, 廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

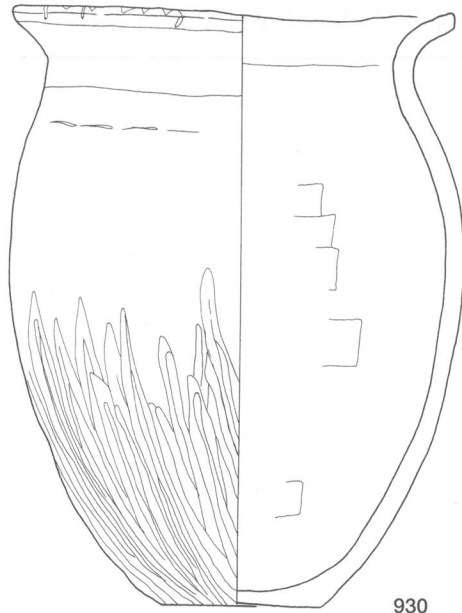
所見 廃絶時期は, 出土土器から8世紀中葉と考えられる。北東コーナー部の床面や覆土下層から残存率のよい土器がまとまって出土しており, その付近に収納施設が存在していたことが推測される。



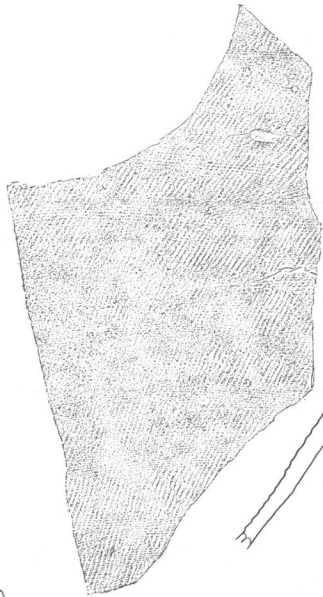
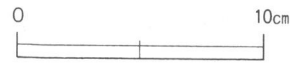
第280図 第1663号住居跡出土遺物実測図(1)



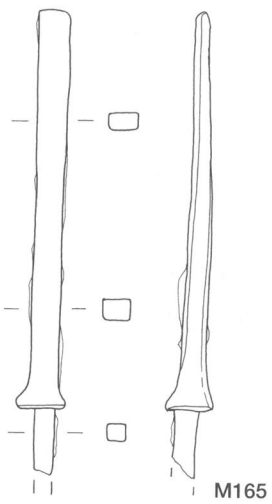
931



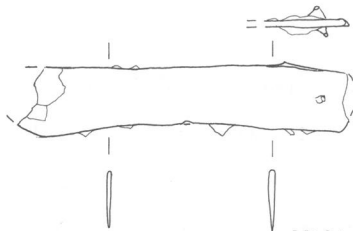
930



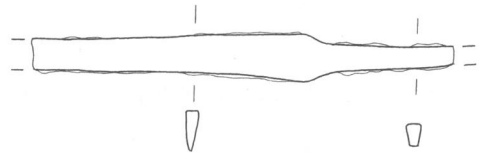
TP58



M165



M164



M163



第281图 第1663号住居跡出土遺物実測図(2)

第1663号住居跡出土遺物観察表（第280・281図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
917	土師器	坏	14.1	4.1	9.5	長石・石英	赤	普通	底部井桁状のヘラ削り，糞状圧痕有	北東部下層	95%， PL64
918	須恵器	坏	13.0	3.8	7.8	長石・石英	灰	普通	底部井桁状のヘラ削り	北東部上層	95%， PL64
919	須恵器	坏	13.6	3.8	8.4	雲母・長石・石英	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後，井桁状のヘラ削り	北東部下層	90%， PL64
920	須恵器	坏	13.9	4.1	8.7	雲母・長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り離し	北東部下層	90%， PL64
921	須恵器	坏	13.8	4.2	8.8	雲母・長石・石英	褐灰	普通	底部回転ヘラ切り後，ヘラナデ	南部・西部下層	90%， PL64
922	須恵器	坏	[13.4]	4.7	7.6	長石・石英	黄灰	普通	底部一方向のヘラ削り	北東部上層	60%， PL64
923	須恵器	坏	11.8	3.6	7.8	長石・石英	灰	普通	底部多方向のヘラ削り	北東部中層	100%， PL64
924	須恵器	坏	13.4	4.3	8.4	雲母・長石・石英	褐灰	普通	底部回転ヘラ切り後，ヘラナデ，火襷痕	中央部上層	底部読書き「+」， 90%， PL64
925	須恵器	坏	[12.8]	3.9	7.4	雲母・長石・石英	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後，ヘラナデ	東部下層	55%
926	須恵器	坏	-	(4.1)	8.7	雲母・長石・石英	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後，ヘラナデ	北東部下層	底部読書き「×」， 40%， PL70
927	須恵器	高台付坏	[15.2]	5.3	9.5	雲母・長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け	北東部下層	60%， PL65
928	須恵器	蓋	14.7	(2.3)	-	雲母・長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	南西部下層	80%
929	土師器	鉢	21.3	9.4	10.0	雲母・長石・石英	明褐	普通	底部多方向のヘラ削り	北東部下層	90%， PL65
930	土師器	甕	17.7	24.0	6.5	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	口縁端部に棒状工具による刻み有り，底部ヘラ磨き	西壁際床面	90%， PL65
931	土師器	甕	15.8	18.0	7.3	雲母・長石・石英	明赤褐	普通	体部内面ヘラナデ・輪積み痕，底部木炭痕	北東部下層	100%， PL65
TP58	須恵器	大甕	-	-	-	長石	灰黄	良好	外面平行叩き後，カキ目	北東部上層	外面自然釉

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M163	刀子	(11.2)	1.3	0.3	(11.4)	鉄	刃部から茎部にかけての破片，両関	竈手前中層	PL79
M164	手鎌	(8.9)	2.0	0.2	(10.2)	鉄	片側の孔不明，刃部はやや研ぎ減り	東壁際下層	PL81
M165	鑿カ	(12.5)	1.3	1.2	(21.3)	鉄	茎部欠損，台状関，刃部先端は薄くなる	中央部下層	PL82

第1664号住居跡（第282図）

位置 調査区南部のV7j0区に位置し，低地に下りる斜面部の最下部である黒色土中に構築されている。この付近はローム層が流出しており，床面は粘土層に達している。

重複関係 第103号溝と第1597号土坑に掘り込まれている。

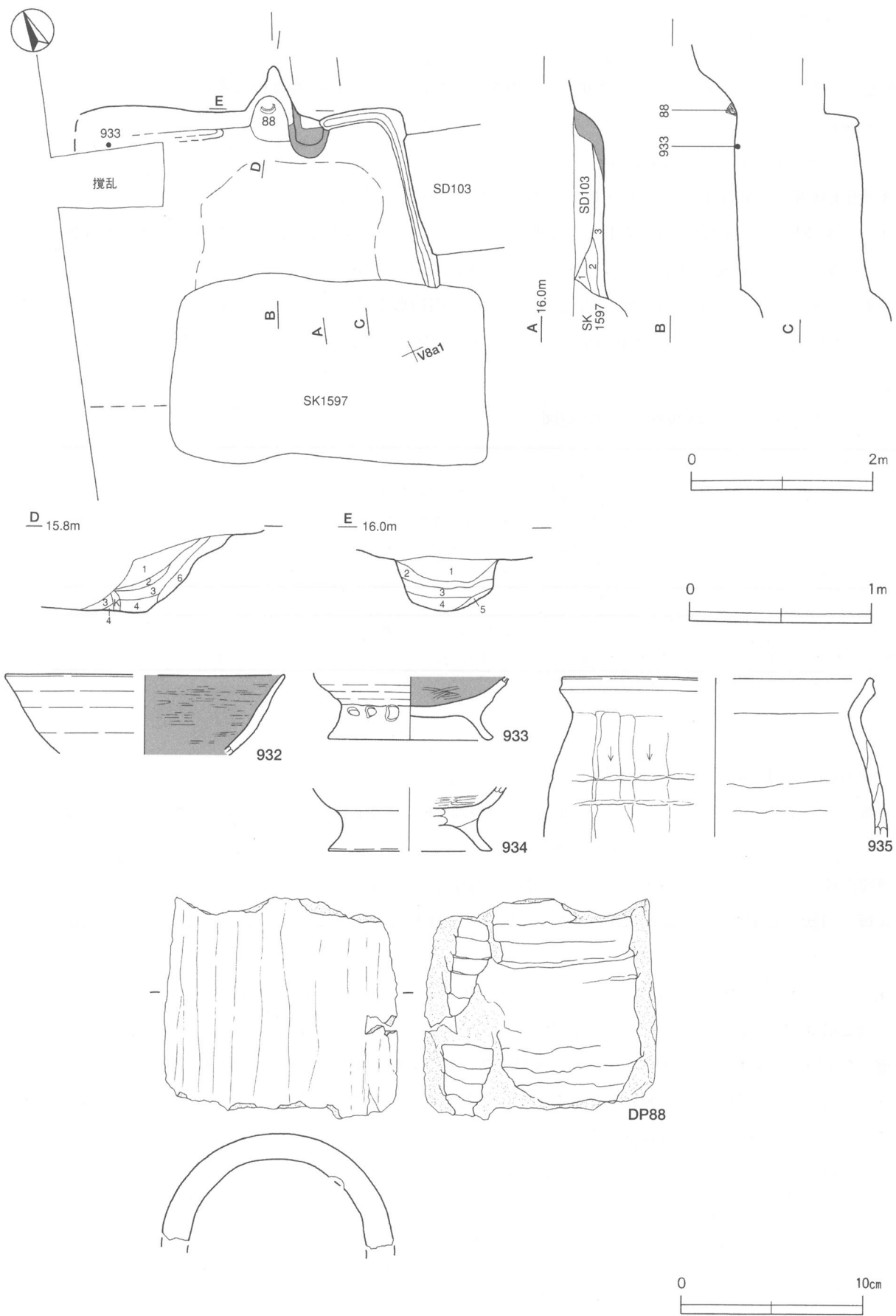
規模と形状 黒色土中に構築されていることや他の遺構との重複のため，南壁の立ち上がりが判然とせず，硬化面の広がりや竈の位置から，N-18°-Eを主軸方向とする長軸3.60m，短軸3.30mほどのほぼ方形と推測される。北壁の高さは30cmで，壁は直立している。

床 ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。壁溝は，東壁際から北壁際にかけて巡っている。

竈 北壁に付設されており，規模は焚口部から煙道部まで80cmほどである。天井部と左袖部は遺存せず，右袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は床面と同じ高さの平坦面を使用し，煙道の立ち上がり部には円筒形を呈した土製支脚が据えられている。また，煙道は外傾して直線的に立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------------------|----------|---------------------------------|
| 1 極暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量，炭化粒子・砂粒微量 | 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量，ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量 |
| 2 にぶい赤褐色 | 粘土粒子・砂粒多量，焼土ブロック・ローム粒子少量 | 4 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量 |



第282図 第1664号住居跡・出土遺物実測図

5 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量、
粘土粒子・砂粒少量

6 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・
炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量

覆土 3層からなる。覆土にブロック状の含有物を含まないことから、自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量

3 黒褐色 粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片140点（坏・椀51, 壺1, 甕・甑88）, 須恵器片73点（坏・高台付坏18, 蓋1, 甕・甑54）, 土製支脚1点がほぼ全域から散在して出土している。932・935は竈内から、933は北西部の床面から出土している。また、DP88は煙道の立ち上がり部から直立した状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から10世紀前半と考えられる。円筒形を呈した土製支脚は第1308・1310・1318号住居跡からも出土しており、いずれも10世紀代と考えられる住居からの出土である。

第1664号住居跡出土遺物観察表（第282図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
932	土師器	椀	[15.0]	(4.2)	-	石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面ロクロナデ、内面ヘラ磨き	竈覆土中	25%
933	土師器	椀	-	(3.4)	9.0	長石・石英	にぶい橙	普通	高台接合部に工具痕有り	北西部床面	40%
934	土師器	椀	-	(3.3)	[9.0]	長石・石英	にぶい黄橙	普通	高台貼り付け後、ロクロナデ	北東部下層	20%
935	土師器	甕	[16.7]	(8.6)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り・輪積み痕	竈覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
DP88	支脚	(11.9)	(12.6)	1.4	431.0	長石・赤色粒子	にぶい橙色、外面ヘラナデ、内面ナデ・輪積み痕、円筒状	竈火床部	外面炭化物付着

第1665号住居跡（第283・284図）

位置 調査区南部のV 8 e2区に位置し、低地に下りる斜面部の最下部である黒色土中に構築されている。この付近はローム層が流出しており、床面は粘土層に達している。

重複関係 第1657・1670号住居跡を掘り込み、第103号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.90m、短軸4.65mほどの方形で、主軸方向はN-52°-Eである。壁高は50~70cmほどで、壁はほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。重複する第1670号住居跡の床面と大部分を共有しており、本住居を構築する際に再利用したものと推測される。壁溝は、北東壁際を除いて巡っている。

竈 北東壁に砂質粘土で構築されており、規模は焚口部から煙道部まで130cm、袖部幅120cmほどである。袖部と火床部は床面と同じ高さの地山面に構築され、被熱痕はほとんど認められない。また、煙道は径10cmほどの円筒状を呈し、急な傾斜で直線的に立ち上がっている。

竈土層解説

1 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物・粘土粒子・
砂粒微量

8 褐色 粘土粒子・砂粒多量

2 極暗褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・
粘土粒子・砂粒微量

9 暗赤褐色 焼土粒子・砂粒中量、ローム粒子・炭化物・
粘土粒子少量

3 にぶい黄褐色 粘土粒子・砂粒多量、焼土粒子少量

10 暗赤褐色 焼土粒子多量、炭化物・粘土粒子・砂粒少量

4 暗赤褐色 焼土ブロック多量、炭化粒子少量

11 極暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子中量、砂粒少量

5 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・灰多量

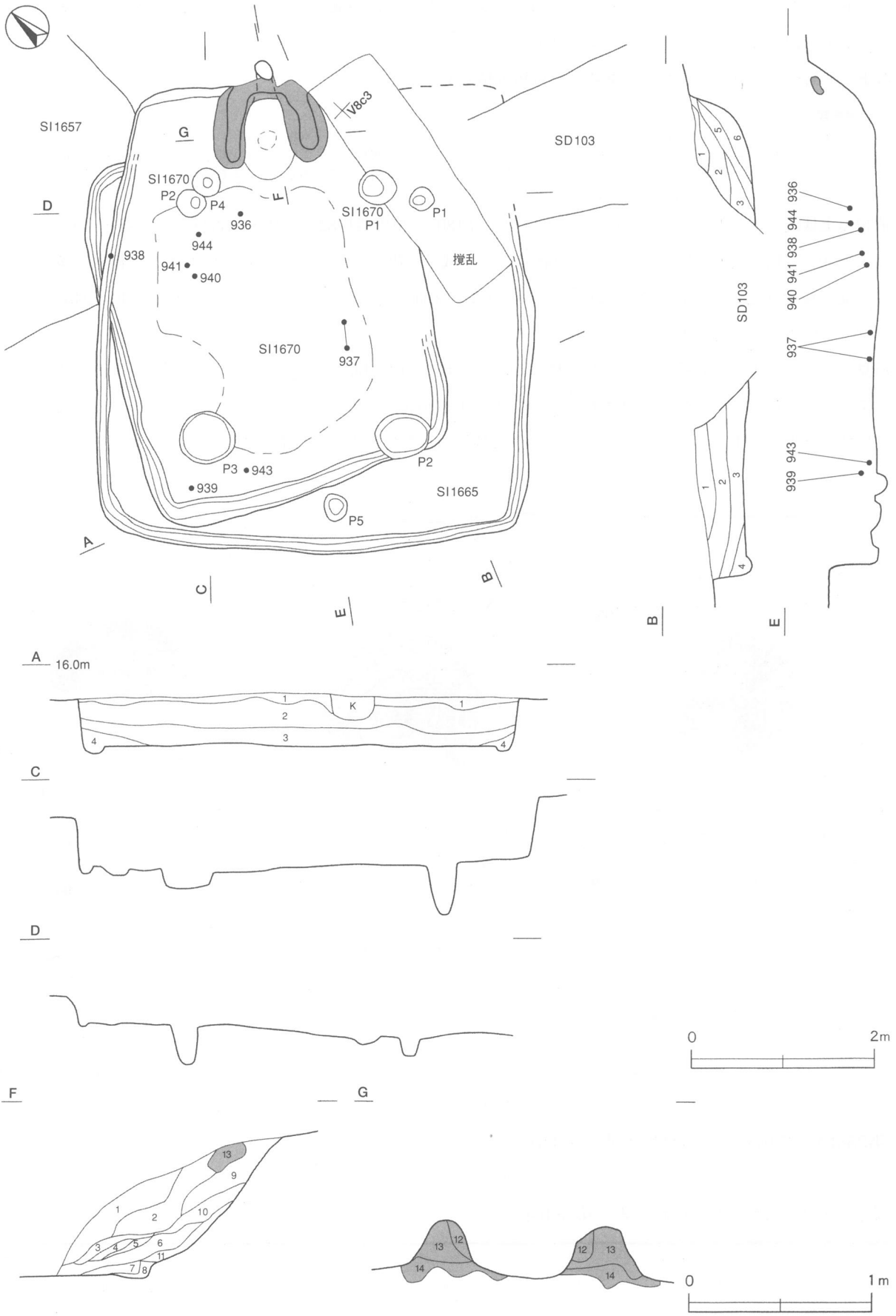
12 にぶい赤褐色 焼土粒子多量、粘土粒子・砂粒少量

6 灰褐色 灰多量、焼土ブロック・炭化物中量

13 にぶい黄褐色 粘土粒子・砂粒多量

7 極暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量

14 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量、
焼土ブロック・炭化物微量



第283图 第1665·1670号住居跡実測図

ピット 5か所。支柱穴はP1～P4が相当し、深さはP4だけが56cmと深く、その他は19～24cmである。P5は出入口施設に伴うピットで、深さは8cmである。

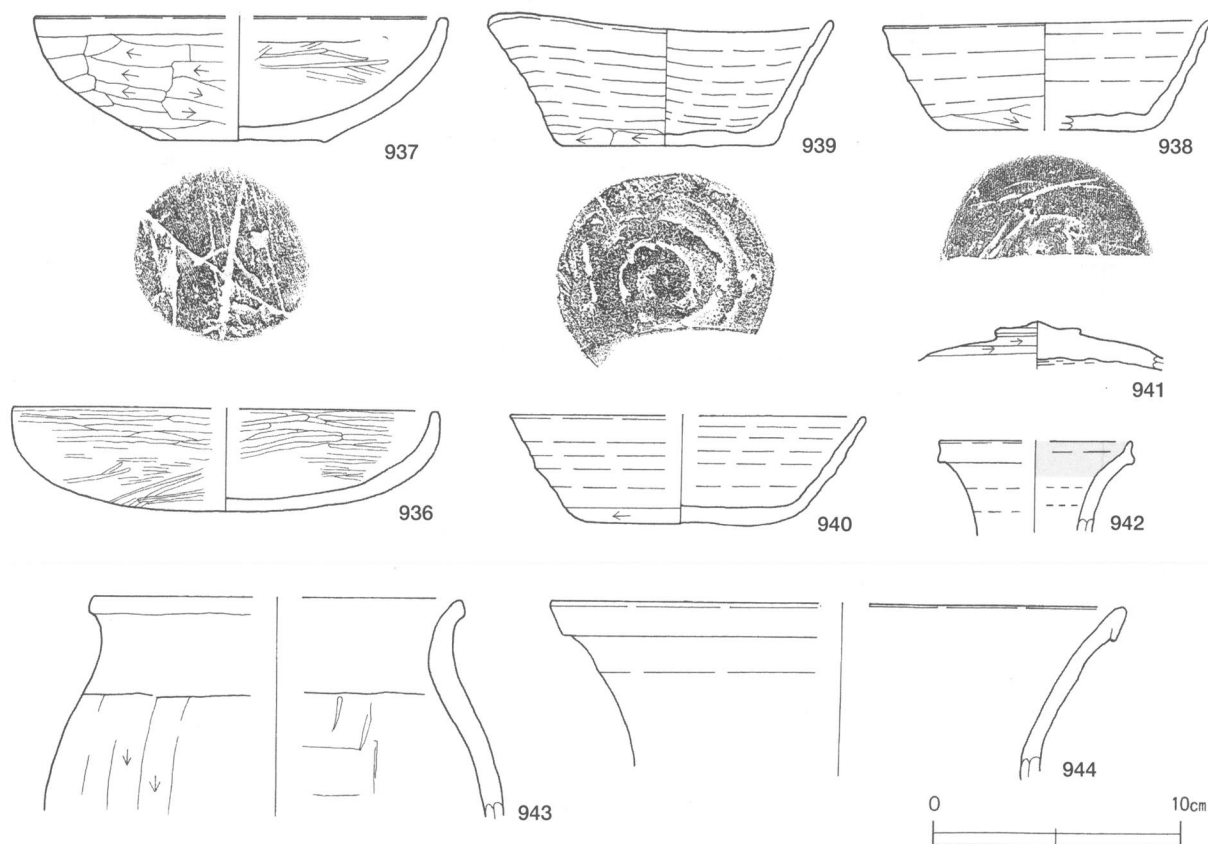
覆土 6層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量 | 4 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子微量 | 6 暗褐色 | 砂粒多量、ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片221点（皿1，坏40，甕・甑180），須恵器片82点（坏・高台付坏44，蓋6，壺・瓶2，甕・甑30），鉄滓2点が出土している。遺物はほぼ全域から出土しており、破断面の摩滅した細片が多く、大半は廃絶後の埋没途中で混入したものと考えられる。床面から出土したものとしては937・940・943があり、それぞれ中央部、北部、西部から出土している。

所見 本住居付近は当遺跡において最も標高が低く、現在の水田面よりもわずかに高い程度である。また、重複関係にある第1670号住居跡とは主軸方向や住居の規模が異なるものの、床面の大部分を共有していることや住居間の時期差があまりないことなどから、建て替えの可能性はある。廃絶時期は、出土土器から8世紀中葉から後葉と考えられる。



第284図 第1665号住居跡出土遺物実測図

第1665号住居跡出土遺物観察表（第284図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
936	土師器	坏	[17.0]	4.1	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部内・外面ヘラ磨き	竈手前中層	50%, PL65
937	土師器	坏	[16.1]	5.0	6.7	白色粒子・赤色粒子	明赤褐	普通	底部一方向のヘラ削り・木葉痕	中央部床面	70%, PL65
938	須恵器	坏	13.0	4.5	[8.2]	長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後、多方向のヘラ削り	北西壁際下層	70%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
939	須恵器	坏	13.5	5.3	8.7	長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後、ヘラナデ	西部下層	60%, PL65
940	須恵器	坏	[14.1]	4.4	8.0	長石・石英	黄灰	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	北西部下層	40%
941	須恵器	蓋	-	(2.0)	-	長石・石英	褐灰	普通	天井部回転ヘラ削り	北西部下層	30%
942	須恵器	長頸瓶	[7.8]	(3.7)	-	砂粒	灰	良好	口縁部・頸部ロクロナデ	東部下層	自然軸
943	土師器	甕	[14.8]	(8.6)	-	雲母・長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部内面ヘラナデ	西部床面	支脚転用
944	須恵器	甕	[22.8]	(7.0)	-	雲母・長石・石英	黄灰	普通	口縁部ロクロナデ	北西部中層	

第1670号住居跡（第283図）

位置 調査区南部のV 8 e2区に位置し、台地から低地に下りる斜面部の最下部に立地している。本住居は黒色土中に構築され、床面は粘土層に達している。

重複関係 第1657号住居跡を掘り込み、第1665号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.00m、短軸3.40mほどの長方形で、主軸方向はN-30°-Eである。壁高は25cmほどで、壁は直立している。

床 第1665号住居と床面の高さが同一であり、本住居の床面の大部分を第1665号住居が再利用したものと推測される。壁溝は、東側部分を除いて巡っている。

ピット 2か所。P 1・P 2は深さがいずれも15cmほどで、P 2は第1670号住居の硬化面下から確認されている。形状から柱穴の可能性はあるが、対応する柱穴は確認されていない。

覆土 確認されていない。

遺物出土状況 出土していない。

所見 時期は、重複関係から、8世紀中頃と考えられる。

第1666号住居跡（第285図）

位置 調査区南部のV 8 e3区に位置し、台地から低地に下りる斜面部の最下部に立地している。黒色土中に構築され、床面は粘土層に達しており、東側部分は調査区域外に延びている。

重複関係 第1671号住居跡を掘り込み、第103号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南北軸は3.60mほどで、東西軸は3.20mだけが確認されており、N-24°-Eを主軸方向とする方形または長方形と推定される。壁高は25~70cmで、傾斜した地形のため南側ほど低くなっており、各壁ともほぼ直立している。

床 中央部を東西に第103号溝に掘り込まれているために、詳細は不明である。壁溝は、確認された壁際を巡っている。

竈 北壁に付設されており、壁外への掘り込みは60cmほどである。天井部と左袖部は遺存せず、右袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は浅い皿状を呈し、火床面が赤変硬化している。また、煙道は外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------------------|---------|-------------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量 | 3 暗赤褐色 | 粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量 |
| 2 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒中量 | 4 極暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒少量 |

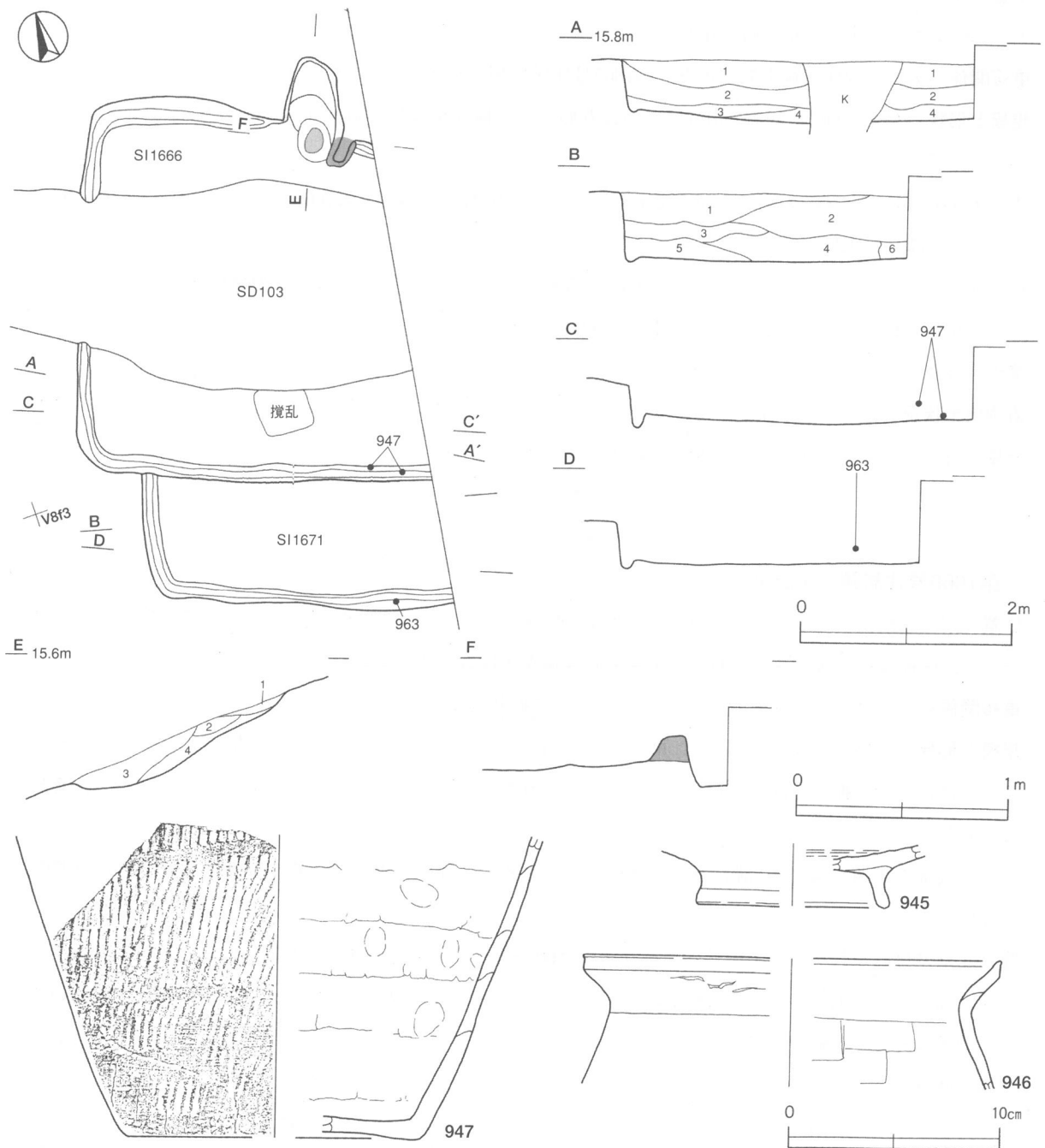
覆土 4層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

- | | |
|------------------------------------|----------------------------|
| 1 極暗褐色 焼土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | 3 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 | 4 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片204点(坏・碗32, 甕・甗172), 須恵器片84点(坏・高台付坏46, 蓋2, 甕・甗36)が出土している。遺物はほぼ全域から散在して出土し、破断面の摩滅しているものが多いことから、大半は廃絶後に混入したものと考えられる。947は南壁際の覆土中層から破片の状態で出土している。また、946は竈内から出土している。

所見 廃絶時期は、出土土器と重複関係から9世紀後葉と考えられる。



第285図 第1666・1671号住居跡, 第1666号住居跡出土遺物実測図

第1666号住居跡出土遺物観察表（第285図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
945	須恵器	高台付坏	-	(2.9)	[8.8]	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	北東部上層	10%
946	土師器	甕	[19.6]	(6.0)	-	雲母・長石・石英	にぶい褐	普通	体部外面ナデ、内面ヘラナデ	竈覆土中	
947	須恵器	甕	-	(14.2)	[13.6]	雲母・長石・石英	褐灰	普通	体部内面ナデ・輪積み痕・指頭痕	南壁際中層	20%

第1671号住居跡（第285・286図）

位置 調査区南部のV 8 f3区に位置し、台地から低地に下りる斜面部の最下部に立地しており、東側部分は調査区域外に延びている。本住居は黒色土中に構築され、床面は粘土層に達している。

重複関係 第1666号住居に掘り込まれている。

規模と形状 南北軸1.10m、東西軸2.70mだけが確認されており、南壁の指す方向を基準にするとN-24°-Eを主軸方向とする方形または長方形と推定される。壁高は50cmほどで、壁はほぼ直立している。

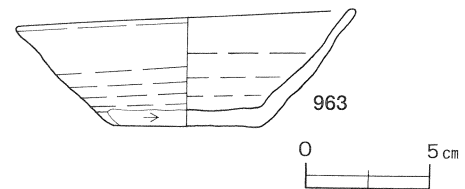
床 ほぼ平坦で、特に硬化した部分は認められない。壁溝は、確認された壁際を巡っている。

覆土 6層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 黒褐色 粘土粒子中量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 黒褐色 粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 6 黒褐色 粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片1点、須恵器片1点（坏）が出土している。963は南壁際の下層から出土している。



第286図 第1671号住居跡出土遺物実測図

所見 廃絶時期は、出土土器と重複関係から9世紀中葉と考えられる。

第1671号住居跡出土遺物観察表（第286図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
963	須恵器	坏	13.4	4.7	6.0	雲母・石英・黒色粒子	にぶい橙	普通	底部一方向のヘラ削り	南壁際下層	85%, PL65

第1668号住居跡（第287図）

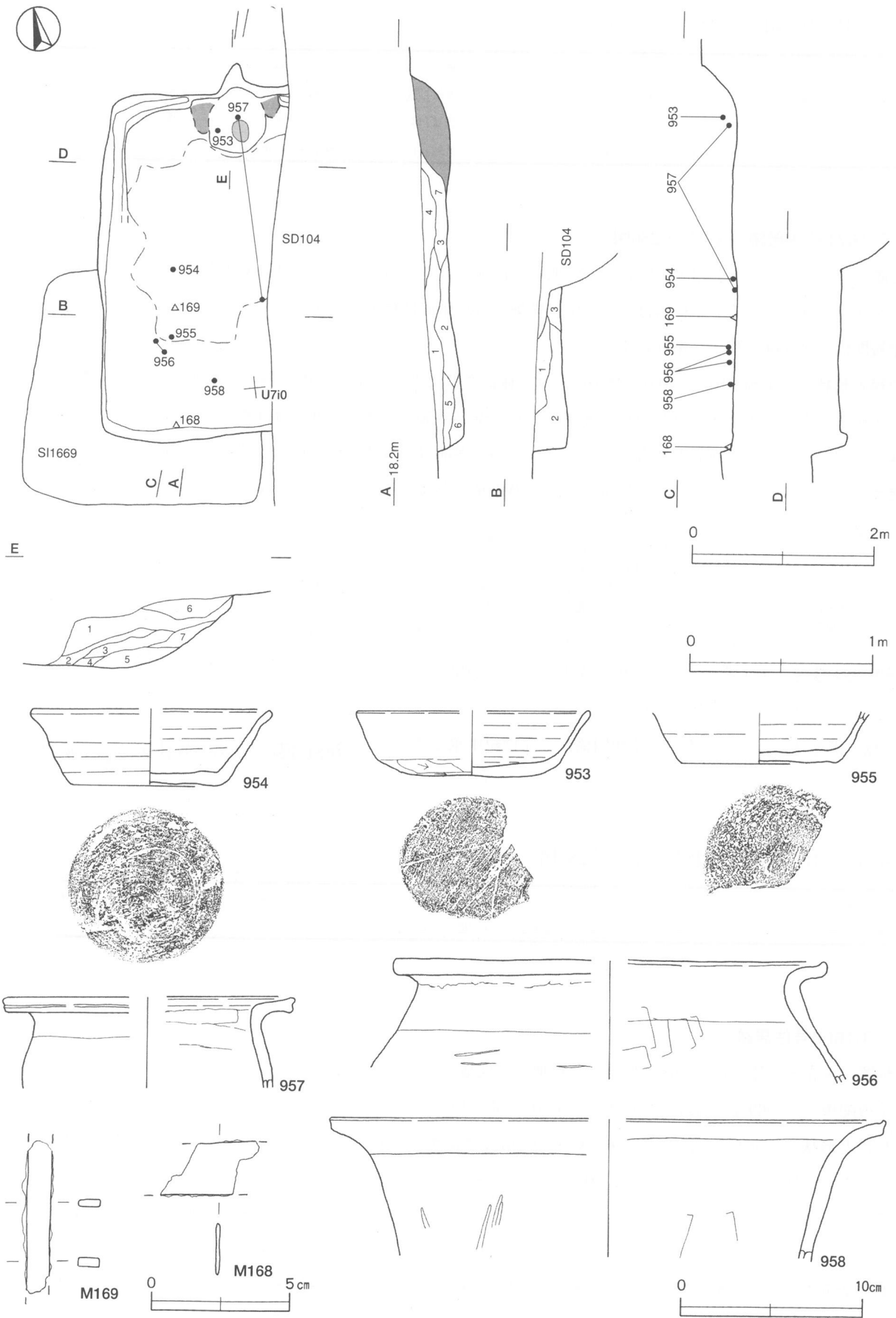
位置 調査区南部のU 7 h9区に位置し、台地から低地に下りる斜面部に立地している。

重複関係 第1669号住居跡を掘り込み、第104号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南北軸は3.70mで、東西軸は1.95mだけが確認されており、N-0°を主軸方向とする方形または長方形と推定される。壁高は15~30cmほどで、各壁とも急な傾斜で立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、竈の手前から中央部にかけて踏み固められている。また、壁溝は北西コーナー部で認められる。

竈 北壁を35cmほど掘り込んで構築されており、規模は焚口部から煙道部まで95cmである。天井部や袖部は遺存せず、火床部は床面と同じ高さの地山面が使用されており、火床面が赤変硬化している。また、煙道は傾斜して立ち上がっている。



第287图 第1668号住居跡・出土遺物実測図

竈土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------------|---------|--------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化物微量 | 6 灰黄褐色 | 砂粒多量, 粘土粒子中量, ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 灰黄褐色 | 粘土粒子・砂粒多量, ロームブロック・焼土粒子少量 | 7 極暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化物・粘土粒子・砂粒少量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量, ロームブロック・炭化粒子少量 | | |
| 4 極暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | | |
| 5 灰褐色 | 灰多量, 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量 | | |

覆土 7層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|--------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 5 極暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化物少量 | 6 極暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 7 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片411点（坏45, 甕・甑366）, 須恵器片55点（坏・高台付坏40, 蓋3, 甕・甑12）, 土製支脚1点, 鉄鎌カ1点, 不明鉄製品1点が全域から散在して出土している。953は竈内から出土している。また、957は竈内と中央部南寄りの床面から出土した破片が接合したものである。958は南部の床面から若干浮いた状態で出土した破片が接合したものである。

所見 廃絶時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。

第1668号住居跡出土遺物観察表（第287図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
953	須恵器	坏	[12.6]	3.5	6.3	雲母・長石・石英	黄灰	普通	底部一方向のヘラ削り	竈覆土中	50%
954	須恵器	坏	[12.8]	4.1	8.4	雲母・長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り離し	西部下層	75%
955	須恵器	坏	-	(2.8)	8.3	雲母・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後, 多方向のヘラ削り	南西部下層	30%
956	土師器	甕	[23.6]	(6.5)	-	雲母・長石・石英	明赤褐	普通	体部内・外面ヘラナデ	南西部下層	
957	土師器	甕	[15.6]	(4.9)	-	雲母・長石・石英	赤褐	普通	口縁端部沈線一条, 体部外面ナデ, 内面ヘラナデ	竈内・中央部床面	10%
958	土師器	甑	[30.0]	(7.5)	-	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き, 内面ヘラナデ	南壁際床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M168	鎌カ	(3.6)	(1.9)	0.2	(1.5)	鉄	刃部の破片	南壁際床面	
M169	不明	(5.6)	0.9	0.3	(5.2)	鉄	断面長方形の棒状, 両側欠損	南西部床面	PL83

第1674号住居跡（第288・289図）

位置 調査区西部のT5d6区に位置し、南に傾斜した斜面部の黒色土中に構築されている。

規模と形状 長軸2.90m, 短軸2.80mほどの方形で、主軸方向はN-25°-Eである。壁高は60cmほどで、各壁とも直立している。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められており、壁溝が周回している。

竈 北壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで105cm, 袖部幅85cmほどである。袖部は砂質粘土で構築され、右袖部の内側には平瓦が直立した状態で据えられており、被熱している。左袖部は攪乱を受けているために基部しか遺存していないが、床面に平瓦の一部と砂質粘土が散在していることから、右袖部と同様に瓦を用いて構築されていたと考えられる。火床部は皿状を呈し、火床面が被熱によって赤変硬化している。また、煙道は傾斜して直線的に立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 にぶい黄褐色 粘土粒子・砂粒多量, 焼土ブロック・炭化物少量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック中量, 炭化物・粘土粒子・砂粒少量
- 3 灰褐色 灰多量, 焼土ブロック・炭化物少量

ピット 1か所。P1は出入り口施設に伴うピットで、深さは17cmである。

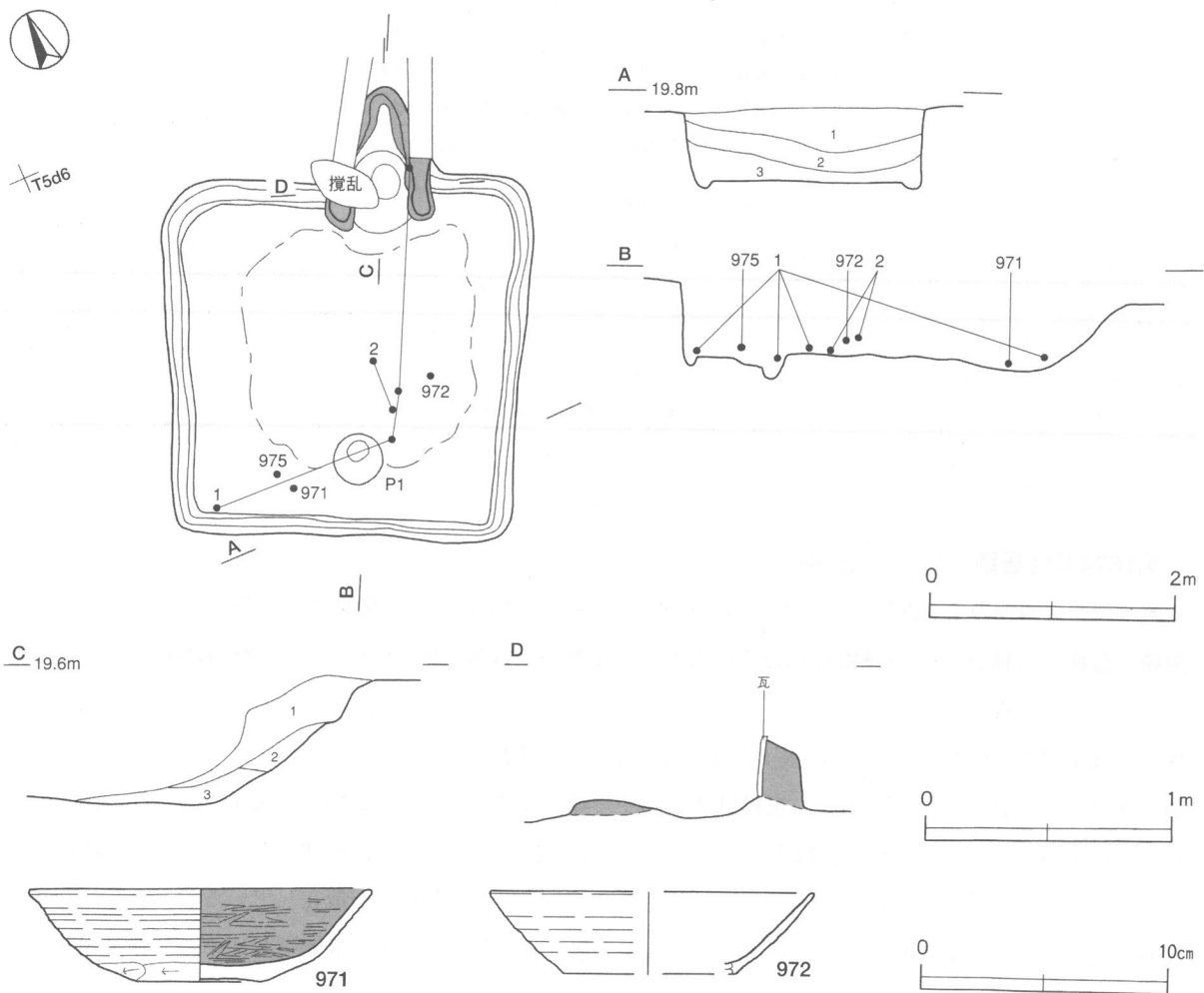
覆土 3層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

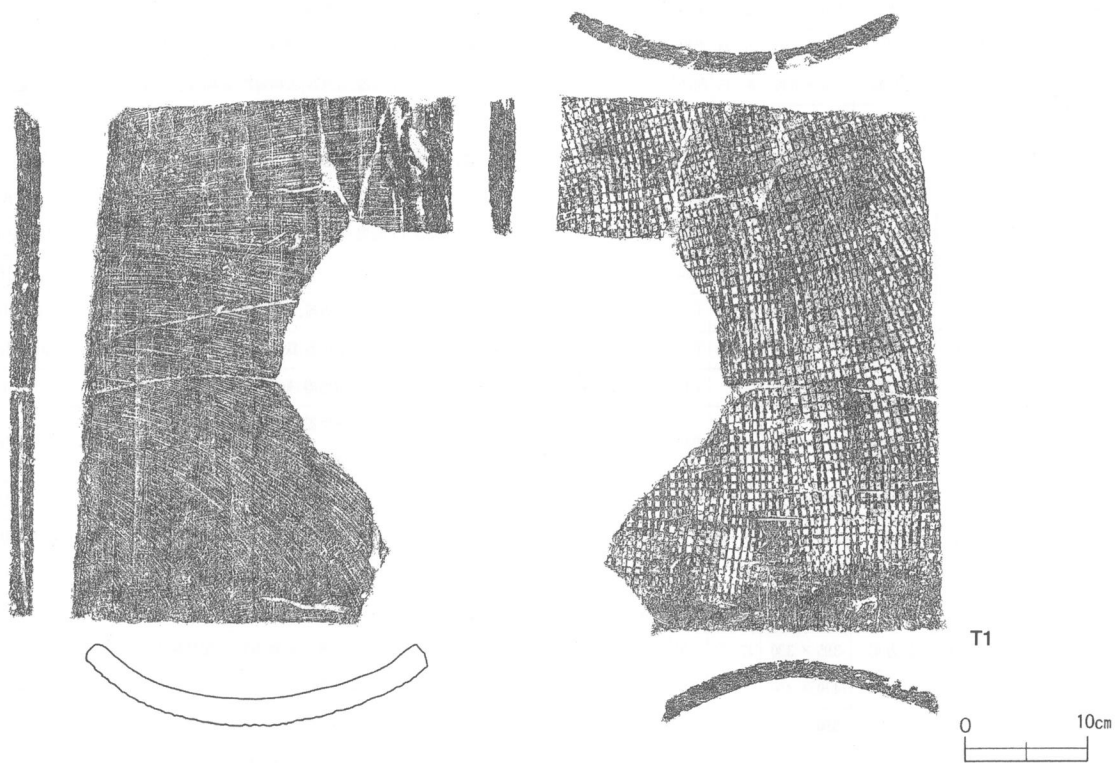
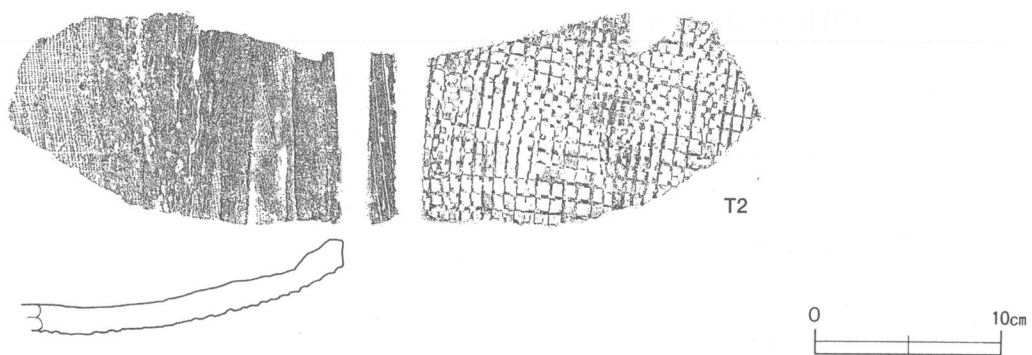
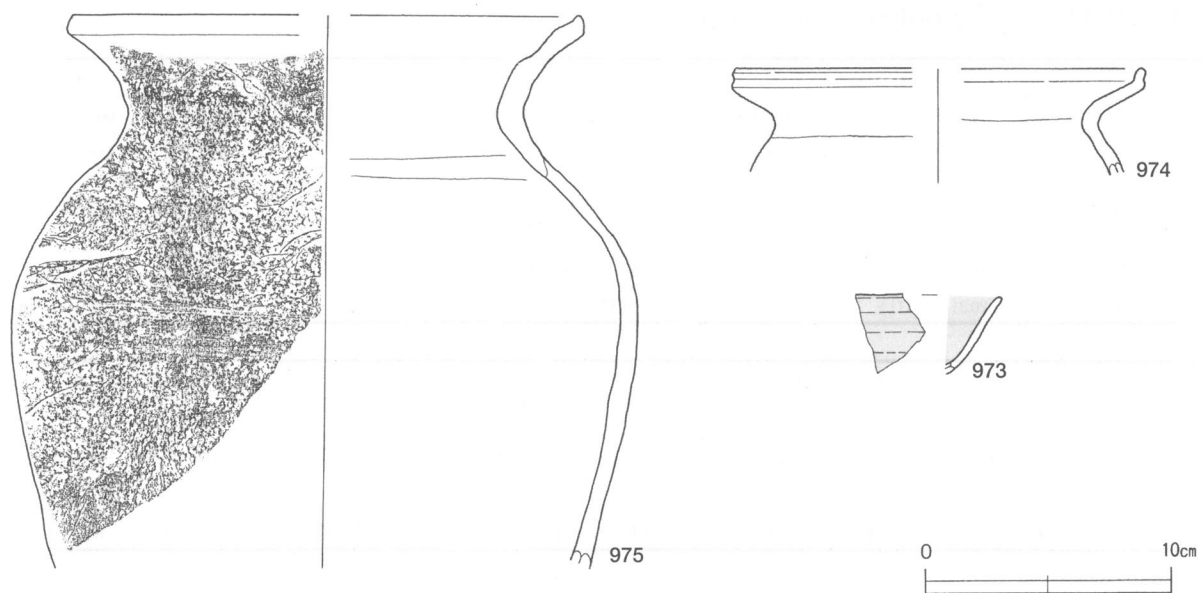
- 1 黒色 焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片265点(坏・椀46, 甕・甑219), 須恵器片92点(坏21, 蓋7, 甕・甑63, 大甕1), 灰釉陶器片3点(椀, 長頸瓶, 壺), 瓦片2点(平瓦), 鉄滓1点, 貝片1点(アカニシカ), 炭化物(笹カ)が出土している。遺物はほぼ全域から散在して出土しており, 971・975は南壁際中央部の覆土下層から出土している。また, T2は中央部東寄りの覆土下層から出土している。炭化物は笹科の一種と考えられ, 竈の火床部から出土しており, 燃料材と考えられる。

所見 廃絶時期は, 出土土器から9世紀末葉から10世紀前葉と考えられる。貝片は鹹水性のアカニシ科に属するもので, 他地域との交易を知る資料の一つといえる。また, 袖部の補強材として使用された平瓦は雲母を多く含んでおり, 河内郡寺である九重東岡廃寺で使用された瓦が再利用された可能性が考えられる。郡内の交流を知る手がかりになるばかりでなく, 寺の存続時期とも関わる興味深い資料といえる。



第288図 第1674号住居跡・出土遺物実測図



第289图 第1674号住居跡出土遺物実測図

第1674号住居跡出土遺物観察表（第288・289図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
971	土師器	坏	13.7	3.7	5.3	雲母・長石・石英	橙	普通	底部一方向へのヘラ削り	南壁際下層	90%, PL65
972	土師器	坏	[12.8]	3.3	[6.8]	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部ロクロナデ	東部下層	15%
973	灰釉陶器	椀	-	(3.1)	-	長石・黒色粒子	灰白・オリープ灰	良好	体部ロクロナデ	覆土上層	猿投産
974	土師器	甃	[16.4]	(4.4)	-	長石・石英・白色粒子	赤褐	普通	体部内・外面ヘラナデ	覆土上層	
975	須恵器	甃	[20.2]	(22.1)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	器面荒れのため調整不明	南壁際下層	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
T1	平瓦	42.0	(26.0)	2.2	3180	雲母・長石・石英	褐灰色、凹面布目痕、凸面格子状の叩き、側面ヘラ削り	竈右袖部、中央部・南西部 床面	70%, PL67
T2	平瓦	(11.6)	(17.4)	1.9	(403)	雲母・長石・石英	にぶい赤褐色、凹面布目痕、凸面格子状の叩き、側面ヘラ削り	中央部下層	10%

表4 奈良・平安時代住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内部施設						覆土	出土遺物	備考 (時期)
							壁溝	支柱	出入口	ピット	貯蔵穴	竈・炉			
1506	Q 8 a1	N-3° -E	方形	5.75 × 5.60	12~40	平坦	一部	7	1	—	—	竈1	人為	土師器,須恵器,灰釉陶器,鉄鎌,鉄鏝,鉄釘カ,不明鉄製品,砥石	9世紀中葉
1507	Q 7 a0	N-17° -E	方形	3.30 × 3.15	5~8	平坦	全周	4	1	—	—	竈1	自然	土師器,須恵器	9世紀中葉
1508A	Q 7 b0	N-87° -E	長方形	3.30 × 2.60	5~10	平坦	[全周]	—	1	3	—	竈1	自然	土師器	10世紀後半以降
1508B	Q 7 b0	N-87° -E	長方形	3.30 × 3.20	5~12	平坦	[全周]	—	—	2	—	竈1	—	土師器	10世紀後半以降
1510	P 7 j9	N-9° -E	方形	2.95 × 2.55	31~36	平坦	一部	—	—	1	—	竈1	人為	土師器,須恵器	9世紀後葉
1511	P 8 a1	N-24° -E	[方・長]	(1.30)×(0.90)	30	平坦	[全周]	—	—	—	—	—	人為	土師器,須恵器	9世紀中~後葉
1512	P 7 j9	N-2° -E	方形	3.05 × 2.90	12~20	平坦	全周	—	—	—	—	竈1	自然	土師器,須恵器	8世紀中~後葉
1513	P 7 j0	N-7° -E	方形	5.00 × 4.80	15~24	平坦	全周	4	1	3	—	竈1	自然	土師器,須恵器(油煙付着土器),刀子	9世紀前葉
1515	R 8 j8	N-0°	長方形	4.30 × 3.40	8~15	凹凸	—	—	—	—	—	竈1	人為	土師器,須恵器,灰釉陶器,緑釉陶器,土製支脚,鉄滓	9世紀中葉
1518	R 8 i9	N-6° -W	方形	3.60 × 3.15	30	平坦	一部	—	—	—	—	竈1	自然	土師器,須恵器,紡錘車(土・石製),銅滓,鉄滓	8世紀中葉
1521	R 8 h9	N-18° -E	[方・長]	3.15 × (2.12)	2~5	平坦	—	—	—	—	—	竈1	自然	土師器,須恵器	不明
1522	R 8 h8	N-8° -W	方形	3.30 × 3.25	2~4	平坦	—	—	1	—	—	—	自然	土師器,須恵器(転用硯),鉄鏝	8世紀後葉
1523	T 7 j5	N-110° -E	[方・長]	3.30 × (1.80)	15~25	平坦	—	—	—	1	—	—	人為	土師器,土製支脚	10世紀後半
1524	T 7 j5	N-0°	[長方形]	5.00 × [3.80]	2~4	平坦	—	—	1	—	—	竈1	自然	土師器	10世紀後半以降
1527	R 8 g9	N-2° -E	[方・長]	5.70 × (1.55)	11~18	平坦	一部	2	1	1	—	—	自然	土師器,須恵器,刀子カ,鉄鏝	9世紀中~後葉
1529	S 8 j4	N-92° -E	長方形	3.10 × 2.65	8~30	平坦	一部	—	—	—	—	竈1	人為	土師器,須恵器,鉄鏝,不明鉄製品,鉄滓	10世紀後半以降
1530	S 8 a8	N-88° -E	[長方形]	3.85 × [3.10]	10	平坦	—	—	—	—	—	竈1	自然	土師器,須恵器(転用硯),鉄釘カ	8世紀中葉
1531	T 8 c5	N-93° -E	長方形	3.70 × 3.10	30	平坦	—	—	—	—	—	竈1	人為	土師器,須恵器,灰釉陶器,瓦塔カ,鉄釘カ,不明鉄製品,鉄滓,鍛冶炉壁	10世紀後半
1532	T 8 f4	N-1° -E	[方・長]	3.00 × (1.35)	—	平坦	—	—	—	—	—	竈1	—	土師器,須恵器	10世紀以降
1533	T 8 f4	N-2° -E	方形	[3.15] × 3.00	5~10	平坦	一部	4	—	—	—	竈1	人為	土師器,須恵器,砥石	9世紀後葉
1534	T 8 e4	N-3° -W	[方・長]	7.70 × (6.65)	5	平坦	[全周]	4	—	1	—	竈1	人為	土師器,須恵器,灰釉陶器,鉄鏝カ	8世紀後葉カ
1536	S 8 g2	N-76° -E	方形	4.00 × 3.75	16~18	凹凸	全周	—	—	—	—	竈・炉	人為	土師器,須恵器,石製支脚,鉄釘カ,不明鉄製品	10世紀後半
1537	T 8 a4	N-101° -E	長方形	3.95 × 3.30	17~24	平坦	全周	—	1	—	—	竈・炉	自然	土師器,須恵器,灰釉陶器,石製紡錘車,磨石	10世紀後半以降
1538	S 8 a4	N-3° -E	[長方形]	[4.10] × 3.00	5	平坦	—	—	—	—	—	竈1	人為	土師器,須恵器	8世紀前葉
1542	R 8 j2	N-0°	方形	3.90 × 3.70	35~45	平坦	全周	—	1	—	—	竈1	人為	土師器,須恵器,鑿カ,石製紡錘車	9世紀中葉
1543	R 8 i2	N-88° -E	長方形	3.30 × 2.40	12~20	平坦	—	—	1	—	—	竈1	自然	土師器,須恵器,灰釉陶器	10世紀中頃
1544	R 8 h3	N-88° -E	長方形	2.80 × 2.35	5	平坦	—	—	—	—	—	竈1	人為	土師器,須恵器,砥石	10世紀中頃

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内部施設						覆土	出土遺物	備考 (時期)
							壁溝	柱穴	出入口	ピット	貯蔵穴	竈・炉			
1545	R 8 g4	N-13°-E	[方形]	4.30 × [4.20]	5	平坦	一部	—	1	—	—	竈1	自然	土師器,須恵器	8世紀前～中葉
1548	R 8 i3	N-1°-E	[方形]	[3.40]×[3.25]	4	平坦	一部	—	—	—	—	竈1	自然	土師器,須恵器	8世紀
1549	R 8 i2	N-8°-E	方形	6.35 × 6.00	28~35	平坦	全周	4	1	—	—	竈1	人為	土師器,須恵器(円面硯),丸軋,鉄釘カ,土玉,鉄滓	8世紀中葉
1550	S 8 j2	N-89°-W	長方形	3.85 × 2.70	35~48	平坦	一部	—	—	—	—	竈1	人為	土師器,須恵器,不明鉄製品	10世紀後半以降
1551	T 7 a0	N-88°-E	長方形	3.10 × 2.70	2~5	平坦	—	—	1	—	—	竈1	人為	土師器,須恵器	10世紀後半
1553	T 8 d4	N-111°-E	長方形	4.35 × 3.95	10~26	平坦	一部	—	—	—	—	竈・炉	自然	土師器,須恵器,灰釉陶器,刀子	10世紀後半以降
1554	S 7 h0	N-90°-E	長方形	4.40 × 3.25	8	平坦	一部	—	1	—	—	竈1	自然	土師器,須恵器	10世紀後半以降
1555	T 7 c0	[N-88°-E]	[方・長]	(2.65)×(2.00)	—	平坦	一部	—	—	—	—	—	自然	土師器	10世紀後半
1557	S 8 j2	N-88°-W	[方・長]	2.60 × (2.25)	10~18	平坦	[全周]	—	—	—	—	—	人為	土師器,須恵器,不明鉄製品,不明銅製品	10世紀後半以降
1560	T 7 a0	N-96°-E	方形	3.45 × 3.40	16~29	平坦	一部	—	—	—	—	竈1	人為	土師器,石製支脚,砥石	10世紀後半以降
1561	S 8 a1	N-3°-E	方形	4.80 × 4.45	15~19	平坦	一部	—	—	—	—	竈1	人為	土師器,須恵器,灰釉陶器,鉄釘,鉄滓	8世紀後葉
1563	T 8 d4	N-105°-E	長方形	4.05 × 3.40	15~25	平坦	—	—	—	—	—	竈1	人為	土師器,鉄鏃,鉄滓	10世紀後半以降
1565	S 7 b8	N-3°-E	長方形	6.60 × 4.50	10~29	平坦	全周	—	1	—	—	竈1	人為	土師器,須恵器	8世紀中葉
1566	T 8 b4	N-100°-E	方形	2.95 × 2.90	10	平坦	—	—	—	—	—	竈1	人為	土師器,須恵器	10世紀後半
1568	R 7 j0	N-7°-E	方形	4.20 × 3.90	25~29	平坦	全周	3	1	—	—	竈1	人為	土師器,須恵器,刀子カ,不明鉄製品	8世紀前葉
1569	R 7 h0	N-6°-E	方形	4.45 × 4.40	6~18	平坦	全周	3	1	—	—	竈1	人為	土師器,須恵器	8世紀前葉
1570	R 7 g8	N-90°-E	長方形	3.45 × 2.25	18~26	平坦	一部	—	1	—	—	竈1	人為	土師器,須恵器,砥石	10世紀中頃
1571	R 7 h6	N-8°-W	長方形	3.50 × 3.00	5~12	平坦	一部	—	—	—	—	竈1	人為	土師器,須恵器,鉄鏃	10世紀後半
1576	R 7 h0	N-9°-E	長方形	3.60 × 2.50	10~12	平坦	全周	—	1	—	—	竈1	自然	土師器,須恵器,鉄釘,支脚	10世紀中頃
1578	R 7 i9	N-13°-W	方形	3.55 × 3.25	36~45	平坦	一部	—	1	1	—	竈1	人為	土師器,須恵器,鉄鏃,刀子,炭化材(篠)	9世紀中葉
1582	S 8 a1	N-4°-E	方形	4.25 × 4.15	6~16	平坦	全周	4	1	—	—	竈1	人為	土師器,須恵器(円面硯),灰釉陶器	8世紀前～中葉
1583	R 7 g7	N-2°-W	長方形	2.95 × 2.50	10~13	平坦	全周	—	—	—	—	—	自然	土師器,須恵器,石製支脚	10世紀後半以降
1584	R 8 h1	N-88°-E	長方形	3.85 × 3.35	11~20	平坦	一部	4	1	1	—	竈・炉	自然	土師器,須恵器	10世紀後半
1587	S 7 a3	N-15°-E	方形	3.45 × 3.30	17~28	平坦	全周	—	1	—	—	竈1	自然	土師器,須恵器,灰釉陶器,砥石	9世紀中葉
1588	R 8 g2	N-0°	[長方形]	[4.40]×[3.40]	—	平坦	—	—	—	—	—	竈1	—	土師器,須恵器,鉄釘,鉄滓	10世紀後半以降
1589A	R 7 f1	N-3°-E	方形	4.95 × 4.90	17~28	平坦	全周	4	1	—	—	竈1	自然	土師器,須恵器,鉄鏃,刀子カ,砥石	9世紀前葉
1589B	R 7 f1	N-1°-E	方形	4.65 × 4.35	37~42	平坦	[全周]	4	1	—	—	竈1	—	土師器,須恵器,刀子,鉄滓	9世紀前葉以前
1591	R 7 h2	N-18°-E	方形	3.20 × 3.15	22~30	平坦	全周	—	1	3	—	竈1	人為	土師器,須恵器,土玉	10世紀前半
1592	R 7 j1	N-11°-E	方形	4.50 × 4.15	36~48	平坦	全周	4	1	—	—	竈1	自然	土師器,須恵器,砥石	8世紀前葉
1593	T 7 b3	N-88°-E	長方形	3.90 × 2.70	10~23	平坦	全周	—	1	—	—	—	人為	土師器,須恵器,鉄鏃カ	10世紀後半以降
1595	T 7 c3	N-91°-E	長方形	4.60 × 3.00	8	平坦	全周	—	—	—	—	—	人為	土師器,須恵器	10世紀
1597	R 7 i8	N-1°-W	[方・長]	2.75 × (1.40)	17~28	平坦	全周	—	—	—	—	竈1	自然	土師器,須恵器	8世紀中葉
1599	R 7 i8	N-3°-E	方形	3.90 × 3.50	16~32	平坦	全周	—	1	—	—	—	人為	土師器,須恵器	8世紀前葉
1600	S 7 i3	N-1°-W	長方形	4.40 × 3.95	17~22	平坦	全周	—	1	—	—	竈1	人為	土師器,須恵器,灰釉陶器,不明鉄製品	9世紀中葉
1603	R 6 f0	N-1°-W	[方・長]	3.98 × (2.00)	18~25	平坦	[全周]	2	—	—	—	—	自然	土師器,須恵器,刀子,不明鉄製品	不明
1604	R 8 g1	N-1°-W	[長方形]	3.58 × (1.00)	58	平坦	[全周]	—	1	—	—	—	自然	土師器,須恵器	9世紀後葉
1606	T 7 c2	N-2°-W	[方形]	[4.60]×[4.05]	—	平坦	—	3	—	—	—	竈1	—	土師器,須恵器	9世紀後半
1607	T 7 a2	N-93°-E	[長方形]	[4.45]×[3.25]	—	不明	—	—	—	—	—	竈1	—	土師器,刀子	10世紀後半以降
1608	S 7 i4	N-1°-W	方形	6.20 × 5.80	28~33	平坦	全周	7	2	—	—	竈1	人為	土師器,須恵器,石製紡錘車,鉄釘カ,土製支脚	8世紀前葉
1615	S 6 i4	N-2°-E	方形	3.05 × 3.00	18~25	平坦	全周	—	1	—	—	竈1	自然	土師器,須恵器,土製支脚,刀子,鍍金具,鉄釘カ,砥石	9世紀後葉
1617	S 7 j3	N-2°-E	方形	4.50 × 4.10	10~17	平坦	全周	4	1	—	—	竈1	人為	土師器,須恵器,鉄滓	9世紀前葉
1621	Q 8 c1	N-8°-E	[方・長]	4.60 × (3.18)	12~28	平坦	全周	2	—	—	—	竈1	人為	土師器,須恵器,刀子,鏃カ	8世紀中葉
1622	T 6 a4	N-17°-E	方形	4.85 × 4.70	22~38	平坦	全周	4	1	—	—	竈1	人為	土師器,須恵器,石製紡錘車,刀子	8世紀中～後葉
1623	S 6 j4	N-1°-W	方形	3.60 × 3.60	22~30	平坦	全周	4	1	—	—	竈1	人為	土師器,須恵器,灰釉陶器,鉄釘カ	9世紀中葉
1624	S 6 j3	N-14°-E	方形	2.90 × 2.90	14~28	平坦	一部	—	1	—	—	竈1	人為	土師器,須恵器	9世紀前葉
1626	T 6 b3	N-14°-W	方形	4.05 × 3.95	2	平坦	一部	4	1	—	—	竈1	不明	土師器,須恵器	8世紀前葉

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内部施設						覆土	出土遺物	備考 (時期)
							壁溝	柱穴	出入口	ピット	貯蔵穴	竈・炉			
1627	T 6 c2	N-90°-E	長方形	4.40 × 2.50	8~10	平坦	一部	—	—	1	—	[竈1]	—		10世紀
1628	T 6 c2	N-90°-E	長方形	5.35 × 3.65	10~18	平坦	全周	—	—	3	—	竈1	人為	土師器,須惠器,灰釉陶器,鉄滓	10世紀後半
1629	T 7 g0	N-1°-E	[長方形]	[3.30]×[2.15]	10	平坦	—	—	—	—	—	—	人為	土師器,須惠器,鞆羽口	10世紀後半以降
1631	T 8 h2	N-98°-E	長方形	4.30 × 3.40	5	平坦	一部	—	—	—	—	竈1	人為	土師器,須惠器,不明鉄製品	10世紀前半
1632	T 8 h4	N-1°-E	[方・長]	3.00 × (1.35)	8	平坦	—	—	—	—	—	竈1	人為	土師器,須惠器,灰釉陶器,刀子,鉄鎌	10世紀後半以降
1633	T 7 h9	N-1°-W	[方・長]	3.10 × [1.22]	—	平坦	[全周]	—	—	—	—	竈1	—	土師器(甕),須惠器(坏・蓋・甕・鉢)	10世紀以降
1634	T 7 h0	N-87°-E	[方・長]	[3.90]×[2.15]	—	不明	—	—	—	—	—	竈1	—	土師器	10世紀後半以降
1636A	T 7 g0	N-0°	[方・長]	4.05 × (2.35)	2~10	平坦	全周	2	1	—	—	—	人為	土師器,不明鉄製品	10世紀後半以降
1636B	T 7 g0	N-0°	[方・長]	4.05 × (2.35)	25~28	段差	一部	—	—	—	—	—	—	土師器,須惠器,鉄釘	10世紀後半以降
1637	T 8 h3	N-1°-W	[方・長]	[6.55]×(4.40)	30	平坦	[全周]	1	1	1	—	—	自然	土師器,須惠器,鉄鎌,不明鉄製品,鉄滓	8世紀中~後葉
1638	T 8 h4	N-9°-W	方形	7.70 × 7.10	20~24	平坦	全周	4	1	7	—	竈1	人為	土師器,須惠器,砥石,石製紡錘車,刀子,鉄鎌,不明鉄製品,炭化種子(桃)	8世紀前葉
1639	T 8 j7	N-1°-E	[長方形]	4.90 × [4.30]	5	平坦	—	—	—	—	—	竈1	人為	土師器,須惠器,不明鉄製品	10世紀
1640	T 8 j7	N-91°-E	[長方形]	[3.95]×3.40	2~7	平坦	[全周]	—	—	—	—	竈1	人為	土師器,須惠器,不明鉄製品,石製支脚	10世紀後半以降
1641	T 8 j5	N-7°-W	方形	7.00 × 6.70	18~29	平坦	全周	4	1	14	—	竈1	人為	土師器,須惠器,灰釉陶器,刀子,鉄鎌,鑿カ	9世紀中葉~後葉
1642	T 8 b1	N-96°-E	[方形]	[3.50]×3.20	5	凹凸	一部	—	—	—	—	竈・炉	人為	土師器,須惠器,鉄釘カ,不明鉄製品	10世紀後半以降
1643	U 8 f3	N-6°-W	方形	4.00 × 3.95	5	平坦	全周	—	1	—	—	竈1	自然	土師器,須惠器	9世紀中葉
1646	U 8 e3	N-88°-W	[長方形]	[3.90]×[3.50]	—	平坦	—	—	—	—	—	竈1	—	土師器,須惠器	8世紀
1647	T 8 j3	N-3°-W	方形	5.85 × 5.35	12~34	平坦	全周	4	1	2	—	竈1	人為	土師器,須惠器,灰釉陶器,刀子,鉄釘,鈍尾カ	9世紀前葉
1648	T 8 j2	N-6°-W	長方形	5.60 × 4.75	30~41	平坦	全周	4	1	—	—	竈1	人為	土師器,須惠器,鉄鎌,鑿カ	8世紀後葉
1649	U 8 a3	N-17°-W	長方形	8.65 × 7.15	20~32	平坦	[全周]	6	1	—	—	竈1	人為	土師器,須惠器,刀子,鉄鎌,鉄鎌,不明鉄製品,石製紡錘車,炭化種子(桃)	8世紀前葉
1651	V 7 b8	N-19°-E	方形	3.80 × 3.60	40~46	平坦	全周	—	1	—	—	竈1	自然	土師器,須惠器,鉄鎌,鉄鎌,火打金,刀子,不明鉄製品	8世紀中葉
1652	U 7 j7	N-18°-E	方形	3.20 × 3.15	5~52	平坦	全周	4	—	1	—	竈1	自然	土師器,須惠器,灰釉陶器,土製支脚,刀子	8世紀中葉
1653	V 7 a3	N-20°-E	方形	3.35 × 3.20	15~32	平坦	一部	—	1	3	—	竈1	自然	土師器,須惠器	8世紀後葉
1655	U 7 j6	N-82°-W	[方形]	2.70 × (2.30)	12~42	平坦	全周	—	—	3	—	竈1	人為	土師器,須惠器	8世紀前葉
1656	V 8 d3	N-0°	[方・長]	3.30 × (2.05)	10	平坦	[全周]	—	—	—	—	—	自然	土師器,須惠器	9世紀後葉以前
1657	V 8 d1	N-25°-E	[方・長]	5.20 × (3.80)	30~45	平坦	全周	4	—	—	—	竈1	人為	土師器,須惠器	8世紀前葉
1658	V 8 d3	N-10°-E	方形	4.05 × 3.95	25~48	平坦	全周	4	1	1	—	竈1	自然	土師器,須惠器,灰釉陶器,鉄鎌	9世紀後葉
1659	V 8 c2	N-63°-W	方形	3.90 × 3.80	15~32	平坦	全周	—	1	—	—	竈1	自然	土師器,須惠器	8世紀中葉~後葉
1660	V 8 c3	N-25°-E	[方・長]	(4.30)×(2.10)	—	平坦	[全周]	2	—	—	—	竈1	人為	土師器,須惠器,紡茎	8世紀後半~ 9世紀前半
1661	T 7 f9	N-2°-W	[方・長]	2.60 × (0.90)	5	平坦	—	—	—	—	—	竈1	自然	土師器,須惠器,刀子	10世紀後半以降
1662	U 7 h3	N-22°-E	[方・長]	3.60 × (3.15)	10~20	平坦	一部	—	1	—	—	竈1	自然	土師器,須惠器,土製支脚	8世紀前葉
1663	U 7 j4	N-24°-E	方形	3.55 × 3.50	15~30	平坦	一部	—	1	—	—	竈1	自然	土師器,須惠器,刀子,手鎌,鉄鎌	8世紀中葉
1664	V 7 j0	N-18°-E	[方形]	[3.60]×[3.30]	30	平坦	一部	—	—	—	—	竈1	自然	土師器,須惠器,土製支脚	10世紀前半
1665	V 8 e2	N-52°-E	方形	4.90 × 4.65	50~70	平坦	一部	4	1	—	—	竈1	自然	土師器,須惠器,鉄滓	8世紀中~後葉
1666	V 8 e3	N-24°-E	[方・長]	3.60 × (3.20)	25~70	平坦	[全周]	—	—	—	—	竈1	自然	土師器,須惠器	9世紀後葉
1668	U 7 h9	N-0°	[方・長]	3.70 × (1.95)	15~30	平坦	一部	—	—	—	—	竈1	人為	土師器,須惠器,土製支脚,鉄鎌カ,不明鉄製品	8世紀中葉
1670	V 8 e2	N-30°-E	長方形	4.00 × 3.40	25	平坦	一部	—	—	—	2	竈1	—		8世紀中頃
1671	V 8 f3	N-24°-E	[方・長]	(2.70)×(1.10)	50	平坦	[全周]	—	—	—	—	—	人為	土師器,須惠器	9世紀中葉
1674	T 5 d6	N-25°-E	方形	2.90 × 2.80	60	平坦	全周	—	1	—	—	竈1	自然	土師器,須惠器,灰釉陶器,瓦,鉄滓,貝,炭化物(笹)	10世紀前半

茨城県教育財団文化財調査報告第214集

島名熊の山遺跡
(上 巻)

平成16(2004)年3月24日 印刷
平成16(2004)年3月26日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587

印刷 富士オフセット印刷株式会社
〒310-0067 水戸市根本3丁目1534-2
TEL 029-231-4241(代)